

所蔵図書(3001-3500) (Tanaka Yutaka)

- 3001) 「文藝」季刊春季特大号 1990 Quarterly the BUNGEI
〈長篇一挙掲載〉世紀末鯨睨記(久間十義)
〈対談〉現実と想像力(埴谷雄高×井上光晴)
平成2(1990)年2月1日発行(河出書房新社)
- 3002) 「文藝」季刊夏季号 1990 Quarterly the BUNGEI
〈中篇小説〉異水(180枚)(永山則夫)
〈中篇小説〉スタイリッシュ・キッズ(200枚)(鷺沢萌)
平成2(1990)年5月1日発行(河出書房新社)
- 3003) 「文藝」季刊秋季号 1990 Quarterly the BUNGEI
〈横光利一未発表小説〉愛人の部屋(解説 保昌正夫)
平成2(1990)年8月1日発行(河出書房新社)
- 3004) 「文藝」季刊冬季号 1990 Quarterly the BUNGEI
〈特集〉アジア王権論 〈対談〉アジアのなかの天皇制(山折哲雄×赤坂憲雄)
平成2(1990)年11月1日発行(河出書房新社)
- 3005) 「文藝」季刊春季号 1989 Quarterly the BUNGEI
〈第1回『文藝』シンポジウム〉琉球弧の喚起力と南島論
〈基調報告〉南島論序説(吉本隆明)
〈パネルディスカッション〉それぞれの南島論
平成1(1989)年2月1日発行(河出書房新社)
- 3006) 「文藝」季刊夏季特大号 1989 Quarterly the BUNGEI
〈長篇一挙掲載〉四万十川---とおいわかれの日々に(400枚)(笹山久三)
〈基調報告〉南島論序説(吉本隆明)
〈パネルディスカッション〉それぞれの南島論
平成1(1989)年5月1日発行(河出書房新社)
- 3007) 「文藝」季刊秋季号 1989 Quarterly the BUNGEI
〈長篇一挙掲載〉螺旋階段の上の神---カトリックと私(矢代静一)
〈小特集〉論争 第三世界の文学
平成1(1989)年8月1日発行(河出書房新社)
- 3008) 「文藝」季刊冬季号 1989 Quarterly the BUNGEI
〈一挙掲載〉快樂の一滴---ポルノグラフィア(立松和平)
第26回文芸賞一次・二次予選通過作品発表
平成1(1989)年11月1日発行(河出書房新社)
- 3009) 「文藝」文芸賞特別号 1989 Quarterly the BUNGEI
第26回文芸賞発表〈受賞作〉YES・YES・YES(比留間久夫)
〈受賞作〉ハッピーハウス(結城真子)
〈選評〉(江藤淳・大場みな子・河野多恵子・小島信夫)
〈対談〉文学の毒と快樂(田中康夫×山田詠美)
平成1(1989)年12月1日発行(河出書房新社)
- 3010) 「文藝」季刊春季号 1988 Quarterly the BUNGEI
〈江藤淳連載対談・文学の現在〉今、言葉は生きているか(中上健次×江藤淳)
〈特集〉ポスト昭和への展望/ 昭和63(1988)年2月1日発行(河出書房新社)

- 3011) 「文藝」季刊夏季号 1988 Quarterly the BUNGEI
 <江藤淳連載対談・文学の現在>批評はいかにあるべきか(富岡多恵子×江藤淳)
 <特集>韓国人文学者の『日本』
 昭和 63(1988)年 4 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3012) 「文藝」季刊秋季号 1988 Quarterly the BUNGEI
 <江藤淳連載対談・文学の現在>ポストモダンと近代以前(河村湊×江藤淳)
 <小特集・今、美とは何か>
 <鼎談>美と無限(大森荘蔵・坂部恵・野家啓一)
 <美の理論・補遺>(アドルノ)(大久保健治訳)
 昭和 63(1988)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3013) 「文藝」季刊冬季号 1988 Quarterly the BUNGEI
 <長篇一挙掲載>(280 枚)惑星の午後に吹く風(三木卓)
 <江藤淳連載対談・文学の現在>文学と非文学の倫理(吉本隆明×江藤淳)
 <翻訳>構成不可能な問いの形象(E・ブロッホ)(好村富士彦訳)
 希望なき時代のユートピア(矢代梓)
 昭和 63(1988)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3014) 「文藝」文芸賞特別号 1988 Quarterly the BUNGEI
 <長篇一挙掲載>(500 枚)聖[サンタ]マリア・らぷそでい(久間十義)
 昭和 63 年度文芸賞発表<受賞作>汝ふたたび故郷へ帰れず(飯嶋和一)
 <受賞作>少年アリス(長野まゆみ)
 <選評>(野間宏・小島信夫・河野多恵子・江藤淳)
 昭和 63(1988)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3015) 「文藝」季刊春季号 1987 Quarterly the BUNGEI
 <特集>人間の死と超人
 人間の死と超人について(ジル・ドゥルーズ)<宇野邦一訳>
 <特別対談>至高体験---実存主義から神秘主義へ(コリン・ウィルソン×笠井潔)
 昭和 62(1987)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3016) 「文藝」季刊夏季号 1987 Quarterly the BUNGEI
 <特集>表現の現在・文化批判
 <対談>現代批評の可能性(今村仁司×三浦雅士)
 昭和 62(1987)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3017) 「文藝」季刊秋季号 1987 Quarterly the BUNGEI
 <長篇>三島由紀夫 亡命伝説(松本健一)
 <『日本論』特集>
 <対談>歴史としての天皇制(吉本隆明×網野善彦)(司会 河村湊)
 昭和 62(1987)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3018) 「文藝」季刊冬季号 1987 Quarterly the BUNGEI
 <現代詩特集>
 <座談会>日本人と詩(大岡信×谷川俊太郎×荒川洋治)
 昭和 62 年度『文芸賞』予選通過作品発表
 昭和 62(1987)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3019) 「文藝」文芸賞特別号 1987 Quarterly the BUNGEI
 昭和 62 年度文芸賞発表<受賞作>四万十川---あつよしの夏(笹山久三)
 <佳作>マネーゲーム(久間十義)

- <選評>(江藤淳・河野多恵子・小島信夫・野間宏)
 『文藝』復刊 25 周年記念 <対談>復刊のころ(坂本一亀×寺田博)
 文芸賞受賞者一覧
 『文藝』総目次 1962-1987
 昭和 62(1987)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3020) 「文藝」季刊春季号 1986 Quarterly the BUNGEI
 <長篇小説>含羞の人---私の太幸治(矢代静一)
 <特集>戦後思想再見
 <座談会>戦後思想と天皇制(松本健一・鈴木貞美・竹田青嗣・笠井潔)
 昭和 61(1986)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3021) 「文藝」季刊夏季号 1986 Quarterly the BUNGEI
 <特集>『天皇制』という物語
 <座談会>天皇制---抑圧的融和の弁証法(柄谷行人・松本健一・笠井潔)
 昭和 61(1986)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3022) 「文藝」季刊秋季号 1986 Quarterly the BUNGEI
 <特集>さまざまな『在日』
 <座談会>「漂私」の共同性(最首悟・竹田青嗣・加藤典洋)
 <評論>最後の、あるいは最後からひとりめの読者による「埴谷雄高」論(池田昌子)
 昭和 61(1986)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3023) 「文藝」季刊冬季号 1986 Quarterly the BUNGEI
 <長篇一挙掲載>(500 枚)狼煙を見よ---東アジア反日武装戦線狼部隊(松下竜一)
 <特別対談>戦後精神の行方(谷川雁×鶴見俊輔)(司会 松本健一)
 昭和 61 年度『文芸賞』予選通過作品発表
 昭和 61(1986)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3024) 「文藝」文芸賞特別号 1986 Quarterly the BUNGEI
 昭和 61 年度文芸賞発表<受賞作>零れた言葉(岡本澄子)
 <佳作>勝利投手(梅田香子)
 <選評>(江藤淳・河野多恵子・小島信夫・野間宏)
 <新鋭作家論特集>
 <座談会>若手作家の現在と批評(竹田青嗣・桂秀実・川村湊)
 昭和 61(1986)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3025) 「文藝」1 月号 1985 january
 <論争>批評の戦後と現在 《鼎談》(江藤淳・加藤典洋・竹田青嗣)
 昭和 60(1985)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3026) 「文藝」2 月号 1985 february
 <長篇一挙掲載>記憶の闇---甲山事件[1974 → 1984](松下竜一)
 <長篇評論>ゲオルク・ルカーチ[上](篠田一士)
 昭和 60(1985)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3027) 「文藝」3 月号 1985 march
 <討論インタビュー>サブカルチャーと文学(吉本隆明・笠井潔・川村湊)
 <長篇評論>ゲオルク・ルカーチ[下](篠田一士)
 昭和 60(1985)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)
- 3028) 「文藝」4 月号 1985 april
 <小説>旅芸人(桐山襲)

<長篇評論>単独者の内面と外界(100 枚)--キルケゴール「死に至る病」(長谷川宏)
昭和 60(1985)年 4 月 1 日発行(河出書房新社)

3029) 「文藝」 5 月号 1985 may

<小説>いちばん長い午後(松浦理英子)
<対談>批評における盲目と明視(柄谷行人×加藤典洋)
<長篇評論>外部の人間--柄谷行人論(笠井潔)
昭和 60(1985)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3030) 「文藝」 6 月号 1985 june

<長篇小説>印度の誘惑(安引宏)
<長篇評論>陽水の快樂--井上陽水論(竹田青嗣)
昭和 60(1985)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3031) 「文藝」 7 月号 1985 july

<対談>いま、純文学を考える(野口富士男×菅野昭正)
<長篇評論>「死者」の形而上学--梯明秀と戦後文学の理念(桂秀実)
<評論>詩的散文論--新しい言語群(飯吉光夫)
昭和 60(1985)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3032) 「文藝」 8 月号 1985 august

<中編小説>居酒屋ゆうれい(山本昌代)
<長篇評論>寓意の爆弾--敗戦小説を読む(鈴木貞美)
<評論>狭山再審・抗告棄却決定反論(野間宏)
昭和 60(1985)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

3033) 「文藝」 9 月号 1985 september

<対談>ハイパー資本主義と日本の中のアジア(吉本隆明×川村湊)
<長篇評論>世界という背理--小林秀雄と吉本隆明(竹田青嗣)
<中篇一挙掲載>北一輝伝説--その死の後に(松本健一)
昭和 60(1985)年 9 月 1 日発行(河出書房新社)

3034) 「文藝」 10 月号 1985 october

<長篇評論>ニヒリズムの逸脱
--三島由紀夫における観念の理路をめぐって(小阪修平)
<長編評論>怨恨の系譜--現代文学フィールド・ノート 3(川村湊)
<今月の本>科学と知の流儀
--ホフスタッター「ゲーデル、エッシャー、バッハ」(長崎浩)
昭和 60(1985)年 10 月 1 日発行(河出書房新社)

3035) 「文藝」 11 月号 1985 november

<対談>戦後批評の理路(加藤典洋×竹田青嗣)
<小説>微熱休暇(松浦理英子)
昭和 60 年『文芸賞』二次予選通過作品発表
<風のたより>今年、生誕百年のエルンスト・ブロッホ『書簡集』刊行
カフカ愛読のローベルト・ヴァルザー『鉛筆の領域から』(遺稿集二巻)刊行
昭和 60(1985)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3036) 「文藝」 12 月号 1985 december

<長篇一挙掲載>背教者(安引宏)
<長篇評論>陽水の眩暈--井上陽水論 2(竹田青嗣)
昭和 60 年度文芸賞受賞作発表 ベッドタイムアイズ(山田詠美)
<選評>(江藤淳・河野多恵子・野間宏・小島信夫)

<文藝 総目次>昭和 60 年 1 月号～ 12 月号
昭和 60(1985)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)

3037) 「文藝」 1 月特大号 1984

<新年創作特集>宮本輝・三田誠広・立松和平・増田みず子・青野聰・唐十郎・
山川健一・冥王まさ子・土居良一・中野孝次・小田実

<アンケート>1983 年の成果

問 1 本年度(昭和 57 年 11 月より昭和 58 年 11 月まで)に発表された文学作品
(小説・評論・戯曲・詩を問わず)のうち、読まれたもののなかで最良の作品と
思われるもの三篇をおえらび下さい。雑誌掲載・単行本を問いません。

問 2 おえらびになった理由を簡単に付して下さい。

問 3 本年度(昭和 57 年 11 月より昭和 58 年 11 月まで)に翻訳・発表された外国文学
(小説・評論・戯曲)のうち、もっとも印象に残った作品を一篇挙げて下さい。

昭和 59(1984)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3038) 「文藝」 2 月号 1984

<小説>冬暦[とうれき](上田三四二)

<今月の本>磯田光一『鹿鳴館の系譜』--反文学史への情熱(鈴木貞美)

昭和 59(1984)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)

3039) 「文藝」 3 月号 1984

<文芸賞受賞第一作>文七殺し(山本昌代)

昭和 59(1984)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3040) 「文藝」 4 月号 1984

<戯曲>十年目の密会(矢代静一)

<小説>花曇り(吉村昭)/ 雪に描く(中野孝次)/ 亡妻の昼前(辻井喬)

<風のたより>『シュテファン・ゲオルゲ=イーダ・コブレンツ往復書簡』刊行
エーミール・シュタイガー『三枚の絵の前で』(美術論)刊行

昭和 59(1984)年 4 月 1 日発行(河出書房新社)

3041) 「文藝」 5 月号 1984

<新人・一挙掲載>浅黄の帽子(東野光生)

<今月の本>浅田彰『構造と力』--浅田彰という装置(笠井潔)

<小説>恥(川上宗薫)/ 昭和 59(1984)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3042) 「文藝」 6 月号 1984

<小説>美しい夏(佐藤泰志)/空白の人(金鶴泳)/

スターバト・マーテル(桐山襲)

昭和 59(1984)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3043) 「文藝」 7 月号 1984

<現地ルポ>レバノン極私戦(立松和平) 写真・広河隆一

<小説>ウストロカ(司 修)

<風のたより>戦後ドイツを代表する二人の詩人の全集出版

『パウル・ツェラン全集』全五巻

『ペーター・フーヘル(1903-81)全集』全二巻

昭和 59(1984)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3044) 「文藝」 8 月号 1984

<現地ルポ>レバノン極私戦(第二部)(立松和平) 写真・広河隆一

<戯曲>海賊、森を走ればそれは焔... ---九鬼一族流史(清水邦夫)

昭和 59(1984)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

- 3045) 「文藝」 9月号 1984
 <現地ルポ>レバノン極私戦(完結)(立松和平) 写真・広河隆一
 <小説>茂市の夜(三枝和子)/家の匂い(増田みず子)
 <長篇評論>戦後再見--天皇・原爆・無条件降伏(加藤典洋)
 昭和 59(1984)年 9月 1日発行(河出書房新社)
- 3046) 「文藝」 10月号 1984
 <小説>母と娘(三浦朱門)/月怒る水に溶けた便り(青野聰)
 <評論>戦後的理念のくびき、あるいは現代小説の不幸(笠井潔)
 <風のたより>・ヴァルター・ベンヤミンの青年時代のソネット発見される
 ・世紀末ウィーンが生んだ最も奇矯な作家フリッツ・フォン・ヘルツマノフスキ・オランダ(1877-1954)全集全十巻刊行始まる
 昭和 59(1984)年 10月 1日発行(河出書房新社)
- 3047) 「文藝」 11月号 1984 november
 <小説>噴出する水(115枚)(富岡多恵子)/だいひつ屋(110枚)(山本昌代)
 風のクロニクル(220枚)(桐山襲)
 <評論>二つの「探偵小説」---現代文学フィールドノート(川村湊)
 昭和 59(1984)年 11月 1日発行(河出書房新社)
- 3048) 「文藝」 12月号 1984 december
 昭和 59 年度文芸賞受賞作 ミッドナイト・ホモサピエンス(220枚)(渥美饒兒)
 "She's Rain"(シーズ・レイン)(147枚)(平中悠一)
 <選後評>(小島信夫・野間宏・島尾敏雄・江藤淳)
 <文藝 総目次>昭和 59年 1月号~12月号
 昭和 59(1984)年 12月 1日発行(河出書房新社)
- 3049) 「すばる」 9月号 1984 文芸誌 昂
 <創作>家族の肖像(260枚)(森瑤子)
 ある風景抄(127枚)(飯尾憲士)
 <戯曲>地震(喜劇四幕)(川口松太郎)
 <評論>『源氏物語』を江戸から読む(野口武彦)
 昭和 59(1984)年 12月 1日発行(集英社)
- 3050) 「文藝」 1月号 1983
 <小説特集>庄野潤三・木下順二・瀬戸内晴美・日野啓三・
 吉村昭・田中小実昌・三田誠広・立松和平・土居良一
 <小説>誄(るい)歌(225枚)(野口富士男)
 <アンケート>1982年の成果
 問1 本年度(昭和 56年 11月より昭和 57年 11月まで)に発表された文学作品
 (小説・評論・戯曲・詩を問わず)のうち、読まれたもののなかで最良の作品と
 思われるもの三篇をおえらび下さい。雑誌掲載・単行本を問いません。
 問2 おえらびになった理由を簡単に付して下さい。
 問3 本年度(昭和 56年 11月より昭和 57年 11月まで)に翻訳・発表された外国文学
 (小説・評論・戯曲)のうち、もっとも印象に残った作品を一篇挙げて下さい。
 <読書鼎談>高橋たか子『装いせよ、わが魂よ』/平岡篤頼『消えた煙突』
 (加賀乙彦・桶谷秀昭・三木卓)
 <風のたより>ベンヤミンの「パサーージュ研究」(ゾーアカンプ社刊
 『ヴァルター・ベンヤミン全著作集』第五巻)遺稿が刊行される
 厳密な校訂を経た新しいカフカ全集刊行開始
 昭和 58(1983)年 1月 1日発行(河出書房新社)

- 3051) 「文藝」 2月号 1983
 <小説>純粹な生活(280枚)(岡松和夫)
 <文芸賞受賞第一作>ガラスの城(山本三鈴)
 昭和 58(1983)年 2月 1日発行(河出書房新社)
- 3052) 「文藝」 3月号 1983
 <小説>わが小林一三[上]--清く正しく美しく(第一部 300枚)(阪田寛夫)
 <対談>劇的想像力がひらく小説世界(唐十郎・秋山駿)
 昭和 58(1983)年 3月 1日発行(河出書房新社)
- 3053) 「文藝」 4月号 1983
 <小説>わが小林一三[中]--清く正しく美しく(第二部 330枚)(阪田寛夫)
 御注意あそばせ(唐十郎)
 <今月の本>唐十郎『佐川君からの手紙』
 --夕暮れのアームチェア・ディテクティブ(桂秀実)
 昭和 58(1983)年 4月 1日発行(河出書房新社)
- 3054) 「文藝」 5月号 1983
 <小説>わが小林一三[下]--清く正しく美しく(完結編 250枚)(阪田寛夫)
 毘沙門天ふたたび(丸山健二)/画美人(澁澤龍彦)
 <今月の本>唐十郎『佐川君からの手紙』
 --夕暮れのアームチェア・ディテクティブ(桂秀実)
 <小林秀雄追悼>別稿・小林秀雄氏の死去の折に(寺田透)
 裸形の心--小林秀雄の晩年の主題(栗津則雄)
 小林秀雄の思い出(長谷川泰子・「聞き手」秋山駿)
 <風のたより>トーマス・マン『日記 1940-43』刊行によって、
 同性愛体験の一端が明らかになる。
 昭和 58(1983)年 5月 1日発行(河出書房新社)
- 3055) 「文藝」 6月号 1983
 <小説>六神丸(唐十郎)/英太は堤にいる(三枝和子)
 <評論>古井由吉論--小説と方法(栗津則雄)
 <尾崎一雄追悼>同人雑誌仲間(川崎長太郎)
 <風のたより>トーマス・ベルンハルトの自叙伝『子供』によって
 『原因』『地下室』『呼吸』『冷氣』とあわせ青年時代までの回想録が完結。
 邦訳された小説『石灰工場』(1970)は全篇間接話法で書かれている。
 昭和 58(1983)年 6月 1日発行(河出書房新社)
- 3056) 「文藝」 7月号 1983
 <文芸賞受賞第一作>さようなら、風見鶏(平野純)
 <小説>筵旗[むしろばた](立松和平)/天道虫(司 修)
 歌人寺山修司を悼む(佐佐木幸綱)
 昭和 58(1983)年 7月 1日発行(河出書房新社)
- 3057) 「文藝」 8月号 1983
 <特集>国境からの発信--文学の豊饒へ
 青痣のモンゴロイドとして(中上健次)
 インタビュー(聞き手 中上健次)
 <風のたより>東独の女流作家クリスタ・ヴォルフの最新作『カサンドラ』。
 『引き裂かれた空』(1963)で自国の困難な政治状況を描いた。
 オーストリアの作家ペーター・ローザイの『初期散文集』(1981)
 昭和 58(1983)年 8月 1日発行(河出書房新社)

- 3058) 「文藝」 9月号 1983
 <戯曲>エレジー---父の夢は舞う(清水邦夫)
 <小説>老いの日常(八木義徳)/ ぐじゅぐじゅ(田中小実昌)
 エクアドルまで(山田智彦)
 <評論>竹内好と江藤淳--戦後ナショナリズムのアポリア(磯田光一)
 昭和 58(1983)年 9月 1日発行(河出書房新社)
- 3059) 「文藝」 10月号 1983
 <新人の力作一挙掲載>パルチザン伝説(桐山襲)
 <小説>電車の中で(中野孝次)
 <今月の本>古井由吉『権(むくげ)』--カタルシスの不在(河村湊)
 昭和 58 年度文芸賞一次予選通過作品発表
 昭和 58(1983)年 10月 1日発行(河出書房新社)
- 3060) 「文藝」 11月号 1983
 <小説>別れた理由(唐十郎)/ 言いだしかねて(鈴木貞美)
 <風のたより>西ドイツで最年長現役作家エルンスト・ユンガー(1895 年生まれ)
 が新しい小説『アラディンの問題』を発表。
 小説『大理石の断崖の上で』(1939 年、邦訳は戦後)がある。
 <今月の本>古井由吉『権(むくげ)』--カタルシスの不在(河村湊)
 昭和 58 年度文芸賞一次予選通過作品発表
 昭和 58(1983)年 11月 1日発行(河出書房新社)
- 3061) 「文藝」 12月号 1983
 昭和 58 年度文芸賞当選作 海に夜を重ねて(若一光司)
 応為担担録(山本昌代)
 <選後評>(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)
 <小説>無縁塚(小檜山博)
 <風のたより>今年ドイツでは、カフカの他に 3 人の詩人が生誕 100 年を迎えた。
 エルンスト・シュタドラー(1883-1914)/ ルネ・シッケレ(-1940)/
 ヨアヒム・リングルナッツ(-1934)である。それを記念して
 (シュタドラー『著作と書簡』全 2 巻、シッケレ『長・短篇小説集』2 巻
 その他、リングルナッツ『全集』全 7 巻)が出版された。
 <文藝 総目次>昭和 58 年 1月号~12月号
 昭和 58(1983)年 12月 1日発行(河出書房新社)
- 3062) 「群像」 1月特大号 1990
 <創作特集>井上靖/ 大原富枝/ 杉浦明平/ 小島信夫/ 曾野綾子/ 竹西寛子/
 黒井千次/ 清岡卓行/ 三木卓/ 増田みず子/ 小川国夫
 尾崎翠の感覚世界(加藤幸子)
 純粹自我頽齡(寺田透)
 <現代作家論 5>言霊節考---深沢七郎論(室井光広)
 <第 42 回野間文芸賞発表>井上靖「孔子」(新潮社刊)
 選考委員(遠藤周作・大江健三郎・佐多稲子・丸谷才一・
 三浦哲郎・安岡章太郎・吉行淳之介[井上靖氏は欠席])
 <第 11 回野間文芸新人賞発表>井伊直行「さして重要でない一日」(講談社刊)
 選考委員(秋山駿・柄谷行人・川村二郎・佐伯彰一・高橋英夫)
 平成 2(1990)年 1月 1日発行(講談社)
- 3063) 「群像」 12月号 1987
 <長篇一挙掲載>夜のロボット(300 枚)(増田みず子)
 <創作>戯曲推理小説--ローズマリーの赤ん坊のように--(清水邦夫)
 北京の日(岡松和夫)/ 賈の夏(高橋昌男)

<評論>冬の惑星として--増田みず子論(松下千里)
昭和 62(1987)年 12月 1日発行(講談社)

3064) 「群像」 6月特大号 1987

<第 30 回群像新人文学賞発表>

<小説当選作>あなたについて わたしについて(下井葉子)
ポートレイト・イン・ナンバー(鈴木隆之)

<評論当選作>帰属と彷徨--芥川龍之介論(高橋勇夫)
選評(青野聰・柄谷行人・黒井千次・津島佑子・富岡多恵子)

<創作>路上(色川武大)

新しい小説家のために--「集落の教え」にそくして(大江健三郎)
昭和 62(1987)年 6月 1日発行(講談社)

3065) 「群像」 10月号 1986 <創刊 40 周年記念特別号>

<対談>純文学の危機を越えて(大岡昇平・大江健三郎)

<創作特集>(佐多稲子/ 円地文子/ 野口富士男/ 大原富枝/ 杉浦明平/
佐々木基一/ 芝木好子/ 広津桃子/ 瀬戸内晴美/ 清岡卓行/ 井上光晴/
小川国夫/ 竹西寛子/ 林京子/ 大場みな子/ 黒井千次/ 三木卓/ 坂上弘/
金井美恵子/ 高橋三千綱)

<いま思うこと>(丹羽文雄・山本健吉・井上靖・本多秋五・埴谷雄高
・木下順二・小島信夫・寺田透・安岡章太郎・阿川弘之・庄野潤三
・遠藤周作・吉行淳之介・河野多恵子・秋山駿・柄谷行人・中上健次
・津島佑子・中沢けい)

昭和 61(1986)年 10月 1日発行(講談社)

3066) 「群像」 8月号 1986

<創作>その日の夏(270 枚)(三枝和子)

口紅(岡松和夫)/ フリオとマリア(土居良一)

<評論><酔いどれ船>の青春--もう一つの戦中・戦後(220 枚)(河村湊)

昭和 61(1986)年 8月 1日発行(講談社)

3067) 「群像」 6月特大号 1986

<第 29 回群像新人文学賞発表>

<小説当選作>復活祭のためのレクイエム(新井千裕)

<評論当選作>記述の国家--谷崎潤一郎原論(清水良典)

<評論優秀作>小林秀雄への共感的反逆--後発者柄谷行人の《場所》(島弘之)
選評(秋山駿・遠藤周作・河野多恵子・日野啓三・三浦哲郎)

<評論>戦後政治家の文章--「戦後政治の精神」は可能か(松本健一)

批評の懐疑主義--《物語》批判の根をなすもの(竹田青嗣)

昭和 61(1986)年 6月 1日発行(講談社)

3068) 「群像」 3月号 1986

<対談>犯罪と文学(秋山駿・別役実)

<創作特集>BABER (ばあばあ)・中ノ郷(清水邦夫)

来訪者(有為エンジェル)/ おしゃべり散歩(中谷孝雄)

ヒマラヤン メール(加藤幸子)/ 黒縄《こくじょう》(高橋昌男)

<評論>『私小説論』の亡霊--加藤典洋氏に(富岡幸一郎)

昭和 61(1986)年 3月 1日発行(講談社)

3068-2) 「群像」 4月号 1985

<一挙掲載 305 枚>憂愁(井上光晴)

猫のいる部屋(土居良一)/ 冬眠(笙野頼子)

小説とは何か--私の「最終講義」(小島信夫)

<新連載>萩原朔太郎 1(磯田光一)
<評論>故郷としての東京--「故郷を失った文学」をめぐって(渡辺一民)
<随筆>落第人生(中谷秀雄)/ 最終講義(佐々木基一)
 麵麩[パン]の思い出(石牟田道子)
<連載完結>魂と意匠--小林秀雄 25(秋山駿)
<批評季評>批評という物語(川村湊)
 昭和 60(1985)年 4 月 1 日発行(講談社)

3069) 「群像」 8月号 1983

<創作>白馬(冥王まさ子)/ 鍋座(中里恒子)/ 軽みの死者(富士正晴)/
 再生(小島信夫)/ 千年樹の森(立松和平)/ 手紙の来た家(黒井千次)
<近代日本の日記 8>『落葉のはきよせ』--二葉亭四迷(小田切進)
 昭和 58(1983)年 8 月 1 日発行(講談社)

3070) 「文學界」 4月号 1988

<徹底討論>批評は今まぜ、むずかしいか(加藤典洋・高橋源一郎・竹田青嗣)
<特別対談>マンダラの恍惚--仏教と日本文学(森敦・瀬戸内晴美)
<第 18 回九州芸術祭文学賞受賞作>雪迎え(岩森道子)
 選評(森敦・五木寛之・秋山駿)
<同人雑誌推薦作>鴉(福元正實)
 昭和 63(1988)年 4 月 1 日発行(文藝春秋)

3071) 「文學界」 3月号 1988

 輸送(100 枚)(井上光晴)
<芥川賞受賞第一作>アップリンク(池澤夏樹)/ タートル・ドッグ(三浦清宏)
<インタビュー対談>「中景」のない時代(池澤夏樹・川本三郎)
 アメリカ体験と心霊と(三浦清宏・佐伯彰一)
<追悼石川淳>メタフィジックとしての「俳諧」
 --危機の小説学と言語革命(野口武彦)
<同人雑誌推薦作>匂い男(河村義次郎)
 昭和 63(1988)年 3 月 1 日発行(文藝春秋)

3072) 「文學界」 新年特別号 1988

<パトグラフィー対談>三島由紀夫を遡る(野坂昭如・福島章)
<戯曲>若くなるまで待って(筒井康隆)
<力作二百枚>光線(立松和平)
<特別企画=全仏論文コンクール>フランスから見た現代日本文学
 <小説論部門第一席>蜃気楼の彼方から(ブリジット・キヨー)
 <詩論部門第一席>痛いきらめきのクロニクル(ジャン=マルク・ムイイ)
<アンケート特集>1987 年最も印象に残った作品を三つあげて下さい。
 私のベスト 3 1987 年文学の収穫
 昭和 63(1988)年 1 月 1 日発行(文藝春秋)

3073) 「文學界」 6月号 1987

<第 64 回文學界新人賞決定発表>
 <受賞作>川べりの道(鷺沢萌)
 <受賞作>東明[とうみょう]の浜(尾崎昌躬)
 選評(黒井千次・畑山博・日野啓三・宮本輝・中上健次)
<海外文学展望ドイツ>カミンスキーの処女長篇小説(高辻知義)
 昭和 62(1987)年 6 月 1 日発行(文藝春秋)

3074) 「文學界」 4月号 1987

<日野啓三特別インタビュー>「廢墟」を旅する単独者(聞き手 川本三郎)

〈第 17 回九州芸術祭文学賞受賞作〉鼻の周辺(風見治)
選評(森敦・五木寛之・秋山駿)
〈特別エッセイ〉都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト(澁澤龍彦)
昭和 62(1987)年 4 月 1 日発行(文藝春秋)

3075) 「文學界」 6 月号

〈第 62 回文學界新人賞決定発表〉
〈受賞作〉比叡を仰ぐ(藤本恵子)
選評(黒井千次・中上健次・宮本輝・畑山博・日野啓三)
〈芥川賞受賞第一作〉義理のミシュパッパ(米谷ふみ子)
〈新人競作〉もうひとつの朝(佐藤泰志)/ 通夜の後で(木下順一)
〈シリーズ・戦後文学とは何か〉
「悲惨」な島国のパラドックス(ノーマ・フィールド)
〈海外文学展望ドイツ〉
ザラー・キルシュ(1935 年生れ)の《遊星 Irrstern?》(高辻知義)
昭和 61(1986)年 6 月 1 日発行(文藝春秋)

3076) 「文學界」 3 月号

〈新芥川賞作家特集〉
〈特別対談〉アメリカその日暮し 25 年(米谷ふみ子・宮本陽吉)
〈エッセイ〉わたしの国際ペン大会(米谷ふみ子)
〈宮本輝インタビュー〉父と子の世界(聞き手 栗坪良樹)
〈評論〉複製技術時代の三島由紀夫(桂秀実)
〈シリーズ・戦後文学とは何か〉批評の惨酷性と真実性(埴谷雄高)
〈第 16 回九州芸術祭文学賞佳作〉氷河の満つるとき(武田美智子)
選評(森敦・秋山駿・五木寛之)
〈海外文学展望ドイツ〉
新星ジュスキントの『芳香 Das Pafum』〈ある殺人者の物語〉(高辻知義)
昭和 61(1986)年 3 月 1 日発行(文藝春秋)

3077) 「文學界」 9 月号

〈現代日本の短篇 7〉死に先だつ苦痛について(大江健三郎)
〈長篇 310 枚一挙掲載〉骨の火(森内俊雄)
〈評論〉複製技術時代の三島由紀夫(桂秀実)
〈シリーズ・戦後文学とは何か〉
〈対談〉「政治化した私」をめぐって(大岡昇平・柄谷行人)
〈海外文学展望ドイツ〉ハインリヒ・ベル(1917 年生れ)の死(高辻知義)
昭和 60(1985)年 9 月 1 日発行(文藝春秋)

3078) 「文藝」 1 月号 1982

〈新年創作特集〉川崎長太郎・中村眞一郎・小島信夫・庄野潤三・小沼丹・
後藤明生・佐木隆三・金井美恵子・立松和平・中上健次・対馬佑子・金石範
三島あるいは空虚のヴィジョン(M・ユルスナール)〈澁澤龍彦訳〉

〈アンケート〉1981 年の成果

- 問 1 本年度(昭和 55 年 11 月より昭和 56 年 11 月まで)に発表された文学作品
(小説・評論・戯曲・詩を問わず)のうち、読まれたもののなかで最良の作品と
思われるもの三篇をおえらび下さい。雑誌掲載・単行本を問いません。
- 問 2 おえらびになった理由を簡単に付して下さい。
- 問 3 本年度(昭和 55 年 11 月より昭和 56 年 11 月まで)に翻訳・発表された外国文学
(小説・評論・戯曲)のうち、もっとも印象に残った作品を一篇挙げて下さい。
〈読書鼎談〉増田みず子『麦笛』/ 丸山健二『さらば、山のカモメよ』
(佐伯彰一・日野啓三・高井有一)
〈風のたより〉*マルティン・ヴァルザー(1927 年生れ)に、

ドイツ語圏最高の文学賞ビュヒナー賞が与えられる。
* R=R・ヴーテノー(現在フランクフルト大学教授)編纂の
『シュテファン・ゲオルゲ論集』〈第一巻「同時代の論文」
第二巻「没後の論文」〉が完結。

昭和 57(1982)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3079) 「文藝」 2月号 1982

雪虫(150枚)(小檜山博)/ サンタのいる空(山川健一)/ 出発(140枚)(岳真也)
〈読書鼎談〉富岡多恵子『砂時計のように』/ 中沢けい『女ともだち』
(黒井千次・大庭みな子・佐々木基一)

エディプスたちの言説--「同時代の文学」のための政治学(桂秀実)

昭和 57(1982)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)

3080) 「文藝」 3月特大号 1982

解剖(100枚)(三浦朱門)/ 凍蝶(120枚)(鈴木沙那美)

〈戯曲〉黄昏のメルヘン(160枚)(矢代静一)

〈新連載〉謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)

歴史に真向ふ絶対感情--安岡章太郎『流離譚』を読む(桶谷秀昭)

「文学者の声明」について(中野孝次)

昭和 57(1982)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3081) 「文藝」 4月号 1982

変身(芝木好子)/ 夢の鉄道(吉村昭)/ 開援亭にて(後藤明生)

タンカバイ(佐木隆三)/ 巴里館(司 修)/ 渡海(新人・110枚)(鈴木孝一)

〈連載 2〉謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)

〈人〉清水孝純「池田健太郎賞受賞」(前田愛)

「文学者の声明」について(中野孝次)

昭和 57(1982)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3082) 「文藝」 5月号 1982

〈200枚一挙掲載〉寂兮寥兮(かたちもなく)(大庭みな子)

沈下地帯(増田みず子)/ ねむり姫(澁澤龍彦)

〈連載 3〉謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)

〈人〉青木はるみ「H氏賞受賞」(八木忠栄)

〈風のたより〉*エルンスト・ヴァイス(1882-1940)の生誕百年を記念して、
西ドイツのズーアキャンプ出版社が全作品集 16 巻を刊行すると発表。

*ヴォルフガング・ヒルデスハイマーが新しい伝記『マーボット』を発表。

*戯曲『マラー/ サド』で知られていたペーター・ヴァイスの小説
『抵抗の美学』全三巻が、第一巻発表から六年を経て完結。

昭和 57(1982)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3083) 「文藝」 6月号 1982

〈文芸賞受賞第一作 2 篇一挙掲載〉

雪むかえ(435枚)(冥王まさ子)/ 映画座(200枚)(中平まみ)

《心の楽園》--ユルスナールの肖像(岩崎力)

〈連載 4〉謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)

〈人〉阿部岩夫「小熊秀雄賞受賞」(吉増剛造)

昭和 57(1982)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3084) 「文藝」 7月号 1982

〈小説〉影のオペラ(出口裕弘)/ 逃げる兔(小野木朝子)/

白球の空(黒田宏治郎)

表現としての狂気(三浦雅士)

<連載 5>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)
<人> 八匠衆一「平林たい子賞受賞」(小島信夫)
渡辺保「平林たい子賞受賞」(渡辺守章)
昭和 57(1982)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3085) 「文藝」 8 月号 1982

<300 枚一挙掲載>老母の家(青野聰)
<小説>紫竹と梅の花(八木義徳)/ ソクラテスの馬(後藤明生)/
わたしの赤マント(小沢信男)/ 狐媚記(澁澤龍彦)
<《文学を開く》 6>
「歴史」への帰着--安岡章太郎『流離譚』をめぐって(松本健一)
<連載 6>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)
昭和 57(1982)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

3086) 「文藝」 9 月号 1982

<390 枚一挙掲載>神々の港(鈴木孝一)
<小説>髭(三田誠広)/ 河口(土居良一)/ 沿海巡視記--史伝鳥居耀蔵(杉浦明平)
<新連載>変哲もない一日(阿部昭)/
<連載 7>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)
<人> 田之倉稔「マルコ・ポーロ賞受賞」(山口昌男)
<風のたより>*今年ゲート没後 150 年にあたり、ドイツ語圏ではさまざまな
記念行事が催されている。『ゲートその日その日』全七巻の刊行開始。
ゲッティンゲン大学教授アルブレヒト・シェーネの研究書『神々の表徴・
愛の蠱惑・悪魔崇拜』が見逃せない。
*マックス・フリッシュの新しい小説『青髯』が評判になっている。
昭和 57(1982)年 9 月 1 日発行(河出書房新社)

3087) 「文藝」 10 月号 1982

<長篇短期連載>舞々虫の賦(高橋揆一郎)
<小説>綺羅星(山川健一)/ 光る道(佐藤泰志)/ 骨無し首男(中菌英助)
<戯曲>江戸のろくでなし--月岡芳年考(矢代静一)
<連載 2>変哲もない一日(阿部昭)/
<連載 8>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)
<《文学を開く》 7>「土地」の声--山口瞳『居酒屋兆治』、
三浦朱門『武蔵野インディアン』をめぐって(松本健一)
昭和 57 年度文芸賞一次予選通過作品発表
昭和 57(1982)年 10 月 1 日発行(河出書房新社)

3088) 「文藝」 11 月号 1982

<190 枚>佐川君からの手紙--舞踏会の手帖(唐十郎)
<小説>東京の夕焼け(後藤明生) / 人形(鈴木沙那美) / 風鈴(土居良一)
<長篇短期連載 2>舞々虫の賦(高橋揆一郎)
ぼろんじ(澁澤龍彦)
<連載 3>変哲もない一日(阿部昭)
「犯罪」について--再び小松川女高生殺しの問題(秋山駿)
<連載 9>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)
昭和 57(1982)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3089) 「文藝」 12 月号 1982

昭和 57 年度文芸賞当選作発表(256 枚)日曜日には愛の胡瓜を(平野純)
<選後評>(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)
ポール・ヴァレリー(篠田一士)
<連載 10>謎のカスパール・ハウザー(種村季弘)

<長篇短期連載3>舞々虫の賦(高橋揆一郎)
<連載4>変哲もない一日(阿部昭)
<特集・文芸賞20周年>(田畑麦彦・真継伸彦・金鶴泳・外岡秀俊・宮内勝典・
冥王まさ子/寺田透・中村真一郎・野間宏・埴谷雄高・福田恆存・
江藤淳・小島信夫・島尾敏雄/坂本一亀)
文芸賞受賞者一覧
<文藝 総目次>昭和57年1月号～12月号
昭和57(1982)年12月1日発行(河出書房新社)

3090) 「文藝」 新年特大号 1981

<新年創作特集>大岡昇平・川崎長太郎・八木義徳・中村真一郎・島村利正・
杉浦明平・加賀乙彦・後藤明生・宮原昭夫・黒井千次・山田稔・
高橋揆一郎・三田誠広

<アンケート>1980年の成果

問1 本年度(昭和54年11月より昭和55年11月まで)に発表された文学作品
(小説・評論・戯曲・詩を問わず)のうち、読まれたもののなかで最良の作品と
思われるもの三篇をおえらび下さい。雑誌掲載・単行本を問いません。

問2 おえらびになった理由を簡単に付して下さい。

問3 本年度(昭和54年11月より昭和55年11月まで)に翻訳・発表された外国文学
(小説・評論・戯曲)のうち、もっとも印象に残った作品を一篇挙げて下さい。
<読書鼎談>石川淳『狂風記』(平岡篤頼・李恢成・立松和平)

<対談>物語の源泉(中上健次・対馬佑子)

<文藝 総目次>昭和55年1月号～12月号

昭和56(1981)年1月1日発行(河出書房新社)

3091) 「文藝」 2月号 1981

天人五衰(100枚)(中上健次)/金色の象(140枚)(宮内勝典)

反省ノート(佐木隆三)/神々の谷--インド・ガンゴトリ紀行(170枚)(中野孝次)

<読書鼎談>村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』(森 敦・三木卓・宮内豊)

<風のたより>*オットー・ヴァイニングの『性と性格』に日記を付した決定
版と『究極の事柄について』というエッセー・アフォリズム集が出版される。

*ローベルト・ヴァルザーの生誕百年を祝い、豊富な写真入りの「伝記」が
ズールカンプ社から出版された。

昭和56(1981)年2月1日発行(河出書房新社)

3092) 「文藝」 3月号 1981

<新鋭創作特集>ボーア(津島佑子)/宵の饗宴(三田誠広)

鑿(たがね)(小沼燦)/父の復権(140枚)(黒田宏治郎)

<読書鼎談>大庭みな子『霧の旅』(森 敦・三木卓・宮内豊)

昭和56(1981)年3月1日発行(河出書房新社)

3093) 「文藝」 4月号 1981

夏行(げぎょう)(130枚)(上田三四二)/武蔵野インディアン(三浦朱門)

時計(吉村昭)/秋晴(坂上弘)/野のはずれの神さま(立松和平)

<戯曲>かもめ(大庭みな子)

<読書鼎談>深沢七郎『みちのくの人形たち』/三浦哲郎『冬の雁』

(森 敦・三木卓・宮内豊)

<風のたより>*ルー・アンドレアス=ザロメの精神分析学の論考が『ナルシシス
ムへの愛』と題され、編者ポンタリスによって単行本にまとめられた。

昭和56(1981)年4月1日発行(河出書房新社)

3094) 「文藝」 5月号 1981

はじまりは朝(190枚)(川西蘭)/対談(後藤明生)/

回復の日々(佐木隆三)/ エヴァ(山田稔)/ 地下室の断章(三田誠広)
〈読書鼎談〉黒井千次『春の道標』/ 後藤明生『吉野太夫』
(秋山駿・上田三四二・北村太郎)
昭和 56(1981)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3095) 「文藝」 6 月号 1981
〈新連載長篇対談〉文学と人生(森 敦・小島信夫)
女ともだち(230 枚)(中沢けい)/
運河の断章(三田誠広)/ 原野のまつり(上西晴治)
〈戯曲〉お化け煙突物語(240 枚)(唐十郎)
〈文学を開く 3〉《伝奇》の試みの破綻
--大江健三郎『同時代ゲーム』をめぐって(松本健一)
〈同世代の作家Ⅱ〉溶解する「私」--中上健次『枯木灘』(菊田均)
〈読書鼎談〉八木義徳『一枚の繪』/ 尾辻克彦『父が消えた』
(秋山駿・上田三四二・北村太郎)
昭和 56(1981)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3096) 「文藝」 7 月号 1981
先祖代々(三浦朱門)/ 多島海(津島佑子)/ 沈みゆく町(佐木隆三)/
ひと夏(小林景子)/ 「故国まで」三十七年(金達寿)
世代論を越えて--高度産業社会の文学(宮内豊)
〈連載 2 長篇対談〉文学と人生(森 敦・小島信夫)
〈読書鼎談〉野口富士男『風のない日々』/ 高橋揆一郎『夏の月』
(秋山駿・上田三四二・北村太郎)
昭和 56(1981)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3097) 「文藝」 8 月号 1981
ボストンの夜(石原慎太郎)/ スティンカー(田中小実昌)/ 魍魎(宮原昭夫)
饗宴(後藤明生)/ 果てなき議論の夜(100 枚)(三田誠広)
軍事分界線まで(金達寿)
〈同世代の作家Ⅲ〉自閉する「私」
--村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』(菊田均)
〈連載 3 長篇対談〉文学と人生(森 敦・小島信夫)
〈読書鼎談〉芝木好子『玉の緒』/ 宮本輝『道頓堀川』
(小田実・松本健一・三田誠広)
昭和 56(1981)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

3098) 「文藝」 9 月号 1981
漂雲(八木義徳)/ 風倉(尾辻克彦)/
きみの鳥はうたえる(200 枚)(佐藤泰志)/
さらに果てなき夜(100 枚)(三田誠広)
饗宴(後藤明生)/ 果てなき議論の夜(100 枚)(三田誠広)
〈連載 4 長篇対談〉文学と人生(森 敦・小島信夫)
〈読書鼎談〉林京子『無きが如き』/ 小島信夫『美濃』
(小田実・松本健一・三田誠広)
昭和 56(1981)年 9 月 1 日発行(河出書房新社)

3099) 「文藝」 10 月号 1981
〈戯曲 260 枚〉黄金バット--幻想教師出現(唐十郎)
二度目の化粧(佐木隆三)/ 果てなき夜の終り(三田誠広)
〈対談〉作家の姿勢(川崎長太郎・吉行淳之介)
〈特集・横光利一再読〉横光先生の初期作品(大岡昇平)
横光再生(篠田一士)/ 『機械』の方法(後藤明生)/

横光利一全集抄(保昌正夫)

<連載 5 長篇対談>文学と人生(森 敦・小島信夫)

<風のたより>*ブレヒトの版權をめぐる問題。東ベルリンに住むブレヒトの娘バルバラが東西ドイツを含むヨーロッパにおける版權を受け継いでいるが、管理は出版社ズールカンプ社長ウンゼルトにゆだねた。その際、作品に忠実な演出に対してのみ版權の使用を認めることという条件がつけられた。

<読書鼎談>澁澤龍彦『唐草物語』/高井有一『海の入り日』

(小田実・松本健一・三田誠広)

昭和 56(1981)年 10 月 1 日発行(河出書房新社)

3100) 「文藝」 11 月号 1981

台風見物(丸山健二)/番鳥森(津島佑子)/敗戦(三浦朱門)

はるかなる夜明け(三田誠広)/あの光州まで(金達寿)/衆道(小川国夫)

<対談>作家と<責任>(野間宏・中上健次)

<連載 6 長篇対談>文学と人生(森 敦・小島信夫)

<読書鼎談>立松和平『歓喜の市』/宮内勝典『金色の象』

(佐伯彰一・日野啓三・高井有一)

昭和 56(1981)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3101) 「文藝」 12 月号 1981

昭和 56 年度文芸賞当選作(251 枚)1980 アイコ十六歳(堀田あけみ)

昭和 56 年度文芸賞当選作(102 枚)みのむし(山本三鈴)

昭和 56 年度文芸賞当選作(317 枚)百色メガネ(ふくださち)

<選後評>(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

<小説>(140 枚)火の降る日(宮内勝典)

鏡花から選ぶ(寺田透)

<連載 7 長篇対談>文学と人生(森 敦・小島信夫)

<読書鼎談>山田稔『コーマルタン界限』/小川国夫『若潮の頃』

(佐伯彰一・日野啓三・高井有一)

<文藝 総目次>昭和 56 年 1 月号～12 月号

昭和 56(1981)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)

3102) 「文藝」 新年創作特集増大号 1980

<創作特集>(240 枚)荒野[あらの]第一部(高橋たか子)

(210 枚)流離譚(李恢成)/ (170 枚)険しい朝(中野孝次)

女たち(小島信夫)/顔(芝木好子)/家屋(三浦朱門)

教会堂(加賀乙彦)/水鏡(金井美恵子)

<アンケート>1979 年の成果

問 1 本年度(昭和 53 年 11 月より昭和 54 年 11 月まで)に発表された文学作品

(小説・評論・戯曲・詩を問わず)のうち、読まれたもののなかで最良の作品と思われるもの三篇をおえらび下さい。雑誌掲載・単行本を問いません。

問 2 おえらびになった理由を簡単に付して下さい。

問 3 本年度(昭和 53 年 11 月より昭和 54 年 11 月まで)に翻訳・発表された外国文学(小説・評論・戯曲)のうち、もっとも印象に残った作品を一篇挙げて下さい。

<読書鼎談>立松和平『光匂い満ちてよ』/富岡多恵子『斑猫』

(川村二郎・飯島耕一・津島佑子)

<対談>物語の源泉(中上健次・対馬佑子)

<文藝 総目次>昭和 54 年 1/2 月号～12 月号

昭和 55(1980)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3103) 「文藝」 2 月号 1980

<創作>(240 枚)荒野[あらの]第二部(高橋たか子)

<現代詩特集>鮎川信夫・清岡卓行・北村太郎・吉本隆明・黒田喜夫・大岡信・

長谷川龍生・澁澤孝輔・飯島耕一・石垣りん・白石かずこ・吉原幸子・
粒来哲蔵・入澤康夫・鈴木志郎康・天沢退二郎・清水哲男・吉増剛造・
岡田隆彦・正津勉

<風のたより>*インゲボルグ・バッハマン賞受賞作家、レナーテ・ショスタック
(1938年生れ)の作品『わたしの虹から手をどけて』に含まれる短篇「わたし
のロードが、彼方に流れ去った」が、「ノイエ・ルントシャウ」に掲載されて
いる。

* 1930年生れのスイスの女流作家、エリカ・ペドレッティの最新作短篇
『明るい地の上に黒く』が文芸誌「アクツェンテ」に掲載されている。

<読書鼎談>坂上弘『故人』/金達寿『対馬まで』
(菅野昭正・後藤明生・三田誠広)

昭和 55(1980)年 2月 1日発行(河出書房新社)

3104) 「文藝」 3月号 1980

<創作>(320枚)遠雷(立松和平)

八ヶ岳(八木義徳)/早稻田の下宿時代(川崎長太郎)

<読書鼎談>大江健三郎『同時代ゲーム』/金井美恵子『単語集』

(菅野昭正・後藤明生・三田誠広)

昭和 55(1980)年 3月 1日発行(河出書房新社)

3105) 「文藝」 4月号 1980

<創作>病名(宮原昭夫)/富士山(阪田寛夫)/夏の月(高橋揆一郎)

「物語」の現代的アポリア--中上健次私見(松本健一)

空白の闇--開高健論(菊田均)

<対談>闇の力(中野孝次・立松和平)

<読書鼎談>冥王まさ子『ある女のグリンプス』/宮内勝典『南風』

(菅野昭正・後藤明生・三田誠広)

昭和 55(1980)年 4月 1日発行(河出書房新社)

3106) 「文藝」 5月号 1980

<文芸賞受賞第一作>(320枚)グリニッジの光を離れて(宮内勝典)

山鳩(小沼丹)/河口(金井美恵子)

<戯曲>(125枚)センチメンタル・ジャーニー--足のある幽霊(矢代静一)

<読書鼎談>立原正秋『帰路』/中上健次『鳳仙花』

(磯田光一・加賀乙彦・黒井千次)

<風のたより>*アルフレート・アンデルシュが 66歳で急逝。

『自由とさくらんぼ』『赤毛の女』『ヴィンター・シュベルト(村の名)』など。
遺作は『殺人者の父親』で、ナチの戦犯ヒムラーの父親を扱った作品。

*マックス・ブロートの自伝『喧嘩好きの人生』が出版される。圧巻は、
当時ドイツ語圏随一の論客カール・クラウスとの論争の日々の回顧。

*ローベルト・ヴァルザーの短篇集が出版される。1914年初版の再版本。

昭和 55(1980)年 5月 1日発行(河出書房新社)

3107) 「文藝」 6月号 1980

<小説>(220枚)越境者の祭り(出口裕弘)/彷徨の夏(中野孝次)

チェーホフとクニッペル--未発表書簡復元の試み(中本信幸)

散り残った桜--有馬頼義氏追悼(立松和平)

<読書鼎談>阿部昭『海からの風』/高橋たか子『荒野』

(磯田光一・加賀乙彦・黒井千次)

昭和 55(1980)年 6月 1日発行(河出書房新社)

3108) 「文藝」 7月号 1980

<連作・千年の愉楽>半蔵の鳥(中上健次)

(130 枚)もう一人の父(星野光徳)/ 打出(阪田寛夫)
〈連作短篇〉コーマルタン界限(山田稔)
〈文学を開く 1〉 不可能性の日本回帰--立原正秋『帰路』にふれて(松本健一)
〈読書鼎談〉遠藤周作『侍』/ 津島佑子『燃える風』
(磯田光一・加賀乙彦・黒井千次)
〈風のたより〉*本国スイスおよびドイツ語圏の中堅作家アドルフ・ムシュクが
『まだ願いは?』 Noch ein Wunsch? という中編小説を発表。
昭和 55(1980)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3109) 「文藝」 8 月号 1980

〈250 枚一挙掲載〉空で逢うとき(川西蘭)
〈連作短篇・コーマルタン界限〉メルシー(山田稔)
〈遺作〉モノクロームの秋(野村光由)
場所についての三章(柄谷行人)
動く主体と変る客体--野口富士男『散るを別れと』(平岡篤頼)
ガンビアものの世界(古屋健三)
〈読書鼎談〉三浦朱門『峠』/ 芝木好子『羽搏く鳥』
(秋山駿・日野啓三・柄谷行人)
昭和 55(1980)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

3110) 「文藝」 9 月号 1980

六道の辻(中上健次)/ まどろみの午後(三田誠広)
〈連作短篇・コーマルタン界限〉シネマ支配人(山田稔)
海辺の小屋から(川崎長太郎)
幻想の村--立松和平『遠雷』を読んで(饗庭孝男)
〈同世代の作家 I〉地方の空白--立松和平『遠雷』(菊田均)
ガンビアものの世界(古屋健三)
〈読書鼎談〉立松和平『遠雷』/ 村上春樹『1973 年のピンボール』
(秋山駿・柄谷行人・日野啓三)
昭和 55(1980)年 9 月 1 日発行(河出書房新社)

3111) 「文藝」 10 月号 1980

第九工場(佐木隆三)/ (140 枚)地吹雪(小檜山博)
忌の花(高橋揆一郎)/ 新宿仲通り(岡松和夫)
〈文学を開く 2〉 「成熟」という名の「転向」
--中野孝次・岡松和夫の教養小説にふれて(松本健一)
〈評論〉(80 枚)幻のハルビン(内村剛介)
〈読書鼎談〉田久保英夫『雨飾り』/ 中野孝次『苦い夏』
(秋山駿・柄谷行人・日野啓三)
昭和 55(1980)年 10 月 1 日発行(河出書房新社)

3112) 「文藝」 11 月号 1980

戦後(川崎長太郎)/ (100 枚)天狗の松(中上健次)
(100 枚)夕刻の追想(三田誠広)/ 汝の隣人(後藤明生)
オハイオ(阪田寛夫)/ 無縁の雨(高橋揆一郎)/ 日曜日(山田稔)
政治ぬきには語れない--李恢成の『流民伝』を読む(宮内豊)
〈上林暁追悼〉上林暁君のこと(川崎長太郎)/ 聖なる影(島村利正)
私小説の光芒(秋山駿)
〈読書鼎談〉日野啓三『蛇のいた場所』/ 宮内勝典『グリニッジの光りを離れて』
(平岡篤頼・李恢成・立松和平)
〈風のたより〉*ベルリン大学教授で文芸学者だったアレヴィンは昨年 8 月に
没したが、その後輩のグリュンターという学者が「メルクール」誌に
記事を掲載。著作『ホフマンスタールの変遷』

昭和 55 年度文芸賞二次予選通過作品発表
昭和 55(1980)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3113) 「文藝」 12 月号 1980

昭和 55 年度文芸賞当選作 (158 枚) なんとなくクリスタル(田中康夫)

昭和 55 年度文芸賞当選作 (135 枚) ストレイ・シープ(中平まみ)

昭和 55 年度文芸賞当選作 (390 枚) 囚人のうた(青山健司)

〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

〈河上徹太郎追悼〉精神のひろがりと品位(川村二郎)

〈読書鼎談〉富岡多恵子『芻狗』/ 加賀乙彦『犯罪』

(平岡篤頼・李恢成・立松和平)

昭和 55(1980)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)

3114) 「文藝」 1・2 月合併特大号 1979

〈長篇短期連載・第一回〉(300 枚) 帰郷(三田誠広)

〈創作特集〉泥海(野間宏)/ 瓢箪(中里恒子)/ むささび(水上勉)

蘇水峡(島村利正)/ 灯り(結城信一)/ 月のなかの女(辻邦生)

獵師卯吉の一生(加賀乙彦)/ おとずれ(黒井千次)

インコ(大庭みな子)/ 天使(野呂邦暢)/ 聖地(津島佑子)

その年のこと(高橋三千綱)

〈戯曲〉(230 枚) 東海道オランダ怪談(宮本研)

〈新連載・唐草物語その 1〉鳥と少女(澁澤龍彦)

青山二郎のこと(大岡昇平)

〈小説世界のなかでVIII〉ある否定しがたい力(小田実)

〈小特集〉回顧から展望へ--80 年代に向けて

「無条件降伏」論争と文学(磯田光一)/ ノートの精神(秋山駿)

公事にかかわる精神(宮内豊)/ 時評家の感想(柄谷行人)

戦後への一視点(菊田均)

〈対談〉アメリカ経験と小説(小田実・高橋三千綱)

〈読書鼎談〉吉行淳之介『夕暮れまで』(石原慎太郎・坂上弘・中上健次)

〈文藝 総目次〉昭和 53 年 1 月号～12 月号

〈風のたより〉*ホフマンスタールとリルケの往復書簡集が、西ドイツのズール
カンプ社から出版された。

*ユルゲン・テオバルディが最初の小説『毎日曜日、映画館』を発表。

*エンツェンスベルガーが『タイタニック号の沈没』という作品を発表。

昭和 54(1979)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3115) 「文藝」 3 月号 1979

〈長篇短期連載〉(120 枚) 帰郷(三田誠広)

〈創作〉(120 枚) 陸橋からの眺め(中村昌義)/ 廃道の夏(野村光由)

ガンビアの春(庄野潤三)

〈唐草物語その 2〉空飛ぶ大納言(澁澤龍彦)

〈未発表〉墮落の二重性(高橋和巳)(解説・福島泰樹)

〈読書鼎談〉古井由吉『夜の香り』/ 吉村昭『遠い日の戦争』

(石原慎太郎・坂上弘・中上健次)

昭和 54(1979)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3116) 「文藝」 4 月号 1979

〈長篇短期連載〉(100 枚) 帰郷(三田誠広)

〈創作〉(180 枚) 塔の子(尾高修也)/ 風(小沼丹)/ 沈んだ舟(阿部昭)

ガンビアの春(庄野潤三)

〈唐草物語その 3〉火山に死す(澁澤龍彦)

〈小説世界のなかでIX〉総理大臣の胸のうちとまわりの風俗

--徳富蘆花『黒潮』(小田実)

<読書鼎談>河野多恵子『妖術記』/山口瞳『血族』

(石原慎太郎・坂上弘・中上健次)

<風のたより>*ジャン・アメリー(1912年ウィーン生れ)が昨年10月17日自殺。
その著作は『罪と罰のかなたへ』『非マイスター的遍歴時代』。

*ヴァルター・ヘレラーが1973年に出版した『象の時計』はズールカンプ社の文庫本にも収められているが、最近彼は戯曲『あらゆる鳥たちがみんな』を発表した。

*ハンス・エーリヒ・ノサックは昨年11月2日ハンブルクで75歳の生涯を終えたが、彼の追悼文を文芸年鑑『リング』で、西ドイツの代表的文芸誌「アクツェンテ」の編集長ハンス・ベンダーが認めている。

*シモーヌ・ド・ボーヴォワールにオーストリア政府から文学賞が与えられた。《ヨーロッパ文学にたいするオーストリア国家賞》が正式な名前。

*ドイツロマン派の代表的な作家アイヒェンドルフの『のらくら者』が再評価され、二三の出版社からあいついで普及版として出版されている。

昭和54(1979)年4月1日発行(河出書房新社)

3117) 「文藝」 5月号 1979

<長篇短期連載>帰郷(三田誠広)

<創作>(120枚) 苦い夏(中野孝次)

淡雪(川崎長太郎)/ 星月夜(結城信一)/ ガンビアの春(庄野潤三)

<新人・150枚>春一番が吹くまで(川西蘭)

<唐草物語その4>女体消滅(澁澤龍彦)

<小説世界のなかでX>文章の力 --夏目漱石『坊ちゃん』(小田実)

<読書鼎談>加賀乙彦『宣告』(森 敦・三木卓・柄谷行人)

昭和54(1979)年5月1日発行(河出書房新社)

3118) 「文藝」 6月号 1979

<新連載・言葉ありき1>白紙(阿部昭)

<戯曲特集>(120枚) 右往左往--夢の懸け橋(田中千禾夫)

(130枚) 毒婦の父--高橋お伝(矢代静一)

ガンビアの春(庄野潤三)/ 帰郷(三田誠広)/ いろはにほ屁と(小沢信男)

<未発表小説>音楽者(横光利一)(解説・井上謙)

<唐草物語その5>三つの髑髏(澁澤龍彦)

<読書鼎談>中村光夫『グロテスク』/ 藤枝静男『悲しいだけ』

(小島信夫・三木卓・柄谷行人)

<風のたより>*ギュンター・グラスの新作『テルクテの集会』が出版された。

*ライヒ＝ラニツキーが『応答--70年代のドイツ文学に』を出版。

昭和54(1979)年6月1日発行(河出書房新社)

3119) 「文藝」 7月号 1979

<言葉ありき2>名前(阿部昭)

<新人・95枚>草の響き(佐藤泰志)

空蟬(芝木好子)/ (80枚) イム叩き(上西晴治)

<連載7> ガンビアの春(庄野潤三)/ <連載6> 帰郷(三田誠広)

<唐草物語その6>金色堂異聞(澁澤龍彦)

<小説世界のなかで11>「私小説」におけるつきあいの強制について、他
--嘉村磯多『業苦』(小田実)

(65枚) 怒りと無常--藤枝静男論(松本徹)

<読書鼎談>中上健次『水の女』/ 日野啓三『鉄の女』

(森 敦・三木卓・柄谷行人)

昭和54(1979)年7月1日発行(河出書房新社)

- 3120) 「文藝」 8月号 1979
 <長篇対談>小林秀雄について(柄谷行人・中上健次)
 (165枚)備忘録(金達寿)/斑猫(富岡多恵子)/社宅(小林景子)
 <言葉ありき 3>青葉(阿部昭)
 <連載 8> ガンビアの春(庄野潤三)/<連載 7>帰郷(三田誠広)
 <唐草物語その 7>六道の辻(澁澤龍彦)
 <荒正人追悼>「近代文学」「近代化」(埴谷雄高)/正常人 荒正人(日野啓三)
 <読書鼎談>黒田宏治郎『鳥たちの闇のみち』/瀬戸内晴美『花火』
 (佐々木基一・中野孝次・秋山駿)
 <風のたより>*西ドイツの作家アルノー・シュミットが5月下旬65歳で没した。
 *ユッタ・シュティングはオーストリアの女流作家だが、彼女の
 最新作短篇が出た。
 昭和 54(1979)年 8月 1日発行(河出書房新社)
- 3121) 「文藝」 9月号 1979
 (130枚)村雨(立松和平)/(150枚)ブラックボックスを背負って(川西蘭)
 戸来(阪田寛夫)/<言葉ありき 4>訣別(阿部昭)
 <連載 9> ガンビアの春(庄野潤三)/<連載 8>帰郷(三田誠広)
 作品の中に生きる(小島信夫)/瀧口修造覚え書(大岡信)
 内的な犯行者・小林秀雄(秋山駿)
 <唐草物語その 8>盤上遊戯(澁澤龍彦)
 <小説世界のなかで 12>大きな小説--壺井栄『大根の葉』(小田実)
 <読書鼎談>小林景子『回帰点』/大庭みな子『淡交』
 (佐々木基一・中野孝次・秋山駿)
 昭和 54(1979)年 9月 1日発行(河出書房新社)
- 3122) 「文藝」 10月号 1979
 (125枚)散るを別れと(野口富士男)/(150枚)骨肉の舞(岳真也)
 一枚の繪(八木義徳)/<言葉ありき 5>希望(阿部昭)
 <連載 10> ガンビアの春(庄野潤三)/<連載 9>帰郷(三田誠広)
 <唐草物語その 9>闇人あるいは無実のあかし(澁澤龍彦)
 三人の明治--子規、樗牛、満之(小山文雄)
 <小説世界のなかで 13>それから、のこと--原民喜『火の唇』(小田実)
 「赤と黒」回想--自伝風に(川崎長太郎)
 <福永武彦追悼特集>(埴谷雄高・中村真一郎・佐々木基一・篠田一士・
 小佐井伸二・原條あき子)
 <読書鼎談>青野聰『母と子の契約』/三木卓『野いばらの衣』
 (佐々木基一・中野孝次・秋山駿)
 昭和 54 年度文芸賞第一次予選通過作品発表
 昭和 54(1979)年 10月 1日発行(河出書房新社)
- 3123) 「文藝」 11月号 1979
 去年のおおろぎ(結城信一)/日常(宮原昭夫)
 (125枚)朝の疾走(矢島輝夫)
 <言葉ありき 6>邂逅(阿部昭)/<唐草物語その 10>蜃気楼(澁澤龍彦)
 <連載 11> ガンビアの春(庄野潤三)/<連載 10>帰郷(三田誠広)
 三人の明治--子規、樗牛、満之(小山文雄)
 <小説世界のなかで 14>(最終回)「番外」の重大な小説
 --ジョン・オカダ『ノー・ノ・ボーイ』(小田実)
 自由と勇気--李恢成『見果てぬ夢』を読む(三木卓)
 <中野重治追悼特集>(桑原武夫・佐多稲子・本多秋五・秋山清・寺田透・
 金達寿・芝木好子・水上勉・桶谷秀昭)
 <読書鼎談>高橋揆一郎『狐沢夢幻』/尾高修也『塔の子』

(川村二郎・飯島耕一・津島佑子)

〈風のたより〉* 1978 年度ローベルト・ヴァルザー賞を獲得している著者
ルートヴィヒ・ホルの『仕事について・イメージ』が西独ズール
キャンプ社の叢書に収められている。

* ディーター・キューン(44 歳)の二冊目のエッセー集『ライオンの音楽』
が出版された。

* スイスの女流作家エリカ・ペドレッティ(1930 年生れ)の処女作である
『どうか、無害なものを』がズールキャンプ文庫に収められた。

昭和 54(1979)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3124) 「文藝」12月号1979

昭和 54 年度文芸賞当選作 (234 枚)ある女のグリンプス(冥王まさ子)

昭和 54 年度文芸賞当選作 (238 枚)南風(宮内勝典)

〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

〈連載 12〉ガンビアの春(庄野潤三)/〈連載 11〉帰郷(三田誠広)

〈言葉ありき 7〉解体(阿部昭)/〈唐草物語その 11〉遠隔操作(澁澤龍彦)

〈読書鼎談〉瀬戸内晴美『比叡』/中村昌義『陸橋からの眺め』

(川村二郎・飯島耕一・津島佑子)

昭和 54(1979)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)

3125) 「文藝」新年特大号1978

〈新年創作特集〉八木義徳・小島信夫・中村眞一郎・水上勉・辻邦生・
大庭みな子・三田誠広・高橋三千綱

〈戯曲〉(230 枚)子午線の祀り(木下順二)

〈小説世界のなかで I〉「フンシ」のにおいの力『猫と庄造と二人の女』(小田実)
天使と怪物--神話の森の中で・7(高橋英夫)

反復と拡散(平岡篤頼)

〈読書鼎談〉中里恒子『時雨の記』/黒井千次『禁域』

(秋山駿・大庭みな子・岡松和夫)

〈文藝 総目次〉昭和 52 年 1 月号~12 月号

〈風のたより〉* 1970 年に没したユダヤ系ドイツの女流詩人ネリー・ザックスが、
友人シン・シャーロムに宛てた手紙を、オーストリアの文芸誌
「文学と批評」が掲載している。

* パウル・ツェランの九冊目の詩集『時の農家の庭が』が、西ドイツの
代表的な文芸出版社ズールキャンプ社から出版された。

昭和 53(1978)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3126) 「文藝」2月特大号1978

コタンのおんな(上西晴治)/ビッグ・ヘッド(田中小実昌)/家路(岡田睦)

(260 枚)風の出発(野村光由)/〈連載・9(最終回)〉水の都(庄野潤三)

〈小説世界のなかで II〉下手クソで、ゆたかな小説--有島武郎『迷路』(小田実)
円環と眩暈(平岡篤頼)

〈対談〉戦後詩の周辺(田村隆一・吉増剛造)

〈小特集〉ドイツラディカリズムの哲学

『美学理論』抄(テオロール・W・アドルノ)

実験としての世界(エルンスト・ブロッホ)

否定の否定としての芸術(大久保健治)

反ユートピアとしての死(船戸満之)

〈読書鼎談〉三田誠広『赤ん坊の生まれない日』/高橋昌男『巷塵』

(秋山駿・大庭みな子・岡松和夫)

昭和 53(1978)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)

3127) 「文藝」 3月号 1978

- (180枚) 雪降る年よ(中野孝次)/ 正夫の死(三枝和子)
脳外科病室にて(中藺英助)
<同人雑誌転載作>雪と猪[むじな] (井上輝夫)
(72枚) 閉ざされた成熟--田中千禾夫[ちかお] 序論(山崎正和)
『円いひっぴい』論(松原新一)
仮面神の顕現--神話の森の中で・8(高橋英夫)
<対談>大阪(庄野潤三・阪田寛夫)
<読書鼎談>安部公房『密会』/ 古井由吉『哀原』
(秋山駿・大庭みな子・岡松和夫)
<風のたより>*昨年ズールカンプ社から回想録『ローベルト・ヴァルザーとの歩み』が、ヴァルザーの友人カール・ゼーリヒによって出版された。
*チャップリンの死について、西ドイツの週刊新聞「ツァイト」が、映画監督、劇作家、作曲家、詩人など8名の意見を掲載している。
*1932年生まれで作家兼映画監督のアレクサンダー・クルーゲが最近『新しい話』を出版したが、エンツェンスベルガーが「シュピーゲル」誌でこの本について書評をしている。
*ギュンター・グラスの来日が本決まりになった。今年の秋3ヶ月ほど東北に滞在してもっぱら木版画の制作に打ちこむということである。
昭和53(1978)年3月1日発行(河出書房新社)

3128) 「文藝」 4月号 1978

- <文芸賞受賞第一作(150枚)>執心ありて(松崎陽平)
匍匐前進(福田紀一)/ チューホフの眼(矢島輝夫)
人忘れ(富士正晴)/(125枚) 残りの雪(野口富士男)
<連載(最終回)>評伝梶井基次郎12(大谷晃一)
(116枚)『白痴』論(桶谷秀昭)
<小説世界のなかでⅢ>「都会男」による「都会男」の小説
--武田麟太郎『井原西鶴』(小田実)
行き場のない土着(平岡篤頼)
<対談>大阪(庄野潤三・阪田寛夫)
<読書鼎談>川崎長太郎『つゆ草』/ 耕治人『母の霊』
(柄谷行人・日野啓三・森 敦)
昭和53(1978)年4月1日発行(河出書房新社)

3129) 「文藝」 5月号 1978

- <新連載>停れる時の合間に(佐々木基一)
<創作特集>続モンマルトルの丘(小島信夫)/ ある冬(水上勉)
夜の河の流れるとき(辻邦生)/ 墓地の焚火(高井有一)/ 雲(富岡多恵子)
赫髪(中上健次)/ 空の細道(結城信一)/ ドコ・イキノ(田中小実昌)
突然の湖(東峰夫)
<戯曲(95枚)>火の雫(深瀬サキ)
<小特集・現代作家論Ⅰ大江健三郎論>
数の祝祭に向けて--大江健三郎論・序説(蓮實重彦)
夢想家の文学(菊田均)
迷宮からの生還--神話の森の中で・9(高橋英夫)
<読書鼎談>宮本輝『螢川』/ 高城修三『榎[かや]の木祭り』
(柄谷行人・日野啓三・森 敦)
<風のたより>*ギュンター・アイヒは6年前死去したが、彼には『アラーは百の名を持つ』や詩集『おりにふれて石の庭で』がある。この詩集は来日したとき京都で書かれた詩を中心にしたものである。
*1936年生まれで東独出身作家ビーネックは、『工房からの対話』で一部の読者に知られているに過ぎないが、『独房』以来、昨年『九月の光』

が発売された。
昭和 53(1978)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

- 3130) 「文藝」 6 月号 1978
〈連載 2〉停れる時の合間に(佐々木基一)
〈創作〉玉の緒(芝木好子)/ 吉野通(阪田寛夫)/ 近事片々(宮原昭夫)
(140 枚) 伸予[のぶよ](高橋揆一郎)/ (125 枚) 明日になれば(阿嘉誠一郎)
パロディーと夢(平岡篤頼)
〈平野謙追悼特集〉
戦争中のこと(埴谷雄高)/ くも膜下出血まで(本多秋五)
平野謙と「暗い絵」(野間宏)/ 深い深い思い出(小島信夫)
愕いた声(瀬戸内晴美)/ 断章(吉本隆明)/ 面(井上光晴)
平野さんに岐阜で逢った話(篠田一士)
〈座談会〉平野謙の遺産(秋山駿・磯田光一・川村二郎)
〈読書鼎談〉高橋三千綱『怒れど 犬』/ 小佐井伸二『白い伽藍のある遠景』
(柄谷行人・日野啓三・森 敦)
昭和 53(1978)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

- 3131) 「文藝」 7 月号 1978
〈連載 3〉停れる時の合間に(佐々木基一)
〈創作〉梢(結城信一)/ 共生(日野啓三)/ 靴(野呂邦暢)/ 幕間(中川裕朗)
(160 枚) 淵の声(中村昌義)
〈小説世界のなかでIV〉「土」の文章のこと--長塚節「土」(小田実)
再生と継承--神話の森の中で・最終回(高橋英夫)
鷗外、屈辱に死す(大谷晃一)
新しい神秘家--中村眞一郎『夏』を読む(清水徹)
等号の無限連鎖--大江健三郎論(1)(蓮實重彦)
〈特集 70 年代世界の文学(1)〉
〈ドイツ〉陸地が見えた他一篇(H・アハテルンブッシュ)
内攻からの視界(飯吉光夫)
〈読書鼎談〉阿部昭『過ぎし楽しき年』/ 庄野潤三『楽しき都』
(小川国夫・菅野昭正・八木義徳)
昭和 53(1978)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

- 3132) 「文藝」 8 月特大号 1978
(150 枚) 麦熟るる日に(中野孝次)
〈創作〉沙羅の花(小沼丹)/ ホーホケキョ(田中小実昌)/
こふさんの死(三枝和子)/ 迎え火(竹西寛子)/ 柳の下(大庭みな子)
〈連載 4〉停れる時の合間に(佐々木基一)
図式と意味(平岡篤頼)
〈読書鼎談〉中上健次『化粧』/ 日野啓三『漂泊 北の火』
(八木義徳・菅野昭正・小川国夫)
昭和 53(1978)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

- 3133) 「文藝」 9 月特大号 1978
露のひろば(結城信一)
〈芥川賞受賞第一作・145 枚〉二月の行方(高橋三千綱)
〈芥川賞受賞第一作・95 枚〉五番棟の梅(高橋揆一郎)
〈連載 5〉停れる時の合間に(佐々木基一)
「無条件降伏」の意味(本多秋五)
〈小説世界のなかでV〉「小説家」のくらしというもの
--徳田秋聲「仮想人物」(小田実)
否定のばね(平岡篤頼)

荒唐無稽な綱渡り--大江健三郎論(2)(蓮實重彦)
〈読書鼎談〉津島佑子『寵児』/開高健『ロマネ・コンティ・1935年』
(八木義徳・小川国夫・菅野昭正)
昭和53(1978)年9月1日発行(河出書房新社)

3134) 「文藝」10月特大号1978

(150枚)グロテスク(中村光夫)/ (150枚)塔の夜景(尾高修也)/ 転居(三木卓)
〈連載6〉停れる時の合間に(佐々木基一)
〈小説世界のなかでVI〉「人びと[デモス]」を描くということ
--徳永直「太陽のない街」(小田実)
不可能の魔(平岡篤頼)
〈現代詩特集〉清岡卓行・田村隆一・吉本隆明・吉岡実・北村太郎・澁澤孝輔・
岩成達也・粒来哲蔵・清水哲男・吉増剛造・正津勉・稲川方人
〈座談会〉詩とは。詩人とは何か(秋山駿・飯島耕一・吉増剛造)
〈対談〉詩と青年(西脇順三郎・田村隆一)
〈読書鼎談〉田久保英夫『触媒』(桶谷秀昭・小田実・高井有一)
昭和53(1978)年10月1日発行(河出書房新社)

3135) 「文藝」11月号1978

ガンビアの春(第1回)(庄野潤三)/ 落書き(田中小実昌)
〈新人(190枚)〉母と子の契約(青野聰)
〈文芸賞受賞第一作(180枚)〉友よ(星野光徳)
(120枚)佐佐木茂索(小島政二郎)
〈連載7〉停れる時の合間に(佐々木基一)
〈戯曲(160枚)〉地底の鳥(山崎正和)
〈読書鼎談〉高橋揆一郎『伸予』/高橋三千綱『九月の空』
(小田実・高井有一・桶谷秀昭)
〈風のたより〉*今回設けられたインゲボルク・バッハマン賞は『若いW・の
新しい悩み』の邦訳もあるウルリヒ・プレントツドルフ。この賞には批評家
賞と奨励賞も付いているが、女流作家のG・ロイテンエッガーとカーチャ・
ベーレンスがそれぞれ受賞した。G・ビューヒナー賞は今年65歳のヘルマン
・レントツが『新しい時』『ガレージの中の蝸』等で受賞した。
*ドイツの詩人パウル・ツェランの若書きの詩数篇がオーストリアの文芸誌
『文学と批判』に紹介されている。
昭和53(1978)年11月1日発行(河出書房新社)

3136) 「文藝」12月号1978

昭和53年度文芸賞当選作(191枚)鳥たちの闇のみち(黒田宏治郎)
昭和53年度文芸賞佳作(262枚)回帰点(小林景子)
〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)
ガンビアの春(第2回)(庄野潤三)
純粹関係の夢--吉行淳之介『夕暮まで』を読む(菅野昭正)
〈小説世界のなかでVII〉乗合船の話
--前田河広一郎「三等船客」(小田実)
何故書くか(平岡篤頼)
複数の物語=単数の物語--大江健三郎論(3)(蓮實重彦)
〈対談〉ボードレールの巴里(河盛好蔵・阿部良雄)
〈読書鼎談〉中野孝次『麦熟るる日に』/金鶴泳『鑿[のみ]』
(高井有一・桶谷秀昭・小田実)
〈アンケート〉1978年の成果/昭和53(1978)年12月1日発行(河出書房新社)

3137) 「文藝」新年特大号1977

〈新年創作特集〉中村光夫・吉田健一・瀬戸内晴美・小沼丹・水上勉・

河野多恵子・小川国夫・山田稔

<長篇短期連載 4>(100 枚) 枯木灘(中上健次)

<読書鼎談>大江健三郎『ピンチランナー調書』/ 中藺英助『エサウの裔』
(加賀乙彦・佐々木基一・宮原昭夫)

「私のドストエフスキー」(河上徹太郎)

雑談 ボードレール(河盛好蔵)/ ブリュールそれぞれ(野間宏)

<特集 I・いま文学に何を求めるか>「読者応募課題論文発表」

<特集 II・座談会>いま文学に何を求めるか(饗庭孝男・秋山駿・川村二郎)

<風のたより>* ヴァルター・ヘレラーの『象の時計』が西独のズールキャンプ双書
に収められた。作者が 15 年の歳月をかけて完成した。

* ヒルデスハイマーの『モーツァルトは誰だったのか』が最近邦訳されて
いるが、今年の初め「メルクール」誌上に「フィクションのおわり」と
いう講演原稿を発表している。

* 恒例のフランクフルト書籍見本市が 9 月 15 日から六日間開催された。

昭和 52(1977)年 1 月 1 日発行(河出書房新社)

3138) 「文藝」 2 月号 1977

<文芸賞佳作(284 枚)>輝かしき愚者の砦(野村光由)

みちのく再訪(佐々木基一)/ 構造(中川裕朗)

<長篇短期連載 5>(70 枚) 枯木灘(中上健次)

<読書鼎談>小檜山博『出刃』/ 畑山博『海に降る雪』

(加賀乙彦・佐々木基一・宮原昭夫)

永遠と持続--神話の森の中で・3(高橋英夫)

<イギリス・ロマン派詩人 VIII>夭折の世紀児--キーツ(磯田光一)

<ゴゴリ特集>旅の出会い(ゴゴリ、ホフマン、カフカ)

(アンナ・ゼーガース著 森田弘訳)

昭和 52(1977)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)

3139) 「文藝」 3 月号 1977

(200 枚)カセレスまで(小佐井伸二)

星屑(田久保英夫)/ 玉山倒壊(富士正晴)/ 風待ち島(後藤みな子)

<長篇短期連載最終回>(100 枚) 枯木灘(中上健次)

内的独白--堀辰雄「幼年時代」初稿(完結)(福永武彦)

後ろ姿と沈黙(平岡篤頼)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<読書鼎談>竹内泰宏『人間の土地』(上・下)/

井上光晴『丸山蘭水楼の遊女たち』(加賀乙彦・佐々木基一・宮原昭夫)

<風のたより>* 1942 年生まれのオーストリアの作家ペーター・ハントケが、
小説『ぎっちょの妻』を発表した。

* スイユ社は十年前から仏訳されたリルケ作品集を刊行し始めていたが、
三冊目にあたる『書簡』が昨年の秋、リルケ没後 50 年に完結した。

* ホルスト・ピーネクがカネッティの著書に読みふけたらしい。ピー
ネクは 1951 年東独で 4 年間の重労働刑を受け、その後西独に亡命した。

昭和 52(1977)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3140) 「文藝」 4 月号 1977

(130 枚)結婚相談所へ(本多元弥)/

指の舌(水上勉)/ 息子(三浦朱門)/ 人待つ女(龍田慶子)

<戯曲・180 枚>からゆきさん(宮本研)/

江藤淳のこと(埴谷雄高)/ 漱石と鏡(平岡篤頼)

まれびとの時間--神話の森の中で・4(高橋英夫)

<読書鼎談>水上勉『寺泊』/ 金石範『遺された記憶』

(阿部昭・上田三四二・和田芳恵)

昭和 52(1977)年 4 月 1 日発行(河出書房新社)

3141) 「文藝」 5 月号 1977

(240 枚) 僕って何(三田誠広)

(70 枚) かまきりの指(井出孫六)/ (136 枚) まひるの星(小沢冬雄)

内的独白--堀辰雄「幼年時代」補足(福永武彦)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<新連載>評伝梶井基次郎(1)(大谷晃一)

竹内好の死(吉本隆明)/ 竹内好先生(丸山静)

人生のかたち--阿部昭論(菊田均)

<読書鼎談>黒井千次『五月巡歴』/ 高橋三千綱『彼の初恋』

(阿部昭・上田三四二・和田芳恵)

<風のたより>*ボブロウスキーは 1965 年逝去したが、『レヴィンの水車』と近々邦訳予定の『リトアニアのピアノ』がある。彼はベルリンのケーペニック病院で死去したが、この固有名詞からツックマイヤーの戯曲『ケーペニックの大尉』が思い浮かぶ。

*最近東独政府のヴォルフ・ビヤマンに対する市民権剥奪が話題だが、その彼が現在なお東独に軟禁状態の化学者ロベルト・ハーヴェマンへ宛てた未発表の書簡一通が、週刊新聞「ツァイト」に全文掲載されている。

*クリスタ・ヴォルフの小説『こどものころのお手本』が、つい最近西独ダルムシュタットのルフターハント社から出版された。

昭和 52(1977)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3142) 「文藝」 6 月号 1977

<新連載>水の都(庄野潤三)

草の敷寝(中里恒子)/ 白いボックスと青い箱(深沢七郎)

(200 枚) 村(三枝和子)/(105 枚) 五月の傾斜(高橋三千綱)

(102 枚) 朝の壁(野村光由)

『悪霊』論(桶谷秀昭)/ 持続と閃光(平岡篤頼)

<読書鼎談>宇野千代『水西書院の娘』/ 中村昌義『静かな日』

(阿部昭・上田三四二・和田芳恵)

昭和 52(1977)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3143) 「文藝」 7 月号 1977

(135 枚) 出立の冬(中村昌義)

烏篷舟(清岡卓行)/ 冬の海(加賀乙彦)/ 聖者の行進(富士正晴)

(80 枚) 破れ凧(矢島輝夫)

続『悪霊』論(桶谷秀昭)

<イギリス・ロマン派詩人・最終回>病める騎士の受難--キーツ(磯田光一)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<読書鼎談>大庭みな子『浦島草』/ 和田芳恵『暗い流れ』

(饗庭孝男・高井有一・野間宏)

<風のたより>*ギュンター・グラスの長篇『ひらめ』からの一章が、文芸誌「メルクール」に掲載されている。

*ペーター・ハントケが自作『左ぎっちょの女』の映像化へかかりきりだと「シュピーゲル」が伝えている。

昭和 52(1977)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3144) 「文藝」 8 月号 1977

(140 枚) スペース・セールスマン(本多元弥)

ながるる水の(水上勉)/ 同じ屋根の下で(和田芳恵)

(90 枚) くるまざき(木島始)

<座談会>ゴヤ/鬪牛/ドゥエンデ--堀田善衛『ゴヤ』を読んで
(佐伯泰英/S・P・ネーバ/永川玲二)

目醒める幼児神--神話の森の中で・5(高橋英夫)

《私》の中の《自分》(平岡篤頼)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<読書鼎談>中上健次『枯木灘』/富岡多恵子『当世凡人伝』
(饗庭孝男・高井有一・野間宏)

昭和 52(1977)年 8 月 1 日 発行(河出書房新社)

3145) 「文藝」 9 月号 1977

(130 枚)鳥屋[とや]の日々(中野孝次)

エッグ・カップ(小沼丹)/夢(佐々木基一)

(84 枚)十月(小佐井伸二)/ (102 枚)ニシパの歌(上西晴治)

二つの検査(埴谷雄高)/見えてくるものの構図(平岡篤頼)

amor figurae--澁澤龍彦『思考の紋章学』をめぐって(川村二郎)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<読書鼎談>野呂邦暢『諫早菖蒲日記』/佐々木基一『まだ見ぬ街』

(饗庭孝男・高井有一・野間宏)

<風のたより>*西ドイツでは、一ヶ月間に出された文芸書の中から 10 冊の
ベストの書をリスト・アップする制度がある。4 月のベスト・テンには
カネッティの『救われた舌』、クリスタ・ヴォルフの『子ども時代のお手本』、
アハテルンブッシュの『視覚内の領土』等が選ばれている。唯一詩集として
選ばれたのは、ギュンター・ヘルブルガーの『さまざまな目標』である。

*西ベルリンから昨年来出されている雑誌「広告塔」が第五号を迎え、グラス
の友人である W・ヘレラーや Ch・メッケル等が作品を発表している。

昭和 52(1977)年 9 月 1 日 発行(河出書房新社)

3146) 「文藝」 10 月号 1977

(140 枚)漂泊(日野啓三)

家免(黒井千次)/花火(瀬戸内晴美)/わが町(中川裕朗)

<戯曲(95 枚)>妖かし(矢代静一)

サイパンの旅(本多秋五)/ブレヒトの死(長谷川四郎)

祝祭空間の成立--神話の森の中で・6(高橋英夫)

語りの葛藤(平岡篤頼)

<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<吉田健一追悼特集>(河盛好蔵・山本健吉・朱牟田夏雄・水上勉・
倉橋由美子・磯田光一・菅野昭正)

<読書鼎談>高橋たか子『ロンリー・ウーマン』/三田誠広『僕って何』
(森 敦・佐伯彰一・河野多恵子)

昭和 52 年度文藝賞第一次予選通過作品発表

昭和 52(1977)年 10 月 1 日 発行(河出書房新社)

3147) 「文藝」 11 月号 1977

(105 枚)妄想(中村光夫)/桃色の服(富岡多恵子)

(300 枚)赤ん坊の生まれない日(三田誠広)

炙り出された中核(平岡篤頼)

<パリだより・最終回>路上の思考(海老坂武)

アイザック・B・シンガーとの一時間(粉川哲夫)

<現代詩特集>(清岡卓行・田村隆一・吉本隆明・吉岡実・黒田喜夫・

北村太郎・大岡信・入沢康夫・澁澤孝輔・吉原幸子・三木卓・

鈴木志郎康・清水哲男・吉増剛造・阿部岩夫・正津勉・平出隆)

<読書鼎談>津島佑子『草の臥所』/島村利正『秩父愁色』

(森 敦・佐伯彰一・河野多恵子)

<風のたより>*ヴォルフ・ビアマンがこのほど西ドイツの出版社から『遺稿 1』と題された作品集を出した。
*オーストリアの作家ペーター・ハントケが300頁以上の作品『世界の重み』を出したが、中味はほとんど書き殴りじみた断片を集めたもの。
*第一次戦後派という形で西独文壇に通用してきた「47年グループ」が発足30年を迎え「ツァイト」にその総決算の様なレポートが連載されている。
昭和52(1977)年11月1日発行(河出書房新社)

3148) 「文藝」12月特大号1977

(114枚)母の霊(耕 治人)
昭和52年度文芸賞当選作(309枚)おれたちの熱い季節(星野光徳)
昭和52年度文芸賞当選作(310枚)狂いだすのは三月(松崎陽平)
<選後評>(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)
<アンケート>1977年の成果
<座談会>無意味の拡大--1977年の文学(秋山駿・奥野健男・川村二郎)
<和田芳恵追悼特集>(八木義徳・野口富士男・田久保英夫・阿部昭・前田愛・上田三四二・中上健次)
<読書鼎談>小田実『列人列景』/島尾敏雄『死の棘』
(森 敦・佐伯彰一・河野多恵子)
昭和52(1977)年12月1日発行(河出書房新社)

3149) 「文藝」新年特大号1976

<新年創作特集>
(130枚)イシュー前記(小川国夫)
木枯し(吉田健一)/櫛馬[くぬぎうま](古井由吉)/うしろ髪(中里恒子)
ダンス(遠藤周作)/みかん水と棒剣(水上勉)/二人の兄(耕治人)
治癒の夕方(三木卓)
<新連載>内的獨白--年譜のことその他(福永武彦)
<読書鼎談>河野多恵子『血と貝殻』/耕治人『うずまき』
(河盛好蔵・黒井千次・瀬戸内晴美)
<対談>文学と社会倫理(坂上弘・藤枝静男)
姉の力--思考の紋章学・4(澁澤龍彦)
<評論80枚>『カラマゾフの兄弟』論(桶谷秀昭)
<座談会>現代詩と批評(入沢康夫・中村稔・野間宏)
昭和51(1976)年1月1日発行(河出書房新社)

3150) 「文藝」2月号1976

<中編小説特集>
(112枚)氷原(津島佑子)/ (84枚)霧笛(八木義徳)/ (146枚)路傍(岡田睦)
<連載・5> 暗い流れ(和田芳恵)
『レイテ戦記』(寺田透)
内的獨白--堀辰雄の父その他(福永武彦)
付喪神--思考の紋章学・5(澁澤龍彦)
<読書鼎談>檀一雄『火宅の人』/小沼丹『藁屋根』
(河盛好蔵・黒井千次・瀬戸内晴美)
<対談>暴力・ディオニソス・語り(小川国夫・中上健次)
<風のたより>*ハンス・マイヤーが長篇評論『アウトサイダー』を発表した。
「ユーディトとダリラ」は女性解放の問題を、「ソドム」は同性愛問題を、「シャイロック」はユダヤ人問題を扱う三部作である。
*スイスの作家マックス・フリッシュの小説『モントーク』が出版され、昨年暮れごろのベスト・セラーの一つに入っている。
*西独の代表的な文学賞、ビューヒナー賞がマーネス・シュペルバーに与えられた。彼はパリ在住のユダヤ系作家である。

*西独の首相ヴィリー・ブランドが失脚した時の詩を、ブランドの最も
良き理解者 G・グラスが発表している
昭和 51(1976)年 2 月 1 日発行(河出書房新社)

3151) 「文藝」 3 月号 1976

(92 枚)不意の訪れ(中村眞一郎)
(短篇)埴輪の馬(小沼丹)/ (102 枚)冬空(岩橋邦枝)
<連載・6> 暗い流れ(和田芳恵)
内的獨白--堀辰雄の父(つづき)(福永武彦)
時間のパラドックスについて--思考の紋章学・6(澁澤龍彦)
<読書鼎談>大岡昇平『少年』/ 津島佑子『葎[むぐら]の母』
(河盛好蔵・黒井千次・瀬戸内晴美)
『四畳半襖の下張』裁判最終弁論(全文)(丸谷才一)
<船橋聖一追悼>船橋聖一氏を憶う(吉田精一)
<檀一雄追悼>天馬 空[くう]をゆく(真鍋呉夫)
<イギリス・ロマン派詩人VI>廢墟への誘惑--バイロン(磯田光一)
<対談>元気の出る小説(武田泰淳・古井由吉)
昭和 51(1976)年 3 月 1 日発行(河出書房新社)

3152) 「文藝」 4 月号 1976

<新連載>發足の日--「影絵の時代」1(埴谷雄高)
龍が見える時--群読のために(木下順二)
閑寂ならず(宮原昭夫)
(150 枚)千羽に一羽(川村晃)/ (80 枚)みんな天使(山本孝夫)
<連載・7> 暗い流れ(和田芳恵)
内的獨白--堀、神西、「驢馬」(福永武彦)
オドラデク--思考の紋章学・7(澁澤龍彦)
<読書鼎談>中村光夫『ある愛』/ 長谷川四郎『長い長い板塀』
(川村二郎・坂上弘・佐多稲子)
続『カラマヅフの兄弟』論--ゾシマ、イワン、スメルジャコフ(桶谷秀昭)
中国の人生、日本の人生--魯迅と漱石(続)(檜山久雄)
音韻と映像の探求--現代詩季評(天沢退二郎・野間宏・吉増剛造)
<風のたより>* 1901 年生まれのノサックの最新作『幸福な人間』が、昨年
後半に出版された。
*フロイトは晩年の 15 年間、顎の癌に苦しんだが、昨年暮れ、主治医を
勤めたマックス・シュールの『フロイトの生涯における死』の仏訳が
ガリマール社の叢書《無意識の知識》の一冊として刊行された。
* 1970 年前後の作品『レンツ』の作者であるペーター・シュナイダーの
新作が、ベルリンの「赤い本」出版社から出版された。
昭和 51(1976)年 4 月 1 日発行(河出書房新社)

3153) 「文藝」 5 月号 1976

(90 枚)ロートレックの出征(井出孫六)
滝とビンズル(藤枝静男)/ 下駄と仁丹(水上勉)/ 獄楽島(佐木隆三)
<連載・8> 暗い流れ(和田芳恵)
政治と文学と(1)--「影絵の時代」2(埴谷雄高)
内的獨白--「驢馬」と「むらさき」(福永武彦)
<読書鼎談>中上健次『岬』/ 中野孝次『ブリューゲルへの旅』
(川村二郎・坂上弘・佐多稲子)
「郷土望景詩」の地誌(上)--萩原朔太郎生誕 90 年の年に(伊藤信吉)
ヴィタ・セクスアリス--思考の紋章学・8(澁澤龍彦)
宿望・ソルジェニツィンと会うこと--パリのロシヤ、76(内村剛介)
<パリだより>路上の思考(海老坂武)

<戯曲・130 枚> 漂流の果て(矢代静一)
昭和 51(1976)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3154) 「文藝」 6 月号 1976

<文藝賞受賞第一作(120 枚)>時の流れに(阿嘉誠一郎)
旅びと(中里恒子)/ 秋の旅(佐々木基一)/(100 枚)鳩笛(中藺英助)
<連載・9> 暗い流れ(和田芳恵)
政治と文学と(2)--「影絵の時代」3(埴谷雄高)
内的獨白--堀辰雄「幼年時代」初稿(福永武彦)
続々『カラマヅフの兄弟』論(桶谷秀昭)
<読書鼎談>岡松和夫『志賀島』/ 後藤明生『夢かたり』
(川村二郎・坂上弘・佐多稲子)
「郷土望景詩」の地誌(下)--萩原朔太郎生誕 90 年の年に(伊藤信吉)
<武者小路実篤追悼>トルストイと新しき村(瀬沼茂樹)/ 愛情の生涯(耕治人)
人造人間論--思考の紋章学・9(澁澤龍彦)
<風のたより>* 《著者と出版社のシンジケート株式会社》という珍しい名の
出版社が秋から西ドイツで発足する。
*ペーター・シオンディ著『世紀末の叙情劇』が講義集の第四巻として
比較的最近出版された。彼は西ベルリンの大学教授だったが、数年前パウル
・ツェーラン論を書き残した後、詩人の後を追う様に湖へ入水自殺した。
昭和 51(1976)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3155) 「文藝」 7 月号 1976

(110 枚)サラリーマンのランチタイム(長谷川四郎)
木の手(瀬戸内晴美)/ 鑛太郎(水上勉)/ 隠者の妻(宮原昭夫)
<連載・10> 暗い流れ(和田芳恵)
戦後の畸人達--「影絵の時代」4(埴谷雄高)
黄金虫--思考の紋章学・10(澁澤龍彦)
内的獨白--堀辰雄「幼年時代」初稿(承前)(福永武彦)
<読書鼎談>日野啓三『風の地平』/ 佐多稲子『時に佇つ』
(開高健・中里恒子・古山高麗雄)
『死霊』の難解さ(宮内豊)
<イギリス・ロマン派詩人VII>ハロルドのゆくえ--バイロン(磯田光一)
問ふことと書くこと--武田泰淳論(松本徹)
ソルジェニツィンとのスキンシップ--パリのロシヤ、76(内村剛介)
<パリだより>路上の思考(海老坂武)
<座談会>音韻と想像力--現代詩季評(岡田隆彦・那珂太郎・野間宏)
<風のたより>* エリアス・カネッティの《群衆と権力》の<生き延びる者>と
題される章が、独立した一冊の本としてズールカンプ社から出版された。
*西独のフィッシャー書店から《現代ドイツ著者事典・1945-75》という
簡便な一書が、最近 200 頁ほどの文庫本として出版された。
昭和 51(1976)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3156) 「文藝」 8 月号 1976

<新鋭中編小説特集>(135 枚)静かな日(中村昌義)
(134 枚)雨のサマルカンド(山田稔)/(88 枚)地の賑わい(尾高修也)
一人旅(吉田健一)/ 光る丘(高橋三千綱)
<連載・11> 暗い流れ(和田芳恵)
「夜の会」のこと--「影絵の時代」5(埴谷雄高)
内的獨白--堀辰雄「幼年時代」初稿(承前)(福永武彦)
二つの-ment の谷間で--「内向の世代」解嘲(川村二郎)
詩作と思考--ハイデガーの足跡(生松敬三)
系図のロゴス--神話の森の中で1(高橋英夫)

円環の渴き--思考の紋章学・11(澁澤龍彦)
〈読書鼎談〉中上健次『蛇淫』/古井由吉『聖』
(開高健・中里恒子・古山高麗雄)
〈風のたより〉* C・F・マイヤーの伝記がロコロ評伝叢書の一冊に収められた。
*ある人間が失踪する物語、ゲルハルト・ロートの『新しい朝』が西独で
話題になっている。
*最近西独で売り出し中のモデル小説作家、ディター・キューン(41歳)が
『ジョセフィン・ベーカー』を書き下ろした。このほか史実からの放送劇
『ゴールドベルク変奏曲』を発表している。
*西独一のズールカンプ社から、詩人マルコフスキー(1939年生れ)と
キーヴス(1942年生れ)の詩集が出版された。
昭和51(1976)年8月1日発行(河出書房新社)

3157) 「文藝」9月号1976

〈創作特集〉近江石山晴嵐町(水上勉)/まだ見ぬ街(佐々木基一)
カエサルの子(三浦朱門)/窓下の少女(宮原昭夫)
冬陽(岡田睦)/彼らの諍い(加藤宗哉)
〈戯曲・120枚〉則天武后(深瀬サキ)
〈連載・12〉暗い流れ(和田芳恵)
「近代文学」の存続(1)--「影絵の時代」6(埴谷雄高)
愛の植物学--思考の紋章学・12(最終回)(澁澤龍彦)
主知主義作家の方法--阿部知二ノート(三枝康高)
淫祠邪教よさようなら--「限りなく透明に近いブルー」を読む(宮内豊)
ソルジェニツィン、強者の「宗教」--パリのロシヤ、76(内村剛介)
〈読書鼎談〉武田泰淳『目まいのする散歩』/坂上弘『優しい人々』
(開高健・中里恒子・古山高麗雄)
昭和51(1976)年9月1日発行(河出書房新社)

3158) 「文藝」10月号1976

〈長篇短期連載・100枚〉枯木灘(中上健次)
野生(高橋三千綱)/カフカの友人(I・B・シンガー/粉川哲夫訳)
〈新連載・沓掛筆記〉セイフーリナの「ターニヤ」(中野重治)
〈連載・13〉暗い流れ(和田芳恵)
「近代文学」の存続(2)--「影絵の時代」7(埴谷雄高)
ヨーロッパの馬(大岡信)
〈パリだより〉路上の思考(海老坂武)
〈読書鼎談〉瀬戸内晴美『冬の樹』/村上龍『限りなく透明に近いブルー』
(小川国夫・三木卓・森 敦)
〈現代詩特集〉(田村隆一・吉岡実・北村太郎・吉本隆明・石原慎太郎・吉原幸子
・鈴木志郎康・吉増剛造・清水哲男・井上輝夫・阿部岩夫・清水昶
・飯島耕一・澁澤孝輔)
〈座談会〉形式と構成--現代詩季評(入沢康夫・北村太郎・野間宏)
昭和51年度文藝賞第一次予選通過作品発表
〈風のたより〉*西ベルリンの自由大学経済史・社会史教授エンゲルジグが、
古典作家はどれほど儲けていたかという題で書いている。
*ドイツ文学者の頓死とでもいふべきものとして、ホルヴァートの公園
散歩中の大枝落下による死、女流詩人バッハマンの寝煙草による焼死、
ロンドンの車道を横断中の交通事故によるR・D・ブリンクマンの死
などがある。
*西ドイツの文芸誌には季刊誌「ノイエ・レントシャオ」、隔月誌「アクツェ
ンテ」、月刊誌「メルクール」があるが、最近意欲的な季刊誌「リトファス」
が出版された。
昭和51(1976)年10月1日発行(河出書房新社)

- 3159) 「文藝」11月号1976
 <長篇短期連載2・100枚>枯木灘(中上健次)
 夜の烏(野口富士男)/ 優雅な誘い(金石範)
 結晶体(高橋たか子)/ 冬の光(金鶴泳)
 <連載・沓掛筆記2> セイフーリナの「ターニヤ」(中野重治)
 <連載・14> 暗い流れ(和田芳恵)
 「近代文学」の存続(3)--「影絵の時代」8(埴谷雄高)
 記憶と忘却--神話の森の中で2(高橋英夫)
 アメリ・バラッカのこと、その他--七年ぶりのアメリカ合衆国(小田実)
 ソルジェニツィンの「幻想」--パリのロシヤ、76(完)(内村剛介)
 <読書鼎談>阿部昭『人生の一日』/ 田久保英夫『髪の環』
 (小川国夫・三木卓・森 敦)
 昭和51(1976)年11月1日発行(河出書房新社)
- 3160) 「文藝」12月特大号1976
 昭和51年度文芸賞当選作(400枚)北帰行(外岡秀俊)
 <選後評>(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)
 <長篇短期連載3・100枚>枯木灘(中上健次)
 <連載・沓掛筆記3> 李太郎の手紙一通(中野重治)
 <連載・15> 暗い流れ(和田芳恵)
 <読書鼎談>八木義徳『風祭』/ 高井有一『夢の碑』
 (小川国夫・三木卓・森 敦)
 <1976年の文学>実在感の地すべり(上田三四二)
 <アンケート>1977年の成果
 <パリだより>路上の思考(海老坂武)
 <森有正追悼>森有正と私(高田博厚)
 <武田泰淳追悼特集>(寺田透・埴谷雄高・中村眞一郎・杉森久英・いいだ-もも
 ・大島渚・小川国夫)
 <対談>武田泰淳、その存在(武田百合子・深沢七郎)
 <文藝 総目次>昭和51年1月号～12月号
 昭和51(1976)年12月1日発行(河出書房新社)
- 3161) 「文藝」新年特大号1975
 <新年創作特集>
 妖木犬山椒(深沢七郎)/ 浮繪(中里恒子)/ 抱寝(和田芳恵)
 一枚の油絵(藤枝静男)/ 断崖病(佐々木基一)/ 五徳(庄野潤三)
 ヨボの李君(古山高麗雄)/ 山毛櫨(山口瞳)/ 月かげ(田久保英夫)
 お告げ(高橋たか子)
 <新連載・1>時に佇つ(佐多稲子)
 <連作・「旅の時間」>ロンドン(吉田健一)
 <読書鼎談>井上靖『桃季記』/ 河野多恵子『扱ばれて在る日々』
 (阿部昭・佐伯彰一・和田芳恵)
 <対談>地理・歴史・文学(井伏鱒二・河上徹太郎)
 <評論・102枚>『未成年』--理想の二元性について(桶谷秀昭)
 <対談>小説のやさしさ、むずかしさ
 --漱石、秋聲をめぐって(江藤淳・古井由吉)
 昭和50(1975)年1月1日発行(河出書房新社)
- 3162) 「文藝」2月号1975
 <中編小説特集>
 (110枚)エサウの裔(中藺英助)/ (90枚)父と子(黒井千次)
 (90枚)暮色の深まり(岩橋邦枝)

<連載・2>時に佇つ(佐多稲子)
<評論・74枚>獨白と不死(高橋英夫)
戦中戦後日記(抄)3--昭和20年8月24日～12月1日(岡本潤)
<読書鼎談>三浦哲郎『野』/宮原昭夫『どっこいしょ・えいじゃ!』
上田三四二『眩暈を鎮めるもの』(阿部昭・佐伯彰一・和田芳恵)
<風のたより>*アルフレート・アンデルシュが大作『ヴィンターシュペルト』
を発表した。題名はベルギー国境近くのドイツの村名で、ここが小説の
主な舞台である。
*ギュンター・グラスの絵画作品が、週刊誌「ツァイト」の紹介などで
美術界の国際的マーケット上にも登った感じである。
*ポエトリー・インターナショナル・ロッテルダムという総題の特集が、
西独文芸誌「アクツェンテ」で組まれている。この<詩祭>は1970年
以来毎年欠かさず行われている。
昭和50(1975)年2月1日発行(河出書房新社)

3163) 「文藝」3月号1975

(132枚)風の地平(日野啓三)/沈丁花(小沼丹)
<戯曲170枚>淫乱斎英泉(矢代静一)
<連載・3>時に佇つ(佐多稲子)
<連作・「旅の時間」8>神戸(吉田健一)
<読書鼎談>古井由吉『櫛の火』/吉行淳之介『鞆の中身』
中里恒子『わが庵』(阿部昭・佐伯彰一・和田芳恵)
『死者の書』--文学の根への問い10(完)(川村二郎)
<イギリス・ロマン派詩人IV>晩年への道程--ブレイクとワーズワス(磯田光一)
戦中戦後日記(抄)4--昭和20年12月2日～21年4月22日(岡本潤)
戦中戦後日記の最終回に(寺島珠雄)
<シリーズ対談「戦後30年の足跡」>遊びの精神(石川淳・佐々木基一)
昭和50(1975)年3月1日発行(河出書房新社)

3164) 「文藝」4月号1975

(98枚)闇の力(小川国夫)/(83枚)対馬まで(金達寿)
(70枚)走る日(中村昌義)
<戯曲182枚>七人みさき(秋元松代)
<連載・4>時に佇つ(佐多稲子)
<読書鼎談>尾崎一雄『あの日この日(上・下)』/李恢成『追放と自由』
(高井有一・藤枝静男・吉田健一)
魯迅と漱石 序説(檜山久雄)
愛執の色--妄執の作家たち9・岡本かの子(内村剛介)
<対談>取材について(足立巻一・司馬遼太郎)
<風のたより>*マニエリスムスという術語の本来の普及者、グスタフ・ルネ
・ホッケが『迷宮としての世界』『文学におけるマニエリスムス』に続く
第三の書『絶望と確信--我々の世紀末の芸術と文学のために』を公刊した。
*オーストリアの代表的若手作家ペーター・ハントケは1973年以来パリに
住んでいるが、最近ズールカンプ社から、小作品集『まだ願い事が叶えら
れた頃』を出版した。
*ユーレク・ベッカーの処女作は『嘘つきヤーコプ』と題された収容所
小説だが、1969年に東独で発表され西独やスイスで幾つも賞を取った。
この作品が東独内で映画化され、四月に上映の見通しだそうである。
昭和50(1975)年4月1日発行(河出書房新社)

3165) 「文藝」5月号1975

<創作特集>
<文芸賞受賞第一作・130枚>営巣記(小沢冬雄)

川は流れる(長谷川四郎)/ (90 枚) 双子葉(吉田知子)
千客万来(宮原昭夫)/ (115 枚) 人と鳥との間(佐江衆一)
〈連作・「旅の時間」9〉京都(吉田健一)
(80 枚) 兎の径(長谷川修)
〈連載・5〉時に佇つ(佐多稲子)
〈読書鼎談〉中村眞一郎『四季』/ 三木卓『震える舌』
庄野潤三『休みのあくる日』(高井有一・藤枝静男・吉田健一)
現実について--「日本文化私観」論(柄谷行人)
〈対談「戦後 30 年の足跡」2〉言葉の離陸(飯島耕一・野間宏)
昭和 50(1975)年 5 月 1 日発行(河出書房新社)

3166) 「文藝」 6 月特大号 1975
村正の兄弟(深沢七郎)/ 車井戸(中里恒子)/ うずまき(耕治人)
〈新鋭創作特集〉(190 枚) 冬の喪(小佐井伸二)/ (70 枚) 誰が先に(山本孝夫)
(80 枚) もうひとつの生活(八島輝夫)
〈連載・6〉時に佇つ(佐多稲子)
〈読書鼎談〉丸谷才一『横しぐれ』/ 後藤明生『思い川』
小沢冬雄『鬼のいる杜で』(高井有一・藤枝静男・吉田健一)
兵本善矩の小説(大岡昇平)
一つの運命--原民喜私論(川西政明)
幻想は宿命--妄執の作家たち 10・内田百閒(内村剛介)
〈対談「戦後 30 年の足跡」3〉拒絶反応について(古井由吉・吉行淳之介)
〈風のたより〉*「ベルリンにおけるカフカ」という映画が制作された。カフカ
没後 50 年(昨年)を記念して作られたこの映画は、ベルリンの書店主クラウド
・ヴァーゲンバッハの所有する写真資料なども十分利用している。
昭和 50(1975)年 6 月 1 日発行(河出書房新社)

3167) 「文藝」 7 月号 1975
八幡坂のあたり(尾崎一雄)/ 風祭(八木義徳)/ 借景(中藺英助)
ピアノの色は白(佐木隆三)/ 柘榴坂(野口武彦)
〈連載・7〉時に佇つ(佐多稲子)
〈新連載〉知れざる炎--評伝中原中也(秋山駿)
〈読書鼎談〉島尾敏雄『夢の影を求めて 東欧紀行』/ 阪田寛夫『土の器』
(杉浦明平・河野多恵子・田久保英夫)
志賀直哉・天皇・中野重治(藤枝静男)
自然について--続「日本文化私観」論(柄谷行人)
〈対談「戦後 30 年の足跡」4〉表現のたのしみ(小島信夫・日野啓三)
昭和 50(1975)年 7 月 1 日発行(河出書房新社)

3168) 「文藝」 8 月号 1975
(100 枚) デルスー時代(長谷川四郎)/ 交歓(佐々木基一)
(90 枚) 舞踏(石原慎太郎)/ はつむかし(富岡多恵子)
(80 枚) 日ざかり(岩橋邦枝)
〈連載・8〉時に佇つ(佐多稲子)
〈連載・2〉知れざる炎--評伝中原中也(秋山駿)
〈読書鼎談〉水上勉『一休』/ 吉行理恵『男嫌い』
(杉浦明平・河野多恵子・田久保英夫)
黄河の鯉--中国の旅から(庄野潤三)
希望と復活の日はいつくるのか--マクシーノフ試論(水野忠夫)
芸術と批評--三島由紀夫の死に寄せて(田中英道)
〈イギリス・ロマン派詩人 V〉老水夫のゆくえ--コールリッジ(磯田光一)
(115 枚) ブリュールゲルへの旅(中野孝次)
〈風のたより〉*成功作『朕は国家なり』の作者アハテルンブッシュが、新作

『死の時刻』を出した。

* 母親の自殺を扱った『これ以上望むところのない不幸』の作者ペーター・ハントケが新作『真の感情の時』を発表し、長期にわたるベスト・セラー書になっている。

* エリアス・カネッティが近着の西独文芸誌「ノイエ・ルントシャウ」上で、先輩批評家カール・クラウスを論じている。

* 「ドイツ現代文学の中の地方性」という題の下に最近の「アクツェンテ」誌上で論じられているのは、レンツの『国語の時間』、アルノー・シュミットの『無神論者の学派』、ヨーンゾーンの『記念日』の三冊である。

昭和 50(1975)年 8 月 1 日発行(河出書房新社)

3169) 「文藝」 9 月号 1975

(150 枚) 遺された記憶(金石範)/ 船上好日(宮原昭夫)

蛇淫(中上健次)/ 黒い風を見た.....(小沢冬雄)/ 野球ぐるい(花輪莞爾)

<連載・9>時に佇つ(佐多稲子)

<連載・3>知れざる炎--評伝中原中也(秋山駿)

<読書鼎談>北杜夫『木精』/ 黒井千次『眼の中の町』

野口富士男『わが荷風』(杉浦明平・河野多恵子・田久保英夫)

<金子光晴追悼特集>(小野十三郎・清岡卓行・大岡信・富岡多恵子)

<対談>意識・革命・宇宙(埴谷雄高・吉本隆明)

昭和 50(1975)年 9 月 1 日発行(河出書房新社)

3170) 「文藝」 10 月号 1975

<新連載>暗い流れ(和田芳恵)

<文藝賞作家特集>歯には歯を(黒羽英二)/ 塔屋根暮らし(尾高修也)

フルーツの話(小野木朝子)

<新連載・思考の紋章学>ランプの廻転(澁澤龍彦)

<連載・10>時に佇つ(佐多稲子)

<連載・4>知れざる炎--評伝中原中也(秋山駿)

<読書鼎談>立原正秋『冬のかたみに』/ 矢代静一『淫乱斉英泉』

竹西寛子『鶴』(遠藤周作・後藤明生・水上勉)

(115 枚) 続ブリュッゲルへの旅(中野孝次)

<座談会>詩的体験の史的意味(秋山清・伊藤信吉・小野十三郎・中野重治)

<風のたより>* トーマス・マン生誕百年祭ということで、リュウベック市によって<トーマス・マン賞>が設置され、その第一回目がマンの伝記研究家ペーター・ド・メンデルスゾーンに授与された。

* オーストリアの劇作家トーマス・ベルンハルトの新作『大統領』が発表され、ウィーンのブルク劇場で五月に初演された。

昭和 50(1975)年 10 月 1 日発行(河出書房新社)

3171) 「文藝」 11 月号 1975

<長篇 360 枚一挙掲載>優しい人々(坂上弘)

<連載・11>時に佇つ(佐多稲子)

<連載・2>暗い流れ(和田芳恵)

夢について--思考の紋章学・2(澁澤龍彦)

<現代詩特集>(野間宏・福永武彦・吉岡実・北村太郎・田村隆一・吉本隆明

・中村稔・松本洋一・鈴木志郎康・吉増剛造・清水昶/

清岡卓行・川村二郎・岡田隆彦)

<読書鼎談>林京子『祭りの場』/ 藤枝静男『異床同夢』

(遠藤周作・後藤明生・水上勉)

<風のたより>* ウーヴェ・ヨーンゾーンは、西ドイツで戦後最大の大長編小説『記念日』を書き継いできて、今年はその第四巻目となる。

昭和 50(1975)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3172) 「文藝」12月号1975

昭和50年度文芸賞当選作(364枚)世の中[ゆんなか]や(阿嘉誠一郎)

〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

眼の部屋と耳の部屋(宮原昭夫)

〈連載・12(最終回)〉時に佇つ(佐多稲子)

〈連載・3〉暗い流れ(和田芳恵)

〈読書鼎談〉森茉莉『甘い蜜の部屋』/和田芳恵『抱寝』

(遠藤周作・後藤明生・水上勉)

三木三鳥--思考の紋章学・3(澁澤龍彦)

〈1975年の文学〉「私」の行方(佐伯彰一)

現代小説の闇(桶谷秀昭)

〈アンケート1975年の成果〉

〈対談〉文学と政治(井上光晴・平野謙)

〈文藝 総目次〉昭和50年1月号～12月号

〈風のたより〉*トーマス・マンの生誕百年が祝われるなか、彼の次男で高名な歴史家ゴロー・マンが、その兄クラウス・マンへの追悼文ともいえる回想記を「ノイエ・ルントシャウ」上に記している。

*エンツェンスベルガーの『霊廟』がズールカンプ社から出版された。

*ノーベル賞作家ハインリヒ・ベルの昨年度のベスト・セラー書『カタリーナの失われた名誉』が、最近映画化された。

昭和50(1975)年12月1日発行(河出書房新社)

3173) 「文藝」12月号1974

昭和49年度文芸賞当選作(353枚)鬼のいる杜で(小沢冬雄)

〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

〈連載・最終回〉パリの憂愁--ボードレールとその時代(河盛好蔵)

〈1974年の文学〉「文弱」の衰頹(川村二郎)

懐疑と独断(秋山駿)

〈アンケート1974年の成果〉

〈一頁時評〉花田清輝の死(中村眞一郎)

〈花田清輝追悼特集〉花田清輝との同時代性(埴谷雄高)

「夜の会」前後(岡本太郎)/文化組織の頃(関根弘)

花田清輝さんを憶う(佐多稲子)

先祖しらべ(長谷川四郎)

〈対談〉戦後的思考の転換(佐伯彰一・佐々木基一)

〈文藝 総目次〉昭和49年1月号～12月号

〈風のたより〉*オーストリアの作家トーマス・ベルンハルトの戯曲『狩猟家の一団』は、ドイツ語圏各地で上演され話題を呼んだが、このほど初めての喜劇『習慣の力』を発表した。

*『若いヴェルテルの新しいなやみ』の作者ウルリヒ・プレントドルフの映画台本『パウルとパウラの伝説』がズールカンプ社の叢書に収められた。

*ルーマニア領内でドイツ語を解する層は3%にすぎないが、そのドイツ語文学圏の状況が「アクツェンテ」でかなり詳しく論じられている。

昭和49(1974)年12月1日発行(河出書房新社)

3174) 「文藝」10月号1974

〈新連載《初期歌謡論1》(94枚)〉歌の発生(吉本隆明)

(80枚)水の会(黒井千次)/ (60枚)静かなみじかい午後(岩橋邦枝)

(100枚)果しない稲妻(木島始)/ (70枚)やすらい(矢島輝夫)

〈連作・「旅の時間」6〉ニュー・ヨークの町(吉田健一)

〈連載・33〉パリの憂愁--ボードレールとその時代(河盛好蔵)

〈晴天乱流〉白葉先生を悼む(原卓也)

戦中戦後日記(抄)2--昭和20年5月1日～8月23日(岡本潤)

<対談>他者へのまなざしと自己(川村二郎・李恢成)

<風のたより>*オーストリアの若手作家G・F・ヨンケ(1946年生れ)の作品集が、西独ゾーアキャンプ社の叢書に収められた。

*ライヒ＝ラニッキの『平和攪乱者。ドイツ文学におけるユダヤ人』が出版された。

*エーリヒ・ケストナーの死に先だってカール・ヤーコプ・ブルクハルトがこの世を去った。行年82歳。国際赤十字社の会長も務めた典型的な文人外交官だった。

昭和49(1974)年10月1日発行(河出書房新社)

3175) 「文芸」6月特大号1973

<新鋭中篇特集>(200枚)失われた絵(高橋たか子)

(115枚)逃亡(山田稔)/ (102枚)十九歳の地図(中上健次)

<連載・17>パリの憂愁--ボードレールとその時代(河盛好蔵)

阿部知二氏を悼む(杉森久英)

文壇的ということ--浅見淵追悼に因んで(平野謙)

鬼城山断想(李恢成)

<椎名麟三追悼特集>弔辞(本多秋五・船山馨・大江健三郎)

(中野重治・埴谷雄高・中村真一郎・小田実・黒井千次・折目博子・斎藤末広)

赤と神--椎名さんの一時期(寺田透)

椎名麟三再読(桶谷秀昭)

<対談>椎名文学と宗教(佐古純一郎・武田泰淳)

<風のたより>*最近の西ドイツ文学作品には「私的なもの」「自伝的なもの」への傾向が顕著だとシュピーゲル誌が説いている。代表的な例としてG・グラスの『蝸牛の日記』、U・ヨーンゾーンの『記念日』、P・ハントケ『この上望むところのない不幸』、M・フリッシュ『日記1966-71』など。

*東ドイツの詩人ヴォルフ・ビーアマンが詩集『わが同志らに』『ドイツ、冬物語』の二冊である。いずれも西ドイツのヴァーゲンバハ社の叢書に収められた。

*多作のH・C・アルトマンが、新作『空飛ぶシンドバッドあるいはカリフォルニアからクレインへの不思議な旅』をオーストリアのレジデント社から出版した。

*1934年に亡くなったドイツの作家ヴァッサーマンの長篇小説『エンゲルハルトあるいは二つの世界』が、ミュンヘン出版社から上梓された。

これは余りに自己告白的な要素が強いため発表を見合わせたらしく、生誕百年祭に発見されたものである。

昭和48(1973)年6月1日発行(河出書房新社)

3176) 「文芸」新年特大号1973

<戯曲・140枚>一寸さきは闇(小島信夫)

風景小説(藤枝静男)/ 裾野[すその](中里恒子)

遠い娘--或いは理想の領域(中村真一郎)/ 沢登り(庄野潤三)

象海岸のひとで(井上光晴)/ 桃花(石原慎太郎)/ 怪談(河野多恵子)

(90枚)弟(古井由吉)

ウィーンだより(4)ドリナへの旅(1)(佐々木基一)

ドストエーフスキイの未発表作品

「頼みごとの名人」「ロジオーシャの話」ほか(訳・解説/ 木下豊房)

ヘルダーの断念--文学の根への問い1(川村二郎)

<対談>戦後・仏教・愛(大岡昇平・武田泰淳)

昭和48(1973)年1月1日発行(河出書房新社)

3177) 「文芸」12月特大号1972

昭和47年度文芸賞当選作(158枚)危うい歳月(尾高修也)

〈選後評〉(江藤淳・小島信夫・島尾敏雄・野間宏)

(120枚)蟻の塔(山田智彦)/ (135枚)絵の中の鳥(小野木朝子)

〈連載・12〉パリの憂愁--ボードレールとその時代(河盛好蔵)

〈一頁時評〉私物化について(花田清輝)

創造の逆説--批評とは何か(1)(桶谷秀昭)

ウィーンだより(3)田園交響楽(佐々木基一)

〈座談会〉物語の変容--1972年の文学(秋山駿・磯田光一・川村二郎・佐伯彰一)

〈文藝 総目次〉昭和46年1月号~昭和47年12月号

〈風のたより〉*エンツェンスベルガーが初めての小説『無政府状態(アナーキー)の短い夏』を発表した。

*一昨年、ドイツ語圏内で最も権威ある文学賞ゲオルク・ビューヒナー賞を受賞したトーマス・ベルンハルトが、『愚者と狂人』という二幕物の戯曲を発表している。

*ハインリヒ・ベルとギュンター・グラスがノーベル賞という噂が流れている(付記ハインリヒ・ベルが受賞)。これまでのドイツ語圏ノーベル賞受賞者は1966年ネリ・ザックス、1946年ヘルマン・ヘッセ、1929年トーマス・マン、1919年カール・シュピッテラー、1910年パウル・ハイゼ、1908年哲学者ルードルフ・オイケン。ギュンター・グラスはこの八月『局部麻酔をかけられて』に続き、長篇『ある蝸牛の日記から』を発表した。

昭和47(1972)年12月1日発行(河出書房新社)

3178) 「文芸」10月号1972

(370枚一挙掲載)小さな市街図(古山高麗雄)

(80枚)もう一つの世界(田畑麦彦)

〈連載・10〉パリの憂愁--ボードレールとその時代(河盛好蔵)

〈一頁時評〉尚武のころ(花田清輝)

〈新連載〉ウィーンだより(1)ウィーン点描(佐々木基一)

〈現代作家論〉純粹と豊饒--福永武彦論(菅野昭正)

異いはその狂いさま--妄執の作家たち2・正宗白鳥(内村剛介)

〈座談会〉小説の過去と現在(川村二郎・黒井千次・篠田一士・辻邦生)

昭和47年度文藝賞第一次予選通過者発表

〈風のたより〉*今年34歳になるヘルベルト・アハテルンブッシュの『朕は国家なり』という題名の小説が出版された。

*ペーター・ヴァイスの初期の小説『決闘duel』が、ズールキャンプ社のポケット版双書に収められた。

*マルティン・ヴァルザーが『ガリストウル病』と題される精神病を扱った小説を発表した。ガリストウルというのは、主人公の名前である。

*アルノ・シュミットの新作『無神論者の学校』は前作『紙片の幻想』と同じく、タイプ原稿をオフセット印刷した大版の本で、直しや消しもそのままになっている。

昭和47(1972)年10月1日発行(河出書房新社)

3179) 「文芸」7月号1970

(100枚)瓦礫の中(吉田健一)

(140枚)還れぬ旅(日野啓三)/ (75枚)沼の花(野口武彦)

〈戯曲・160枚〉空巢(八木柊一郎)

〈欧州紀行〉町のなかの国境(埴谷雄高)

日本の「私」を求めて(佐伯彰一)

反歴史主義の文学(饗庭孝男)

〈対談〉私のロシア(内村剛介・松田道雄)

昭和45(1970)年7月1日発行(河出書房新社)

- 3180) 「文芸」 2月号 1970
 (110 枚) 奇妙な花嫁(金井美恵子)/ 新婚正月(上林暁)
 因果物語(2)--巷説・武田信玄(深沢七郎)
 <欧州紀行>レーニン・ブール・ヴァール(2)(埴谷雄高)
 <小品十三件>「本土の沖縄化」という言葉のこと(中野重治)
 <インタビュー>現代社会と学生運動(トゥレーヌ/ 聞く人：西川潤)
 <情況>集落の論理(吉本隆明)
 <現代作家論>開かれた文学への道--安部公房論(松原新一)
 <対談>小説とは何か--続・文学と戦後(安岡章太郎・丸谷才一)
 <風のたより>*マックス・ホルクハイマーとテオドル・W・アドルノ共著
 『啓蒙主義の弁証法』が、20余年ぶりにフィッシャー社から再版された。
 *ルドルフ・ボルヒャルトの最後の著作『情熱的な庭師』が、初めて完全な形で公刊された。
 *詩人の自作朗読レコードを、ドイツのヴァーゲンバッハ社がだしている。
 ヴォルフ・ビーアマンとエルンスト・ヤンドルの二人である。
 昭和 45(1970)年 2月 1日発行(河出書房新社)
- 3181) 「文芸」 新年特大号 1970
 鎮魂歌(大岡昇平)/ 鴛鴦[おしどり](中里恒子)/ 疑惑(対話)(中村真一郎)
 万里の長城(長谷川四郎)/ 同じ季節(坂上弘)
 <短期連載・1>因果物語--巷説・武田信玄(深沢七郎)
 通夜の会話(入沢康夫)
 <欧州紀行>レーニン・ブール・ヴァール(1)(埴谷雄高)
 <本邦初訳>言葉・旅行・占星術
 --アナイス・ニンへの手紙(ヘンリー・ミラー/ 中田耕治訳)
 <評論・30 枚>地獄めぐり、再び(大江健三郎)
 <伊藤整追悼特集>チャタレイ裁判のころ(中島健蔵)
 最後の六か月(瀬沼茂樹)/ 『生物祭』のことなど(荒正人)
 伊藤整の方法(丸谷才一)
 <対談>昭和文学の断面(中野重治・平野謙)
 <評論・50 枚>小説は通じ得るか(小島信夫)
 <評論・80 枚>批評論の試み(丸山静)
 <対談>文学における伝統と現代(A・ウィルソン/ 江藤淳)(井上謙治訳)
 昭和 45(1970)年 1月 1日発行(河出書房新社)
- 3182) 「文芸」 12月号 1969
 (70 枚) 白い髪の童女(倉橋由美子)/ (100 枚) 埋火の街で(佐木隆三)
 (新人・130 枚) 青空(津島佑子)
 昭和 44 年度文芸賞発表
 <選考経過・選後評>(野間宏・武田泰淳・福永武彦・小島信夫・江藤淳)
 <欧州紀行>ワルソー・ゲッター(3)(埴谷雄高)
 <小品十三件>「異民族」ということ(中野重治)
 <評論・90 枚>魯迅と柔石(2)(竹内実)
 <評論・58 枚>表現のなかの沈黙--原口統三の死をめぐって(宮内豊)
 <情況>異族の論理(吉本隆明)
 <座談会>解体の時代--1969 文学状況
 (饗庭孝男・磯田光一・川村二郎・日野啓三・松原新一)
 <文藝 総目次>昭和 43 年 1月号~昭和 44 年 12月号
 <風のたより>*プラハ生まれでイェール大学ドイツ文学教授ペーター・デーメッツの『マルクス、エンゲルスと文学者たち』が、初版後 10 年を経て全面的に改稿され面目を一新した。
 *オーストリア現代文学で「ウィーン・グループ」と呼ばれる五人の文学

者たちの仕事が注目される様になったが、特にカール・アルトマン、オスヴァルト・ヴィーナーの業績が一般読書界の興味を強く引き始めている。
*ベンヤミンの単行本にこれまで収録されなかった幼年少年関係の文章が、『児童、少年教育について』と題した一本にまとめられ、ズールカンプ社から刊行された。

昭和 44(1969)年 12 月 1 日発行(河出書房新社)

3183) 「文芸」 11 月号 1969

(200 枚)まなざしの壁(金鶴泳)

無妙記(深沢七郎)/美しい日没(野口武彦)

<同人雑誌転載作>眠られぬ夜の旅(秋元 藍)

<欧州紀行>ワルソー・ゲットー(2)(埴谷雄高)

<小品十三件>日本語アクセントのこと(中野重治)

<評論・75 枚>魯迅と柔石(1)(竹内実)

ヴァルター・ベンヤミン論(完)(H・アレント/阿部齊訳)

<評論・45 枚>虚構空間の原質--ロココの再発見(清水徹)

<情況>倒錯の論理(吉本隆明)

<対談>戦後と漂流(井伏鱒二・五木寛之)

昭和 44(1969)年 11 月 1 日発行(河出書房新社)

3184) 「文芸」 10 月号 1969

絶望塔(野坂昭如)

<戯曲 200 枚・初訳>風にゆらぐ燈火[ともしび]

(ソルジェニツィン・染谷茂/内村剛介訳)

柏島風景(上林暁)/無人踏切(川村晃)

<欧州紀行>ワルソー・ゲットー(1)(埴谷雄高)

<小品十三件>土面積、水面積、空面積のこと(中野重治)

<中山義秀氏追悼>中山さん(庄野潤三)

ヴァルター・ベンヤミン論(2)(H・アレント/阿部齊訳)

<評論 40 枚>「作家」という「人間」について(小田実)

<情況>畸形の論理(吉本隆明)

<対談>文学と戦後(安岡章太郎・丸谷才一)

昭和 44 年度文藝賞第一次予選通過者発表

<風のたより>*出色のエッセイストとして評判の高いローベルト・ミンダーはハンブルク市ゲーテ賞の今年度受賞者だが、アルザス生まれで独仏二カ国語を母国語同様に操る。著書は『ドイツとフランスにおける文化と文学』や『社会の中の詩人』などである。

* 1903 年 9 月 11 日生まれのテオドル・W・アドルノが、8 月 6 日この世を去った。大著は『否定の弁証法』だが、66 歳に届かぬ年齢で、ベンヤミン全集の編者としてその公刊(明年刊行予定)を見ることはなかった。

*ゲーテ時代からブレヒトに至るまで、ドイツ詩の注釈にかけては当代の第一人者ヴェルナー・クラフトが、「メルクール」誌上でギュンター・グラスの詩集『問いただされて』を賛辞している。

*「大学改革のために」という表題で、ヘルマン・ブロッホが 20 余年前に書いた未発表の遺稿が最近公刊された。

昭和 44(1969)年 10 月 1 日(河出書房新社)

3185) 「文芸」 9 月号 1969

べえべえぶし(深沢七郎)

<戯曲・180 枚>阿 Q 外傳(宮本研)

(105 枚)花を我等に(黒井千次)/ (100 枚)弾性限界(金鶴泳)

ヴァルター・ベンヤミン論(1)(H・アレント/阿部齊訳)

<情況>修景の論理(吉本隆明)

〈《現代作家論》60枚〉意味の織物--フィリップ・ソレルス論(菅野昭正)
〈座談会〉宗教と文学(遠藤周作・加賀乙彦・椎名麟三・武田泰淳)
昭和44(1969)年9月1日発行(河出書房新社)

3186) 「群像」12月特大号1980

〈第3回群像新人長篇小説賞発表〉
選評(秋山駿・河野多恵子・野間宏・安岡章太郎)
〈当選作〉旅する前に(大高雅博)/序章(今井公雄)
無きが如き(完)(林京子)/マゴ(長谷川四郎)/消えた灯(野口富士男)
〈熊野集7〉ヨウレボシ(中上健次)
近代日本の自伝(佐伯彰一)
〈河上徹太郎追悼〉難問の季節(大岡昇平)/河上徹太郎氏を送る(寺田透)
アリョーシャの孤独--河上徹太郎論(勝又浩)
語り物の宇宙(8)--しんとく丸(川村二郎)
女・文学・アフリカ--マリアマ・バーのことなど(土屋哲)
死の世界--スヴィドリガイロフ論(富岡幸一郎)
〈第12回亀井勝一郎賞の決定〉澁澤孝輔『蒲原有明論』(中央公論社刊)
選考委員(山本健吉・中村光夫・川村二郎・高橋英夫)
〈創作合評〉「春の道標」黒井千次/「タガメ男」野間宏/
「やっぱり駄目」藤枝静男(上田三四二・岡松和夫・大橋健三郎)
昭和54年・55年度総目次
昭和55(1980)年12月1日発行(講談社)

3187) 「群像」11月号1980

やっぱり駄目(藤枝静男)/花衣(上田三四二)
トラヴィアタの鏡(吉行理恵)/銀杏の日(杉本研士)/輪廻無限(野坂昭如)
〈熊野集6〉石橋(中上健次)
〈上林曉追悼〉上林曉追想(尾崎一雄)/私小説の第一人者(川崎長太郎)
上林曉君を悼む(中谷孝雄)/葉書の文学(庄野潤三)
追憶(小沼丹)/思い出すことども(大原富枝)
上林さんの目(三浦哲郎)/嬉しかったこと(阿部昭)
上林曉抄(瀬沼茂樹)/終焉の記(徳広睦子)
砂漠の中のスカラベ・サクレ--花田清輝の戯曲・小説(桂[すが]秀実)
語り物の宇宙(7)--しんとく丸(川村二郎)
近代日本の自伝(11)(佐伯彰一)
〈第3回群像新人長篇小説賞予選通過作品発表〉
〈第24回群像新人文学賞募集〉
〈創作合評〉「明けの赤馬」古井由吉/「追波川」畑山博/
「蟹沢へ」笠原淳(上田三四二・岡松和夫・大橋健三郎)
昭和55(1980)年11月1日発行(講談社)

3188) 「群像」10月号1980

幕舎(大原富枝)/追波川(畑山博)
〈随筆〉長い読書(中村真一郎)
雨の中の犬(伊藤桂一)/くちなわ幻想(島村利正)
蟹沢へ(笠原淳)/公演のあとで(稲沢潤子)
〈熊野集5〉海神(中上健次)
〈立原正秋追悼〉立原正秋君のこと(藤枝静男)/韓国の風土(岡松和夫)
近代日本の自伝(10)(佐伯彰一)
〈第24回群像新人文学賞募集〉
〈創作合評〉「甦りの家」高橋たか子/「母」阪田寛夫/
「叔父貴の話」高橋三千綱(上田三四二・岡松和夫・大橋健三郎)
昭和55(1980)年10月1日発行(講談社)

- 3189) 「群像」 9月特大号 1980
 (226 枚) 甦りの家(高橋たか子)/ 魂の鍵(中里恒子)
 叔父貴の話(高橋三千綱)/ 吹き溜り(野口富士男)
 <熊野集 4>花郎(中上健次)
 政治の死滅--花田清輝の戦後(桂[すが]秀実)
 語り物の宇宙(6)--小栗判官(川村二郎)
 近代日本の自伝(9)(佐伯彰一)
 <第 24 回群像新人文学賞募集>
 <創作合評> 「島影」土居良一/ 「ぼくの猿 ぼくの猫」色川武大/
 「朝の光」渡辺のり子(黒井千次・三木卓・佐木隆三)
 昭和 55(1980)年 9 月 1 日発行(講談社)
- 3190) 「群像」 8月特大号 1980
 <新連載>ベトナムから遠く離れて(小田実)
 初めの愛(完)(坂上弘)/ <新人>朝の光(渡辺のり子)
 三絃結界(野坂昭如)/ 仮睡(岩橋邦枝)/ 島影(土居良一)
 <熊野集 3>蝶鳥(中上健次)
 言葉の奪還--『神聖喜劇』論(亀井秀雄)
 語り物の宇宙(5)--小栗判官(川村二郎)
 近代日本の自伝(8)(佐伯彰一)
 鷹野次弥のこと(藤枝静男)
 <創作合評> 「海上の家」中沢けい/ 「岬」上田三四二/
 「藤」大庭みな子(黒井千次・三木卓・佐木隆三)
 <未発表 初期花田清輝の手紙>
 追懐のひと--若い日の花田清輝(羽田竜馬)
 昭和 55(1980)年 8 月 1 日発行(講談社)
- 3191) 「群像」 7月号 1980
 霧の旅(完)(大庭みな子)/ 海上の家(中沢けい)/ 出発点(野口富士男)
 煙(小沼丹)/ 岬(上田三四二)/ 五月の鳥(来島潤子)
 <熊野集 2>桜川(中上健次)
 続あの日この日(完)(尾崎一雄)/ 舗石の思想(完)(秋山駿)
 <随筆>図書館(吉村昭)
 花田清輝のポリテイク(桂[すが]秀実)
 わが体験的演劇論--小説と演劇のあいだ(佐木隆三)
 無のなかの構造--古井由吉論(月村敏行)
 語り物の宇宙(4)--小栗判官(川村二郎)
 近代日本の自伝(7)(佐伯彰一)
 <創作合評> 「昼と夜」長谷川卓/ 「狸」村上節
 (黒井千次・三木卓・佐木隆三)
 昭和 55(1980)年 7 月 1 日発行(講談社)
- 3192) 「群像」 6月特大号 1980
 <第 23 回群像新人文学賞発表>
 選評(佐々木基一・佐多稲子・島尾敏雄・丸谷才一・吉行淳之介)
 <小説当選作>昼と夜(長谷川卓)
 <評論優秀作>異様[ことやう]なるものをめぐって(川村湊)
 <新短篇連作 熊野集 1>不死(中上健次)
 小さな願い(耕治人)/ 環の世界(富岡多恵子)
 『さまざまな青春』論(羽原譲)
 続構成員について--二つの論争(柄谷行人)
 近代日本の自伝(6)(佐伯彰一)

<創作合評>「季節の終り」中野孝次/「木刀」高橋三千綱
(川村二郎・高橋たか子・菅野昭正)
昭和 55(1980)年 6 月 1 日発行(講談社)

3193) 「群像」 5 月特大号 1980

(312 枚) 季節の終り(中野孝次)
月下美人(吉村昭)/ 春うらら(森本等)/ 骨洗供養(野坂昭如)
構合力について--二つの論争(柄谷行人)
近代日本の自伝(5)(佐伯彰一)
<第 23 回群像新人文学賞予選通過作品発表>
<吉川英治文学賞の発表><第一回吉川英治文学新人賞発表>
<吉川英治文化賞の発表><第三回群像新人長篇小説賞募集>
<創作合評>「雪女」日野啓三/「海囚」田久保英夫
「あなおもしろ」古井由吉(川村二郎・高橋たか子・菅野昭正)
昭和 55(1980)年 5 月 1 日発行(講談社)

3194) 「群像」 4 月特大号 1980

(新鋭・175 枚) 翼のある船(山川健一)
ひとりごと(丹羽文雄)/ 日溜(上田三四二)/ 十一月(土居良一)
<短篇連作 雨飾り(完)>影身(田久保英夫)
津軽野--ほんまよしみ評伝(本村敏雄)
近代日本の自伝(4)(佐伯彰一)
<創作合評>「身がわり山羊の反撃」大江健三郎/
「1973 年のピンボール」村上春樹(川村二郎・高橋たか子・菅野昭正)
昭和 55(1980)年 4 月 1 日発行(講談社)

3195) 「群像」 3 月特大号 1980

<新人文学賞受賞第一作>1973 年のピンボール(村上春樹)
身がわり山羊の反撃(完)(大江健三郎)
血の譜(田久保英夫)
奇妙な家族<阿佐谷六丁目・完>(佐々木基一)
中村光夫論(桂秀実)
プロレタリア文学について--中野重治の体現したもの(月村敏行)
わが花幻--原民喜の資質と転生(川西政明)
語り物の宇宙(3)--甲賀三郎(川村二郎)
近代日本の自伝(3)(佐伯彰一)
<随筆>中野重治との最初の交渉(中谷孝雄)
<創作合評>「燃える風」津島佑子/「荒野」高橋たか子
(秋山駿・日野啓三・磯田光一)
昭和 55(1980)年 3 月 1 日発行(講談社)

3196) 「群像」 2 月特大号 1980

身がわり山羊の反撃(大江健三郎)
<戯曲 135 枚>わが魂は輝く水なり(清水邦夫)
三界無縁(野坂昭如)/ 幻の鳥(杉本研士)/ 横綱から(清岡卓行)
滝(田久保英夫)/ 紅椿(広津桃子)
語り物の宇宙(2)--甲賀三郎(川村二郎)
近代日本の自伝(2)(佐伯彰一)
<創作合評>「ゼンマイ人間」藤枝静男/「電話帳」三木卓/「声」黒井千次
「風の木」田久保英夫/「晩秋」三浦哲郎/「葛飾」吉行淳之介
(秋山駿・日野啓三・磯田光一)
昭和 55(1980)年 2 月 1 日発行(講談社)

3197) 「群像」 1月特別号 1980 <創刊 400号記念新年特別号>
 <新連載>無きが如き者たち(林京子)
 菊(円地文子)/ ゼンマイ人間(藤枝静男)/ ブリキの金魚(中里恒子)
 奇妙な家族(佐々木基一)/ 亡命人(島尾敏雄)/ 坂の途中の店(小沼丹)
 モヒカン州立公園(庄野潤三)/ 鶏(瀬戸内晴美)
 アデノイドの手術へ(清岡卓行)/ 葛飾(吉行淳之介)
 帽子と八宝菜(井上光晴)/ 内庭(田久保英夫)
 少年の島(竹西寛子)/ 晩秋(三浦哲郎)/ 三十年(岡松和夫)
 声(黒井千次)/ 電話帳(三木卓)/ 馬山まで(李恢成)/ 箱根(富岡多恵子)
 舟(短篇連作「海暝」完)(小田実)
 <新連載>近代日本の自伝(佐伯彰一)
 水・椿・オフィーリア--「草枕」をめぐって(大岡昇平)
 語り物の宇宙(1)--甲賀三郎(川村二郎)
 児童の発見(柄谷行人)
 批評の純粹性--秋山駿論(富岡幸一郎)
 <昭和 54 年度野間文芸賞の決定>藤枝静男『悲しいだけ』(講談社刊)
 <第一回野間文芸新人賞の決定>津島佑子『光の領分』(講談社刊)
 <創作合評>「茜」上田三四二/ 「慰霊祭まで」増田みず子/
 「ある女のグリンプス」冥王まさ子(秋山駿・日野啓三・磯田光一)
 昭和 55(1980)年 1 月 1 日発行(講談社)

3198) 「群像」 12月特大号 1979
 <第 2 回群像新人長篇小説賞発表>
 選評(秋山駿・河野多恵子・野間宏・安岡章太郎)
 <当選作(445 枚)>忍耐の祭(山科春樹)
 <当選作(587 枚)>流謫[るたく]の島(五十嵐勉)
 光る影(「黄道のひかり」完)(日野啓三)
 遠い鐘(田久保英夫)/ 太平洋の話(小田実)/ 茜(上田三四二)
 昔、中国四十日の旅(本多秋五)
 <第 11 回亀井勝一郎賞の決定>宮内豊『ある殉死 花田清輝論』(講談社刊)
 池内紀『諷刺の文学』(白水社刊)
 選考委員(山本健吉・中村光夫・遠藤周作・川村二郎・高橋英夫)
 <創作合評>「真夏日」岩橋邦枝/ 「失踪」中野孝次/
 「産屋」立松和平(高橋英夫・大橋健三郎・宮内豊)
 昭和 54(1979)年 12 月 1 日発行(講談社)

3199) 「群像」 11月特大号 1979
 <中野重治追悼>半年前のこと(佐多稲子)/ 中野重治追想(尾崎一雄)
 回想点々記(本多秋五)/ 高麗人形のことなど(藤枝静男)
 中野重治の死の折に(寺田透)/ 文学の後だて前だて(李恢成)
 中野重治の新しい意味--『甲乙丙丁』を中心に(小田切秀雄)
 珈琲館「影絵」(大原富枝)/ 真夏日(岩橋邦枝)/ 細胞解散(佐々木基一)
 谷間(日野啓三)/ 屋根(田久保英夫)/ 黒塚(野坂昭如)
 海を眺める墓地(小田実)
 閉じた言語と開かれた言語(宇野邦一)
 根底の不在--尹[いん]興吉『長雨』について(柄谷行人)
 <第 2 回群像新人長篇小説賞予選通過作品発表>
 <創作合評>「凍傷」土居良一/ 「瘦女」古井由吉
 (高橋英夫・大橋健三郎・宮内豊)
 昭和 54(1979)年 11 月 1 日発行(講談社)

3200) 「群像」 10月特大号 1979
 <新人長篇小説賞受賞第一作>(215 枚)凍傷(土居良一)

隠れ谷(芝木好子)/ 影の部分(日野啓三)
傾斜面(田久保英夫)/ ジョギング(小田実)
<対談>文学・革命・人間--『見果てぬ夢』をめぐって(安岡章太郎・李恢成)
平沢計七・鷹野つぎのこと(藤枝静男)
<福永武彦追悼>福永・終焉まで(中村真一郎)/ 好ましい印象(佐々木基一)
福永さんの姿勢(遠藤周作)/ 深夜の回想(丸谷才一)
《永遠がついに彼を彼自身へと変えるがごとく》(清水徹)
野間文芸新人賞の創設
第23回群像新入文学賞募集
<創作合評>「結婚」富岡多恵子/ 「渚には風もなく」梅原稜子
「白いブラウス」重兼芳子(高橋英夫・大橋健三郎・宮内豊)
昭和54(1979)年10月1日発行(講談社)

3201) 「群像」9月号1979

結婚(富岡多恵子)/ あやとり(中里恒子)/ 犬の出産(伊藤桂一)
みみらく(瀬戸内晴美)/ 卵(黒井千次)/ 細胞解散(佐々木基一)
母のない夜(日野啓三)/ 雲の切れ目(田久保英夫)/ ジャップ(小田実)
渚には風もなく(梅原稜子)
シェイクスピアの翻訳について(木下順二)
<随筆>十年の歳月(木山みさを)
<創作合評>「往生異聞」金石範/ 「夢」後藤明生
「わたしの鷺鳥」稲沢潤子(高橋英夫・大橋健三郎・宮内豊)
昭和54(1979)年9月1日発行(講談社)

3202) 「群像」8月特大号1979

<未発表作品>闇の世(田中英光)
『闇の世』のこと(小田切進)
マロニエの花(中谷孝雄)/ わたしの鷺鳥(稲沢潤子)/ 立体交差(日野啓三)
蓬莱伝説(野坂昭如)/ 岐路(田久保英夫)/ 雲、あるいは、愛(小田実)
アトムの渴望--江藤淳論(宮内豊)
均衡する内面--黒井千次論(月村敏行)
<中島健蔵追悼>中島健蔵氏のこと(井上靖)/ 自己を確認しながら(大岡昇平)
思い出の一部(寺田透)/ 『作品』から『知性』へ(保昌正夫)
<荒正人追悼>「終末の日」(埴谷雄高)/ 鹿を逐う人(本多秋五)
正直すぎる人(佐々木基一)/ 荒正人、徹底した個性(小田切秀雄)
<創作合評>「漕げや海尊」阪田寛夫/ 「闇の誘惑」中野孝次
(上田三四二・三木卓・菅野昭正)
昭和54(1979)年8月1日発行(講談社)

3203) 「群像」7月特大号1979

<長篇一挙掲載・310枚>漕げや海尊(阪田寛夫)
<連載第一回>霧の旅 第Ⅱ部(大庭みな子)
キャディラック(佐木隆三)/ 独語(川崎長太郎)/ 光と翳(佐々木基一)
その棘(田久保英夫)/ 枯野の子(日野啓三)/ 卒(小田実)
北京三泊--石家荘三泊--太原三泊--大同二泊--夜行列車--北京(藤枝静男)
『鎮魂歌』論--原民喜における生と死の予言(川西政明)
<創作合評>「風の歌を聴け」村上春樹/ 「火遊び」立松和平
(上田三四二・三木卓・菅野昭正)
昭和54(1979)年7月1日発行(講談社)

3204) 「群像」6月特大号1979

<第22回群像新入文学賞発表>
選評(佐々木基一・佐多稲子・島尾敏雄・丸谷才一・吉行淳之介)

〈小説当選作〉風の歌を聴け(村上春樹)
〈評論優秀作〉文学の終末について(宇野邦一)
〈評論優秀作〉意識の暗室(富岡幸一郎)
角笛(三浦哲郎)/ 橋(田久保英夫)/ 雨傘(阪井洋一)
古井戸(笠原淳)/ 洪水の前(本吉洋子)
〈連作最終回〉光素(津島佑子)/ 〈随筆〉生ける葬式(杉浦明平)
〈創作合評〉「芻狗[すうく]」 富岡多恵子/ 「戦場の博物誌」 開高健
(藤枝静男・岡松和夫・磯田光一)
昭和 54(1979)年 6 月 1 日 発行(講談社)

3205) 「群像」 5 月号 1979

芻狗[すうく](富岡多恵子)/ 顛われ(高橋たか子)
「方舟」騒動(佐々木基一)/ 石蓀[つわぶき]の花(広津桃子)
思い砂(田久保英夫)/ 退嬰病者(野坂昭如)
指揮官(小田実)/ 焰(津島佑子)
〈随筆〉はびこる日本語(福田宏年)
生の自己必然--吉行淳之介論(藤林靖晃)
他者の言葉--感性の変革(完)(亀井秀雄)
〈第 22 回群像新人文学賞予選通過作品発表〉
〈吉川英治文学賞発表〉
吉村昭『ふおん・しいほるとの娘』(上・下)(毎日新聞社刊)
〈第 13 回吉川英治文化賞〉大野貢氏・ゼノ-ゼブロフスキー氏・中城イマ氏
中村孝三郎氏・馬場省二氏
〈創作合評〉「片居」上田三四二/ 「柿の木の下」杉本研士
「余白の部分」中沢けい(藤枝静男・岡松和夫・磯田光一)
昭和 54(1979)年 5 月 1 日 発行(講談社)

3206) 「群像」 4 月特大号 1979

見果てぬ夢(完)(李恢成)/ 邯鄲の庭(清岡卓行)/ 上京(山口瞳)
黒い音(日野啓三)/ 対岸(田久保英夫)/ 柿の木の下(杉本研士)
P 一島にて(小田実)/ 電流(津島佑子)
ミスター・ボージャングル(森本等)/ 余白の部分(中沢けい)
〈随筆〉墓標(川崎長太郎)
ナルシスの「言葉」--中上健次論(絳秀実)
平野謙の虚しさ--「さまざまな青春」試論(羽原譲)
〈創作合評〉「野いばらの衣」三木卓(藤枝静男・岡松和夫・磯田光一)
昭和 54(1979)年 4 月 1 日 発行(講談社)

3207) 「群像」 3 月特大号 1979

〈長篇一挙掲載・850 枚〉野いばらの衣(三木卓)
若い獅子たち(佐々木基一)/ 鏡(田久保英夫)/ 男(小田実)/ 体(津島佑子)
〈新連載〉舗石の思想(秋山駿)
〈創作合評〉「みな生きもの みな死にもの」藤枝静男/ 「海の子」阿部昭
「風呂」小田実 (藤枝静男・岡松和夫・磯田光一)
昭和 54(1979)年 3 月 1 日 発行(講談社)

3208) 「群像」 2 月号 1979

みな生きもの みな死にもの(藤枝静男)
米食いねずみ(広津桃子)/ 借りた犬(伊藤桂一)/ 仮装(田久保英夫)
風呂(小田実)/ 赤い光(津島佑子)/ ピクニック(広河禎孝)
裏返った内面--後藤明生論(月村敏行)
空想に富みたる畸人--感性の変革(4)(亀井秀雄)
〈創作合評〉「咳花」古井由吉/ 「海の子」阿部昭

「かげろう」中上健次(川村二郎・高橋たか子・大橋健三郎)
昭和 54(1979)年 2 月 1 日発行(講談社)

3209) 「群像」 1 月特大号 1979

<創作特集>父子相伝(丹羽文雄)/ 山川草木(中里恒子)/ 衣食住(佐々木基一)
三河大島(庄野潤三)/ 粉雪(小沼丹)/ 声(瀬戸内晴美)
中国棒球学習組(清岡卓行)/ 森の眠り(田久保英夫)/ 熊ん蜂(三浦哲郎)
欣求壊劫(野坂昭如)/ 晩秋(竹西寛子)/ 姦(小田実)/ かげろう(中上健次)
砂丘(津島佑子)/ 花火(山川健一)/ (105 枚) 弥勒(中島梓)
<随筆>教育者としての中野孝次(丸谷才一)
<創作合評>「カリフォルニア」土居良一/ 「葬儀の日」松浦理英子
(川村二郎・高橋たか子・大橋健三郎)
<昭和 53 年度野間文芸賞の決定>吉行淳之介『夕暮れまで』(新潮社刊)
昭和 54(1979)年 1 月 1 日発行(講談社)

3210) 「群像」 12 月特大号 1978

<第 1 回群像新人長篇小説賞発表>
選評(秋山駿・河野多恵子・野間宏・安岡章太郎)
<当選作(370 枚)>カリフォルニア(土居良一)
<随筆>木山捷平追懐(島村利正)
地の虫(畑山博)/ 暁まで(田久保英夫)/ 肉(小田実)/ 呪文(津島佑子)
感覚の鏡--吉行淳之介論(完)(川村二郎)
<新著月評>花と闇のあいだ(中野孝次)
吉行淳之介『夕暮れまで』/ 遠藤周作『キリストの誕生』
円地文子『江戸文学問わず語り』/ 中島梓『文学の輪郭』
吉本隆明『戦後詩史論』
<第 10 回亀井勝一郎賞の決定>柄谷行人『マルクスその可能性の中心』(講談社)
高田宏『言葉の海へ』(新潮社)
選考委員(山本健吉・中村光夫・遠藤周作・川村二郎・高橋英夫)
群像総目次(昭和 52 年 1 月～53 年 12 月)
<創作合評 36>現代と近代 「火のようにさみしい姉がいて」清水邦夫
「地底の鳥」山崎正和(大庭みな子・柄谷行人・上田三四二)
昭和 53(1978)年 12 月 1 日発行(講談社)

3211) 「群像」 11 月特大号 1978

火のようにさみしい姉がいて(清水邦夫)
冠婚葬祭(佐々木基一)/ 黄色いノート(広津桃子)/ 緑と灰(田久保英夫)
骨(小田実)/ 声(津島佑子)/ 海から来る風(耕治人)
ああ 戦後--永井荷風(最終回)(磯田光一)
捉まえられた「私」--感性の変革(3)(亀井秀雄)
感覚の鏡--吉行淳之介論(11)(川村二郎)
<新著月評>作品論素描(亀井秀雄)
高橋三千綱『葡萄畑』/ 柄谷行人『マルクスその可能性の中心』
小笠原克『野間宏論--《日本》への螺階』/ 谷沢永一『牙ある蟻』
<第 1 回群像新人長篇小説賞予選通過作品発表>
<創作合評 35>生と死の根 「グロテスク」中村光夫/ 「桂子」中谷孝雄
「湖畔にて」伊藤桂一(大庭みな子・柄谷行人・上田三四二)
昭和 53(1978)年 11 月 1 日発行(講談社)

3212) 「群像」 10 月号 1978

桂子(中谷孝雄)/ 鶴鴿(小沼丹)/ 後の宴(野坂昭如)/ 珊瑚(田久保英夫)
湖畔にて(伊藤桂一)/ 船(小田実)/ 島の夢(津島佑子)
生に立ち戻る道--島尾敏雄論(勝又浩)

未成の夢--大江健三郎論(完)(川西政明)
感覚の鏡--吉行淳之介論(10)(川村二郎)
〈新著月評〉小説の視野について(菅野昭正)
竹西寛子『管弦祭』/津島佑子『寵児』/中沢けい『海を感じる時』
高橋揆一郎『観音力疾走 木偶[でく]おがみ』
〈創作合評 34〉母と娘の世界 「置き文」中里恒子/「石女譜」野坂昭如
「木の日曜日」津島佑子(大庭みな子・柄谷行人・上田三四二)
昭和 53(1978)年 10 月 1 日発行(講談社)

3213) 「群像」 9 月特大号 1978

〈新短篇連作〉海のいくさ(小田実)
亡友(川崎長太郎)/来訪者名簿(佐々木基一)/冬屋敷(田久保英夫)
石女譜(野坂昭如)/骨肉(日野啓三)/木の日曜日(津島佑子)
ある秋(阪井洋一)/虹(吉村昭)
文学の時代(中島梓)
内面がはらむもの--小川国夫論(月村敏行)
感覚の鏡--吉行淳之介論(9)(川村二郎)
生に立ち戻る道--島尾敏雄論(勝又浩)
未成の夢--大江健三郎論(6)(川西政明)
〈新著月評〉時空への旅と回帰(奥野健男)
田久保英夫『触媒』/日野啓三『漂泊 北の火』
清岡卓行『芸術的な握手--中国旅行の回想』
小沼丹『木菟[みみずく]燈籠』
〈創作合評 33〉表現の密度について「葡萄畑」高橋三千綱/「煙」林京子
(藤枝静男・黒井千次・秋山駿)
昭和 53(1978)年 9 月 1 日発行(講談社)

3214) 「群像」 8 月特大号 1978

〈長篇一挙掲載・380 枚〉葡萄畑(高橋三千綱)
煙(林京子)/辻時計(田久保英夫)/水辺(津島佑子)
〈随筆〉書物との再会(高橋英夫)
ある殉死--花田清輝論(完)(宮内豊)
自己意識の可変性(亀井秀雄)
感覚の鏡--吉行淳之介論(8)(川村二郎)
未成の夢--大江健三郎論(5)(川西政明)
「剽窃」を考え直す(佐々木基一)
長兄・平野謙のこと(平野徹)
〈新著月評〉事実と表現のあいだ(中野孝次)
林京子『ギヤマン・ビードロ』/開高健『ロマネ・コンティ・1935 年』
〈創作合評 32〉モチーフと表現「淵の声」中村昌義/「坂の上の闇」富岡多恵子
(藤枝静男・秋山駿・黒井千次)
昭和 53(1978)年 8 月 1 日発行(講談社)

3215) 「群像」 7 月特大号 1978

〈新短篇連作〉光の領分(津島佑子)
与那国の母(畑山博)/坂の上の闇(富岡多恵子)/深い淵(田久保英夫)
湖の光(竹西寛子)/言霊(杉本研士)/紙屋盛衰(中里喜昭)/再会(佐々木基一)
〈網野菊追悼〉弔辞(円地文子)/紅色の匂袋(広津桃子)
ある殉死--花田清輝論(6)(宮内豊)
感覚の鏡--吉行淳之介論(7)(川村二郎)
〈新著月評〉文学史の技術(亀井秀雄)
松原新一・磯田光一・秋山駿『戦後日本文学史・年表』
庄野潤三『水の都』/瀬沼茂樹『日本文壇史』19 卷～23 卷

佐多稲子『由縁の子』
〈創作合評 31〉小説の今日的感受性「海を感じる時」中沢けい
(藤枝静男・秋山駿・黒井千次)
昭和 53(1978)年 7 月 1 日発行(講談社)

3216) 「群像」 6 月特大号 1978

〈第 21 回群像新人文学賞発表〉

選評(佐々木基一・佐多稲子・島尾敏雄・丸谷才一・吉行淳之介)

〈小説当選作〉永遠に一日(小幡亮介)

〈小説当選作〉海を感じる時(中沢けい)

幸せの陽だまり(佐木隆三)/ 歌幻燈(野坂昭如)/ 階段(田久保英夫)

〈平野謙追悼〉平野謙を悼む(尾崎一雄)/ 平野謙さんをしのぶ(佐多稲子)

平野さんのこと(円地文子)/ 選考と論争(大岡昇平)

名人業(杉浦明平)/ 遺影(芝木好子)/ 水漏れ(井上光晴)

わが師平野謙(佐々木基一)/ 平野謙を弔ふ(寺田透)

「中途半端性のオリジナリティ」(小田切秀雄)

〈座談会〉平野謙・人と文学(藤枝静男・本多秋五・埴谷雄高・野間宏・荒正人)

〈江戸文学問わず語り(完)〉むすび--俳句のことなど(円地文子)

未成の夢--大江健三郎論(4)(川西政明)

ある殉死--花田清輝論(5)(宮内豊)

感覚の鏡--吉行淳之介論(6)(川村二郎)

〈新著月評〉小説のありか(菅野昭正)

寺田透『ドストエフスキーを読む』/ 三木卓『かれらが走りぬけた日』

小佐井伸二『白い伽藍のある遠景』/ 阿部昭『過ぎし楽しき年』

月村敏行『埴谷雄高論』

〈創作合評 30〉「小説家」とはなにか「雲」富岡多恵子/ 「南風」津島佑子
「赫髪」中上健次(藤枝静男・秋山駿・黒井千次)

昭和 53(1978)年 6 月 1 日発行(講談社)

3217) 「群像」 5 月特大号 1978

〈新鋭長篇一挙掲載・325 枚〉静かな生活(森本等)

冬の手紙(黒井千次)/ 跡目埋葬(野坂昭如)

路上(田久保英夫)/ 柚子の花(小沼丹)

持続・内面・性(月村敏行)

遷東--永井荷風(9)(磯田光一)

未成の夢--大江健三郎論(3)(川西政明)

ある殉死--花田清輝論(4)(宮内豊)

感覚の鏡--吉行淳之介論(5)(川村二郎)

〈新著月評〉土俗文学の真偽と私小説の差いと(奥野健男)

中上健次『化粧』/ 矢代静一『妖かし』

野口富士男『かくてありけり』/ 梅原稜子『夕風の河口』

〈第 21 回群像新人文学賞予選通過作品発表〉

〈創作合評 29〉「小説家」とはなにか 「秘儀」高橋たか子

「あづまの鑑」阪田寛夫/ 「椋鳥」古井由吉(小島信夫・磯田光一・河野多恵子)

昭和 53(1978)年 5 月 1 日発行(講談社)

3218) 「群像」 4 月特大号 1978

〈新短篇連作・雨飾り 1〉鍵束(田久保英夫)

〈新中篇連作・同心円 1〉二坪七合七勺(野坂昭如)

雉鳩帰る(藤枝静男)/ 神戸(佐々木基一)

麗しの五月に(阪田寛夫)/ 秘儀(高橋たか子)

消し去られた無人称--感性の変革(1)(亀井秀雄)

未成の夢--大江健三郎論(2)(川西政明)

ある殉死--花田清輝論(3)(宮内豊)
感覚の鏡--吉行淳之介論(4)(川村二郎)
〈新著月評〉私と非・私のあいだ(中野孝次)
井上靖『わだつみ』ⅠⅡⅢ/宮内寒彌『七里ヶ浜』
阪田寛夫『それぞれのマリア』/中里恒子『うつつ川』
〈第21回群像新人文学賞予選通過作品発表〉
〈創作合評28〉「小説家」とはなにか 「雪ふる年よ」中野孝次
「遠足の秋」坂上弘(小島信夫・磯田光一・河野多恵子)
昭和53(1978)年4月1日発行(講談社)

3219) 「群像」3月号1978

和宮様御留(完)(有吉佐和子)
施餓鬼(笠原淳)/雪のあと(大原富枝)
破魔矢(吉村昭)/客(近藤弘俊)
〈新連載〉未成の夢--大江健三郎論(1)(川西政明)
ある殉死--花田清輝論(2)(宮内豊)
感覚の鏡--吉行淳之介論(3)(川村二郎)
〈新著月評〉目当てのない純文学(亀井秀雄)
奥野健男『島尾敏雄』/小林秀雄『本居宣長』/古井由吉『哀原』
〈創作合評27〉「未決算の過去」について「ギヤマン・ビードロ」林京子
(木下順二・高橋英夫・三木卓)
昭和53(1978)年3月1日発行(講談社)

3220) 「群像」2月号1978

〈ギヤマン・ビードロ最終回〉野に(林京子)
花いちもんめ(三浦哲郎)/九官鳥(伊藤桂一)
〈座談会〉戦後文学史(秋山駿・磯田光一・松原新一)
個人的な問題--転換期への認識(中島梓)
銀座復興--永井荷風(8)(磯田光一)
感覚の鏡--吉行淳之介論(2)(川村二郎)
〈新連載〉ある殉死--花田清輝論(宮内豊)
〈新著月評〉境界の内と外(菅野昭正)
秋山駿『知れざる炎』/岡松和夫『鉢をかづく女』
中里恒子『時雨の記』/李恢成『禁じられた土地』
〈創作合評26〉女流文学のかたち「由縁の子」佐多稲子/「淡交」大庭みな子
「歓びの島」津島佑子(木下順二・高橋英夫・三木卓)
昭和53(1978)年2月1日発行(講談社)

3221) 「群像」1月特大号1978

〈新連載〉生々死々(野間宏)
〈新連載〉初めの愛(坂上弘)
うとましい人(丹羽文雄)/孫の手(中里恒子)/播り鉢の底の町(佐々木基一)
四十雀(小沼丹)/向島へ(飯田章)/無明(林京子)
〈新連載〉続あの日この日(尾崎一雄)
〈新連載〉感覚の鏡--吉行淳之介論(1)(川村二郎)
戦後と文学の本質(月村敏行)
ロレンス・ダレル論(本村敏雄)
〈江戸文学問わず語り11〉上田秋声(1)(円地文子)
〈対談〉アメリカについて(安岡章太郎・柄谷行人)
〈昭和52年度野間文芸賞の決定〉中島健蔵『回想の文学』(1)~(3)(平凡社刊)
〈第9回亀井勝一郎賞の決定〉該当作なし
〈新著月評〉遡上する原風景(奥野健男)
黒井千次『禁域』/大原富枝『信従の海』/三浦哲郎『おらんだ帽子』

〈創作合評 25〉文学のテーマたり得るもの「過ぎし楽しき年」阿部昭
「影」林京子(木下順二・高橋英夫・三木卓)
昭和 53(1978)年 1 月 1 日発行(講談社)

3222) 「群像」12月号 1977

双眼鏡(庄野潤三)/ 影(林京子)
〈新鋭特集〉(143 枚) 四季(山川健一)/ (103 枚) 蓮の実(杉本研士)
(77 枚) 沈黙の響き--井上良雄を中心として(羽原譲)
〈和田芳恵追悼〉和田さんの塩煎餅(吉行淳之介)
和田芳恵さんと彼の文学(野口富士男)
月下美人--和田芳恵臨終記(吉岡実)
和田芳恵さんのこと(竹西寛子)
和田芳恵--厭世と立志(勝又浩)
〈江戸文学問わず語り 10〉平賀源内の「根無草」(円地文子)
〈新著月評〉事実から真実へ(高橋英夫) 丸谷才一『文章読本』
島尾敏雄『死の棘』/ 大岡昇平『事件』
畑山博『石の母』/ 森本等『或る回復』
〈創作合評 24〉〈他者〉との関係「赤ん坊の生まれない日」三田誠広
「妄想」中村光夫/ 「雨の日に」広津桃子(上田三四二・黒井千次・柄谷行人)
昭和 52(1977)年 12 月 1 日発行(講談社)

3223) 「群像」11月号 1977

初めての海(畑山博)/ 猫のなかみ(阪田寛夫)
庭の生きものたち(藤枝静男)/ 鳳仙花(吉村昭)
友よ(林京子)/ 雨の日に(広津桃子)
偏奇館の雨--永井荷風(7)(磯田光一)
〈江戸文学問わず語り 9〉江戸歌舞伎(2)--河竹黙阿弥(円地文子)
「大阪の作家」の話から(小田実)
〈新著月評〉景色、人、そして旅(大橋健三郎) 小田実『列入列景』
辻邦生『時の終りへの旅』/ 高井有一『観察者の力』
〈創作合評 23〉小説の中の生と死 「悲しいだけ」藤枝静男
「池沼」古井由吉/ 「記録」林京子(上田三四二・黒井千次・柄谷行人)
昭和 52(1977)年 11 月 1 日発行(講談社)

3224) 「群像」10月特大号 1977

悲しいだけ(藤枝静男)/ 老残日記(中谷孝雄)
文壇太平記(杉浦明平)/ 雪と潮(野口富士男)/ 記録(林京子)
槿花[きんか](小沼丹)/ 小さな町(三浦哲郎)/ 鯛の町(佐々木基一)
ゴッホの墓(芝木好子)
〈短篇連作 実験的生活(完)〉極道志願(佐木隆三)
〈江戸文学問わず語り 8〉江戸歌舞伎(1)--四世鶴屋南北(円地文子)
思想における秘教と公教--吉本隆明私論(宮内豊)
〈新著月評〉人生の光景(菅野昭正) 阪田寛夫『花陵』/ 秋山駿『架空のレッスン』
三田誠広『僕って何』/ 河野多恵子『砂の檻』/ 津島佑子『草の臥所』
〈創作合評 22〉体験と創造 「信従の海」大原富枝/ 「鳥屋の日々」中野孝次
「湖に墜ちた流星」山川健一(上田三四二・黒井千次・柄谷行人)
昭和 52(1977)年 10 月 1 日発行(講談社)

3225) 「群像」9月特大号 1977

〈群像新人文学賞受賞第一作〉
〈小説部門優秀作受賞者〉湖に墜ちた流星(山川健一)
〈評論部門新人賞受賞者〉表現の変容(中島梓)
信従の海(大原富枝)/ 帰る(林京子)

北海帰線(佐木隆三)/ 墓まいり(川崎長太郎)
草宴(完)(瀬戸内晴美)/ 霧の旅(完)(大庭みな子)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論(完)(小笠原克)
〈江戸文学問わず語り 7〉一九・三馬・川柳(円地文子)
隠遁の構造--本多秋五論(勝又浩)
〈新著月評〉過去への旅(上田三四二) 中里恒子『ダイヤモンドの針』
佐々木基一『まだ見ぬ街』/ 高橋たか子『ロンリー・ウーマン』
〈創作合評 21〉小説の美意識 「天の湖」高橋たか子/ 「伏拝」中上健次
(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
昭和 52(1977)年 9 月 1 日発行(講談社)

3226) 「群像」 8 月特大号 1977
怒れど 犬(高橋三千綱)/ 花を撒く(津島佑子)
頑斎爆発(富士正晴)/ 響(林京子)/ カムイ橋(佐木隆三)
堰の蛇(笠原淳)/ 焦土(島村利正)
〈随筆〉素人心理学(福田宏年)
〈戦後派作家論シリーズ〉幻視の根源 埴谷雄高論(完)(月村敏行)
花柳小説の位置(下)--永井荷風(6)(磯田光一)
〈江戸文学問わず語り 6〉馬琴雑記(5)(円地文子)
隠遁の構造--本多秋五論(勝又浩)
〈新著月評〉アイデアと現実(高橋英夫) 辻邦生『春の戴冠』/ 中上健次『枯木灘』
〈創作合評 20〉生存の底にあるもの 「蕪の翳り」杉本研士
「冬の出立」中村昌義/ 「黄砂」林京子 (野間宏・佐々木基一・秋山駿)
昭和 52(1977)年 8 月 1 日発行(講談社)

3227) 「群像」 7 月特大号 1977
〈新連載〉その人の名はヨシュア(曾野綾子)
〈街の眺め〉野球見物(川村二郎)
〈新人・101 枚〉蕪の翳り(杉本研士)
白日鈔(野口富士男)/ よめな摘み(阪田寛夫)
ドビン嬢(小沼丹)/ 相撲料理(佐木隆三)/ 妻の犬(吉行理恵)/ 黄砂(林京子)
〈江戸文学問わず語り 5〉馬琴雑記(4)(円地文子)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論 7(小笠原克)
幻視の根源 埴谷雄高論 19(月村敏行)
〈新著月評〉全体・歴史・性(菅野昭正) 井上光晴『未成年』
平野謙『昭和文学私論』/ 野呂邦暢『諫早菖蒲日記』/ 和田芳恵『暗い流れ』
〈創作合評 19〉「新しい波」をめぐって 「鏡の中のガラスの船」山川健一
「とても自然な、怯え方」倉内保子(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
昭和 52(1977)年 7 月 1 日発行(講談社)

3228) 「群像」 6 月特大号 1977
〈第 20 回群像新人文学賞発表〉
選評(井上光晴・遠藤周作・小島信夫・埴谷雄高・福永武彦)
〈評論当選作〉文学の輪郭(中島梓)
〈小説優秀作〉鏡の中のガラスの船(山川健一)
〈小説優秀作〉とても自然な、怯え方(倉内保子)
疑問符(小田実)/ 青年たち(林京子)
あの大変(佐木隆三)/ 幾波回想(小川国夫)
〈随筆〉下人連(駒田信二)
恩賜賞受賞のこと(平野謙)
花柳小説の位置(上)--永井荷風(5)(磯田光一)
〈江戸文学問わず語り 4〉馬琴雑記(3)(円地文子)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論 6(小笠原克)

幻視の根源 埴谷雄高論 18(月村敏行)
〈新著月評〉日本および日本人の姿(大橋健三郎) 富岡多恵子『当世凡人伝』
高井有一『冬の明り』/宇野千代『水西書院の娘』
〈創作合評 18〉小説の空間「海の向こうで戦争が始まる」村上龍
「かまきりの指」井出孫六(森 敦・川村二郎・田久保英夫)
昭和 52(1977)年 6 月 1 日発行(講談社)

3229) 「群像」 5 月特大号 1977

〈長篇一挙掲載 250 枚〉海の向こうで戦争が始まる(村上龍)
ネヴァ河、ヴォルガ河(大原富枝)/ 蛹[さなぎ](畑山博)
平林さんの体(耕治人)/ ギヤマン・ビードロ(林京子)
寒梅来る(佐木隆三)/ 島の春(吉村昭)
ゆれる父親--平野謙「芸術と実生活」論(羽原譲)
〈追悼〉竹内好の追想(埴谷雄高)
〈随筆〉憂き世(富士正晴)
〈江戸文学問わず語り 3〉馬琴雑記(2)(円地文子)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論 5(小笠原克)
幻視の根源 埴谷雄高論 17(月村敏行)
〈新著月評〉原点へのこだわり(上田三四二)
黒井千次『五月巡歴』/ 大庭みな子『浦島草』/ 高橋三千綱『彼の初恋』
中村昌義『静かな日』/ 井伏鱒二『スガレ追ひ』
〈創作合評 17〉小説の核心「たとえば風に向かって」高橋三千綱
「果実のある部屋」黒井千次/「吊橋」高橋たか子
(森 敦・川村二郎・田久保英夫)
第 20 回群像新人賞予選通過作品発表
昭和 52(1977)年 5 月 1 日発行(講談社)

3230) 「群像」 4 月特大号 1977

たとえば風に向かって(高橋三千綱)
ないふりて(野口富士男)/ 離郷(三浦哲郎)/ 尾道(佐々木基一)
弟(森本等)/ 金比羅山(林京子)/ ミサの朝(佐木隆三)
〈江戸文学問わず語り 2〉馬琴雑記(1)(円地文子)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論 4(小笠原克)
幻視の根源 埴谷雄高論 16(月村敏行)
〈新著月評〉雑纂の精神(高橋英夫) 寺田透『無名の内面』/
饗庭孝男『太宰治論』/ 水上勉『寺泊』/ 古井由吉『女たちの家』
〈創作合評 16〉血縁と神話「枯木灘」中上健次/「空罐」林京子
(森 敦・川村二郎・田久保英夫)
昭和 52(1977)年 4 月 1 日発行(講談社)

3231) 「群像」 2 特大号 1977

(190 枚) 草の臥所(津島佑子)
壁(広川禎孝)/ 鏡の壁(佐木隆三)/ 轍(阪田章)
〈戦後派作家論シリーズ〉個我の集合性(完)(亀井秀雄)
冷笑の構造--永井荷風(4)(磯田光一)
〈戦後派作家論シリーズ〉《日本》への螺旋 野間宏論 2(小笠原克)
幻視の根源 埴谷雄高論 14(月村敏行)
〈新著月評〉夢を飼う術(菅野昭正)
川村二郎『チャンドスの城』/ 森内俊雄『羊水花』
小檜山博『出刃』/ 島尾敏雄『日の移ろい』
〈創作合評 14〉想像力を導く力「赤牛」古井由吉/「見知らぬ男」河野多恵子
「夜の警官」吉行淳之介/「雨霧」佐多稲子(森 敦・川村二郎・田久保英夫)
昭和 52(1977)年 2 月 1 日発行(講談社)

3232) 「群像」 1 特大号 1977

<新連載>和宮様御留(有吉佐和子)

夜よ おれを叫びと逆毛で充す 青春の夜よ(清水邦夫)

傘の雪(中里恒子)/ 善福寺川(大原富枝)/ 赤坂、静岡、神楽坂(野口富士男)

隅田川べり(芝木好子)/ 辛苦の糧(佐木隆三)/ 冬の日(水上勉)

<戦後派作家論シリーズ>《日本》への螺旋 野間宏論 1(小笠原克)

『死の棘』論--極限状況と持続の文学(奥野健男)

<戦後派作家論シリーズ>個我の集合性 大岡昇平論 7(亀井秀雄)

幻視の根源 埴谷雄高論 13(月村敏行)

<昭和 51 年度野間文芸賞の決定>武田泰淳『目まいのする散歩』(中央公論社刊)

三浦哲郎『拳銃と十五の短篇』(講談社刊)

<第八回亀井勝一郎賞の決定>前田愛『成島柳北』(朝日新聞社刊)

<新著月評>小説の時空(上田三四二) 大江健三郎『ピンチランナー調書』

尾崎一雄『単線の駅』/ 山室静『晩秋記』/ 上林暁『極楽寺門前』

<創作合評 14>「語り」について 「人称代名詞」野坂昭如

「当世凡人伝」富岡多恵子(森 敦・川村二郎・田久保英夫)

昭和 52(1977)年 1 月 1 日発行(講談社)

3233) 「群像」 12 月特大号 1976

<296 枚一挙掲載>人称代名詞(野坂昭如)

十三歳の旅(高橋三千綱)/ 赤い月(吉村昭)/ 蜘蛛(吉行理恵)

<当世凡人伝最終回>娘(富岡多恵子)

夏目漱石の逝去--日本文壇史最終回(瀬沼茂樹)

<追悼・武田泰淳>武田泰淳・人と作品(大岡昇平・埴谷雄高・野間宏)

武田ドストエフスキー v.s. 佐々木チェーホフ(佐々木基一)

泰淳さんの精神構造(中村真一郎)

「生き永らえる」力・あるいは、革命について(小田実)

苦しみを求める心(立石伯)

<戦後派作家論シリーズ>個我の集合性 大岡昇平論 6(亀井秀雄)

幻視の根源 埴谷雄高論 12(月村敏行)

<新著月評>小説の容量(本村敏雄) 円地文子『彩霧』/ 畑山博『海に降る雪』

<創作合評 12>「現実」に対する視点「おらんだ帽子」三浦哲郎

「ラブ・ストオレイ」小田実/ 「案内人」安部公房

(磯田光一・黒井千次・高橋英夫)

群像総目次(50・1～51・12)

昭和 51(1976)年 12 月 1 日発行(講談社)

3234) 「群像」 11 月特大号 1976

(203 枚)金鳳鳥--父・金子光晴に捧げる(森 乾)

ラブ・ストオレイ(小田実)/ 見知らぬ町(長部日出雄)

<当世凡人伝 11>立切れ(富岡多恵子)/ <実験的生活 2>堅陣益々(佐木隆三)

<随筆>中年過ぎて(福田宏年)

夏目漱石の晩年(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

<戦後派作家論シリーズ>個我の集合性 大岡昇平論 5(亀井秀雄)

幻視の根源 埴谷雄高論 11(月村敏行)

<新著月評>場所の感覚について(大橋健三郎) 野坂昭如『1945・夏・神戸』

高井有一『夢の碑[いしぶみ]』/ 三浦哲郎『拳銃と十五の短篇』

<創作合評 11>「現代」にかかわる小説「黄昏の力」開高研

「哀原」古井由吉/ 「ピンチランナー調書」大江健三郎

(磯田光一・黒井千次・高橋英夫)

昭和 51(1976)年 11 月 1 日発行(講談社)

3235) 「群像」創刊 30 周年記念 10 月特別号 1976

〈創作特集〉

早稲田界限(尾崎一雄)/ 山荘(丹羽文雄)/ 問わず語り(円地文子)
路のきわ(佐多稲子)/ 背水の日(中里恒子)/ 出てこい(藤枝静男)
生々と死々(野間宏)/ 夢屑(島尾敏雄)/ 写真屋(庄野潤三)
うしろ姿(遠藤周作)/ 傷(吉行淳之介)/ 木菟燈籠(小沼丹)
想う男(井上光晴)/ 他人の戸口(河野多恵子)/ 黄昏の力(開高健)
夢二つ(清岡卓行)/ 頬紅(三浦哲郎)/ 海馬(田久保英夫)
海からの風(阿部昭)/ 幾波行き(小川国夫)/ 祖母の憂鬱(坂上弘)
雨(林京子)/ 翔べないイナゴ(森本等)

〈新連載〉草宴(瀬戸内晴美)

〈新連載〉霧の旅(大庭みな子)

〈新連載・実験的生活 1〉生命の音(佐木隆三)

〈当世凡人伝 10〉幼友達(富岡多恵子)

日本文学史早わかり(98 枚)(丸谷才一)

有島武郎と中条百合子(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

〈戦後派作家論シリーズ〉個我の集合性 大岡昇平論 4(亀井秀雄)

幻視の根源 埴谷雄高論 10(月村敏行)

〈新著月評〉冷たく熱い戦慄(平岡篤頼) 高橋たか子『誘惑者』

田久保英夫『髪の環』/ 阿部昭『人生の一日』/ 森万紀子『緋の路』

〈創作合評 10〉記憶・現実・創造「鶴[とき]色の武勲詩」神山圭介

「天の棍棒」岡松和夫/ 「吉野川」大原富枝

(磯田光一・黒井千次・高橋英夫)

ひとつの役割--「群像」の 30 年(小田切進)

昭和 51(1976)年 10 月 1 日発行(講談社)

3236) 「群像」9 月特大号 1976

吉野川(大原富枝)/ 天の棍棒(岡松和夫)

オシリスの死んだ日(畑山博)/ 夕凍み(高井有一)

〈当世凡人伝 9〉幸福(富岡多恵子)

沈んだ寺(吉行理恵)

チャンドスの城(完)--文学と夢についての試論(川村二郎)

〈随筆〉森銑三の一代男論(谷沢永一)

飢え・寒さ・営倉(本村敏雄)

志賀直哉と里見弴(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

〈戦後派作家論シリーズ〉個我の集合性 大岡昇平論 3(亀井秀雄)

幻視の根源 埴谷雄高論 9(月村敏行)

〈新著月評〉存在の揺らぎと重さ(高橋英夫) 尾崎一雄『蜜蜂が降る』

武田泰淳『目まいのする散歩』/ 清岡卓行『夢を植える』/ 坂上弘『優しい人々』

〈創作合評 9〉現代小説における私

「在らざるにあらざ」藤枝静男/ 「茫」小田実

(佐多稲子・佐伯彰一・上田三四二)

昭和 51(1976)年 9 月 1 日発行(講談社)

3237) 「群像」8 月特大号 1976

在らざるにあらざ(藤枝静男)

〈列人列景その 3〉茫(小田実)

同行百歳(山口瞳)/ 金魚(吉村昭)/ 声の網(森内俊雄)

〈当世凡人伝 8〉笑い男(富岡多恵子)

〈随筆〉不適合(富士正晴)

〈作家小論〉花田清輝さんのお墓(井出孫六)

隅田川考--永井荷風(3)(磯田光一)

Chandrosの城(11)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 武者小路実篤と長与善郎(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <戦後派作家論シリーズ>個私の集合性 大岡昇平論 2(亀井秀雄)
 幻視の根源 埴谷雄高論 8(月村敏行)
 <新著月評>創造の秘密(本村敏雄) 古井由吉『聖[ひじり]』
 大岡昇平『文学における虚と実』/高橋英夫『元素としての「私」』
 <創作合評 8>女流作家の過去と現在 「人形愛」高橋たか子
 「木の手」瀬戸内晴美/「落花」広津桃子(佐多稲子・佐伯彰一・上田三四二)
 昭和 51(1976)年 8 月 1 日発行(講談社)

3238) 「群像」 7月号 1976

<新連載>見果てぬ夢(李恢成)/坂道(中里恒子)
 人形愛(高橋たか子)/落花(広津桃子)
 燃える盆(高良留美子)/背後の人(小松紀夫)
 <当世凡人伝 7>ワンダー・ランド(富岡多恵子)
 <街の眺め>猥褻裁判への杞憂(河野多恵子)
 <戦後派作家論シリーズ>個私の集合性 大岡昇平論 1(亀井秀雄)
 <随筆>話さなかつた話(駒田信二)
 飢えと旅人--梅崎春生論(勝又浩)
 「吉本隆明著作集」について(川上春雄)
 Chandrosの城(10)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 「新思潮の三尊」(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 7(月村敏行)
 <新著月評>「時」を繋ぎとめるもの(大橋健三郎) 佐多稲子『時に佇つ』
 藤枝静男『田紳有楽』/丸山健二『火山の歌』
 <創作合評 7>新人について 「限りなく透明に近いブルー」村上龍
 「道」林京子(佐多稲子・佐伯彰一・上田三四二)
 昭和 51(1976)年 7 月 1 日発行(講談社)

3239) 「群像」 6月号 1976<欠?>

昭和 51(1976)年 6 月 1 日発行(講談社)

3240) 「群像」 5月号 1976

「一番」(小沼丹)/ (195 枚)親父の年頃(高橋三千綱)
 海豹[あざらし](吉行理恵)/中身(森本等)
 <当世凡人伝 5>花(富岡多恵子)
 <随筆>マイクロフィッシュのこと(小田切進)
 俘囚の歌--闇の時代のはじまり(本村敏雄)
 もう一つの西洋--永井荷風(2)(磯田光一)
 <戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 5(月村敏行)
 宗教と思想 武田泰淳論 5(立石伯)
 <作家小論>内田百閒の育ち方(山口瞳)
 Chandrosの城(8)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 森林太郎と上田敏(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <第 19 回群像新人文学賞予選通過作品発表>
 <第 10 回吉川英治文学賞発表>五木寛之『青春の門(筑豊篇ほか)』(講談社刊)
 <第 10 回吉川英治文化賞発表>
 (大江巳之助・鈴木セイ・高垣昕二・永松カズ・馬場脩)
 <新著月評>出発と生還(高橋英夫) 吉行淳之介『恐ろしい場所』
 岡松和夫『志賀島』/中上健次『岬』/中野孝次『ブリュールへの旅』
 <創作合評 5>「私小説」をめぐる 「短篇連作」村上龍
 「雪みち」水上勉(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
 昭和 51(1976)年 5 月 1 日発行(講談社)

3241) 「群像」 4月特大号 1976
 片隅にひとりよ(畑山博)/ 箱の中(中里恒子)/ 蔓の実(梅原稜子)
 <街の眺め>言葉あそびとしての小説(丸谷才一)
 雪みち(水上勉)/ 夢を嵌める(清岡卓行)/ 旅先(川崎長太郎)
 父の空白(長部日出雄)/ 道(森万紀子)/ 羊水花(森内俊雄)
 <短篇連作 16(最終回)>化粧(三浦哲郎)
 <当世凡人伝 4>魚の骨(富岡多恵子)
 チンドスの城(7)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 永井荷風、三田を去る(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 4(月村敏行)
 文学と革命 武田泰淳論 4(立石伯)
 <新著月評>回顧と幻想(本村敏雄) 長谷川四郎『長い長い板塀』
 円地文子『川波抄』/ 大岡昇平『わが文学生活』/ 臼井吉見『田螺のつぶやき』
 <創作合評 4>「俗」について 「石の夢」小川国夫
 「夜の香り」古井由吉(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
 昭和 51(1976)年 4月 1日発行(講談社)

3242) 「群像」 3月特大号 1976
 もうひとつの青春(佐木隆三)/ 冬の陽(岡松和夫)/ 薔薇くひ姫(森茉莉)
 平均六十五歳(三浦朱門)/ 隅田川(島村利正)/ 石の夢(小川国夫)
 <列人列景その 2>墓と火(小田実)
 <当世凡人伝 3>富士山に見える家(富岡多恵子)
 たけのこ狩り(三浦哲郎)
 <作家小論>私の浅見淵(高井有一)
 チンドスの城(6)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 赤木桁平と遊蕩文学(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 3(月村敏行)
 滅亡と天啓 武田泰淳論 3(立石伯)
 <船橋聖一追悼>舟橋さんとのあれこれ(佐多稲子)/
 追悼・船橋聖一(吉行淳之介)
 忘れがたい人(水上勉)/ 舟橋先生との縁(芝木好子)
 耽美と闘魂の人(野口富士男)
 <檀一雄追悼>漂泊の詩人檀一雄(中谷孝雄)
 <新著月評>事実・真実・想像力(大橋健三郎) 李恢成訳・金芝河『不帰』
 吉本隆明『島尾敏雄』/ 臼井吉見『一つの季節』/ 中村光夫『ある愛』
 <創作合評 3>叙情を断ちきること 「なんじゃもんじゃの面」林京子
 「路地」中上健次(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
 昭和 51(1976)年 3月 1日発行(講談社)

3243) 「群像」 2月号 1976
 なんじゃもんじゃの面(林京子)/ 田紳有楽(終節)(藤枝静男)
 メロンと鳩(吉村昭)/ ある失踪(勝木康介)/ 路地(中上健次)
 <当世凡人伝 2>子どもの絵(富岡多恵子)
 鼠小僧(三浦哲郎)
 永井荷風(1)(磯田光一)
 元素としての「私」--私小説序論(高橋英夫)
 <随筆>近事片々(富士正晴)
 <作家小論>中野鈴子の証言性(澤地久枝)
 チンドスの城(5)--文学と夢についての試論(川村二郎)
 岩野泡鳴の別居問題(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
 <戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 2(月村敏行)
 歴史と人間 武田泰淳論 2(立石伯)

<新著月評>内なる<私>の戦い(平岡篤頼) 檀一雄『火宅の人』
小沼丹『藁屋根』/ 耕治人『うずまき』/ 大岡昇平『少年』
<創作合評3>日常性をめぐって 「復讐するは我にあり」佐木隆三
(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
昭和 51(1976)年 2 月 1 日発行(講談社)

3244) 「群像」 1 月特大号 1976

<新連載・当世凡人伝 1>葉のひき出し(富岡多恵子)
<創作特集>
他生の縁(円地文子)/ 市松人形(網野菊)/ 枯木の雪(中谷孝雄)
ダイヤモンドの針(中里恒子)/ 現代の宿り木(中村真一郎)
かたつむり(庄野潤三)/ 夢を植える(清岡卓行)/ 輪の中(山口瞳)
天使が見たもの(阿部昭)/ 歯(野呂邦暢)/ 猫(森内俊雄)/ 桃の園(金井美恵子)
雷魚(高橋三千綱)/ 凧(三浦哲郎)
「問わずがたり」考--事実とフィクションの間に(大岡昇平)
<作家小論>木山さんの磁力(長部日出雄)
チャンドスの城(4)--文学と夢についての試論(川村二郎)
葉山事件まで(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<新人創作季評>風景の意味(本村敏雄)
<昭和 50 年度野間文芸賞の決定>尾崎一雄『あの日この日』(上・下)(講談社刊)
平野謙『さまざまな青春』(平野謙全集第六卷)(新潮社刊)
<第 7 回亀井勝一郎賞の決定>上田三四二『眩暈を鎮めるもの』(河出書房)
上原 和『斑鳩の白い道のうえに』--聖徳太子論(朝日新聞社)
<新連載・戦後派作家論シリーズ>幻視の根源 埴谷雄高論 1(月村敏行)
存在と倫理 武田泰淳論 1(立石伯)
<新著月評>言葉への旅(高橋英夫) 山崎正和『藝術・変身・遊戯』
丸谷才一『星めがね』/ 長田弘『見よ、旅人よ』
<創作合評 2>日常性をめぐって「時に佇つ」佐多稲子/ 「石の母」畑山博
(野間宏・佐々木基一・秋山駿)
昭和 51(1976)年 1 月 1 日発行(講談社)

3245) 「群像」 12 月特大号 1975

<創作特集>
(100 枚)石の母(畑山博)/ (120 枚)花電車(小田実)
陽なたきの子(阪田寛夫)/ あなたまかせ(竹西寛子)
髪の環(田久保英夫)/ 水仙(三浦哲郎)
<座談会>1975 年文学の状況(秋山駿・高橋英夫・川村二郎・上田三四二)
<対談>批評・言葉・世界(吉本隆明・秋山駿)
象徴と全体--古井由吉『櫛の火』をめぐって(菅野昭正)
チャンドスの城(3)--文学と夢についての試論(川村二郎)
<創作月評>ゲマインシャフトとゲゼルシャフト(上田三四二)
伊藤野枝の『青鞥』(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<新著月評>「語り」の言葉について(大橋健三郎) 円地文子『本のなかの歳月』
藤枝静男『異床同夢』/ 野坂昭如『ぼくの余罪』
<座談会>《昭和の文学》
梅崎春生--知的屈折を経た私小説(佐々木基一・小島信夫・野呂邦暢)
昭和 50(1975)年 12 月 1 日発行(講談社)

3246) 「群像」 11 月号 1975

<創作特集>
相似(伊藤桂一)/ 黄塵(阪井洋一)/ 針の穴(吉行理恵)
傀儡子[くぐつ](長部日出雄)/ <新人>このバスははやすぎる(速水洋子)
義妹(三浦哲郎)

<評論特集>井伏鱒二論(高橋英夫)
末期の眼--リアリズムと自然(岡庭昇)
豊島与志雄論--意欲と純粹(勝又浩)
表現衝動と自己肯定--現代小説に於ける「私」(藤林靖晃)
チャンドスの城(2)--文学と夢についての試論(川村二郎)
藤森成吉と上司小剣(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<創作月評>血と夢(上田三四二)
<新著月評>ふしぎな視力(亀井秀雄) 藤枝静男『小感軽談』
若杉慧『長塚節素描』/深沢七郎『無妙記』/竹山道雄『みじかい命』
<座談会>《昭和の文学》三島由紀夫(佐伯彰一・上田三四二・磯田光一)
昭和 50(1975)年 11 月 1 日発行(講談社)

3247) 「群像」 10 月号 1975

<短篇小説特集>
七つの夢(清岡卓行)/胡桃(小沼丹)/遠雷(川崎長太郎)
花のふる日(結城信一)/深夜の声(山田智彦)/日暮れて道遠し(富士正晴)
長い長い板塀(長谷川四郎)/闇(三浦哲郎)
電線(飯田章)/酸漿[ほおずき](小松紀夫)
<新連載>チャンドスの城--文学と夢についての試論(川村二郎)
政治の季節(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
(105 枚)モンテーニュの石(西村 亘)
<創作月評>異郷と故郷(上田三四二)
<新著月評>懐古と現在(磯田光一) 中野重治『わが国 わが国びと』
野口富士男『わが荷風』/村松剛『死の日本文学史』
川村二郎『懐古のトポス』/塚本邦雄『藤原俊成・藤原良経』
<新人創作季評>小説の自由(本村敏雄)
<座談会>《昭和の文学》
伊藤整--多彩な文学空間(瀬沼茂樹・奥野健男・亀井秀雄)
昭和 50(1975)年 10 月 1 日発行(講談社)

3248) 「群像」 9 月号 1975

川波抄(円地文子)/日曜日(佐木隆三)/鶯(三浦哲郎)
<新鋭中篇特集>アメリカン・ブラザー(三浦清宏)
プラネタリウム(広川禎孝)/夢のブラックパンサー(本吉洋子)
彼の初恋(高橋三千綱)
<座談会>「死霊」論(秋山駿・黒井千次・月村敏行)
小説のなかの「風俗」(浜本武雄)
夏目漱石と長塚節(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<創作月評>答えとしての謎(川村二郎)
<新著月評>生きる=生かされるの弁証法(平岡篤頼)
黒井千次『眼の中の町』/竹西寛子『鶴』/高橋三千綱『退屈しのぎ』
<座談会>《昭和の文学》
高見順--時代を生きたく最後の文士>(中村真一郎・田村隆一・磯田光一)
昭和 50(1975)年 9 月 1 日発行(講談社)

3249) 「群像」 8 月特大号 1975

中国旬日--雑魚の魚まじり(永井龍男)
三つのホテルの経験--或いは変心の領域(中村真一郎)
船長泣く(吉村昭)/蟹(野呂邦暢)/楊貴妃(長谷川修)
<新人文学賞受賞第一作>二人の墓標(林京子)/土橋(三浦哲郎)
<特集 戦後三十年の文学>
<座談会>革命と文学(埴谷雄高・武田泰淳・小田実)
<エッセイ「私の戦後」>(長谷川四郎・秋本松代・木下順二・石原吉郎・

小田切秀雄・関根弘・古山高麗雄・田村隆一・上田三四二・吉行淳之介
・河野多恵子・井上光晴・竹西寛子・日野啓三・秋山駿・磯田光一・
高井有一・黒井千次・阿部昭・三木卓・富岡多恵子・亀井秀雄・庄司薫
・松原新一)

<評論>さすらう兵士たち(本村敏雄)

森鷗外の歴史小説(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

<創作月評>自己実現について(川村二郎)

<新著月評>男と女--ある相対感覚(大橋健三郎)

大庭みな子『青い狐』/吉行理恵『男嫌い』/高橋たか子『魂の犬』

<座談会>《昭和の文学》坂口安吾--その稀有な個性の全体像

(佐々木基一・野坂昭如・奥野健男)

昭和 50(1975)年 8 月 1 日発行(講談社)

3250) 「群像」 7 月号 1975

<長篇一挙掲載 270 枚>夢魔の世界「死霊」五章(埴谷雄高)

<随筆>『死霊』の掲載について(埴谷雄高)

青い鳥(三浦朱門)/或る年の秋(岡松和夫)/井戸の星(吉行理恵)

汽笛(阪井洋一)/小指(三浦哲郎)

<創作月評>暗室と外光(川村二郎)

<新著月評>自己本位と他者代弁(亀井秀雄) 秋山駿『内的生活』

柄谷行人『意味という病』/山本健吉『正宗白鳥』/佐藤忠男『長谷川伸論』

<新人創作季評>小説のひろがり(本村敏雄)

唐木順三論--自然と道徳と歴史(勝又浩)

島崎藤村の戦時通信(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

<座談会>《昭和の文学》太宰治--その個性と天賦のユーモア

(臼井吉見・阿部昭・三好行雄)

昭和 50(1975)年 7 月 1 日発行(講談社)

3251) 「群像」 6 月号 1975

<第 18 回群像新入文学賞発表>

選評(井上光晴・遠藤周作・小島信夫・埴谷雄高・福永武彦)

<小説当選作・100 枚>祭りの場(林京子)

<小説優秀作>隠された声(小松紀夫)

<評論優秀作>文学に於ける自己と所有(藤林靖晃)

(113 枚)テキサスの黄色いバラ(本吉洋子)

石段(三浦哲郎)

<座談会>ことばの根源にひそむもの(江藤淳・大野晋・鈴木孝夫)

<街の眺め>競輪場の男(井上光晴)

(135 枚)「鎖国」の文学(小田実)

<創作月評>小説のシンボル(高橋英夫)

<新著月評>体験と文体(磯田光一) 堀田善衛『ゴヤ』

島尾敏雄『夢のかげを求めて』/後藤明生『思い川』

堕ちた人間--戦後文学の遺したもの(本村敏雄)

徳富蘆花の叛逆(日本文壇史)(瀬沼茂樹)

<座談会>《昭和の文学》小林多喜二(2)--その未完の総合的な試み

(中野重治・平野謙・小笠原克)

昭和 50(1975)年 6 月 1 日発行(講談社)

3252) 「群像」 5 月号 1975

うさぎ(阪田寛夫)/ヤモリのいる部屋(日野啓三)/かくれ水(田中澄江)

梅雨の記憶(佐木隆三)/ある遠近法(福沢英敏)/川べり(三浦哲郎)

(113 枚)おれたち(高橋三千綱)

<対談>小説について(和田芳恵・吉行淳之介)

<創作月評>小説の四次元(高橋英夫)
<新著月評>イメージの間隙(平岡篤頼) 中村真一郎『四季』
安岡章太郎『私説聊齋志異』/丸谷才一『横しぐれ』
<東京微視的歩行 12(最終回)>正の世界・負の世界--塵芥の街(三木卓)
抱月・夢二・春月(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<第9回吉川英治文学賞発表>城山三郎『落日燃ゆ』(新潮社刊)
<第9回吉川英治文化賞>菅寿子氏・高橋竹山氏・中村裕氏
梁瀬義亮氏・与那嶺しづ氏

<第18回群像新人文学賞予選通過作品発表>
<座談会>《昭和の文学》小林多喜二(1)--その未完の総合的な試み
(中野重治・平野謙・小笠原克)
昭和50(1975)年5月1日発行(講談社)

3253) 「群像」4月号1975

<短篇小説特集>
病室にて(丹羽文雄)/厄落し(中里恒子)/幼なじみ(和田芳恵)/屋上(庄野潤三)
韜晦亭雑談(富士正晴)/花の中(伊藤桂一)/私の報恩(耕治人)
おおり(三浦哲郎)/田紳有楽前書き(2)(藤枝静男)
(103枚)季節風(森本等)
<対談>現代における「私」--<語ること>と<生きること>(佐伯彰一・秋山駿)
<随筆>花田清輝流の取材(井出孫六)
<創作月評>小説の時間(高橋英夫)
<新著月評>「私」の変容(大橋健三郎) 尾崎一雄『あの日この日』上下
古井由吉『櫛の火』/李恢成『追放と自由』
<新人創作季評>遙かな物音(本村敏雄)
<東京微視的歩行 11>制服の人々--渋谷・労働する女(三木卓)
室生犀星と萩原朔太郎(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<座談会>《昭和の文学》堀辰雄--多層的な持続の世界
(佐多稲子・佐々木基一・小久保実)
昭和50(1975)年4月1日発行(講談社)

3254) 「群像」3月号1975

<新鋭中篇特集>
三年目の紛失(勝木康介)/鳥籠(広川禎孝)/立春(阪井洋一)
ハッピー・バースディ(阪田章)
白い打掛(芝木好子)/河鹿(三浦哲郎)
<作家論特集> <座談会>女流作家の新傾向(上田三四二・川村二郎・平岡篤頼)
三島由紀夫--先取りする作家の「私」(佐伯彰一)
宇野千代論--生命の結晶(福田宏年)
戦後文学の「遺産」--大江健三郎の二重性(利沢行夫)
定着と風化--横光利一「街の底」(本村敏雄)
<創作月評>背後からの声(秋山駿)
<新著月評>メビウスの帯(亀井秀雄) 月村敏行『批評の原理』
吉本隆明『史的乾坤』/岡庭昇『偏執論』
<東京微視的歩行 10>空への道(三木卓)
第三次『新思潮』と『未来』(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<座談会>《昭和の文学》葉山嘉樹--根おいのプロレタリア作家
(中野重治・寺田透・浦西和彦)
昭和50(1975)年3月1日発行(講談社)

3255) 「群像」2月号1975

<新鋭女流創作特集>

(114 枚)我が父たち(津島佑子)/青空(吉行理恵)
プラトンの恋愛(金井美恵子)/<新人・214 枚>執念(杉浦愛子)
シュークリーム(三浦哲郎)
<対談>作家にとって実生活とはなにか(平野純・松本清張)
<創作月評>もう一つの視点(秋山駿)
<新著月評>玩物喪志の文学(磯田光一) 平野謙『さまざまな青春』
澁澤龍彦『人形愛序説』/井上靖『カルロス四世の家族』
塚本邦雄『百句燦爛』/吉行淳之介『鞆の中身』
<東京微視的歩行 9>氷雨の底のバザール--上野・アメ横(三木卓)
岩波書店と鈴木書店(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
意味の変容 完(森 敦)
<座談会>《昭和の文学》梶井基次郎--私小説を超えるもの
(小島信夫・高橋英夫・坂上弘)
昭和 50(1975)年 2 月 1 日発行(講談社)

3256) 「群像」 1 月特大号 1975

<対談>詩から小説へ(井上靖・野間宏)
<創作特集>(108 枚)荒神沼心中(大庭みな子)/砂丘(小川国夫)
時間割(富岡多恵子)/石の遊び(黒井千次)/疑惑(高橋たか子)
<短篇連作>拳銃(三浦哲郎)
<評論特集>兼好と時間(上田三四二)/批評の歷程(川村二郎)
志賀直哉論--不可知論とリアリズム(高橋英夫)
仮構の救世済民--竹内好論(磯田光一)/遠い眼・近い眼(柄谷行人)
<創作月評>なぜ小説なのか(秋山駿)
<新著月評>三連発銃の前で(平岡篤頼) 和田芳恵『接木の台』
瀬戸内晴美『抱擁』/坂上弘『藁のおとし穴』
<東京微視的歩行 8>浮きの境界(三木卓)
夏目漱石とその周囲(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
意味の変容 4(森 敦)
<昭和 49 年度野間文芸賞の決定>大岡昇平『中原中也』(角川書店刊)
<第 6 回亀井勝一郎賞の決定>該当作なし
<座談会>《昭和の文学》横光利一--その文学的悲劇と誠実
(河上徹太郎・寺田透・保昌正夫)
昭和 50(1975)年 1 月 1 日発行(講談社)

3257) 「群像」 12 月特大号 1974

<座談会>1974 年文学の状況--創作月評的考察
(佐伯彰一・川村二郎・上田三四二・磯田光一)
<新人文学賞受賞第一作・130 枚>酔漢の歌える(森本等)
ある濁音(清岡卓行)/鞍馬の一夜(竹西寛子)
<新人文学賞受賞第一作>昭和の人間学--三木清論(勝又浩)
<特集・花田清輝追悼>
<座談会>花田清輝・人と作品(佐々木基一・長谷部四郎・広末保)
記憶断片(中野重治)
花田清輝の出発点(平野謙)
花田清輝の日本への回帰(鶴見俊輔)
未了な生からの発言--内的生活 完(秋山駿)
意味の変容 3(森 敦)
<東京微視的歩行 7>まどろみつつ従順に--遊覧バスコース(三木卓)
<創作月評>虚構の根拠(磯田光一)
堺利彦と大杉栄(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<座談会>《日本文学通史への試み》
道元--その人間主義的哲学(古田紹欽・寺田透・森本和夫)

群像総目次(48・1～49・12)
昭和49(1974)年12月1日発行(講談社)

3258) 「群像」11月号1974

〈対談〉批評行為と批評の原理(秋山駿・川村二郎)
〈新鋭創作特集〉
(103枚)あぶら蟬(金鶴泳)/赤い帆(三浦清宏)/優しいゴウストたち(本吉洋子)
〈新人文学賞受賞第一作・112枚〉三人暮し(高橋三千綱)
亡びの道の道標、戦後文学(内村剛介)
〈創作月評〉小説と文明(磯田光一)
意味の変容2(森 敦)
〈東京微視的歩行6〉原始人への郷愁--日野・多摩動物公園(三木卓)
普通のもの無名のもの--内的生活9(秋山駿)
その後の青鞥社(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
〈花田清輝追悼〉巨大な戦闘力(野間宏)/強力な原子核(埴谷雄高)
花田さん、さようなら(佐々木基一)
〈座談会〉《日本文学通史への試み》
長明と兼行--孤独の位相の差異(寺田透・上田三四二・久保田淳)
昭和49(1974)年11月1日発行(講談社)

3259) 「群像」10月号1974

(138枚)風の通り道(畑山博)
〈短篇特集〉葡萄棚(庄野潤三)/声(山口瞳)/四百米(曾野綾子)
舌(三浦哲郎)/草の中の家(森万紀子)/文化祭(結城信一)
ラグビーの先生(小沼丹)/(新人)空色の空のした(稲沢潤子)
意味の変容(新連載)(森 敦)
〈隨筆〉名古屋で別れた一軍曹(野田宇太郎)
批評の思い上り(川村二郎)
〈創作月評〉リアリズムの振幅(磯田光一)
〈東京微視的歩行5〉蟬時雨・石・国家--本郷・東京大学(三木卓)
乾いた光の中で--内的生活8(秋山駿)
岡倉天心と平出修(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
尾崎一雄論--私小説と判断停止(高橋英夫)
〈座談会〉《日本文学通史への試み》
漱石--その宿命と相対化精神(小島信夫・佐伯彰一・越智治雄)
昭和49(1974)年10月1日発行(講談社)

3260) 「群像」9月号1974

(102枚)「繁栄」の文学(小田実)
艶笑落語傑作選(古山高麗雄)/眼(吉村昭)/犬に優れず(山本孝夫)
(116枚)労働者三十歳(佐木隆三)
マルクスその可能性の中心 完(柄谷行人)
〈書評〉『遙かなる旅へ』(長谷川修)奥野健男
『神さまの親類』(畑山博)利沢行夫
『蟻の自由』(古山高麗雄)磯田光一/『詐欺師』(金石範)岡庭昇
『風の絵本』(黒井千次)渡辺広士/『琵琶の季節』(坂上弘)後藤明生
『ウィーン・鏡の中の都』(佐々木基一)好村富士彦
〈創作月評〉「社会」「世間」「世の中」(上田三四二)
〈東京微視的歩行4〉羊齒の時間・人の時間--府中・多摩霊園(三木卓)
不安な指で搔鳴らせ--内的生活7(秋山駿)
『朱楽[ざぼん]』と『生活と芸術』(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
戦後文学の理念(宮内豊)
〈座談会〉《日本文学通史への試み》

西鶴--強烈な対象化世界(小田切秀雄・開高健・松田修)
昭和 49(1974)年 9 月 1 日発行(講談社)

- 3261) 「群像」 8 月号 1974
(98 枚)猫の草子(円地文子)/ 松襲[まつがさね](中里恒子)
夢の谷(田久保英夫)/ 災難(阿部昭)/ (137 枚)思い川(後藤明生)
(115 枚)戦争文学論--死者にかかわる視点(本村敏雄)
マルクスその可能性の中心 5(柄谷行人)
<書評>『日本のルネッサンス人』(花田清輝)佐々木基一
<創作月評>論争始末(上田三四二)
<東京微視的歩行 3>円環上の旅人たち--山手線二十時間(三木卓)
傷としての存在--内的生活 6(秋山駿)
島木赤彦と斎藤茂吉(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
戦後文学の理念(宮内豊)
<座談会>《日本文学通史への試み》
平家物語--その稀有な重層性(木下順二・佐伯彰一・山下宏明)
昭和 49(1974)年 8 月 1 日発行(講談社)

- 3262) 「群像」 7 月号 1974
(203 枚)横しぐれ(丸谷才一)/ 田紳有楽前書き(藤枝静男)
バッテンボー(勝木康介)/ 雨のラーガ(新人)(本吉洋子)
病巣(福沢英敏)/ 道(阿部昭)
<対談>歴史と歴史小説--ルカーチ、鷗外その他(大岡昇平・本多秋五)
<創作月評>新人の条件(上田三四二)
<東京微視的歩行 2>砂埃のなかに立つ国--東伏見・ラグビー場(三木卓)
書き損ないの現実--内的生活 5(秋山駿)
マルクスその可能性の中心 4(柄谷行人)
伊藤左千夫と長塚節(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<座談会>《日本文学通史への試み》
源氏物語--その小説的構造(寺田透・中村真一郎・秋山駿)
昭和 49(1974)年 7 月 1 日発行(講談社)

- 3263) 「群像」 6 月号 1974
<第 17 回群像新入文学賞発表>
選評(井上光晴・遠藤周作・小島信夫・埴谷雄高・福永武彦)
<小説当選作・153 枚>迪子[みちこ]とその夫(飯田章)
<小説当選作・127 枚>退屈しのぎ(高橋三千綱)
<小説当選作・142 枚>或る回復(森本等)
<評論当選作・93 枚>我を求めて--中島敦による私小説論の試み(勝又浩)
(84 枚)獄楽通り獄楽番地(富岡多恵子)
幽霊(阿部昭)
<新連載・東京微視的歩行>選択地獄の女たち--銀座・百貨店(三木卓)
<創作月評>観念のロマネスク(川村二郎)
人への遠い距離--内的生活 4(秋山駿)
マルクスその可能性の中心 3(柄谷行人)
島村抱月の悲恋(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
昭和 49(1974)年 6 月 1 日発行(講談社)

- 3264) 「群像」 4 月号 1974
(102 枚)で、どうなんだ?(小田実)
おまえを殺すのはおまえだ
--ソルジェニツィンの追放をめぐって(佐々木基一)
柳の冠(野呂邦暢)/ (107 枚)華やぐ日(高橋たか子)

日々の翳り(新人)(阪井洋一)/ 童話(阿部昭)
〈新連載〉マルクスその可能性の中心(柄谷行人)
〈創作月評〉夢のかたち、その現実性(川村二郎)
小さく微かな声--内的生活 2(秋山駿)
〈現代作家論特集〉小川国夫小観(藤枝静男)
まがいものの真実--『たった一人の反乱』について(平岡篤頼)
賢者のかなしみ--長谷川四郎論(本村敏雄)
藤村のパリへの脱出(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
〈座談会〉《日本文学通史への試み》
芭蕉--その俳諧形式の特質(山本健吉・尾形侑・大岡信)
昭和 49(1974)年 4 月 1 日発行(講談社)

3265) 「群像」 9 月号 1973

〈対談〉文学は甦り得るか(開高健・小田実)
〈対談〉親鸞と現代(野間宏・真継伸彦)
凝固した弁証法(川村二郎)
与謝野晶子の短期外遊(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
武士的エゴチズムの系譜--日本人の自伝 9(佐伯彰一)
(148 枚) 暗い水面(北原武夫)/ (83 枚) 地蔵和讃仕方咄(富岡多恵子)
おかやん(小田勝造)/ 幻影(阿部昭)
〈創作月評 316 回〉『歌枕』(中里恒子)/ 『今夜、死ぬ』(古山高麗雄)
『此岸の家』(日野啓三)/ 『室町力婦伝』(花田清輝)
(佐多稲子・遠藤周作・高橋英夫)
昭和 48(1973)年 9 月 1 日発行(講談社)

3266) 「群像」 8 月号 1973

〈大特集・現代の文芸批評はこれでいいのか〉
〈特集 I・座談会〉批評の理想と現実(中村光夫・平野謙・江藤淳・佐伯彰一)
〈特集 II・批評の現場から〉感想の自由(秋山駿)/ 娯楽性の復権(磯田光一)
せせこましい批評家の意識(入江隆明)/
小宇宙と大宇宙の切点で(奥野健男)/ 時代との結びつき(柄谷行人)
自前の批評を(川嶋至)/ よく読むために(篠田一士)
解説する装置(平岡篤頼)/ 『樹影』の感動(松原新一)
横着な感想(宮内豊)/ 〈反リアリズム〉への価値転換を(森川達也)
批評の現場とはなにか?(渡辺広士)
〈特集 III・世界における批評家の位置〉
バルト・リシャール・ビュトール(フランス) 蓮實重彦
反芸術・脱文学への志向(アメリカ) 井上謙治
論争が生み出すもの(イタリア) 河島英昭
若き世代の縮図(ドイツ) 早崎守俊/ 凧のなかで(イギリス) 出淵博
白樺社の美術展覧会(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
父のイメージ--日本人の自伝 8(佐伯彰一)
〈創作特集〉(83 枚) 室町力婦伝(花田清輝)
菖蒲の浴衣(芝木好子)/ 今夜、死ぬ(古山高麗雄)
幼年暦日(坂上弘)/ 青い雨(広津桃子)/ 散歩(阿部昭)
〈創作合評 315 回〉『風の絵本』(黒井千次)/ 『雪の穴』(後藤みな子)
『汚点のある顔』(高良留美子)/ 『私々小説』(藤枝静男)
(佐多稲子・遠藤周作・高橋英夫)
昭和 48(1973)年 8 月 1 日発行(講談社)

3267) 「群像」 6 月特大号 1973

〈第 16 回群像新人文学賞発表〉
選評(井上光晴・遠藤周作・小島信夫・埴谷雄高・福永武彦)

<小説当選作>なし
<評論当選作>傷痕と回帰--『月とかがり火』を中心に(本村敏雄)
<評論優秀作>大江健三郎論--精神の位相というその顔立(原口昭夫)
<座談会>新人について(吉行淳之介・大江健三郎・丸谷才一)
<創作合評 313 回>『その血は我に』(小川国夫)/『初めての街で』(佐木隆三)
『浮標』(田久保英夫)/『静かな行進』(津島佑子)
(小田切秀雄・中村真一郎・磯田光一)

<特集・椎名麟三>
<座談会>椎名麟三 人と文学(武田泰淳・埴谷雄高・中村真一郎)
風にまつわる風車(本多秋五)
椎名麟三における神の問題(北森嘉蔵)/生きる理由(秋山駿)
浅見淵と私(丹羽文雄)
長谷川天溪の洋行(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
マルクスその可能性の中心 3(柄谷行人)
島村抱月の悲恋(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
俗なる自我を支えるもの--日本人の自伝 6(佐伯彰一)
<短篇特集>墓の話(円地文子)/鷹のあし(庄野潤三)/贈り物(阿部昭)
石路[つわぶき](瀬戸内晴美)/蜜の味(田久保英夫)/崖(畑山博)
(95 枚)カキツバタ群落(田中澄江)
昭和 48(1973)年 6 月 1 日発行(講談社)

3268) 「群像」 新年特大号 1973

<創作特集>滝壺(舟橋聖一)/奇蹟を待つ男(遠藤周作)/西方の国(高橋たか子)
並木の陰で(高井有一)/歳月(佐多稲子)/血と幻(小川国夫)
湖畔の町(小沼丹)/入れ歯(網野菊)/(125 枚)炎に追われて(三木卓)
流星騒ぎ--その前後の私ごと(井伏鱒二)
<特集・文学 1973 年と「戦後」>
<長篇エッセイ 99 枚>
死者たち・最終のヴィジョンとわれら生き延びつづける者(大江健三郎)
<座談会>表現者と戦後の日常(秋山駿・黒井千次・阿部昭・柴田翔・柄谷行人)
文芸委員会の終末(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<新連載>日本人の自伝 1 --公的なもの、私的なもの(佐伯彰一)
<昭和 47 年度野間文芸賞の決定>佐多稲子『樹影』(講談社刊)
<第 4 回亀井勝一郎賞の決定>入江隆則『幻想のかなたに』(新潮社刊)
<創作合評 308 回>『平和の死』(中村光夫)/『父と子の夜』(阿部昭)
(平野謙・藤枝静男・川村二郎)
昭和 48(1973)年 1 月 1 日発行(講談社)

3269) 「群像」 12 月特大号 1972

<長篇小説一挙掲載 554 枚>平和の死(中村光夫)
漱石門下の三話烏(日本文壇史)(瀬沼茂樹)
<特集・いまアジアを考える>
<座談会>内なる先進性と後進性(木下順二・森有正・堀田善衛)
江戸末期知識人のアジア観(杉浦明平)
歴史をみる目--先進的と後進的ということ(日高六郎)
地理の災厄と恍惚--大和と沖縄を分つもの(牧港篤三)
ことば、普遍への架橋をするもの(金石範)
<創作合評 307 回>『母を拭く夜』(畑山博)/『夢のいた場所』(黒井千次)
『敷石の幅』(高良留美子)(平野謙・藤枝静男・川村二郎)
群像総目次(47・1~12)/昭和 47(1972)年 12 月 1 日発行(講談社)

3270) 「群像」 2 月特大号 1970

<新鋭 中編小説特集>

(117 枚) 椿谷(田中澄江)/ ワンスモア(畑山博)/ 断たれた日々(小田勝造)

(121 枚) 死者の遺したもの(李恢成)

ソルジェニーツィン追放をめぐって(原卓也)

<特集 伊藤整>

(70 枚) 病中日記(伊藤整)

親切な人(中野重治)/ チャタレイ裁判前後(中島健蔵)

『日本文壇史』の場所(稲垣達郎)/ 「文芸レビュー」と「春夏秋冬」(上林暁)

一橋時代の伊藤整(田中西二郎)/ A・A 作家会議の伊藤整氏(遠藤周作)

文学館の伊藤さん(小田切進)/ 工大に於ける伊藤整氏(奥野健男)

伊藤整氏の臨床経過(山本善蔵)/ 電報配達夫と父(伊藤礼)

<対談>人と文学(平野謙・瀬沼茂樹)

<創作合評 273 回> 『女菩薩花身』(舟橋聖一)/ 『遊魂』(円地文子)

『仮面の下に』(椎名麟三)/ 『おのぼりさん』(小島信夫)

(埴谷雄高・寺田透・小田切秀雄)

昭和 45(1970)年 2 月 1 日発行(講談社)

3271) 「群像」12月号1969

<創作特集>

(140 枚) アカシヤの大連(清岡卓行)

小径(小沼丹)/ 吊橋のある駅(瀬戸内晴美)

忍び草(川崎長太郎)/ 木洩れ陽の道(広津桃子)

暗室(完結)(吉行淳之介)

サミュエル・ベケットの言葉(近藤耕人)

暴力考(埴谷雄高)

アジア諸国での日本文学(太田三郎)

東欧のなかの日本文学(工藤幸雄)

皇帝[ツアー]よ、あなたに想像力が欠けるならば、

もはやいうことはありません。--活字のむこうの暗闇 6(大江健三郎)

<視覚聴覚> 『テオレマ』(入沢康夫)

<創作合評 271 回> 『日本浪漫派』(中谷孝雄)/ 『蝕の光景』(田久保英夫)

『十年』(阿部昭)/ 『子供たちの道』(古井由吉)

(平野謙・福永武彦・三浦朱門)

群像総目次(44・1～12)

昭和 44(1969)年 12 月 1 日発行(講談社)

3272) 「新潮」1月特大号1991

カンガルー・ノート(安部公房)

ざくろ(三浦哲郎)/ 幻(吉村昭)/ 運がいいのか悪いのか(増田みず子)

夕陽の川岸(安岡章太郎)/ 野宮[ののみや](田久保英夫)

荒野論(小林恭二)/ 『芋粥』問答(後藤明生)/ 虎砲記(180 枚)(宮本徳蔵)

秋土用(楽天記・その 11)(古井由吉)

大魚の話--最大の獲物で負けたトーナメントのこと(ジェイ・マキナニー)

<幸田文追悼> 息づかいの聞こえる言葉(津村節子)

幸田さんの涙(小島千加子)

<新連載> 漱石とその時代・第三部(江藤淳)

恋歌の序(「新々百人一首」完結)(丸谷才一)

小説を読む悦び(遠藤周作)/ 赤毛のアン(庄野潤三)

エロスの至福の殉教者--『みいら採り猟奇譚』を読む(佐伯彰一)

<特集・「古典」とは何か> 古典の経験(大江健三郎)

万葉集私感--言霊と言挙(桶谷秀昭)/ ゲーテ--内と外の乖離と合致(高橋義人)

蕪村の笑い(佐々木幹郎)/ ベートーヴェンの意志と内省(栗津則雄)

"生きた全体"としての『白鯨』(久間十義)

フローベールの文章と小説(加賀乙彦)

小林秀雄--二つの『後世』の臨界点(島弘之)
セザンヌの『古典性』(永山公男)/中島敦の志気(勝又浩)
ミシェル・フーコーとギリシャ(丹生谷貴志)
〈座談会〉新「古典」主義のすすめ(中村雄二郎・秋山駿・別役実)
〈新連載〉西行花伝(辻邦生)
〈窓・文学〉新人の小説(岩崎邦枝)
〈窓・社会〉ハイデガーとナチズム(笠井潔)
平成3(1991)年1月1日発行(新潮社)

3273) 「新潮」12月特大号1990

〈没後20年 三島由紀夫特集〉
〈未発表英語講演と質疑応答〉
私はいかにして日本の作家となったか(三島由紀夫/野口武彦訳)
三島由紀夫の日蝕--その栄光と陶醉の虚構(240枚)(石原慎太郎)
檄のあとさき(吉本隆明)/三島の死と川端康成(村松剛)
抒情と煽情のあわい(野口武彦)/空っぽの「近代」(富岡幸一郎)
歌舞伎というアキレス腱(中村哲郎)/翻訳者の立場から(ジョン・ベスタ)
三島邸での一日(アルベルト・モラヴィア)
三島とニヒリスムの美(ジャン・ミッシェル・ラバテ)
〈対談〉伝説から実像へ(ドナルド・キーン/辻井喬)
海外の MISHIMA
雨男(黒井千次)/春よみがえる(阿部光子)
〈短期集中連載〉夏至(完結)(高橋昌男)
〈窓・海外〉新生ドイツの十字架(西尾幹二)
月夜茸--森の時間(完結)(前登志夫)
〈追悼 永井龍男〉泣き笑いの思い出(河盛好蔵)/永井さんの言葉(八木義徳)
ある日の永井龍男先生(芝木好子)/散歩の途中(江藤淳)
オクタビオ・パスと俳諧(飯島耕一)
作家という夢--佐藤泰志の場合(福間健二)
和語の誕生1 旅の朝(古橋信孝)
〈連載小説〉手毬(完結)(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年12月1日発行(新潮社)

3274) 「新潮」11月号1990

〈第22回 新潮新人賞発表〉
〈受賞作〉ランタナの花の咲く頃に(長堂英吉)
〈受賞作〉ドッグ・デイズ(藤枝和則)
選評(黒井千次・倉橋由美子・三浦雅士)
天の木の下で(140枚)(杉山正樹)
淡い目(楽天記・その10)(古井由吉)
〈短期集中連載〉夏至(第3回)(高橋昌男)
生涯と作品を貫く劇[ドラマ]--村松剛『三島由紀夫の世界』(松本徹)
音楽と批評(終)--河上徹太郎・4(遠山一行)
野分の跡--森の時間11(前登志夫)
〈特別対談〉記号を超えて創造へ(ウンベルト・エーコ/江藤淳)
クレイグ先生ふたたび--漱石の小品とルーカスの随筆(平川祐弘)
〈窓・文学〉これが椿事ならば・・・(渡辺直己)
〈新潮〉リルケ再考(栗津則雄)
〈連載小説〉手毬11(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年11月1日発行(新潮社)

3275) 「新潮」10月号1990

武者小路房子の場合(180枚)(阪田寛夫)/第二水路(長竹裕子)

荒野の花嫁(楽天記・その9)(古井由吉)
〈短期集中連載〉夏至(第2回)(高橋昌男)
〈新作能〉鷹井[たかのゐ](高橋睦郎)
〈第22回《新潮新人賞》予選通過作品発表〉
"カラマーズフ万歳!"--謎とき『カラマーズフ』(完結)(江川卓)
虻[あぶ]と夕立--森の時間10(前登志夫)
〈座談会〉怪奇と現代(川村湊・笠井潔・松山巖)
南方熊楠邸新発掘記(中瀬喜陽・松居竜五)
〈窓・文学〉至近の「読者」(渡辺直己)
〈新潮〉ドッペルゲンゲルはいま(川本三郎)
〈連載小説〉手毬10(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年10月1日発行(新潮社)

3276) 「新潮」9月特大号1990

〈特集 現代SFの冒険〉
〈特別寄稿〉夢の積荷 Dream Cargoes (J・G・バラード/ 異孝之訳)
磁気嵐(イタロ・カルヴィーノ/ 米川良夫訳)
シビュラの子(フィリップ・K・ディック/ 浅倉久志訳)
モスキート(リチャード・コールド/ 浅倉久志訳)
リアルト・ホテルで(コニー・ウィルス/ 浅羽英子訳)
消えた少年たち(オーソン・スコット・カード/ 風見潤訳)
ビット文学の歴史(スタニスワフ・レム/ 沼野充義訳)
〈解説〉世紀末のサイエンス・フィクション(異孝之)
〈対談〉現代文学への通路(大江健三郎・高橋源一郎)
〈短期集中連載〉夏至(第1回)250枚(高橋昌男)
音楽と批評--河上徹太郎・3(遠山一行)
さゆりの花は人死なしめむ--森の時間9(前登志夫)
奇遇(米谷ふみ子)
〈新潮〉雪中の聖マリア(坂内正)
〈連載小説〉手毬9(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年9月1日発行(新潮社)

3277) 「新潮」8月号1990

〈特集 甦る南方熊楠〉
〈対談〉知識の散財・想像力の解放(谷川健一・中上健次)
忘れられた日本の巨人(カーマン・ブラッカー)
高次元ミナカタ物質(中沢新一)/ 「山人」論争(笠井潔)
父・熊楠の素顔(南方文枝・聞き手/ 神坂次郎)
〈未発表書簡〉高飛せんと存居候・・・
花下遊楽(佐江衆一)/ 油絵(尾辻克彦)/ 音について(司 修)
葉桜の日(150枚)(鷺沢萌)
雨夜の説教(楽天記・その8)(古井由吉)
『ヴェルレーヌの愛国詩』--河上徹太郎・2(遠山一行)
虹--森の時間8(前登志夫)
実在する悪魔--謎とき『カラマーズフ』14(江川卓)
〈吉岡実追悼〉卵形の生と死(大岡信)
「閉じられた開国」の中で--柄谷行人『終焉をめぐって』他(渡部直己)
〈連載小説〉手毬8(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年8月1日発行(新潮社)

3278) 「新潮」7月号1990

〈第3回三島由紀夫賞発表〉〈受賞作〉『世紀末鯨鯨記』(久間十義)
〈選評〉(江藤淳・大江健三郎・筒井康隆・中上健次・宮本輝)

<第3回山本周五郎賞>『エトロフ発緊急電』(佐々木譲)1989年10月新潮社刊
<第3回新潮学芸賞>『ナマコの眼』(鶴見良行)1990年1月筑摩書房刊
<第22回日本芸術大賞>
"虹"シリーズをさらに自由に展開した意欲的な仕事に対し(鬢嘔[あいおう])
ひとり占め(林京子)/ 記憶(小林恭二)/ 烟る午後(笠原淳)
なみだ蟹のムーンライト・チアーズ(200枚)(玉岡かおる)
終日の歌(楽天記・その7)(古井由吉)
<新連載>河上徹太郎(遠山一行)
文学としての評伝(中村真一郎)
墓[がま/ ひきがえる]--森の時間7(前登志夫)
固有のものと未知のものと(ヴァルトラウト・レヴィーン/ 三宅晶子訳)
<連載小説>手毬7(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年7月1日発行(新潮社)羚羊[かもしか]

3279) 「新潮」6月号1990

<第17回川端康成文学賞発表><受賞作>『じねんじょ』(三浦哲郎)
<審査委員>(井上靖・吉行淳之介・水上勉・大江健三郎・竹西寛子)
自動人形の悪夢(大江健三郎)/ 九死虫(筒井康隆)
蒲公英[タンポポ](楽天記・その6)(古井由吉)
闇の燭台(280枚)(山本道子)
<第3回《三島由紀夫賞》候補作品発表>
崎人伝の東西(佐伯彰一)
クンデラの新作『不滅』について(西永良成)
描写と欲望--「小説家[マゾヒスト]」谷崎潤一郎(渡部直己)
霧のなかの羚羊[かもしか]--森の時間6(前登志夫)
訣別--三島由紀夫の世界(最終回)(村松剛)
<本>海の底でうたう歌--高樹のぶ子『時を青く染めて』(川村湊)
<連載小説>手毬6(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年6月1日発行(新潮社)

3280) 「新潮」5月号1990

<新鋭小説特集>雷山からの下山(220枚)(井伊直行)
黄色いシルエット(左能典代)/ ギッターズ(川村毅)
雛祭り(楽天記・その5)(古井由吉)
<新潮>壁の解放とドイツの作家たち(三宅晶子)
<第1回《新潮学生小説コンクール》応募規定>
<対談>身体と言語(養老孟司・吉本隆明)
夢ちがえ--森の時間5(前登志夫)
集団という橋--三島由紀夫の世界20(村松剛)
『非情城市』と台湾の真実(四方田犬彦)
<本>鈴木孝夫『日本語と外国語』(足立康)
<連載小説>手毬5(瀬戸内寂聴)
平成2(1990)年5月1日発行(新潮社)

3281) 「新潮」4月特大号1990

鏡の谷(370枚)(木崎さと子)
ひとつの樹かげ(阿部光子)/ 凶器(岡田睦)
初心(楽天記・その4)(古井由吉)
<本>沈黙と叫びの間にあるもの--石原慎太郎『わが人生の時の時』(勝又浩)
筒井康隆『文学部唯野教授』(島弘之)
<第1回《新潮学生小説コンクール》応募規定>
<第22回《新潮新人賞》応募規定>
<対談>ニュー・フィクション宣言(大岡玲・萩野アンナ)

燃える岩--森の時間 4(前登志夫)
逆ユートピア幻想--謎とき『カラマーゾフ』13(江川卓)
「狂気」の翼--三島由紀夫の世界 19(村松剛)
開高健の「珠玉」(古山高麗雄)
暫しもとどまらず--禅僧山頭火(倉橋羊村)
〈新潮〉『大菩薩峠』を読む(岩阪恵子)
小説を書きたくなる瞬間(小川洋子)
〈連載小説〉手毬 4(瀬戸内寂聴)
平成 2(1990)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3282) 「新潮」 3月号 1990

チンゲー・韓国の友人(300枚)(佐藤健志)
子々孫々(三浦朱門)/ 家族(夫馬基彦)
好日(楽天記・その3)(古井由吉)
〈本〉世代で違う過剰と濁り--『私の昭和』(富岡幸一郎)
〈窓・海外〉一人の平均的ドイツ人として
(イルメラ・日地谷・キルシュネライト)
〈窓・社会〉ヨーロッパ半島(養老孟司)
〈第1回《新潮学生小説コンクール》応募規定〉
〈第22回《新潮新人賞》応募規定〉
〈対談〉1990年代の文化(辻井喬・吉本隆明)
鎮められた熊--森の時間 3(前登志夫)
叛逆の騎士--三島由紀夫の世界 18(村松剛)
ハムレットを待ちながら--ベケット追悼(高橋康也)
〈新潮〉『神曲』と『いいなずけ』(平川祐弘)
かおり(高見澤潤子)/ 藁の実盛(梅原稜子)
〈連載小説〉手毬 3(瀬戸内寂聴)
平成 2(1990)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3283) 「新潮」 2月号 1990

〈未発表小説〉花終る闇(250枚)(開高健)
〈追悼特集・開高健〉
〈対談〉現代を生きる作家(大江健三郎・石原慎太郎)
佐々木基一・阿川弘之・辻邦生・村松剛・日野啓三・三浦哲郎
江藤淳・高橋睦郎・ジャック--ラローズ・辻静雄
〈対談〉その一生その文学(谷沢永一・山崎正和)
孫の土産に(楽天記・その2)(古井由吉)
バーナム博物館(スティーヴン・ミルハウザー/ 訳・解説 柴田元幸)
〈窓・社会〉時間の窓(養老孟司)
鷹--森の時間 2(前登志夫)
実現しなかった奇跡--謎とき『カラマーゾフ』12(江川卓)
「優雅」をこえて--三島由紀夫の世界 17(村松剛)
〈新連載〉いまなぜ青山二郎なのか(白洲正子)
小説を相対化するということ(金井美恵子)
〈対談〉犯罪と現代(別役実・尾辻克彦)
〈本〉吉村昭『死のある風景』(勝又浩)
〈連載小説〉手毬 2(瀬戸内寂聴)
平成 2(1990)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3284) 「新潮」 新年 1月特大号 1990

〈新連載〉手毬(瀬戸内寂聴)/ 地の星(宮本輝)
治療塔(大江健三郎)/ 手鏡(吉村昭)/ 寝待の月(大庭みな子)
冬のコント・夜のコント(筒井康隆)/ 森のなかの聖母(中村真一郎)

斑女(田久保英夫)/ちぎれた橋の向う(三枝和子)/陥穽(坂上弘)
 水の町(増田みず子)/晩年の子供(山田詠美)
 楽天記 その1・息子(古井由吉)
 <新連載>森の時間--霜ふる山(前登志夫)
 <新連載>幻想の都市--フランドルの宝石・ブリューージュ(饗庭孝男)
 <対談>『とりかへばや物語』の謎(河合隼雄・吉本隆明)
 <窓・社会>平成の窓(養老孟司)
 <世界のなかの日本文学 1990>
 安部公房--捜査=探求の物語(アニー・チェッキ/丹生谷貴志訳)
 丸谷才一--最初の実験的作家(デニス・キーン)
 辻邦生--歴史小説を超えるもの(スティーヴン・スナイダー/織田智恵訳)
 河野多恵子--厳密さの匠(イルメラ・日地谷・キルシュネライト)
 開高健--全身で味わう作家(ジャック・ラローズ)
 大江健三郎--小説空間の無数の地層(ルネ・ドゥ・セカティ/中村亮二)
 中上健次--「不死」の葛藤(フェー・阮・クリーマン/垂水千恵訳)
 津島佑子--夢への道案内(カイ・ニエミネン)
 村上春樹--大いなる方向転換(アルフレッド・バーンバウム/柴田元幸訳)
 島田雅彦--バベルの塔からの逃走(ニーナ・コルニェッツ/阪本洋三訳)
 吉本ばなな--キッチンでつかまえて(マーク・ピーターセン)
 平成2(1990)年1月1日発行(新潮社)

3285) 「新潮」12月号1989

高村光太郎と西洋(240枚)(平川祐弘)
 命二題(直井潔)
 <新鋭>果実の船を川に流して(鷺沢萌)/緑の街(鈴木隆之)
 人生の検証(最終回)--死(秋山駿)
 心の広さと大きさと--謎とき『カラマーゾフ』11(江川卓)
 NLTの結成と四部作--三島由紀夫の世界16(村松剛)
 <坂口安吾再読>
 <対談>文学のふるさと(柄谷行人・島田雅彦)
 「おそろべき隣人」坂口安吾(鈴木貞美)
 幸せな病人2(河盛好蔵)
 書齋の騎士--ノーベル賞作家カミロ・ホセ・セラ(野谷文昭)
 <新潮>濫読のたのしみ(森禮子)
 平成1(1989)年12月1日発行(新潮社)

3286) 「新潮」11月号1989

<第21回 新潮新人賞発表>
 <受賞作>縄文流(杉山恵治)
 選評(黒井千次・倉橋由美子・三浦雅士)
 <特集・現代ロシア文学の新鋭>
 可愛い(タチヤーナ・トルスタヤ)/ロザンナ(エドワルド・リモーノフ)
 うちのいところ(セルゲイ・ドヴラートフ)
 トロヤの空の眺め(アンドレイ・ビートフ)
 文学のペレストロイカに向けて(沼野充義)
 愛の少し手前(上田理恵)
 わが人生の時の時(下)(石原慎太郎)
 「父」殺しと「父」の発見--三島由紀夫の世界15(村松剛)
 <対談>「孔子」について(井上靖・大江健三郎)
 幸せな病人(河盛好蔵)
 幾夜寝覚(下)(井上究一郎)
 <窓・社会>老いのとば口(山田稔)
 平成1(1989)年11月1日発行(新潮社)

- 3287) 「新潮」 10月号 1989
 わが人生の時の時(上) (300枚) (石原慎太郎)
 <新鋭>ブリューゲル、飛んだ(荻野アンナ)
 ファミリー・スナップショット(佐藤健志)
 <本>出自から脱自への飛躍--増田みず子『鬼の木』(島弘之)
 二つの事件・脅迫と告訴--三島由紀夫の世界 14(村松剛)
 兄弟愛の表裏--謎とき『カラマーズフ』10(江川卓)
 幾夜寝覚(上) (井上究一郎)
 "終末"感覚のパラドックス(佐伯彰一)
 無限の構造--森敦 追悼(日野啓三)
 <窓・文学>片仮名の時代(吉田知子)
 <窓・海外><ベルリンの空>の下(三宅晶子)
 <窓・社会>「嫌音権」(山田稔)
 <新潮>東照宮と近代和風建築(松山巖)
 平成1(1989)年10月1日発行(新潮社)
- 3288) 「新潮」 9月号 1989
 窓の下の天の川(450枚) (干刈あがた)
 形について(司 修)
 <コラゲッサン・ボイルの世界>
 インタビュー 模倣と想像力--聞き手・古屋美登里
 <短篇>縄男 The Human Fly(訳・古屋美登里)
 沈む家 Sinking House(訳・青山南) 解説(青山南)
 <本>快活なニヒリストたち--倉橋由美子『交歓』(三浦雅士)
 "負函"の日没--「孔子」取材行(井上靖)
 死の世界の再現--三島由紀夫の世界 13(村松剛)
 <座談会>『昭和の文人』をめぐって(江中直紀・竹田青嗣・渡辺直己)
 <新潮>自伝ひとつまみ(庄司肇)
 平成1(1989)年9月1日発行(新潮社)
- 3289) 「新潮」 8月号 1989
 ノンキが来た(350枚)--宮崎丈二の生涯(阪田寛夫)
 植物工場(長竹裕子)/ 船川まで(笠原淳)
 <新潮><翻訳家>志願(室井光広)
 <本>モロッコの誘惑--ポール・ボウルズ『優雅な獲物』(出口裕弘)
 <対談>芭蕉から芭蕉へ(高橋英夫・饗庭孝男)
 「時代」への挑戦--三島由紀夫の世界 12(村松剛)
 臆病なユダ--謎とき『カラマーズフ』9(江川卓)
 修道士マカリオスの肖像--聖山アトス往還(川又一英)
 バルトと<日本>、およびその教訓(篠田浩一郎)
 北京大学三角地から--中国留学生の手記(久我隆生)
 平成1(1989)年8月1日発行(新潮社)
- 3290) 「新潮」 7月特大号 1989
 <第2回三島由紀夫賞発表>
 <受賞作>『黄昏のストーム・シーディング』(大岡玲)
 「文學界」1988年12月号
 <選評>(江藤淳・大江健三郎・筒井康隆・中上健次・宮本輝)
 <第2回山本周五郎賞>『TUGUMI つぐみ』(吉本ばなな)
 1989年3月中央公論社刊
 <第2回新潮学芸賞>『ヘヤー・インディアンとその世界』(原ひろ子)
 1989年2月平凡社刊

<第 21 回日本芸術大賞>

人間模様を駆使して現代の世界像を鮮烈に定着した作品に対し(宇佐美圭司)

亜熱帯(林京子)/ 遅い日(中野孝次)

神の罨--浅野和三郎の悲劇(370 枚)(松本健一)

<本>高田宏『木に会う』(大江健三郎)

第二の人生--三島由紀夫の世界 11(村松剛)

批評する「私」--江藤淳論(井口時男)

<阿部昭を悼む> 短かかりし日(阿川弘之)/ 見事な不機嫌(大江健三郎)

思い出す事(坂上弘)/ 阿部さんの海(山本道子)

永遠の未完の大器(中上健次)

平成 1(1989)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3291) 「新潮」 6 月号 1989

<第 16 回川端康成文学賞発表>

<受賞作>『海にゆらぐ糸』(大庭みな子)/ 『ヨッパ谷への降下』(筒井康隆)

<審査委員>(井上靖・吉行淳之介・水上勉・大江健三郎・竹西寛子)

クマソタケルの末裔(320 枚)(小檜山博)

プレーリー・ドッグの街(佐伯一麦)

<本>人生と小説--大江健三郎『人生の親戚』(津島佑子)

<第 2 回三島由紀夫賞候補作品発表>

白いキリスト--謎とき『カラマーゾフ』8(江川卓)

夢想の恋、新しい恋--三島由紀夫の世界 10(村松剛)

<特集・夏目漱石再読>

<対談>愛の矛盾か関係のやさしさか(佐伯彰一・三枝和子)

『行人』鏡の華麗とヒューマニズム(木崎さと子)

『明暗』の女たち(岩橋邦枝)/ ぐるっと廻って猫の眼(島弘之)

消滅する象形文字--『こゝろ』を読む(桂秀実)

群衆のなかの漱石--ロンドン体験における都市の発見(尹相仁)

<篠田一士を悼む>清水徹・黒井千次・入沢康夫

<色川武大 人間と文学>通信(安岡章太郎)

神の小さな白い花(テッド・ファウラー)

筒井康隆・津島佑子・長部日出雄

<窓>竹下の埋蔵金(尾辻克彦)

平成 1(1989)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3292) 「新潮」 5 月号 1989

アルマジロ王(島田雅彦)

谷間の女たち(260 枚)(森山啓)

移情閣暮色(青山光二)/ 女ともだち(山田稔)/ 霖雨(安西篤子)

文学的時空間--その内と外からの崩壊(江藤淳)

「他者」への転生--三島由紀夫の世界 9(村松剛)

<特集・『人麻呂の暗号』を読む>

失神した人麻呂(金思燁)/ 詩を解くという行為(小林恭二)

音に聞く混沌(荒川洋治)/ 異和としての古代(古橋信孝)

『悪魔の詩』の内と外(高橋和久)

母子姦ユートピアの明日--富岡多恵子『白光』(荒井とみよ)

<連載小説>孔子(完)(井上靖)

平成 1(1989)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3293) 「新潮」 4 月号 1989

鬼の木(350 枚)(増田みず子)

海に呼ぶ声(岡子英雄)

<レイモンド・カーヴァー再び>(訳・村上春樹)

レイモンド・カーヴァーの早すぎた死(村上春樹)
 夫レイモンドを偲んで(テス・ギャラハー/村上春樹訳)
 メヌード(短篇)(レイモンド・カーヴァー/村上春樹訳)
 <本>誘惑者としての批評家--篠田一士『20世紀の10大小説』(堀田善衛)
 "蛇の季節"のなかで--謎とき『カラマーゾフ』7(江川卓)
 肉体美の「神話」--三島由紀夫の世界8(村松剛)
 <特集・現代の人間像>
 変わらざる友人--花柳幻舟(色川武大)/ See you--ヤング・チャ(林京子)
 生活綴方教師の「昭和」--鈴木正之(高井有一)
 眠り猫の凄さ--竹下登(石原慎太郎)
 悪童たちの午後--とんねるず・秋元康(小林信彦)
 74年ぶりの帰郷--呉清源(笠原淳)
 ある日突然に--リバー・フェニックス(高城のぶ子)
 存在と人物と--山口百恵(中沢けい)
 1歳年上の彼--新皇太子殿下(島田雅彦)
 <新潮>居心地について(池澤夏樹)
 <連載小説>交歓(完)(倉橋由美子)
 平成1(1989)年4月1日発行(新潮社)

3294) 「新潮」3月号1989

<文学者の証言 昭和を送る>
 <対談>(井伏鱒二・安岡章太郎)
 昭和の言葉(埴谷雄高)/ 私の中の天皇(八木義徳)/ 昭和と私(芝木好子)
 比類ない倫理の書(小島信夫)/ 小説も世につれ(古山高麗雄)
 ヴィクトリア王朝は遠からず(ドナルド・キーン)
 昭和--思い出のひとつ(遠藤周作)/ 不肖の息子(三浦朱門)
 一人の昭和っ子として(北杜夫)/ 未曾有の体験に向かって(石原慎太郎)
 時代の終り(江藤淳)/ 解き得ぬ心(阿部昭)/ <センサー>と雨傘(加藤幸子)
 変なおじいさん(中沢新一)/ 高い城の男(矢作俊彦)
 神の魚(300枚)(大城立裕)
 <大岡昇平 人と文学>「類い稀れな文学的現象」(大江健三郎)
 末期の眼と歩哨の眼(丸谷才一)/ 職場体験の抑制と解放(中野孝次)
 恋の力学(辻邦生)/ 「優しさ」について(高井有一)
 大岡さんと中原、富永(中村稔)/ スタンダールの幸福(菅野昭正)
 大岡昇平と宮入貝(井伏鱒二)/ 鉾泉宿(永井龍男)/ 兄との思い出(高見澤潤子)
 土佐案内記(安岡章太郎)/ 大岡さんの優しさ(水上勉)
 「調べ魔」への負債(吉田瀬生)/ 愛するものについて語りつづける(四方田犬彦)
 父と同年の先生(太田治子)
 救済の拒否--三島由紀夫の世界7(村松剛)
 藤村のパリ(完結)(河盛好蔵)
 上田三四二を想ふ(桶谷秀昭)
 <窓・海外>ドイツの日本語熱(大町陽一郎)
 平成1(1989)年3月1日発行(新潮社)

3295) 「新潮」2月新春特大号1989

黄金の樹(430枚)(黒井千次)/ 外人(尾辻克彦)
 <短期連載・最終回>北の海明け(佐江衆一)
 <光>と<水>の夢想(100枚)--モネからブルーストにむかって(饗庭孝男)
 <第21回《新潮新人賞》応募規定>
 蠣崎波響の生涯(完結)--第17章 復領と晩年(中村真一郎)
 仮面の創造--三島由紀夫の世界6(村松剛)
 3と13の間--謎とき『カラマーゾフ』6(江川卓)
 『ダンス・ダンス・ダンス』の魅力(吉本隆明)

<本>天使たちのゲーム--浅田彰・島田雅彦『天使が通る』(小林康夫)
埴谷雄高・小川国夫『隠された無限』(上総英郎)
<窓・海外>ウィーンのユダヤ人(沼野充義)
平成1(1989)年2月1日発行(新潮社)

3296) 「新潮」1月特大号1989

人生の親戚(380枚一挙掲載)(大江健三郎)
チロリアンハット(吉村昭)/三重奏(木崎さと子)
ヒズ・ファーザーズ・ヴォイス(高橋源一郎)/光について(司修)
スィング・スィング・スィング(100枚)(山本道子)
<アメリカの新鋭>階下の日本人(マシュー・レヴィーン/柴田元幸訳)
食べ放題(ロビン・ヘムリー/小川高義訳)
[解説]新たな「良貨」を探して(柴田元幸)
<窓・文学>文芸時評の時代(川村湊)
<新連載>人生の検証--恋(秋山駿)
障子(永井龍男)/事実と真実(安岡章太郎)/月と鳥(丸谷才一)
草野心平と昭和詩(大岡信)
沢好摩伝--ピストルを極彩色の天へ撃つ(小林恭二)
<谷崎潤一郎再読>『細雪』と8月15日(渡部直己)/春琴自害(秦恒平)
モーツアルトの闇と光(150枚)--フリーメイスンの象徴世界(井上太郎)
<新潮>山本太郎追悼(栗津則雄)
<新連載>マロニエの花が言った(清岡卓行)
平成1(1989)年1月1日発行(新潮社)

3297) 「新潮」12月号1988

<小説・新鋭特集>
<学生小説コンクール受賞第一作>内陸へ(170枚)(中村和恵)
内乱の予感(川村毅)/ヴェロニカの微笑(長竹裕子)/性の器(高橋一起)
<短期連載・第4回>北の海明け(佐江衆一)
<新潮>三つ目の詩碑(福田百合子)
木のない世界から--木に会う(最終回)(高田宏)
失われたものへの復讐--三島由紀夫の世界5(村松剛)
<特集・昭和文学の結節点>
歴史と歴史の彼岸『『敗北』の文学』(三浦雅士)
「理想」の絵解き『蟹工船』(竹田青嗣)
昭和の笑えない喜劇『旅愁』(富岡幸一郎)
「事実」という傷痕『生きてゐる兵隊』(井口時男)
墮落について『墮落論』(柄谷行人)
抑圧の装置について--チャタレイ裁判(桂秀実)
欲望とその時代『さいころの空』(黒井千次)
衝撃のブラックユーモア『風流夢譚』(井出孫六)
学生運動という青春『されどわれらが日々--』(松本健一)
「やさしさ」の始まり『赤頭巾ちゃん気をつけて』(江中直紀)
「老い」の問題を予見『恍惚の人』(吉田知子)
「革命」と「恋愛」のシュミレーション
『優しいサヨクのための嬉遊曲』(島弘之)
<窓・文学>ファミコンと文学(小林恭二)
昭和63(1988)年12月1日発行(新潮社)

3298) 「新潮」11月特大号1988

<特別対談>昭和史と天皇(加賀乙彦・大庭みな子)
<生きていたアメリカ文学の隠者>モロッコの誘惑(ポール・ボウルズ)
ポール・ボウルズを求めて(四方田犬彦)

[特別寄稿]日本の読者へ(ポール・ボウルズ)
遠い挿話/ 優雅な獲物/ 過ぎ去ったもの、まだここにあるもの
時に穿つ/ 昨夜思いついた話[語り](アハメッド・ヤクービ)
[聞書](ポール・ボウルズ)

<第20回 新潮新人賞発表>

<受賞作>温かな素足(上田理恵) 選評(黒井千次・倉橋由美子・三浦雅士)

<短期連載・第3回>北の海明け(佐江衆一)

幸福村(140枚)(津村節子)

恋の破局--三島由紀夫の世界4(村松剛)

薔薇と騎士--謎とき『カラマーゾフ』5(江川卓)

木に住む--木に会う10(高田宏)

母・円地文子(180枚)(富家素子)

<本>物語の重力の中で小説は如何にして生息するのか

中上健次『重力の都』(桂秀実)

<本>丸谷才一『樹影譚』(中村稔)

<窓・映像>昭和終焉序曲(佐々木幹郎)

<窓・社会>関西のケイサツ文化(野口武彦)

昭和63(1988)年11月1日発行(新潮社)

3299) 「新潮」10月号1988

太宰治 結婚と恋愛(340枚)(野原一夫)

飛ぶ星(金井美恵子)

<短期連載・第2回>北の海明け(佐江衆一)

<本>武蔵野文学史の現在--黒井千次『たまらん坂』(高橋英夫)

富岡幸一郎『内村鑑三』(森禮子)

初恋--三島由紀夫の世界3(村松剛)

情死劇調書(170枚)--平塚らいてうと「煤煙事件」(佐々木英昭)

レイモンド・カーヴァーを悼む(G・フィスケットジョン)

<新潮>フェミニズムと小説の困難(三枝和子)

昭和63(1988)年10月1日発行(新潮社)

3300) 「新潮」9月号1988

裏表忠臣蔵(280枚)(小林信彦)

<短期連載・第1回>北の海明け(佐江衆一)

<対談>なぜ太宰治は死なないか(吉本隆明・高橋源一郎)

<本>松山巖『都市という廢墟』(日野啓三)

過越の祭と最後の晩餐--禁忌の聖書学(完)(山本七平)

巡礼歌の旋律--謎とき『カラマーゾフ』4(江川卓)

鹿鳴館の香水--三島由紀夫の世界2(村松剛)

<追悼・中村光夫>歳月(大岡昇平)/最後の夏(安岡章太郎)

現在形の力(竹西寛子)/平然と間違える人(江藤淳)/異郷にて(蓮實重彦)

<新潮>ピーコ・デッラ・ミランドラ賞を受けて(河島英昭)

昭和63(1988)年9月1日発行(新潮社)

3301) 「新潮」8月号1988

時の筏(430枚)(加藤幸子)

<モノログ・ドラマ>ひとり(筒井康隆)

<窓・文学>一つの接点(田久保英夫)

<窓・映像>映画の原基形態8ミリ(稲川方人)

<対談>二つの現実(石原慎太郎・辻井喬)

<本>筒井康隆『樂菜飯店』(色川武大)

<新連載>三島由紀夫の世界--雅びの棘(村松剛)

<対談>「マハーバーラタ」の音の森で

(ピーター・ブルック/中上健次)司会・構成(四方田犬彦)
〈新潮〉電腦遊戲の密室(朝吹亮二)
金子光晴の自伝『詩人』の英訳(森 乾)
昭和 63(1988)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3302) 「新潮」 7 月特大号 1988

〈第 1 回三島由紀夫賞発表〉

〈受賞作〉『優雅で感傷的な日本野球』(高橋源一郎)
(昭和 63 年 3 月河出書房新社刊)

〈選評〉(江藤淳・大江健三郎・筒井康隆・中上健次・宮本輝)

「花ざかりの森」時代の三島由紀夫--十代書簡による(宇川宏)

鵜匠(凶子英雄)/砂の戦記(300 枚)(立松和平)

〈追悼・山本健吉〉

〈座談会〉山本健吉さんを偲んで(井上靖・遠藤周作・大岡信)

秋爽のひと(飯田龍太)/花あれば(中上健次)

竹林童子失せにけり(150 枚)(島京子)

「Viking」に執し、天衣無縫に生きた富士正晴の実名小説

昭和 63(1988)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3303) 「新潮」 6 月号 1988

一日(開高健)/夕空晴れて(岡田陸)/花家族(夫馬基彦)

〈第 15 回川端康成文学賞発表〉

〈受賞作〉『祝婚』(上田三四二)(「新潮」昭和 62 年 8 月号所載)

『樹影譚』(丸谷才一)(「群像」昭和 62 年 4 月号所載)

〈審査委員〉(井上靖・山本健吉・吉行淳之介・水上勉・大江健三郎)

〈本〉冷静な殺人と"他者"--吉村昭『仮釈放』(森川達也)

〈第 1 回三島由紀夫賞候補作品発表〉

『夜明け前』--20 世紀の 10 大小説(完)(篠田一士)

好色な人たち--謎とき『カラマーズフ』3(江川卓)

〈対談〉廢墟の光--『ベルリン・天使の詩』をめぐって(浅田彰・島田雅彦)

哀悼・田宮虎彦(青山光二)

ポスト・モダンと排除の論理(蓮實重彦)

〈連載小説〉小暗い森(加賀乙彦)

昭和 63(1988)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3304) 「新潮」 5 月特大号 1988

〈創刊 1000 号記念号〉

グラビア 文学の年輪

〈短篇小説特集〉雷鳥(井伏鱒二)/夫婦(佐多稲子)/童話(大岡昇平)

犬(安岡章太郎)/花がたみ(阿川弘之)/十九歳(芝木好子)

紙の箱(野口富士男)/青い儀式(八木義徳)/西湖の夕暮れ(水上勉)

阿闍世(瀬戸内晴美)/予告の日(河野多恵子)/神河内(北杜夫)

ベラックワの十年(大江健三郎)/居酒屋にて(三浦哲郎)

花畑のある島(阿部昭)/逆瀬川(高井有一)/風邪の日(古井由吉)

高砂(田久保英夫)/横たわる川(富岡多恵子)/愛獣(中上健次)

真夏の犬(宮本輝)/光り輝く一点を(津島佑子)/砂漠のイルカ(島田雅彦)

〈特別座談会〉文学の不易流行(大江健三郎・江藤淳・開高健・石原慎太郎)

21 世紀へ向けて(中村雄一郎・辻井喬・山崎正和・中沢新一)

〈翻訳小説〉〈特別寄稿〉象(レイモンド・カーヴァー/村上春樹訳)

フォルベス夫人の幸福な夏(ガルシア=マルケス/野谷文昭訳)

女たち(抄)(フィリップ・ソレルス/中沢進一訳)

〈評論・エッセイ〉舟と車(永井龍男)/中村武羅夫と檜崎勤(河盛好蔵)

百瀬博教という詩人(山本健吉)/みみずのたわごと(遠藤周作)

石川淳の編上靴(安部公房)/ 相対化する場所(江藤淳)
瓶の中のあらし(開高健)/ いもじるし(杉本秀太郎)
廃墟の宇宙論(日野啓三)
〈新潮 1000 号記念・学生小説コンクール発表〉〈当選作〉 E(中村和恵)
『新潮千号記念』創刊 1000 号の歩み展(お知らせ)
新潮 1000 号小史(曾根博義)
昭和 63(1988)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3305) 「新潮」 4 月号 1988

群島記(180 枚)(小林恭二)/ 砂の上(岩橋邦枝)
ティキ・ルーム(林京子)/ 告別(山田稔)
〈特集・現代ヨーロッパの短篇〉
マーティン・エイミス martin Amis (高橋和久訳) 神のサイコロ/ 不死の人々
ペーター・シュナイダー Peter Schneider (丸山匠訳) パパ
クロード・シモン Claude Simon (松浦寿輝訳) ベレニスの髪
〈対談〉ダンテ・愛の超新星(浅田彰・島田雅彦)
昭和 63(1988)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3306) 「新潮」 3 月号 1988

贗金づかい(412 枚)(尾辻克彦)
耕治人鎮魂歌 God sees the truth, but waits(山本健吉)
安部公房の国際主義(オロフ・G・リディン/ 織田智恵訳)
〈新潮〉ドイツの語り部たち(松原久子)
〈石川淳追悼〉文学史的考察(丸谷オ一)/ 応答(杉本秀太郎)
ムジール『特性のない男』--20 世紀の 10 大小説 20(篠田一士)
近世アジア雑記--日本人はどう見られていきたか(田中優子)
黒いキリスト--謎とき『カラマーゾフ』2(江川卓)
『雅歌』の官能性--禁忌の聖書学 5(山本七平)
〈窓・文学〉健康な、余りに健康な(西尾幹二)
昭和 63(1988)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3307) 「新潮」 2 月号 1988

鏡の中の青春--わが昭和 30 年前後(320 枚)(矢代静一)
海の彼方の空遠く(120 枚)(米谷ふみ子)
ローマよ、ローマ、我々は冬を越す準備をしなくてはならないのだ(村上春樹)
〈本〉後藤明生『カフカの迷宮』(中野孝次)
ムジール『特性のない男』--20 世紀の 10 大小説 19(篠田一士)
〈対談〉新共同訳「聖書」を読む(吉本隆明・小川国夫)
〈窓・文学〉言葉の届かぬ領分(西尾幹二)
榎[えのき]と風と化野[あだしの]--立原正秋展にちなんで(中田浩二)
昭和 63(1988)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3308) 「新潮」 1 月特大号 1988

地上にひとつの場所を(200 枚)(中沢新一)
ダンテの影のもとで(ヨシフ・ブロッキー/ 加藤光也訳・解説)
「最後の小説(大江健三郎)
鳥のいる談話室(200 枚)(山本道子)/ ヨッパ谷への降下(筒井康隆)
こぎつねこん(山田詠美)/ 白足袋(吉村昭)
真昼へ(150 枚)(津島佑子)
〈特集・三島由紀夫〉
〈未発表講演記録〉悪の華--歌舞伎(三島由紀夫)
仮面の「神学」(富岡幸一郎)/ セイレンの(リービ英雄)
二重否定の白き大天使(木崎さと子)/ 悪漢の住んでいた家(松山巖)

三島由紀夫の肉体感覚(養老孟司)/ 血しぶきの帝国(川村湊)
フランスの三島文学受容(アニー・ティッキ/ 丹生谷貴志訳)

<対談>模造を模造する(浅田彰・島田雅彦)

<窓・文学>告白の抑制(西尾幹二)

<新連載>謎とき『カラマーズフ』--"カラマーズフ"という姓(江川卓)

<新連載>木に会う--縄文杉の下で(高田宏)

<新連載>交歓(倉橋由美子)

昭和 63(1988)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3309) 「新潮」12月号1987

夢を買います(丸谷才一)/ 一ぺんに春風が吹いて来た(宇野千代)

<特集・転換期の新人たち>小鬼凶(宮本徳蔵)/ 牙(凶子英雄)

空の魚(羽田紀子)/ 凹(ネガティブ)(井伊直行)

<本>トランスパーソナルな小説空間

--大江健三郎『懐かしい年への手紙』(島田雅彦)

筒井康隆『原始人』(池内紀)/『青春』『現代北欧文 18 人集』(入江隆則)

富士山麓他界めぐり--都市という廃墟(最終回)(松山巖)

ムジール『特性のない男』--20 世紀の 10 大小説 18(篠田一士)

<座談会>ノンフィクションの可能性(黒井千次・沢木耕太郎・三浦雅士・高田宏)

<窓・文学>小説あれこれ(金井美恵子)

<窓・社会>我らが老化を迎えるとき(笠原淳)

北一輝における魔語の構造--『霊告日記』のシュールリアリズム(松本健一)

<新潮>ランボーにとって現代人とは(佐藤朔)

<連載小説>岐路(完)(加賀乙彦)/ 王女の涙(完)(大庭みな子)

昭和 62(1987)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3310) 「新潮」11月特大号1987

響子微笑(ひびきこみしょう)300 枚(三枝和子)/ どんなご縁で(耕治人)

<未発表>第一歌集『静夜』自註(大伴道子)

<対談>女流歌人と愛憎の歌(大岡信・辻井喬)

<窓・文学>批評あれこれ(金井美恵子)

<本>恋人たちの黄昏--村上春樹『ノルウェイの森』(三浦雅士)

大岡昇平『証言その時々』(水上勉)/ 倉橋由美子『ポポイ』(井伊直行)

ジョイス『ユリシーズ』--20 世紀の 10 大小説 17(篠田一士)

結末なきヨブの嘆き--禁忌の聖書学 4(山本七平)

鹿島灘のミニ別荘--都市という廃墟 11(松山巖)

<特集・ヨーロッパへの逆光>

漱石の世紀末的感受性--水底幻想を中心にして(尹相仁)

パリの一隅から--「西欧」の地層を考える 150 枚(饗庭孝男)

モーツアルトの「いき」の構造(井上太郎)

<新潮>アメリカ三千マイルの旅(高樹のぶ子)

<連載小説>春燈(完)(宮尾登美子)

昭和 62(1987)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3311) 「新潮」10月号1987

光る荒地 180 枚(日野啓三)/ 花の鏡(吉行理恵)

<追悼・深沢七郎>最期まで達人(尾辻克彦)

<追悼・澁澤龍彦>サド一辺倒の頃(出口裕弘)

享受者の黄金伝説--「青山二郎文集」によせて(高橋英夫)

小林秀雄の肉声を聴く(秋山駿)

<新潮>『サラダ記念日』のこと(佐佐木幸綱)

「学生小説コンクール」の頃(寺久保友哉)

<本>物語と歴史--四方田犬彦『貴種と転生』(柄谷行人)

山田詠美『カンヴァスの枢』（竹田青嗣）
〈特集・甦るニーチェ〉光と断崖--最晩年のニーチェの洞察（西尾幹二）
〈対談〉超人のオペラ・ブッフア（浅田彰・島田雅彦）
湾岸ニュー・カルチャー--都市という廃墟 10（松山巖）
島崎藤村の世界史的役割
--「夜明け前」の英訳を完成して（ウィリアム・E・ナフ）
〈窓・文学〉文学賞あれこれ（金井美恵子）
《新潮四賞》設定について
第20回《新潮新人賞》応募規定
新潮1000号記念《学生小説コンクール》のお知らせ
昭和62（1987）年10月1日発行（新潮社）

3312) 「新潮」9月号1987

〈特集・異端の栄光〉最期まで達人（尾辻克彦）
あぢさゝみ供養頌--わが泉鏡花220枚（村松定孝）
擬態の誘惑--谷崎潤一郎の野蛮な触手（渡部直己）
AerO-Plane--稲垣足穂の性と死（桂秀実）
懐しい「乞食王子」--吉田健一・思い出すまま（野々上慶一）
青山二郎の戦後--和子夫人に聞く（長谷川郁夫）
小説突然の召喚90枚（古川薫）
--芥川賞作家野呂邦暢を、受賞後七年目で死に追いやったもの
〈窓・文学〉なぜ旧かなを...（高井有一）
〈本〉神いじりの愉しみ--川村二郎『日本廻国記 一宮巡歴』（中上健次）
平川祐弘『破られた友情』（松本健一）
ジョイス『ユリシーズ』--20世紀の10大小説16（篠田一士）
摺上川の無人小屋--都市という廃墟9（松山巖）
臼井吉見と筑摩書房（竹之内静雄）
江戸人のセルフ・イメージ--自伝にみる成熟と多様性（佐伯彰一）
〈新潮〉ある夜の富士正晴さん（瀬戸内晴美）
昭和62（1987）年9月1日発行（新潮社）

3313) 「新潮」8月号1987

生還280枚（石原慎太郎）/ 露地の奥に（古井由吉）
春夜100枚（津島佑子）/ 祝婚（上田三四二）
〈追悼・森茉莉〉不思議な出会い（荻原葉子）/ 至福の晩年（矢川澄子）
〈本〉相対化の時代への殉教--磯田光一『近代の感情革命』（曾根博義）
西尾幹二『行為する思索』（八木義徳）
G・ガルシア＝マルケス『百年の孤独』--20世紀の10大小説15（篠田一士）
筑波ポストモダン--都市という廃墟8（松山巖）
歴史家ニクソンの哄笑--『指導者とは』をめぐって（松本健一）
〈新発見〉川端康成青春書簡九通（川端香男里）
〈新潮〉表象文化と幽霊退治（蓮實重彦）
仏訳の出版を終えて（石井晴一）
昭和62（1987）年8月1日発行（新潮社）

3314) 「新潮」7月号1987

白光300枚（富岡多恵子）
〈短期連載（最終回）〉暗夜遍歴（辻井喬）
〈第19回三大新潮賞発表〉
日本文学大賞 《文芸部門》 開高健『破れた繭』『夜と陽炎』（新潮社刊）
《学芸部門》 阿川弘之『井上成美』（新潮社刊）
日本芸術大賞 絹谷幸二（現代具象絵画に創意あふれる新領域を開拓しつつある作品活動に対し）

新潮新人賞 凶子英雄『カワセミ』
雪月花の時(山本健吉)
聖地ディズニーランド--都市という廃墟 7(松山巖)
「ヨセフ物語」は最古の小説--禁忌の聖書学 3(山本七平)
〈特集-大いなる逆説ミシェル・フーコー〉
フーコーとの遭遇(中村雄二郎)/『性の歴史』を読む(清水徹)
ダンディーな哲学者(西永良成)
〈対談〉悦ばしき回帰(浅田彰・島田雅彦)
〈窓・文学〉山本有三的なもの(高井有一)
昭和 62(1987)年 7月 1日発行(新潮社)

3315) 「新潮」 6月号 1987

〈新連載〉孔子(井上靖)
ヨコハマ夢譚 250 枚(笠原淳)/カンヴァスの枢(山田詠美)
〈短期連載(全 3 回)〉暗夜遍歴〈中篇〉(辻井喬)
〈中里恒子追悼〉情熱と無常と(菅野昭正)
札幌市営団地の餓死--都市という廃墟 6(松山巖)
〈第 14 回川端康成文学賞発表〉
〈受賞作〉『中山坂』(古井由吉)(「海燕」昭和 61 年 1 月号所載)
『海道東征』(阪田寛夫)(「文學界」昭和 61 年 7 月号所載)
〈審査員〉(井上靖・山本健吉・吉行淳之介・大江健三郎)
現代江戸学の原質--本居宣長におけるポストモダンとプレモダン(野口武彦)
〈新潮〉西独〈女性文学〉研究の新展開(三宅晶子)
昭和 62(1987)年 6月 1日発行(新潮社)

3316) 「新潮」 5月号 1987

〈短期連載(全 3 回)〉暗夜遍歴〈前篇〉 300 枚(辻井喬)
逃れられない(岩阪恵子)/緑の雫(田久保英夫)
〈本〉篠田一士『現代詩大要』(澁澤孝輔)
平和な団地の隣人たち--都市という廃墟 5(松山巖)
子供の魔法の笛(中沢新一)
澁江五百についての本(エドウィン・マクレラン/福田陸太郎訳)
〈新潮〉聖人出づると雖も(谷沢永一)
昭和 62(1987)年 5月 1日発行(新潮社)

3317) 「新潮」 4月号 1987

虹(林京子)/春のたより(山本昌代)
〈遺作〉恋の囚人[とりこ](ジャン・ジュネ/海老坂武訳)
解説 愛[アムール]の変貌(海老坂武)
われは昭和の児なりけり--磯田光一追悼(桶谷秀昭)
〈窓・文学〉芥川賞「選評」を読んで(富岡幸一郎)
G・ガルシア＝マルケス『百年の孤独』--20 世紀の 10 大小説 14(篠田一士)
神の花嫁たちの家--都市という廃墟 4(松山巖)
マリアは"処女"で"聖母"か--禁忌の聖書学 2(山本七平)
埋み火--小沢開作の夢(松本健一)
〈新潮〉イエスの方舟とは誰か(赤坂憲雄)
ローベルト・ムシルと"不倫"(飯吉光夫)
昭和 62(1987)年 4月 1日発行(新潮社)

3318) 「新潮」 3月号 1987

陽ざかりの迷路 300 枚(高樹のぶ子)/浮き藻(三浦朱門)
五衰の悦び--天人転世譚の三様(四方田犬彦)
〈本〉「時」と「再生」のメルヘン

--大江健三郎『M/T と森のフシギの物語』(川端香男里)
柄谷行人『探求 I』(岩井克人)
フォークナー『アブサロム、アブサロム!』--20 世紀の 10 大小説 13(篠田一士)
八王子遷都--都市という廃墟 3(松山巖)
四代の文学--江戸ブームから百年を見返す(野口富士男)
暴力の再生--ディックからアーヴィングへ(川本三郎)
<新潮>アンデルセンの出自(橋要一郎)
昭和 62(1987)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3319) 「新潮」 2 月号 1987

沈める寺 350 枚(木崎さと子)/ 日輪の馬 100 枚(中野孝次)
<本>新しい物語性の問題--宮本輝『優駿』(三枝和子)
高橋英夫『異郷に死す』(桶谷秀昭)
フォークナー『アブサロム、アブサロム!』--20 世紀の 10 大小説 12(篠田一士)
原宿的気配--都市という廃墟 2(松山巖)
「詠む」と「書く」の転換装置(大江健三郎)
西田幾多郎と小林秀雄--日本の近代のなかの経験と自己(中村雄二郎)
<新潮>一度だけの始球式(清岡卓行)/ 島尾さんの書誌(青山毅)
昭和 62(1987)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3320) 「新潮」 1 月特大号 1987

ランナーズ・ハイ 150 枚(日野啓三)/ 南京の秋(水上勉)/ 海峡(三浦哲郎)
小さな花(小川国夫)/ ジャムの空壇(後藤明生)/ 鳴き声 100 枚(津島佑子)
鳥(色川武大)/ 神様の居候たち(三枝和子)/ 紫頭巾(宮本輝)
エイズ友の会(島田雅彦)
<新連載>王女の涙(大庭みな子)
<追悼・円地文子>絶筆(円地文子)
田中澄江・河野多恵子・清水好子
<追悼・島尾敏雄>埴谷雄高・庄野潤三・吉行淳之介・開高健
大江健三郎・那珂太郎
如泥人考(山本健吉)/ 五十年祭騒動記(大岡昇平)/ 袖ふる山(丸谷才一)
開化の舞踏会 100 枚(平川祐弘)
<新連載>都市という廃墟(松山巖)
禁忌の聖書学(山本七平)
<80 年代アメリカ女流短篇選>(干刈あがた・斉藤英治共訳)
作家になる方法/ 別の女になる方法(ローリー・ムーア)
ショール(シンシア・オジック)
ジャックに賭ける(アイリーン・レイモンド)
良い娘[こ]じゃなくて(ペリー・クラス)
白い夜/ カード(アン・ビーティ)
私たちの明日の風景かしら?(干刈あがた)
昭和 62(1987)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3321) 「新潮」 12 月号 1986

バルトと蕎麦の花 120 枚(阪田寛夫)
レクイエム--小説・舟橋聖一(最終回)(丹羽文雄)
紅の砂(田久保英夫)/ 朝の一日(佐伯一麦)/ 愛染堂(石和鷹)
<窓・社会>労働者の消滅(三浦雅士)
日常を見つめる視力--梅崎春生論(菅野昭正)
高級な友情の表現--小林秀雄が青山二郎に送った手紙(野々上慶一)
ドス・パソス『U・S・A』--20 世紀の 10 大小説 11(篠田一士)
<世界の詩の現在・特集>
(仏・ロシア/ソビエト・英・中国・独・ラテンアメリカ・韓国・米)

アンチ・ヒーローの栄光--「井上成美」の伝記的突破作業(佐伯彰一)
〈新潮〉テーブルスピーチ(木下順二)
昭和 61(1986)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3322) 「新潮」11月号 1986

〈一挙掲載〉惑星の泉 370 枚(丸山健二)/ 再会(山田稔)
〈対談〉耳と、文字と、男(開高健/ジャック・ラローズ)
〈窓・社会〉変動相場の思想(三浦雅士)
〈本〉イワン・ブーニン『トルストイの解脱』(高井有一)
ドス・パソス『U・S・A』--20 世紀の 10 大小説 10(篠田一士)
虹の理論(中沢新一)
「井上成美」余話(阿川弘之)
〈新潮〉雑婚[ミックス・マリッジ]と
国際結婚[インターナショナル・マリッジ](米谷ふみ子)
〈海外文学ジャーナル〉とても若いソ連の新人たち(沼野充義)
昭和 61(1986)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3323) 「新潮」10月号 1986

海の砦 220 枚(岡松和夫)/ 才女可憐 100 枚(丸川賀世子)
海風の記憶(青山光二)/ 二匹の赤い蜘蛛(井伊直行)/ 雪売り屋(加藤幸子)
〈連載 8(最終回)〉夢の木坂分岐点(筒井康隆)
〈窓・社会〉批判と悔恨(三浦雅士)
〈本〉増田みず子『シングル・セル』(立松和平)
"民族の誇り"のゆくえ--三つの人種小説をめぐる(磯田光一)
茅盾『子夜』--20 世紀の 10 大小説 9(篠田一士)
〈新潮〉売買と買売(岩井克人)
〈海外文学ジャーナル〉彼らは忘れない--中国(井口晃)
昭和 61(1986)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3324) 「新潮」9月号 1986

〈一挙掲載〉--三好達治伝 350 枚 駱駝の瘤にまたがって(石原八束)
花火(八木義徳)/ ホーム・パーティー(干刈あがた)
〈窓・社会〉長屋の笑い(松山巖)
茅盾『子夜』--20 世紀の 10 大小説 8(篠田一士)
「近代」の自裁--三島由紀夫の「死」(富岡幸一郎)
〈海外文学ジャーナル〉在英日本人作家の新作小説(高橋和久)
昭和 61(1986)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3325) 「新潮」8月号 1986

〈対談〉模造文化の時代(磯田光一・島田雅彦)
林哲佑 父の地/ 春の日[解説](安宇植)
楊と柳(竹西寛子)
「心を鬼にして」--小説・舟橋聖一 6(丹羽文雄)
続・長い流れ--「優駿」(最終回)(宮本輝)
豚神祭り(山本昌代)
〈窓・社会〉幸福な住まい(松山巖)
〈海外文学ジャーナル〉フランスの新しい日本文化観(吉田城)
カフカ『城』--20 世紀の 10 大小説 7(篠田一士)
偽史と情熱(四方田犬彦)
小林秀雄と青山二郎--その心のドラマ(野々上慶一)
〈新潮〉ボルヘス追悼(澁澤龍彦)
ネオ・アナクロニズム(夏石番矢)
昭和 61(1986)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3326) 「新潮」 7月号 1986
 <戯曲>泣き虫なまいき石川啄木 180 枚(井上ひさし)
 長い流れ--「優駿」15(宮本輝)
 <連載 7>夢の木坂分岐点(筒井康隆)
 黒い春(田久保英夫)
 原発事故のこと(井伏鱒二)/「ヴェニスに死す」あれこれ(北杜夫)
 <第 18 回三大新潮賞決定発表>
 日本文学大賞《文芸部門》北杜夫『輝ける碧き空の下で』第二部(新潮社刊)
 野上彌生子『森』(新潮社刊)
 《学芸部門》角田忠信『脳の発見』(大修館書店刊)
 NHK 取材班『21 世紀は警告する』1~6(日本放送出版刊)
 日本芸術大賞 新宮晋(自然を動く立体でとらえた創意あふれる仕事に対して)
 新潮新人賞 該当なし
 <窓・文学>文壇コミュニケーション(絳秀実)
 <窓・社会>間違いファックス(松山巖)
 <世界の批評の動向・特集>
 (米・仏・中国・英・韓国・ポーランド・独・ラテンアメリカ・ソ連)
 カフカ『城』--20 世紀の 10 大小説 6(篠田一士)
 <新潮>日記失格者(色川武大)
 昭和 61(1986)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3327) 「新潮」 6月号 1986
 <一挙掲載>疾走するモーツアルト 300 枚(高橋英夫)
 オランウータン 100 枚(三浦朱門)
 続・黒い風--「優駿」14(宮本輝)
 生命の一閃(中原清一郎)
 <窓・文学>同義反復とずれ(柴田翔)
 <窓・社会>感嘆のもつれ(中沢けい)
 <海外文学ジャーナル>権力の構造を暴くシャーシャの新作(田之倉稔)
 <第 18 回新潮新人賞経過発表>
 ボルヘス『伝奇集』--20 世紀の 10 大小説 5(篠田一士)
 <第 13 回川端康成文学賞発表>
 <受賞作>『逸民』(小川国夫)(「新潮」昭和 60 年 9 月号所載)
 <審査員>(井上靖・島尾敏雄・中村光夫・山本健吉・吉行淳之介)
 <長篇詩 土方巽追悼>聖あんま断腸詩篇(吉岡実)
 <新潮>二人の同時代人を思う--ジュネとボーヴォワール(海老坂武)
 昭和 61(1986)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3328) 「新潮」 5月号 1986
 <一挙掲載>褐色のペスト 250 枚(井上光晴)
 黒い風--「優駿」13(宮本輝)
 加藤唐九郎--当世畸人伝(完)120 枚(白崎秀雄)
 白夜紀行(三浦哲郎)
 失われた時を求めて--20 世紀の 10 大小説 4(篠田一士)
 <海外文学ジャーナル>核兵器に関する小説を最後に逝ったマラマッド(宮本陽吉)
 <窓・文学>不幸な文体(柴田翔)
 <窓・社会>ひそかな我らの衰弱(中沢けい)
 <本>古井由吉『眉雨』(勝又浩)/中野好夫『司馬江漢考』(木下順二)
 色川武大『遠景 雀 復活』(坂上弘)
 孫娘から見た漱石(松岡陽子マックレイン)
 夫婦と私(秋山駿)/童心(庄野潤三)
 <新潮>猫と警笛(三枝和子) 昭和 61(1986)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3329) 「新潮」 4月号 1986
日本回帰の軌跡--埋もれた思想家 雨森信成 300 枚(平川祐弘)
舞踏神(尾辻克彦)
<連載 6>夢の木坂分岐点(筒井康隆)
ドンナ・アンナ 100(島田雅彦)
<窓・文学>「おいしい生活」のアウラ(柴田翔)
<窓・社会>ふるぼけた揺籃(中沢けい)
失われた時を求めて--20 世紀の 10 大小説 3(篠田一士)
<海外文学ジャーナル>
奔放なヴィジョンに満ちた女流のブッカー賞受賞作(高橋和久)
<本>江川卓『謎とき「罪と罰」』(中村雄二郎)
宮本徳蔵『力士漂泊』(埴谷雄高)
<対談>『スキャンダル』の構造--人間の多重性について(遠藤周作・矢代静一)
現代文学の擁護--柔らかい自我の自己表現(山崎正和)
燈のともる家--与謝蕪村の詩と絵から(芳賀徹)
<新潮>茶前酒後 10(富士川英郎)
昭和 61(1986)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3330) 「新潮」 3月号 1986
<芥川賞受賞第一作・一挙掲載 360 枚>タンブルウィード(米谷ふみ子)
亀の島の亀の石(加藤幸子)
続・春雷--「優駿」12(宮本輝)
<未発表短篇>漂泊の歌(川崎長太郎) <還って来た原稿>(川崎千代子)
安藤孝行--当世崎人伝 6(白崎秀雄)
小林秀雄の語り(水上勉)
空位の時代の詩人--菅野昭正『ステファヌ・マラルメ』(澁澤孝輔)
失われた時を求めて--20 世紀の 10 大小説 2(篠田一士)
<追悼・田中美知太郎>田中美知太郎先生をしのんで(竹之内静雄)
田中先生の演習(森泰三)
「哲学講義とその逸脱」を読んで(西部邁)
<新潮>沖縄の同人たち(大城立裕)
<海外文学ジャーナル>「戦無世代」林哲佑が描いた朝鮮戦争(安宇植)
<連載小説>井上成美(完)(阿川弘之)
昭和 61(1986)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3331) 「新潮」 2月号 1986
われ発見せり--書肆ユリイカ・伊達得夫 380 枚(長谷川郁夫)
同居の弁--小説・舟橋聖一 5(丹羽文雄)
<連載 5>夢の木坂分岐点(筒井康隆)
<世界の小説の現在・特集>
(米・中国・仏・南米・英・韓国・独・ソ連)
失われた時を求めて--20 世紀の 10 大小説 1(篠田一士)
<新春無題気儘対談>--桃の花、浅草結び、山椒魚(井伏鱒二・深沢七郎)
川崎長太郎氏と氏の文学--アナーキストとしての一面(野口富士男)
非情の完成--『山椒魚』の改稿をめぐって(鈴木貞美)
<新潮>鷗外と林太郎(森茉莉)/ 茶前酒後 9(富士川英郎)
昭和 61(1986)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3332) 「新潮」 新年特大号 1986
<小説特集・短篇>たらちね(井伏鱒二)/ にせ者綺談(大岡昇平)
放生(中里恒子)/ 遺品(八木義徳)/ からかさ譚(三浦哲郎)
手強い少年(小川国夫)

<中篇>歸艦セズ(吉村昭)/ねじまき鳥と火曜日の女たち(村上春樹)
 家族の虚実(高井有一)/青い朝(田久保英夫)/揺鈴(瀬戸内晴美)
 <新連載>岐路(加賀乙彦)
 <新連載>藤村のパリ(河盛好蔵)
 <新連載>蠣崎波響の生涯(中村真一郎)
 万世村の村長(宇野千代)/夢のあと(山本健吉)
 ゲームとしての現代認識--石原慎太郎『流砂の世紀に』を読む(佐伯彰一)
 カーヴ湖居留地の「甘い草[スイート・グラス]」(大江健三郎)
 雪とふりぬる(丸谷オ一)
 <新潮>上昇線(高橋たか子)
 <ブコフスキー 現代アメリカの掌編小説>(青野聰訳)(町でいちばんの美女/
 父の死/慈善病院での生き死に/淫魔/「ダーティ老人ノート」より)
 ブコフスキーについての二、三のこと(青野聰)
 昭和 61(1986)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3333) 「新潮」12月特大号 1985

海の幻 180 枚--森崎湊の自決(松本健一)
 月城 180 枚(中沢けい)/ナポリへ(青山光二)/菊燈台(澁澤龍彦)
 春雷--「優駿」11(宮本輝)
 <今月の新鋭>水府より(青木健)
 近代的自我の行方(松本道介)
 流砂の世紀に(完)--二つの世界(石原慎太郎)
 家と女たち(下)(秋山駿)
 <座談会>男が変わるとき(富岡多恵子・上野千鶴子・三枝和子)
 明治女学校の遺産--野上彌生子『森』をめぐって(磯田光一)
 夫婦の現象学--山本道子『ひとの樹』を読む(千石英世)
 扉の快樂(中沢新一)
 <新潮>井伏先生(深沢七郎)/純文学と旧制高校(川村二郎)
 老人をどう遇するか(金井美恵子)/茶前酒後 8(富士川英郎)
 <海外文学ジャーナル>ゴンブローヴィチ以降の「日記」文学の動向(西成彦)
 昭和 60(1985)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3334) 「新潮」11月号 1985

<一挙掲載>遠い架橋--水本光任伝(300 枚)(山田智彦)
 傑作の由来--小説・舟橋聖一 4(丹羽文雄)
 閑居(岡田陸)/出来損ない(増田みず子)
 続・冬の鳥--「優駿」10(宮本輝)
 <今月の新鋭>ブルー・ウィーク(山入端信子)
 <本>中村光夫『老いの微笑』(高橋英夫)
 杉本秀太郎『伊藤静雄』(竹内豊治)
 流砂の世紀に 18--危険な夏(石原慎太郎)
 <新連載>20 世紀の十大小説--多元化する世界文学のなかで(篠田一士)
 世界の原初の戦争--二つの『マハーバーラタ』(四方田犬彦)
 家と女たち(上)(秋山駿)
 <海外文学ジャーナル>ピヴォ現象(西永良成)
 <連載小説>耳の物語(完)(開高健)
 昭和 60(1985)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3335) 「新潮」10月特大号 1985

蜂アカデミーへの報告(240 枚)(後藤明生)
 生の連鎖に働く河馬(大江健三郎)
 ブロッケン山の模造人間(島田雅彦)/海岸通り(瀬戸内晴美)
 <連載 4>夢の木坂分岐点(筒井康隆)

<今月の新鋭>小人が来る川(橋本勝三郎)
阿部謙四郎--当世畸人伝 5(100 枚)(白崎秀雄)
流砂の世紀に 17--何を、どうやって守るのか(石原慎太郎)
『魚雷艇学生』雑感(野原一夫)
<対談>文学と世界体験--小説と批評の現在(竹田青嗣・富岡幸一郎)
地獄を見せた恋--生田春月と花世(250 枚)(戸田房子)
<新潮>茶前酒後 7(富士川英郎)
<海外文学ジャーナル>後衛性を誇りにしたバイアットの新作小説(高橋和久)
昭和 60(1985)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3336) 「新潮」 9 月号 1985

少女(野口富士男)/ 逸民(小川国夫)/ 踊り場参り(古井由吉)
眼に棲む鳥の歌(島岡晨)/ 雀(色川武大)
天櫓(津村節子)/ 水の匂い(高瀬千図)
<今月の新鋭>砲楼立たず(宮本徳蔵)
<窓・社会>言語チーム(西部邁)
<本>D・R・ホフスタッター『ゲーデル、エッシャー、バッハ』(岩井克人)
宮本輝『ドナウの旅人』(磯田光一)
流砂の世紀に 16--国境(石原慎太郎)
立原正秋の二つの私--<公けの私>と<内なる私>(武田勝彦)
兄の死(秋山駿)
<新潮>ハインリヒ・ベルの死と戦後(丸山匠)
認知科学とカント(吉成真由美)
<海外文学ジャーナル>ベルリン世界文化祭に参加した日本の作家達(三宅晶子)
昭和 60(1985)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3337) 「新潮」 8 月号 1985

<一挙掲載>蛇苺(300 枚)(山本道子)
面目躍如--小説・舟橋聖一 3(丹羽文雄)
蜻蛉秘画(加藤幸子)
<新連載>春燈(宮尾登美子)
<今月の新鋭>パス・ワードは復讐(武藤芳治)
朝吹英二--当世畸人伝 4(100 枚)(白崎秀雄)
<窓・社会>宗教ブーム(西部邁)
流砂の世紀に 15--脳死と臓器移植 2(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱(完)(田中美知太郎)
神話もどきの"復活"劇--謎解き『罪と罰』(完)(江川卓)
謎と発見--村上春樹の書き下ろし長編を読む(井上ひさし)
『源氏』の十年(E・G・サイデンステッカー/安西徹雄訳)
日向「新しき村」の思い出(120 枚)(平林英子)
<新潮>老害(埴谷雄高)/ 茶前酒後 6(富士川英郎)
<海外文学ジャーナル>
序文で自己批評を試みたピンチョンの初期短篇集(千石英世)
<連載小説>輝ける碧き空の下で(完)--第二部(北杜夫)
昭和 60(1985)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3338) 「新潮」 7 月特大号 1985

<第 17 回三大新潮賞発表>
<新潮新人賞受賞作>過越しの祭(米谷ふみ子)
<選評>(安岡章太郎・加賀乙彦・大庭みな子・江藤淳・中上健次)
日本文学大賞《文芸部門》中村真一郎『冬』(新潮社刊)
《学芸部門》ドナルド・キーン『百代の過客』(金関寿夫訳 朝日新聞社刊)
日本芸術大賞 利根山光人

(活力ある文明批評を内蔵した幅広い造形活動に対し)
父島の夜の渚で(180枚)(青山光二)
冬の鳥--「優駿」9(宮本輝)
<連載3>夢の木坂分岐点(筒井康隆)
<遺稿>土の悲しみ(90枚)(金鶴泳)<遺稿発表まで>(朴静子)
<本>Y・トゥイニャーノフ/水野忠夫他訳『詩的言語とはなにか』(沼野光義)
<窓・文学>サイレント・マイノリティ(増田みず子)
<窓・社会>差異化ゲーム(西部邁)
流砂の世紀に14--崩壊現象(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱11--ロゴスとロゴス的なものと(田中美知太郎)
たなばた舟(丸谷才一)
秋月悌次郎--老日本の面影(230枚)(松本健一)
文学的<内面>のゆくえ--女流作家の現在(竹田青嗣)
<海外文学ジャーナル>バルガス＝リョサの挑発(野谷文昭)
昭和60(1985)年7月1日発行(新潮社)

3339) 「新潮」6月号1985

<一挙掲載>まどさん(320枚)(阪田寛夫)
基地へ(島尾敏雄)/雑木林(三枝和子)
<今月の新鋭>花葬(峰原緑子)
<第12回川端康成文学賞発表>
<受賞作>『恋う』(高橋たか子)(「新潮」昭和59年新年号所載)
『辻火』(田久保英夫)(「群像」昭和59年10月号所載)
<審査員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
流砂の世紀に13--脳死と臓器移植1(石原慎太郎)
"終末"の予感のもとで--謎解き『罪と罰』12(江川卓)
第17回 新潮新人賞経過発表/第18回 新潮新人賞応募規定
<本>岩井克人『ヴェニス商人の資本論』(高橋康也)
島尾敏雄『夢屑』(田中美代子)
ドイツの黄昏(松本道介)
<遺稿>森--終章(野上彌生子)
<追悼・野上彌生子>野上先生との六十年(大岡昇平)
"野上の小母様"(江藤淳)/さまざまな御縁(円地文子)
"森"の道(竹西寛子)
小林秀雄の政治観(山本七平)
<新潮>茶前酒後5(富士川英郎)
<海外文学ジャーナル>
ロレンス他著名人と親交のあった女流画家の伝記(高橋和久)
昭和60(1985)年6月1日発行(新潮社)

3340) 「新潮」5月号1985

<一挙掲載>北の絃(330枚)(高橋揆一郎)
予習時間(干刈あがた)/愁月記(三浦哲郎)
<今月の新鋭>吃りの父が歌った軍歌(車谷長吉)
大ノ里萬助--当世畸人伝3(110枚)(白崎秀雄)
<本>高見澤潤子『兄 小林秀雄』(遠藤周作)
蓮實重彦『物語批判序説』(清水徹)
吉田知子『満洲は知らない』(白川正芳)
流砂の世紀に12--男と女(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱10--歴史の不透明なへだたり(田中美知太郎)
犯罪における文体とレトリック--グリコ・森永事件にみる(別役実)
<新潮>自意識について(太田治子)/パーティー(伊藤比呂美)
<海外文学ジャーナル>ロブ＝グリエの自伝小説?(西永良成)

昭和 60(1985)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3341) 「新潮」 4 月特大号 1985

- <一挙掲載>街角の法廷(350 枚)(高樹のぶ子)
憎めない男--小説・舟橋聖一 2(丹羽文雄)
花魁[おいらん]道中(円地文子)
<連載 2>夢の木坂分岐点(筒井康隆)
<今月の新鋭>T・B・ターマ--宇宙の時を束ねていた男の話(伊井直行)
流砂の世紀に 11--S D I・政治家たちの愛憎(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱 9--上原専祿の場合(田中美知太郎)
石川達三さんを偲ぶ(水上勉)
<本>三枝和子『崩壊告知』(上野千鶴子)
"聖なる娼婦"の愛と肉体--謎解き『罪と罰』11(江川卓)
詩のなかの棲みか 絵のなかの家(芳賀徹)
<声>と<南>--ソレルスへのインタビュー(中上健次)
<追悼・中野好夫>最後の言葉(河盛好蔵)/ 中野先生のこと(木下順二)
先生の笑顔(小田島雄志)/ 司馬江漢への肉迫(北小路健)
<新潮>年譜の問題(野口富士男)/ 茶前酒後 4(富士川英郎)
<海外文学ジャーナル>ベルリンからの手紙(三宅晶子)
昭和 60(1985)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3342) 「新潮」 3 月号 1985

- <一挙掲載>老熟家族--安楽死殺人事件(300 枚)(佐江衆一)
百年目(110 枚)(増田みず子)
<今月の新鋭>家津波(小檜山博)
長谷川祐次--当世崎人伝 2(120 枚)(白崎秀雄)
<本>大江健三郎『いかに木を殺すか』(中野孝次)
辻井喬『不安の周辺』(磯田光一)
佐伯彰一『日米関係のなかの文学』(島田太郎)
<窓・社会>しつけについて(田中澄江)
流砂の世紀に 10--予算と文明(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱 8--彷徨での寄り道(田中美知太郎)
異界の変容--幻想小説はどこへ行ったか?(四方田犬彦)
<金鶴泳を悼む>金鶴泳をとむらう(坂上弘)/金鶴泳さんの思い出(萩原葉子)
<新潮>昔、呉陵軒あり(岩橋邦枝)
<海外文学ジャーナル>
大学の英文科を"実践批評"の場に変えた学者の伝記(出淵博)
昭和 60(1985)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3343) 「新潮」 2 月号 1985

- 日本理解とは何であったのか
--チェンバレンとハーンの破れた友情(250 枚)(平川祐弘)
<今月の新鋭>僕は模造人間(230 枚)(島田雅彦)
堯廟詣[ぎょうびょうもうで](伊藤桂一)/ 見えない絵(高橋睦郎)
流砂の世紀に 9--教育の失効(石原慎太郎)
哲学談義とその逸脱 7--理性をめぐっての彷徨(田中美知太郎)
<本>埴谷雄高『死霊七章《最後の審判》』(秋山駿)
林京子『三界の家』(古井由吉)
<窓・社会>果せるかな(田中澄江)
<追悼・瀧井孝作>[遺稿]大阪の夢--『続俳人仲間』第一篇(承前)(瀧井孝作)
晩年の父--遺稿に添えて(小町谷新子)
《思い出》(河盛好蔵)/ 《瀧井さん、その小説と俳句》(山本健吉)
《瀧井さんの通夜》(阿川弘之)/ 《瀧井さんの文章教室》(岡松和夫)

《桐櫻櫻柿朴庭落葉》(河野多恵子)

優しい性の生贄たち--謎解き『罪と罰』10(江川卓)

『冬』から『四季』の眺め--中村真一郎の四部作(篠田一士)

<新潮>届かぬ言葉・届く言葉(高橋たか子)/茶前酒後3(富士川英郎)

<海外文学ジャーナル>ロマン・ヤコブソンの遺産(沼野充義)

昭和60(1985)年2月1日発行(新潮社)

3344) 「新潮」 新年特大号 1985

<連載1>夢の木坂分岐点(筒井康隆)

纏足物語(円地文子)/松風はかへらず(中里恒子)/変様(島尾敏雄)

存在証明(小川国夫)/刺青の蓮花(中上健次)/抱擁(津島佑子)

死者の便り仔猫を追う(青野聰)/くずれる音(岩阪恵子)

受胎告知(中野孝次)/短日(岩橋邦枝)/風のない日々(瀬戸内晴美)

観音(色川武大)

当世畸人伝1--長尾よね(白崎秀雄)

<窓・社会>殺し殺される(田中澄江)

レイモンド・カーヴァーの宇宙(村上春樹訳)

[短編]羽根/雉子<きじ>/ヴィタミン/クリスマスの夜/犬を捨てる

綱わたり(中沢新一)

忠臣蔵・八犬伝(大岡昇平)

旅行器としての樹木(大江健三郎)

<結城信一・人と文学>日暮里本行寺(吉行淳之介)/二体の老境(荒川洋治)

<海外文学ジャーナル>

ポストモダンから解体へ、腐乱へ--ブローティガンの死(千石英世)

<新潮>蛙と算術(河野多恵子)/『ビルマの豎琴』余聞(平川祐弘)

<新連載>昭和の文人(江藤淳)

昭和60(1985)年1月1日発行(新潮社)

3345) 「新潮」 12月特大号 1984

彼女の告白--小説・舟橋聖一1(丹羽文雄)

続・鎖の輪--「優駿」8(宮本輝)

眠れない夜(黒井千次)

<女流作家特集>誘惑者(140枚)(森禮子)/父の神話(230枚)(運上旦子)

<しなの>航海記(加藤幸子)/家族団欒(吉田知子)

<今月の新鋭>天の曳航(高瀬千図)

<窓・文学>珍説愚説辞典(澁澤龍彦)

<窓・社会>森永製菓への脅迫文(村上龍)

流砂の世紀に8--国家とは何か2(石原慎太郎)

哲学談義とその逸脱6--知性と感性との遠近(田中美知太郎)

<対談>昭和史--はぐれ者の来歴(安岡章太郎・色川武大)

<本>江藤淳『自由と禁忌』(西尾幹二)/増田みず子『自由時間』(三枝和子)

<新潮>名の魔力(井上究一郎)/茶前酒後3(富士川英郎)

<海外文学ジャーナル>

オクタビオ・パスの憂愁--文化の複数性は可能か(野谷文昭)

昭和59(1984)年12月1日発行(新潮社)

3346) 「新潮」 11月号 1984

<一挙掲載>映画監督(350枚)(長部日出雄)

いかに木を殺すか(130枚)(大江健三郎)

欠けた椀(吉村昭)/ポウの来る日(笠原淳)

鎖の輪--「優駿」7(宮本輝)

<今月の新鋭>父になる日(田野武裕)

<新連載>雪舞い(芝木好子)

<窓・文学>夢のコレクション(澁澤龍彦)
<窓・社会>有吉佐和子の死(村上龍)
流砂の世紀に7--国家とは何か1(石原慎太郎)
悪、死の本能--宗教と文学の谷間で(完)(遠藤周作)
哲学談義とその逸脱5--さかしらは智慧にあらず(田中美知太郎)
<本>平川祐弘『進歩がまだ希望であった頃』(村上陽一郎)
"紀ノ川"のゆくえ--有吉佐和子論(磯田光一)
言葉の定型に潜む「国家」
--三島由紀夫から村上春樹、島田雅彦まで(松本健一)
<新潮>カポーティの弟子(佐木隆三)
<海外文学ジャーナル>天才カポーティの急死(宮本陽吉)
昭和59(1984)年11月1日発行(新潮社)

3347) 「新潮」10月特大号1984

スタヴロスは染まらない(270枚)(武藤芳治)
ジョイント・ベンチャア(三浦朱門)
オシログラフの冬(100枚)(古川薫)
<今月の新鋭>姉妹の部屋への鎮魂歌[たましずめ](干刈あがた)
流砂の世紀に6--地球は亡びるか(石原慎太郎)
すべての道はXに向う。だが.....--宗教と文学の谷間で12(遠藤周作)
魔女退治の記号学--謎解き『罪と罰』9(江川卓)
哲学談義とその逸脱4--知育偏重といふこと(田中美知太郎)
兄 小林秀雄(完)(高見澤潤子)
<本>岩橋邦枝『真夏日』(古井由吉)/石原慎太郎『暗殺の壁画』(中上健次)
<追悼・今日出海>同人雑誌の頃(井伏鱒二)/百日紅(永井龍男)
思い出すことども(大岡昇平)/またとない友(河盛好蔵)
今日出海を口説いた話(丹羽文雄)
自裁と天皇論のゆくえ--三島由紀夫論再び(入江隆則)
小林秀雄の「流儀」(山本七平)
<新潮>茶前酒後1(富士川英郎)
<海外文学ジャーナル>《ル・モンド》による伝統的合理性の再検討(西永良成)
<連載小説>白夜を旅する人々(完)(三浦哲郎)
昭和59(1984)年10月1日発行(新潮社)

3348) 「新潮」9月号1984

<一挙掲載>恍惚の旗手たち
--加藤道夫、三島由紀夫、芥川比呂志との青春(380枚)(矢代静一)
地の筏(150枚)(畑山博)/孤独なネコは黒い雪の夢をみる(日野啓三)
残光(辻井喬)
<今月の新鋭>調書をたずさえて(飯田章)
<本>大岡昇平『姦通の記号学』(饗庭孝男)
黒井千次『永遠なる子供エゴン・シーレ』(中野孝次)
流砂の世紀に5--戦争は起こるのか(石原慎太郎)
『コーランを読む』を読みながら--宗教と文学の谷間で11(遠藤周作)
兄 小林秀雄13(高見澤潤子)
哲学談義とその逸脱3
--文学者は時代の予言者となるべきものなのか(田中美知太郎)
<窓・社会>教育問答(倉橋由美子)
《反哲学者》の死--M・フーコーを憶う(中村雄二郎)
複眼を超えて(高橋英夫)
<新潮>『転落』について(白石浩司)/死体の所有者(河野多恵子)
<海外文学ジャーナル>オクジャワの歴史空想小説(河野充義)
昭和59(1984)年9月1日発行(新潮社)

- 3349) 「新潮」 8月特大号 1984
 <一挙掲載>水獣(280枚)(富岡多恵子)
 その山羊を野に(大江健三郎)/暁紅--百本の茨 其二(結城信一)
 <遺作>共生(110枚)(石井仁)
 <石井仁を悼む>癌と文学(岡松和夫)
 石井仁・文学への意志(高井有一)
 <窓・社会>食人問答(倉橋由美子)
 流砂の世紀に4--情報の虚構(石原慎太郎)
 テレーズと菜穂子--宗教と文学の谷間で10(遠藤周作)
 兄 小林秀雄12(高見澤潤子)
 哲学談義とその逸脱2--ペン大会を傍観して(田中美知太郎)
 <追悼・竹山道雄>思い出断片(本多秋五)/認識と遍歴(高橋英夫)
 『ビルマの豎琴』と私(加藤幸子)/感謝と追憶(小堀桂一郎)
 竹山先生のこと--身内からの追憶(平川祐弘)
 <第16回三大新潮賞発表>
 <新潮新人賞発表>受賞作 星からの風(青木健)/受賞作 夏の淵(高瀬千因)
 <選評>(安岡章太郎・加賀乙彦・大庭みな子・江藤淳・中上健次)
 日本文学大賞《文芸部門》芝木好子『隅田川暮色』(文藝春秋刊)
 《学芸部門・新設》司馬遼太郎『街道をゆく22南蛮のみちI』(朝日新聞社刊)
 日本芸術大賞 松田正平(油彩に自在、新鮮な世界を切り拓いた画業に対して)
 西洋の『源氏』日本の『源氏』(E・G・サイデンステッカー/安西徹雄訳)
 <新潮>海南島の鑑真和上(上原和)/彼岸からの声(瀬戸内晴美)
 <海外文学ジャーナル>ジョン・ベイリーの評論集(出淵博)
 昭和59(1984)年8月1日発行(新潮社)

- 3350) 「新潮」 7月号 1984
 アンティゴネ(ソポクレス/福田恒存訳)
 『アンティゴネ』の抒情と豊潤(福田恒存)
 午の日(古井由吉)/道づれ(森万紀子)
 雨名月(林京子)/水の輪(八木義徳)
 <今月の新鋭>青空の行方(土居良一)
 <海外文学ジャーナル>来日して原体験を語ったS・レンツの素顔(丸山匠)
 <本>倉橋由美子『大人のための残酷童話』(増田みず子)
 四方田犬彦『クリティック』(高山宏)
 <窓・社会>反核問答(倉橋由美子)
 <国際ペンと来日作家>
 <対談>テクノロジー文明と「無垢[イノセンス]の精神」
 (カート・ヴォネガット/大江健三郎)
 有朋自遠方来(山本健吉)
 作家には会ってみるもの--スタイロン氏の思いがけぬ告白(佐伯彰一)
 亡命作家は静かに叫ぶ--アクションノフ氏に聞く(島田雅彦)
 ペンの政治学(江藤淳)
 流砂の世紀に3--政治家の死(石原慎太郎)
 ひとつの小説のできるまで--宗教と文学の谷間で9(遠藤周作)
 兄 小林秀雄11(高見澤潤子)
 <新連載>哲学談義とその逸脱--「見る」と「知る」(田中美知太郎)
 複眼の意味--論争は公的に(西尾幹二)
 <新潮>私は誰か?(高橋たか子)/柏原兵三の文学碑(奥田淳爾)
 昭和59(1984)年7月1日発行(新潮社)

- 3351) 「新潮」 6月特大号 1984
 <今月の新鋭>花びらの闇(210枚)(深瀬サキ)

裏切り(石川達三)/マニラの桜(三浦朱門)
 風花(佐江衆一)/蝮(嶋岡農)
 <第11回川端康成文学賞発表>
 <受賞作>『河馬に噛まれる』(大江健三郎)(「文学界」昭和58年11月号所載)
 『三界の家』(林京子)(「新潮」昭和58年10月号所載)
 <審査員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
 流砂の世紀に2--不条理の淘汰(石原慎太郎)
 乾いた土地、水のある場所--宗教と文学の谷間で8(遠藤周作)
 "罰"としての狂気と愛(承前)--謎解き『罪と罰』8(江川卓)
 兄 小林秀雄10(高見澤潤子)
 <第16回新潮新人賞経過発表>/<第17回新潮新人賞応募規定>
 <本>浅田彰『逃走論』(荒川洋治)
 <窓・文学>近代に於ける虚言の衰退(四方田犬彦)
 <野上彌生子の一世紀>バウム・クーヘンの話(野上彌生子)
 野上先生の百年(大岡昇平)/中国訪問のときの言葉(佐多稲子)
 大いなる「妹の力」(大江健三郎)/野上彌生子の長篇小説(加賀乙彦)
 思惟の花(竹西寛子)/春の日(河野多恵子)
 漱石の一番弟子(松岡陽子マックレイン)/青鞥と野上彌生子(瀬戸内晴美)
 理想主義の死の季節への警鐘--高橋英夫『偉大なる暗闇』(桶谷秀昭)
 透脱道元(上田三四二)
 <新潮>小説と音楽の不倫の関係について(島田雅彦)
 <海外文学ジャーナル>沈滞気味の黒人文学新生面を開く女流作家(宮本陽吉)
 昭和59(1984)年6月1日発行(新潮社)

3352) 「新潮」5月号1984

<一挙掲載>崩壊告知(300枚)(三枝和子)
 山の上に憩いあり--都築ヶ岡年中行事(150枚)(庄野潤三)
 有明月--百本の茨 序章(結城信一)/返り花(野口富士男)
 <今月の新鋭>闇の中の白い糸(沢木耕太郎)
 <本>芥川瑠璃子『双影芥川龍之介と夫比呂志』(倉橋健)
 <窓・文学>完結と逡巡(四方田犬彦)
 ユングの元型・エリアーデの元型--宗教と文学の谷間で7(遠藤周作)
 兄 小林秀雄9(高見澤潤子)
 <新連載>流砂の世紀に(石原慎太郎)
 複眼の獲得--西尾幹二氏に(高橋英夫)
 小林秀雄と『悪霊』の世界(山本七平)
 <新潮>少し大き過ぎる音楽(柴田翔)
 <海外文学ジャーナル>"実験と逸脱"野作家コルタサルの死(野谷文昭)
 昭和59(1984)年5月1日発行(新潮社)

3353) 「新潮」4月特大号1984

<一挙掲載>雷神、翔ぶ(500枚)(丸山健二)
 <短編>才能と性格(石川達三)
 <今月の新鋭>ケルマンシャーの啓示(左能典代)
 <窓・文学>鯨のフライ(四方田犬彦)
 <本>石井仁『担癌者[キャンサー・キャリアー]』(岡松和夫)
 <海外文学ジャーナル>フランスに帰化したチェコ作家のベストセラー(西永良成)
 心にひそむ元型--宗教と文学の谷間で6(遠藤周作)
 兄 小林秀雄8(高見澤潤子)
 "罰"としての狂気と愛--謎解き『罪と罰』7(江川卓)
 <現代詩人帖(完)>森亮先生(篠田一士)
 <没後一年・小林秀雄特集>世代の対話(小林秀雄・村松剛・<司会>中村光夫)
 小林とともに生きて(今日出海)

自然と純粹のあいだ--小林秀雄と河上徹太郎(高橋英夫)
音を想像する力--レコードと演奏会のこと(増田隆昭)
ボードレールからジツドまで(菅野昭正)
小林さんとの飲み食い五十年(野々上慶一)
危機と常識--小林秀雄と現代(三浦雅士)
〈新潮〉大雪の朝に死す(佐江衆一)/石笛と亀甲について(澁澤龍彦)
昭和 59(1984)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3354) 「新潮」 3月号 1984

日輪の翼 第二部(完結)(380枚)(中上健次)
微光(芝木好子)
〈芥川賞受賞第一作〉弔う日(笠原淳)
〈今月の新鋭〉防空壕のある庭(佐藤泰志)
〈本〉石原慎太郎『秘祭』(高見浩)
佐江衆一『横浜ストリートライフ』(立松和平)
種村季弘『謎のカスパール・ハウザー』(川村二郎)
〈窓・社会〉暖かい冬(中村光夫)
俗と聖(フロイドからユングへ)--宗教と文学の谷間で5(遠藤周作)
兄 小林秀雄7(高見澤潤子)
〈現代詩人帖13〉曠野に蟬しぐれ--澁澤孝輔(篠田一士)
複眼の欠如--西洋の見方 過去の見方(西尾幹二)
言葉が人を殺すと謂うこと--保田與重郎と橋川文三(松本健一)
〈新潮〉交通信号は守るべきである(日野啓三)
〈海外文学ジャーナル〉チャヤノフの1984年(沼野充義)
昭和 59(1984)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3355) 「新潮」 2月号 1984

進歩がまだ希望であった頃--日米比較精神史上の『フランクリン自伝』と『福翁自伝』(360枚)(平川祐弘)
死生(110枚)(石井仁)
〈今月の新鋭〉焰の舌(岩阪恵子)
〈海外文学ジャーナル〉異文化の軋轢(土屋哲)
〈本〉W・スタイロン『ソフィーの選択』(井上光晴)
〈窓・社会〉戦争と平和(中村光夫)
キリスト教作家の小説手法--宗教と文学の谷間で4(遠藤周作)
兄 小林秀雄6(高見澤潤子)
〈現代詩人帖12〉散文の雑駁さのさなかで--田村隆一(篠田一士)
幻想の"方舟"の行方--謎解き『罪と罰』6(江川卓)
水都旬日紀行--スウェーデンとの出会い(120枚)(大岡信)
小林秀雄とラスコーリニコフ(山本七平)
〈新潮〉田村泰次郎の戦後(磯田光一)/鉄球とヘリコプター(金井美恵子)
島村利正の遺したもの(勝又浩)
昭和 59(1984)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3356) 「新潮」 新年特大号 1984

日輪の翼 第一部(250枚)(中上健次)
グレート島のレントゲン画法(大江健三郎)/幻の亀(小川国夫)
恵まれた男(青野聰)/恋う(高橋たか子)/杉木立(結城信一)
新しい生活(増田みず子)/踊る小人(村上春樹)/音の無い光景(坂上弘)
浮巢(岩橋邦枝)/串刺し教授(筒井康隆)/すばらしい一日(小島信夫)
春雷--「森」第15章(野上彌生子)
旧・笛吹川の趾地(井伏鱒二)/冬の梢(永井龍男)
〈本〉桶谷秀昭『保田與重郎』(西尾幹二)

「自伝」の効用--「道草」をめぐって(大岡昇平)
口は禍の門(中野好夫)/空しく老いず(河盛好蔵)
伊藤整と戦争--『太平洋戦争日記』を読む(桶谷秀昭)
演劇的ヨーロッパ紀行--ベケット、ワーグナー、シェイクスピア(高橋康也)
退屈の美学(江藤淳)
<窓・社会>運転手のみない車(中村光夫)
<海外文学ジャーナル>D・M・トマス新作『アララット山』(出淵博)
<新潮>むすび松(丸谷才一)/飽く(古井由吉)
昭和 59(1984)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3357) 「新潮」12月特大号 1983

偉大なる暗闇--岩本禎をめぐる人々(400枚)(高橋英夫)
光抱く友よ(高樹のぶ子)/ニネヴェの呪文(左能典代)
告別のとき--银杏散りやまず・完(辻邦生)
<今月の短篇>聖域(山本道子)
<海外文学ジャーナル>恐怖のメカニズム(宮本陽吉)
<本>小林秀雄『白鳥・宣長・言葉』(山本健吉)
結城信一『不吉な港』(奥野健男)/伊藤整『太平洋戦争日記』(曾根博義)
<窓・文学>「私小説」のなかの私(八木義徳)
<窓・社会>新聞の報道について(蓮實重彦)
<短篇小説>あるクリスマス(トルーマン・カポーティ/野崎孝訳)
アーヤ識について--宗教と文学の谷間で3(遠藤周作)
神に挑む魔性の"英雄"--謎解き『罪と罰』5(江川卓)
兄 小林秀雄 5(高見澤潤子)
<現代詩人帖 11>変化自在の淋しさ--金子光晴(篠田一士)
思想が風化するとき--江藤淳『ユダの季節』にふれて(松本健一)
喪失の時代との闘い--石原慎太郎論(入江隆則)
<新潮>元編集者の文章(倉橋由美子)/小林勇さんのこと(竹之内静雄)
<連載小説>菊慈童(完)(円地文子)
昭和 58(1983)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3358) 「新潮」11月号 1983

<一挙掲載>満洲は知らない(270枚)(吉田知子)
担癌者[キャンサー・キャリアー](150枚)(石井仁)
気にかかる空(阪田寛夫)/廃屋の姫君(吉行理恵)
『東部日記』の裏面(辻邦生)/四国山(梅原稜子)
<今月の短篇>われもこう(瀬戸内晴美)
<窓・社会>辻棲をあわせること(蓮實重彦)
再び無意識について--宗教と文学の谷間で2(遠藤周作)
兄 小林秀雄 4(高見澤潤子)
<現代詩人帖 10>苦手の詩人--谷川俊太郎(篠田一士)
「如是我聞」の背景(100枚)(野原一夫)
<本>清岡卓行『大連小景集』(上田三四二)
<新潮>本居宣長と地図(日野龍夫)
<海外文学ジャーナル>異例のベストセラー『薔薇の名前』(古賀弘人)
昭和 58(1983)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3359) 「新潮」10月号 1983

<一挙掲載>閉ざされた庭--続・葎麻[いらくさ]の家(300枚)(萩原葉子)
十字亭夜話(辻邦生)/三界の家(林京子)/児玉まで(車谷長吉)
<今月の短篇>箒川(水上勉)
<本>大江健三郎『新しい人よ眼ざめよ』(安岡章太郎)
古井由吉『権[むくげ]』(平出隆)

<窓・社会>家庭の崩壊について(蓮實重彦)
<現代詩人帖 9>無用の用としての言葉--高橋信吉(篠田一士)
兄 小林秀雄 3(高見澤潤子)
"地獄の都市"の神話と現実--謎解き『罪と罰』4(江川卓)
<新連載>宗教と文学の谷間で--無意識について(遠藤周作)
小林秀雄の「分る」ということ(山本七平)
<新潮>嗅ぎ煙草とコーヒー(庄野潤三)
<海外文学ジャーナル>アルゼンチン作家のアンケート(野谷文昭)
昭和 58(1983)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3360) 「新潮」 9 月特大号 1983

オイディプス王(ソポクレス/福田恒存訳)
<対談>ギリシャ古典悲劇と現代(福田恒存・小島信夫)
横浜ストリートライフ(350 枚)(佐江衆一)
翡翠色の道--「優駿」6(宮本輝)
浴室(津島佑子)
<今月の短篇>不倫の仲(古山高麗雄)
<窓・文学>"東京裁判"再考(磯田光一)
<窓・社会>平均寿命の違和感(辻井喬)
<本>辻井喬『いつもと同じ春』(加賀乙彦)
<現代詩人帖 8>見出された母音--飯島耕一(篠田一士)
情報喜劇の着眼(佐伯彰一)
兄 小林秀雄 2(高見澤潤子)
<新潮>"毛皮のマリー"再演(荻原葉子)
<連載小説>ここ過ぎて(完)(瀬戸内晴美)
昭和 58(1983)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3361) 「新潮」 8 月号 1983

<一挙掲載>この国の空(440 枚)(高井有一)
奇妙な戦争日記--39 年 11 月～40 年 3 月(150 枚)
(ジャン・ポール・サルトル/西永良成訳)
「春秋」ふたたび(辻邦生)
<今月の短篇>さそり座(吉村昭)
<本>林京子『上海』(大江健三郎)/高橋英夫『幻想の変容』(饗庭孝男)
<窓・文学>"族長"の両面性(磯田光一)
<窓・社会>犯罪空間の変貌(辻井喬)
<現代詩人帖 7>クロノスの呪い--馬淵美意子(篠田一士)
司馬江漢雑考(完)(中野好夫)
ユダの季節--「徒党」と「私語」の構造(江藤淳)
「蓮如」を読む(水上勉)
<新連載>兄 小林秀雄(高見澤潤子)
<新潮>晩夏の信濃追分(結城信一)
<海外文学ジャーナル>エロフェーノフの長篇と酒(沼野充義)
昭和 58(1983)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3362) 「新潮」 7 月特大号 1983

<第 15 回新潮新人賞発表>ハイデラパシヤの魔法(左能典代)
<選評>(遠藤周作・黒井千次・河野多恵子・三浦哲郎・吉行淳之介)
郷愁は終り、そしてわれらは(250 枚)(金鶴泳)
北京海棠の街(200 枚)(加藤幸子)
<今月の短篇>グレート・ヤーマスへ(金井美恵子)
<本>ガルシア＝マルケス『族長の秋』(筒井康隆)
<窓・文学>"路地"の消えるとき(磯田光一)

〈第 15 回三大新潮賞発表〉

日本文学大賞 三浦哲郎『少年讃歌』(文藝春秋刊)

日本芸術大賞 元永定正(長年の業績と最近の開かれた独自の抽象作品に対して)
道化の衣裳のキリストたち--謎解き『罪と罰』3(江川卓)

〈現代詩人帖 6〉物語はとだえ、夢むすぶ--入沢康夫(篠田一士)

貴種の終焉 小説の誕生(四方田犬彦)

荷風--わが師、わが友(E・G・サイデンステッカー/安西徹雄訳)

早川幾忠氏を悼む(白洲正子)

構造としての犯罪--『予告された殺人の記録』より(別役実)

〈新潮〉遠山啓先生(岩阪恵子)/読む私(菅野昭正)

〈海外文学ジャーナル〉サルトルの戦争日記(西永良成)

昭和 58(1983)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3363) 「新潮」 6 月号 1983

天に向かって笑う(160 枚)(白柳美彦)

新しい人よ眼ざめよ(100 枚)(大江健三郎)

傷--「優駿」5(宮本輝)/水晶の腕(佐藤泰志)

〈今月の短篇〉鳩(原田康子)

〈第 10 回川端康成文学賞発表〉

〈受賞作〉『湾内の入江で』(島尾敏雄)(「新潮」昭和 57 年 3 月号所載)

『黙市』(津島佑子)(「海」昭和 57 年 8 月号所載)

〈審査員〉(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)

〈本〉草野心平『茫茫半世紀』(辻井喬)/丸山健二『台風見物』(増田みず子)

〈第 15 回新潮新人賞経過発表〉/〈第 16 回新潮新人賞応募規定〉

〈窓・文学〉生きものとして書く(三枝和子)

〈窓・社会〉ディズニーランド行(鮎川信夫)

〈現代詩人帖 5〉白鳥の告知--吉田一穂(篠田一士)

司馬江漢雑考(18)--浦上玉堂宛書簡、その他(中野好夫)

〈追悼・尾崎一雄〉下曾我の御隠居(井伏鱒二)/暮の思い出(大岡昇平)

「光」(大江健三郎)/唯一の男友達(円地文子)/尾崎君逝く(川崎長太郎)

生命力の秘義(高橋英夫)/尾崎さんの御馳走(阿部昭)

蜘蛛と蜂(中野孝次)/尾崎一雄のいろいろ(丹羽文雄)

〈新潮〉往時の笑(小堀桂一郎)/名医とのめぐり逢い(津村節子)

〈海外文学ジャーナル〉イエイツも登場する老作家の自伝小説(出淵博)

昭和 58(1983)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3364) 「新潮」 5 月号 1983

〈伝記小説〉〈新連載〉井上成美(阿川弘之)

不吉な港(180 枚)(結城信一)/遠州森町(120 枚)(村松友視)

一身上の出来事(増田みず子)/烟霞山村図(辻邦生)

十七歳(岡松和夫)/遠い地平(八木義徳)/召命(小川国夫)

〈今月の短篇〉懐刀(立松和平)

新潮臨時増刊 小林秀雄追悼記念号 公告

〈本〉佐多稲子『夏の葉』(河野多恵子)/磯田光一『戦後史の空間』(三浦雅士)

〈窓・文学〉密室の言葉ではなく(三枝和子)

〈窓・社会〉少年非行と占領政策(鮎川信夫)

〈現代詩人帖 4〉新たな劇をもとめて--吉岡実(篠田一士)

メタ・フィクション覚書--筒井康隆論のための小さな助走(高橋康也)

〈生きている詩〉となった T・ウィリアムズ(清水邦夫)

命名の仮面に隠された刻印たち--謎解き『罪と罰』2(江川卓)

〈新潮〉続・言葉について(高橋たか子)/宮内寒爾を悼む(八木義徳)

〈海外文学ジャーナル〉執筆不能になったヨーンゾンの苦悩(丸山匠)

昭和 58(1983)年 5 月 1 日発行(新潮社)

- 3365) 「新潮」小林秀雄追悼記念号(4月臨時増刊)1983
 <未発表講演>信じることと知ること(小林秀雄)
 <処女作--小説>蝟の自殺
 小林秀雄と学生たちとの問答
 わが友の生涯(今日出海)/言葉と小林秀雄(江藤淳)
 考える人(高橋英夫)/小林秀雄の生活(山本七平)
 「美」を見る眼(白洲正子)/小林先生と絵(吉井長三)/音楽のドラマ(栗津則雄)
 『本居宣長』を読む(福田恆存)/小林秀雄と私(田中美知太郎)
 「無垢」の思想家(村松剛)
 文学と生活の履歴(吉田熙生・編)
 <わが人生の小林秀雄>くるるの音(永井龍男)/教えられたこと(大岡昇平)
 批評の出現(中村光夫)/邂逅(安岡章太郎)
 「運動」のカテゴリー(大江健三郎)/誠心の人(水上勉)
 <天才の証人>『人形』その他(井伏鱒二)/兄を失って(高見澤潤子)
 餅のつきあい(末永雅雄)/家庭教師と中学生(前川春雄)
 追想(宮沢喜一)/内なる日本の開示(サイデンステッカー)
 野球と国語(木内信胤)/二十歳の小林秀雄(波多野完治)
 自由と寛容(石原慎太郎)/美を語る言葉(吉川逸治)
 大和路から(入江泰吉)/なんぼで売る?(草野心平)
 「歴史」の一語(山本健吉)/私の感謝(遠藤周作)
 少しばかりの思い出(河盛好蔵)/清く純粋な方(奥村土牛)
 要害堅固の砦(山崎正和)/小林秀雄とゴルフ(丹羽文雄)
 真の恩人は小林さん(宇野千代)/詩への恩(澁澤孝輔)
 小林さんのおツキアイ(野々上慶一)/セ・ラ・ヴィ(バルバラ吉田)
 天上の声(岡山誠一)/マンボのLP(深沢七郎)
 春に送る(梅原龍三郎)
 好食相伴記(絵と文)(那須良輔)
 小林秀雄「座」「談」(郡司勝義)
 二十年余の御縁をいただいて(小田村寅二郎)
 ★グラビア特集 小林秀雄の八十年
 昭和58(1983)年4月5日発行(新潮社)

- 3366) 「新潮」4月号1983
 <一挙掲載>金子光晴の唄が聞こえる(350枚)(松本亮)
 不安(辻井喬)/鳥打帽(川崎長太郎)/春秋(辻邦生)/父の像(芝木好子)
 <今月の短篇>博物館の男(佐江衆一)
 <窓・文学>個の文体を超える(三枝和子)
 <窓・社会>怪談(鮎川信夫)
 <本>平川祐弘『平和の海と戦いの海』(佐伯彰一)
 尾辻克彦『国旗が垂れる』(黒井千次)/加藤幸子『夢の壁』(清岡卓行)
 樗牛が釈明の機を逸する(谷沢永一)
 <現代詩人帖3>百一行目からの出発--清水昶(篠田一士)
 司馬江漢雑考(17)--大塚藤蔵、軍蔵宛書簡(中野好夫)
 詩人の結婚--作家の友情(終)(河盛好蔵)
 顕夢明恵(上田三四二)
 水底[みなぞこ]の夏子(山田一郎)
 里見弴先生追悼(阿川弘之)
 <新潮>鳥たちの黄昏(加藤幸子)/さし出された手(川村二郎)
 <海外文学ジャーナル>キューバ元外交官の性的自叙伝(木村榮一)
 昭和58(1983)年4月1日発行(新潮社)

3367) 「新潮」 3月号 1983

<一挙掲載>泣かない女(320枚)(畑山博)
 初冬の大連(清岡卓行)/音楽の鳴るとき(八木義徳)
 奔湍[ほんたん]の中の淀み(島尾敏雄)/離郷(辻邦生)
 <今月の短篇>覚醒(宮原昭夫)
 <窓・文学>情報と物語(日野啓三)
 <窓・社会>中川一郎の死(別役実)
 <本>長部日出雄『未完反語派』(色川武大)/筒井康隆『着想の技術』(宇波彰)
 <現代詩人帖2>返し歌の効用--安東次男(篠田一士)
 『愛の詩集』前後--作家の友情(12)(河盛好蔵)
 <新連載>哄笑する人形師の影--謎解き『罪と罰』1(江川卓)
 アメリカ・アメリカ(100枚)(中上健次)
 <新潮>年頭の読書(中村真一郎)/退屈しのぎのための小説(金井美恵子)
 漠とした世界(埴谷雄高)/旧市街(坂上弘)
 <海外文学ジャーナル>ソルジェニツィンか、シニャフスキーか(沼野充義)
 <新連載>輝ける碧き空の下で(第二部)(第一回・80枚)(北杜夫)
 昭和58(1983)年3月1日発行(新潮社)

3368) 「新潮」 2月号 1983

予告された殺人の記録(200枚)(G・ガルシア＝マルケス/野谷文昭訳)
 <一挙掲載>葬祭(250枚)(石原慎太郎)
 ピノキオ--「優駿」4(宮本輝)
 家のなかを流れる川(辻邦生)
 <今月の短篇>コイマ(山口瞳)
 <本>吉行淳之介『珍獣戯話』(金井美恵子)
 北川透『詩神と宿命 小林秀雄論』(澁澤孝輔)
 <窓・文学>ある未来(日野啓三)
 <窓・社会>"心身症"と無差別殺人(別役実)
 <現代詩人帖1>なによりも音楽を--西脇順三郎<新連載>(篠田一士)
 『感情』時代--作家の友情(11)(河盛好蔵)
 司馬江漢雑考(16)--堀内林哲宛書簡二通(中野好夫)
 手練手管の度を越した樗牛の小細工(谷沢永一)
 ラプラタの空--詩人シュペルヴィエルの故郷を訪ねる(飯島耕一)
 <新潮>仙人の顔(結城信一)/現代日本のエッセー(バルバラ吉田クラフト)
 白い光(折目博子)/私事訂正二つ(李恢成)
 ソロヴィヨフと日本(川端香男里)
 <海外文学ジャーナル>"異神"を追ったパヴェーゼ(河島英昭)
 昭和58(1983)年2月1日発行(新潮社)

3369) 「新潮」 新年特大号 1983

<新連載>耳の物語(開高健)
 蚤の幽霊(100枚)(大江健三郎)
 不來坂[こぬさか]峠・春(100枚)(三枝和子)
 金の葦(90枚)(田久保英夫)/ハレー彗星(尾崎一雄)/馬がくるまで(水上勉)
 大洪水まで(辻邦夫)/石を割る(津島佑子)/熱い季節(八木義徳)
 ある通夜(遠藤周作)/納屋を焼く(村上春樹)/どんぐり(大庭みな子)
 <窓・文学>ある原点(日野啓三)/<窓・社会>ナメコ問題(別役実)
 「ながい旅」その後(大岡昇平)/庭と言葉(江藤淳)
 <対談>片隅の昭和史--『荻窪風土記』の周辺(井伏鱒二・安岡章太郎)
 <本>村上春樹『羊をめぐる冒険』(四方田犬彦)
 三浦哲郎『少年讃歌』(高井有一)
 三代の短篇小説--独歩・龍之介・康成(篠田一士)
 物語の行方(三浦雅士)

〈新潮〉八度目の引っ越し(萩原葉子)/モデル不存在広告(柴田翔)
〈海外文学ジャーナル〉アラン・ジュフロワの新作小説(西永良成)
昭和 58(1983)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3370) 「新潮」12月号1982

〈一挙掲載〉白百合の崖[きし](350枚)(津村節子)
竜を釣る(宮本徳蔵)
〈今月の短篇〉ひと夏の恋(山田稔)
戦後の保田與重郎(110枚)(桶谷秀昭)
ソルジェニーツィン断章(木村浩)
〈本〉井伏鱒二『荻窪風土記』(庄野潤三)
小島信夫『別れる理由』(三浦雅士)/色川武大『百』(川崎長太郎)
〈窓・文学〉英訳された日本語について(大岡信)
〈窓・社会〉「日本的」とは何か(後藤明生)
〈対談〉根源的な生命の不可思議(大庭みな子・高橋たか子)
司馬江漢雑考(15)--海保青陵宛書簡(中野好夫)
樗牛が逍遙に噛まれて謝る(谷沢永一)
魔性の音--『山躁賦』をめぐって(栗津則雄)
〈新潮〉チェーホフと巨人ムーロメツ伝説(中村雄二郎)/旅と文学(竹西寛子)
明大文芸科創立から五十年(斎藤正直)
ヴァイニング夫人とアンナ夫人(平川祐弘)
〈海外文学ジャーナル〉二つの英文学セミナーから(出淵博)
〈連載小説〉夏の葉--中野重治をおくる(完)(佐多稲子)
昭和 57(1982)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3371) 「新潮」11月号1982

「人間宣言」の内と外(270枚)(平川祐弘)
祈りと宝石--「優駿」3(宮本輝)/護国隊始末その後(辻邦夫)
暦(川崎長太郎)/変な旅(草野心平)/灰色のワルツ(吉行理恵)
北満の落日(八木義徳)
〈今月の短篇〉東京幻視(筒井康隆)
〈窓・文学〉七五調について(大岡信)/〈窓・社会〉贋金づくり(後藤明生)
〈本〉保田與重郎『わが萬葉集』(奥西保)
中上健次『千年の愉楽』(吉増剛造)/阿部昭『単純な生活』(坂上弘)
〈対談〉母の地勢学--文学の現在(中上健次・尹興吉[ユンフンギル])
犀星と朔太郎--作家の友情 10(河盛好蔵)
司馬江漢雑考(14)--海保青陵宛書簡、その他(中野好夫)
ユダヤ的崩壊の逆説--ソール・ベロウ論(入江隆則)
〈新潮〉男のロマン(金井美恵子)/大人の童話(倉橋由美子)
〈海外文学ジャーナル〉さまよえるロシア文学(沼野充義)
昭和 57(1982)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3372) 「新潮」10月号1982

〈一挙掲載〉バブル(小さな泡)(300枚)(佐江衆一)
東山道先鋒隊前後(辻邦夫)/老・病・死(三浦朱門)
空の青み(佐藤泰志)/丹波街道・冬(三枝和子)
〈今月の短篇〉馬(高橋三千綱)
〈窓・文学〉ある「変な考え」について(大岡信)
〈窓・社会〉野球と知識人(後藤明生)
〈本〉三浦朱門『武蔵野インディアン』(小沼丹)
丸谷才一『裏声で歌へ君が代』(野坂昭如)
尹興吉『母[エミ]』(四方田犬彦)
対決を回避して遁走する鷗外(谷沢永一)

失われし祖国を求めて(川端香男里)
シシリー王街十番地(飯島耕一)
もう一つの"日本"--戦後史の空間(完)(磯田光一)
<新潮>もっと観念的に(山崎正和)/半反百姓(高城修三)
<海外文学ジャーナル>シュトラウスの戯曲とファスビンダー(丸山匠)
昭和 57(1982)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3373) 「新潮」 9 月号 1982

伊藤整「敗戦日記」(260 枚)--伊藤整日記公表に際して(伊藤礼)
怒りの大気に冷たい嬰兒が立ちあがって(大江健三郎)
逃亡の時(八木義徳)/永日(色川武大)
<新潮新人賞受賞第一作>夢の壁(加藤幸子)
<今月の短篇>悔いの色(丹羽文雄)
<本>大江健三郎『「雨の木[レイン・ツリー]」を聴く女たち』(大庭みな子)
阿川弘之『テムズの水』(阿部昭)/三浦哲郎『おろおろ草紙』(三枝和子)
<窓・文学>文学という商品(三浦雅士)/<窓・社会>純粹の時代(古井由吉)
広津と宇野--作家の友情 9(河盛好蔵)
こころの詭計--嘉村磯多による問い(秋山駿)
現代性の批評家・上田敏(澁澤孝輔)
<新潮>渡辺一夫先生の絵の会で(中村真一郎)/辞世の句(飯田龍太)
五年目の夏(武田百合子)/追悼坪田譲治先生(庄野英二)
<海外文学ジャーナル>ソール・ベローのアメリカ批判(宮本陽吉)
昭和 57(1982)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3374) 「新潮」 8 月号 1982

<一挙掲載>ヴィレッジに雨(280 枚)(山本道子)
私小説家(川崎長太郎)/凍夜(安西篤子)/黒い鞆(高橋揆一郎)
甲州儒医列伝(辻邦生)
<今月の短篇>カラスの見える場所(日野啓三)
西脇順三郎アラベスク(追悼)(吉岡実)
<海外文学ジャーナル>
『世界終末の戦い』に見るバルガス=リョサの成熟(木村榮一)
<窓・文学>現代文学と政治(三浦雅士)/<窓・社会>いつまでも若く(古井由吉)
<本>中村光夫『時の壁』(佐々木基一)/山口瞳『婚約』(水上勉)
義秀帖--未帰の客(120 枚)(後藤杜三)
葛西と広津--作家の友情 8(河盛好蔵)
司馬江漢雑考(13)--考証・上田吉次郎について(中野好夫)
ジョイスとその後(高橋康也)
寓話の再生(佐伯彰一)
帰属願望の構造--戦後史の空間(10)(磯田光一)
評論から手を引く羽目になった鷗外(谷沢永一)
<新潮>事故(高橋睦郎)/全集(原田康子)
昭和 57(1982)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3375) 「新潮」 7 月号 1982

<第 14 回新潮新人賞発表>カメ男(小磯良子)
野餓鬼のいた村(加藤幸子)
<選評>(開高健・黒井千次・河野多恵子・三浦哲郎・吉行淳之介)
ゴドルフィンの血--「優駿」2(宮本輝)
羽根のように(八木義徳)/桃源の神の舞い(辻邦生)/初めの目撃者(増田みず子)
<今月の短篇>遠近法(阪田寛夫)
<窓・文学>時代の苛立ち(三浦雅士)/<窓・社会>出口にさしかかり(古井由吉)
<第 14 回三大新潮賞発表>

日本文学大賞 井上靖『本覚坊遺文』(講談社刊)
 安岡章太郎『流離譚』(新潮社刊)
 日本芸術大賞 下保昭(「近江八景」の連作に対して)
 <本>大岡昇平『ながい旅』(加賀乙彦)/遠藤周作『女の一生』(森禮子)
 古井由吉『山躁賦』(川村二郎)
 <対談>書いた、愛した、遊んだ九十年(里見淳・瀬戸内晴美)
 『奇蹟』の人びと--作家の友情 7(河盛好蔵)
 <人間の顔・最終回>顔とその背景(中野孝次)
 <新潮>リルケと俳句、など(高安国世)/音楽と文学(栗津則雄)
 非日常探し(宮原昭夫)/菊地さんの手紙(庄野潤三)
 <海外文学ジャーナル>「文化の国」の書物の生命と作家の価値(西永良成)
 昭和 57(1982)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3376) 「新潮」 6 月号 1982

<一挙掲載>ときめきに死す(310 枚)(丸山健二)
 荻窪(七賢人の会)--豊多摩郡井荻村(終)(井伏鱒二)
 湖北残雪(芝木好子)/シエナの娘--「森」第十四章(野上彌生子)
 辻保順病院由来(辻邦夫)
 <今月の短篇>雀のおやど(結城信一)
 <海外文学ジャーナル>英文壇で好評の日本人作家の処女作(出淵博)
 <窓・文学>贅沢について(倉橋由美子)/<窓・社会>常識の行方(遠山一行)
 <本>小林秀雄『本居宣長補記』(高橋英夫)/加賀乙彦『錨のない船』(吉村昭)
 島村利正『霧のなかの声』(保昌正夫)
 <第 14 回新潮新人賞経過発表>
 菊池の孤独--作家の友情 6(河盛好蔵)
 司馬江漢雑考(12)--幕間閑談のこと 2(中野好夫)
 "留学"の終焉--戦後史の空間(9)(磯田光一)
 <第 9 回川端康成文学賞発表>
 <受賞作>『百』(色川武大)(「新潮」昭和 56 年 4 月号所載)
 <審査員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
 樗牛が鷗外に罌を仕掛ける(谷沢永一)
 <人間の顔・10>松本光生・悦子--過疎地で有機農業を営む青年夫婦(中野孝次)
 <新潮>リルケと俳句、など(高安国世)/音楽と文学(栗津則雄)
 非日常探し(宮原昭夫)/菊地さんの手紙(庄野潤三)
 昭和 57(1982)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3377) 「新潮」 5 月号 1982

泳ぐ男--水のなかの「雨の木[レイン・ツリー]」(170 枚)(大江健三郎)
 荻窪(三毛猫のこと)(井伏鱒二)/時計台(八木義徳)
 路地の窓から(橋本勝三郎)/風林火山の旗を追って(辻邦生)
 <今月の短篇>四旬節(森内俊雄)
 <本>宮本輝『錦繡』(竹西寛子)/庄野潤三『早春』(上田三四二)
 大岡昇平『生と歌 中原中也その後』(飯島耕一)
 良友悪友--作家の友情 5(河盛好蔵)
 <人間の顔・9>渡辺克巳--最底辺から新宿の顔を撮りつづけた男(中野孝次)
 保田與重郎--昭和批評の一軌跡(160 枚)(桶谷秀昭)
 ニヒリズムを超えるもの--村松剛論(入江隆則)
 <窓・文学>短篇小説の衰亡(倉橋由美子)
 <窓・社会>分業のなかのジャーナリズム(遠山一行)
 <新潮>本日も曇天(結城信一)/年齢意識(森万紀子)
 <海外文学ジャーナル>亡命人の想像力(江川卓)
 昭和 57(1982)年 5 月 1 日発行(新潮社)

- 3378) 「新潮」 4月号 1982
 結婚(240枚)(井上光晴)
 小山清の孤独--豊多摩郡井萩村(15)(井伏鱒二)
 岬の輝き(山田稔)/ミモザの林を(岩阪恵子)
 杉原谷川・秋(三枝和子)/笛吹川のほとり(辻邦夫)
 <今月の短篇>弱い神(小川国夫)
 <本>日野啓三『抱擁』(吉行理恵)/中村真一郎『わが点鬼簿』(三輪秀彦)
 司馬江漢雑考(11)--江馬春齡と江漢書簡4(中野好夫)
 彼らの雌伏時代--作家の友情4(河盛好蔵)
 <人間の顔・8>庭瀬康二--現代医学を根本から問い直す外科医(中野孝次)
 史観と歴史小説--戦後史の空間8(磯田光一)
 瞽女[ごぜ]の唄(白洲正子)
 遊戯[ゆげ]良寛(上田三四二)
 <窓・文学>「裸の王様」症候群(倉橋由美子)
 <窓・社会>ウォークマンの社会学(遠山一行)
 <新潮>雷の話(中谷孝雄)/疑い(大庭みな子)
 <海外文学ジャーナル>死と絶望の世界を描くベルンハルトの自伝小説(丸山匠)
 昭和57(1982)年4月1日発行(新潮社)
- 3379) 「新潮」 3月号 1982
 <一挙掲載>地の塩の人--江口榛一私抄(360枚)(吉田時善)
 病氣入院--豊多摩郡井萩村(14)(井伏鱒二)
 北へ往く(八木義徳)/湾内の入江で(島尾敏雄)
 ある家系(辻邦夫)/珊瑚礁(吉村昭)
 <今月の短篇>花の下(竹西寛子)
 <本>北杜夫『輝ける碧き空の下で』(井上ひさし)
 佐伯彰一『外から見た日本文学』(W・カーリー)
 藤村信『ポーランド--未来への実験(パリ通信)』(田宮虎彦)
 菊池・久米・芥川--作家の友情3(河盛好蔵)
 <人間の顔・7>北御門二郎--トルストイへの愛を貫く農業者(中野孝次)
 <連詩 Linked Poems>揺れる鏡の夜明け(大岡信/トマス・フィッツシモンズ)
 <窓・文学>昭和七年(桶谷秀昭)<窓・社会>産業界の文化介入(西尾幹二)
 中上健次 または物語の発生(三浦雅士)
 <新潮>東北ルネサンス(佐々木基一)/パドヴァの石屋(澁澤龍彦)
 目下、修業中(増田みず子)/翻訳のむつかしさ(三浦朱門)
 「思想的思慕」再見(伊藤信吉)
 <海外文学ジャーナル>カルヴィーノの推す素性不明の新人(河島英昭)
 昭和57(1982)年3月1日発行(新潮社)
- 3380) 「新潮」 2月号 1982
 <一挙掲載>時の壁(340枚)(中村光夫)
 夏の葉2--中野重治をおくる(佐多稲子)
 永遠の処女(中村真一郎)/银杏散りやまず(辻邦夫)
 町内の植木屋--豊多摩郡井萩村(13)(井伏鱒二)
 <今月の短篇>観月観世(曾野綾子)
 <窓・文学>凡庸なるもの(柄谷行人)
 <窓・社会>思想としての「貿易摩擦」(西尾幹二)
 <本>井上靖『本覚坊遺文』(田久保英夫)/江藤淳『落葉の掃き寄せ』(松本道介)
 桶谷秀昭『中野重治 自責の文学』(白川正芳)
 「夜ひらく」と「窓展く」--作家の友情2(河盛好蔵)
 <人間の顔・6>熊谷榎--山への情熱を絵に託す女(中野孝次)
 住居感覚のディレンマ小説--戦後史の空間7(磯田光一)
 司馬江漢雑考(10)--江馬春齡と江漢書簡3(中野好夫)

〈追悼・島村利正〉両極に手をさしのべて--島村利正小論(篠田一士)
島村利正氏逝く(野口富士男)
双視の人--吉川幸次郎先生(竹之内静雄)
〈新潮〉言葉について(高橋たか子)/作者と出題者(後藤明生)
南方熊楠の土蔵(宮内勝典)/「池田健太郎賞」について(川端香男里)
〈海外文学ジャーナル〉リーヴ・ゴージュの神話(西永良成)
昭和 57(1982)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3381) 「新潮」新年特大月号 1982

〈新年小説特集〉
「雨の木[レイン・ツリー]の首吊り男」(140 枚)(大江健三郎)
溪の声(120 枚)(水上勉)/日の沈む場所(尾崎一雄)
天翔る農夫(丸山健二)/弱肉(富岡多恵子)/電話する女(柴田翔)
阿佐ヶ谷の釣具屋(井伏鱒二)/イギリスの梅干(阿川弘之)
莖が水を吸ふやうに(宇野千代)/草の路(田久保英夫)/帰郷(八木義徳)
樹の話(黒井千次)/夏の葉--中野重治をおくる(佐多稲子)
ガラスの壁(80 枚)(芝木好子)/よしや無頼(70 枚)(中上健次)
〈新連載〉菊慈童(円地文子)
〈窓・文学〉サイバネティックスと文学(柄谷行人)
〈窓・社会〉文部省の無思想(西尾幹二)
〈海外文学ジャーナル〉マーティン・エイミス新作長篇(出淵博)
芥川比呂志氏を思う(遠藤周作)
金素雲さんの死を悼む(藤枝静男)
言志と批評(山本健吉)
「流離譚」を読む(小林秀雄)
母性の変貌(大岡昇平)
〈詩〉幻の雪・渦巻(草野心平)
〈新潮〉畑の中の友だち(深沢七郎)/ひとつの場所(津島佑子)
雑俳考(丸谷才一)/保田與重郎氏の思い出(萩原葉子)
〈本〉古山高麗雄編『韓国現代文学 13 人集』(立松和平)
後藤明生『笑いの方法』(山口昌男)
筒井康隆『エロチック街道』(宮原昭夫)
〈新連載〉春夫と大學--作家の友情 1(河盛好蔵)
昭和 57(1982)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3382) 「新潮」12 月号 1981

〈一挙掲載〉錦繡(340 枚)(宮本輝)
夕焼けの黒い鳥(日野啓三)
外村繁のこと--豊多摩郡井萩村(11)(井伏鱒二)
〈本〉井伏鱒二『海揚り』(安岡章太郎)/大岡信『萩原朔太郎』(北川透)
小川国夫『若潮の頃』(桶谷秀昭)
〈海外文学ジャーナル〉老朽船にたとえられたアメリカ文壇(宮本陽吉)
〈今月の短篇〉知らぬおきなに(古井由吉)
万燈の灯--保田與重郎を哭す(林富士馬)
司馬江漢雑考(9)--江馬春齡と江漢書簡 2(中野好夫)
〈人間の顔・5〉永川玲二--中年の哲学的放浪者(中野孝次)
語り手の至福と悲しみ(佐伯彰一)
〈新潮〉釣瓶おとし(本多秋五)/情事と小説(青山光二)
若狭の登美子(津村節子)/桜の木の下(林京子)
〈人〉後藤明生の早技(加賀乙彦)
〈暦〉報われない愛の人<大谷藤子>(阿部光子)
昭和 56(1981)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3383) 「新潮」11月号1981

<一挙掲載>太陽の王(460枚)(立松和平)
平林たい子の生涯(上)(180枚)(戸田房子)
善福寺川--豊多摩郡井萩村(10)(井伏鱒二)
<海外文学ジャーナル>フロイトの登場する小説『白いホテル』(出淵博)
<今月の短篇>帽子(大庭みな子)
<本>井上ひさし『吉里吉里人』(三浦雅士)/大江健三郎『青年へ』(高城修三)
司馬遼太郎『ひとびとの登音』(高井有一)
六十年安保--戦後史の空間6(磯田光一)
<人間の顔・4>窪島誠一郎--信濃デッサン館をつくった男(中野孝次)
ナボコフの孤独(入江隆則)
<新潮>アリュールさん(清岡卓行)/子供の生命(金井美恵子)
<人>早熟少年井上厦[ひさし]君のこと(成田洋二郎)
<暦>思い出のヒト<正宗白鳥>(深沢七郎)
昭和56(1981)年11月1日発行(新潮社)

3384) 「新潮」10月号1981

饗宴の冬の都太陽の王(200枚)(石濱恒夫)
杞憂夢(坂上弘)/歳末(安西篤子)/火打沢(210枚)(増田みず子)
2・26事件の頃--豊多摩郡井萩村(9)(井伏鱒二)
<今月の短篇>カンガルー通信(村上春樹)
<本>立松和平『歓喜の市』(西尾幹二)/川村二郎『語り物の宇宙』(中上健次)
高橋英夫『志賀直哉 近代と神話』(小川国夫)
<人>谷沢永一さんの一言(河野多恵子)
<暦>岩国に眠る<河上徹太郎>(野々上慶一)
司馬江漢雑考(8)--江馬春齡と江漢書簡1(中野好夫)
鷗外の追撃を断ち切った逍遙(谷沢永一)
<人間の顔・3>樋口博明--酒を呑むために生れて来た男(中野孝次)
志賀直哉没後十年(城の崎・初対面・落第免状・座右宝)(藤枝静男)
批評の美食について--河上徹太郎論(篠田一士)
詩と人と自然の「いのち」--"日本美の源を探る"山本健吉の現在(上田三四二)
<新潮>志賀直哉展にちなんで(阿川弘之)/耳か眼か(黒井千次)
往生伝を読む(栗田勇)/船山馨夫妻を悼む(原田康子)
<海外文学ジャーナル>もうひとりのロマン・ガリ(菅野昭正)
昭和56(1981)年10月1日発行(新潮社)

3385) 「新潮」9月号1981

鯛の島(吉村昭)/ポプコーンの神様(高橋揆一郎)
続・阿佐ヶ谷将棋会--豊多摩郡井萩村(8)(井伏鱒二)
鄭寿吉(田村亘)/ひとり家族(運上旦子)
<今月の短篇>ゆきずり(川崎長太郎)
<人>吉行理恵さんの微笑(滝口雅子)
<暦>「無頼」以後<立原正秋>(岡松和夫)
<本>吉行淳之介訳『好色一代男』(杉本秀太郎)
小島信夫『美濃』(柄谷行人)/篠田一士『吉田健一論』(川村二郎)
都会と田園(ドナルド・キーン/金関寿夫訳)
溶解から創造へ--開高健の文学(秋山駿)
性とそのタブー--戦後史の空間5(磯田光一)
<人間の顔・2>関野吉晴--インディオに魅せられた若者(中野孝次)
司馬江漢雑考(8)--江馬春齡と江漢書簡1(中野好夫)
鷗外の追撃を断ち切った逍遙(谷沢永一)
<人間の顔・3>樋口博明--酒を呑むために生れて来た男(中野孝次)
<新潮>亡き人たちが訪ねてくる(手塚富雄)

羅漢様お首つなぎのこと(中沢けい)/川竹の女(小川国夫)
エッセイを書くために(村上龍)/生死の間に漱石を読む(平川祐弘)
〈海外文学ジャーナル〉国内にもあるソ連文学(江川卓)
昭和 56(1981)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3386) 「新潮」 8月号 1981

崖--「森」第 13 章(野上彌生子)
阿佐ヶ谷将棋会--豊多摩郡井萩村(7)(井伏鱒二)
サンライズ・クラブ(森内俊雄)/寢音(岩橋邦枝)/万蔵の場合(車谷長吉)
〈今月の短篇〉眉墨(宮本輝)
〈人〉神田ッ児、福田恆存(中村光夫)
〈暦〉谷崎さんの墓<谷崎潤一郎>(生島遼一)
〈本〉山本道子『天使よ海に舞え』(坂上弘)
山崎正和『曖昧への冒険』(清水徹)/宮本輝『道頓堀川』(阪田寛夫)
司馬江漢雑考(7)--幕間閑談のこと 1(中野好夫)
黙契の文学--「座」の美意識から(饗庭孝男)
〈人間の顔・1〉藤沢秀行--人にそなわる信の魅力とは?(中野孝次)
論理に勝って気合い負け逍遙(谷沢永一)
〈新潮〉サローヤンの思い出(小島信夫)/現代小説と劇的なもの(山崎正和)
強くて怖いもの(古山高麗雄)/福原麟太郎先生を偲ぶ(白洲正子)
〈海外文学ジャーナル〉
大量殺人者ヒムラーの父親を告発するアンデルシュの遺作(丸山匠)
〈連載小説〉輝ける碧き空の下で(第一部・完)(北杜夫)
昭和 56(1981)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3387) 「新潮」 7月号 1981

〈第 13 回新潮新人賞発表〉橋の上から(川勝篤)
幻の川(小田康正)
〈選評〉(遠藤周作・開高健・河野多恵子・三浦哲郎・吉行淳之介)
黒田ノ庄駅夏(三枝和子)
天沼の弁天通り--豊多摩郡井萩村(6)(井伏鱒二)
凧(田久保英夫)/仙界逍遙(中村真一郎)/月と昇天(波多野文彦)
〈今月の短篇〉あの家(津島佑子)
〈第 13 回三大新潮賞発表〉
日本文学大賞 小島信夫『私の作家遍歴』(潮出版社刊)
日本芸術大賞 濱谷浩(写真集『血の貌』『生の貌』の業績に対して)
〈本〉中里恒子『水鏡』(上田三四二)/佐伯彰一『近代日本の自伝』(入江隆則)
M・バルガス＝リョサ『緑の家』(加賀乙彦)
〈人〉動の人 小島信夫さん(古井由吉)
〈暦〉ゴンドラの唄<林芙美子>(大原富枝)
街道の温もり(安岡章太郎)
転向の帰趨--戦後史の空間 4(磯田光一)
〈新潮〉書評について(三浦朱門)/リヨン、冬から春へ(菅野昭正)
自由な線(荒川洋治)/読者の反応(倉橋由美子)
〈海外文学ジャーナル〉
カミュとグルニエ・生涯を通じての往復書簡(西永良成)
昭和 56(1981)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3388) 「新潮」 6月号 1981

〈第 8 回川端康成文学賞発表〉
〈受賞作〉『兵隊宿』(竹西寛子)(「海」昭和 55 年 3 月号所載)
〈審査員〉(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
誤解(辻井喬)/だまし絵(笠原淳)/やめる(尾辻克彦)

文学青年賽[やつ]れ--豊多摩郡井萩村(5)(井伏鱒二)
黒鳥(安西篤子)/宝冠(島村利正)
<今月の短篇>石の話(黒井千次)
<第13回新潮新人賞経過発表>
<本>井上光晴『憑かれた人』(篠田一士)
井上ひさし『私家版日本語文法』(長谷川龍生)
川端香男里『薔薇と十字架』(平川祐弘)
<人>広島県女の竹西さん(桂芳久)
<暦>手紙<網野菊>(廣津桃子)
司馬江漢雑考(6)--山領主馬と江漢書簡5(中野好夫)
鷗外はじめて苦境に立つ(谷沢永一)
「純粹」の発見--河上徹太郎再読(高橋英夫)
<新潮>ノンフィクション私感(高井有一)/詩と小説あれこれ(飯島耕一)
土着といわれて(立松和平)/文学的(大庭みな子)
<海外文学ジャーナル>静かなブームを呼ぶ遠藤周作(宮本陽吉)
昭和56(1981)年6月1日発行(新潮社)

3389) 「新潮」 5月号 1981

<新連載>白夜を旅する人々(三浦哲郎)
私の華燭(森万紀子)/降ってきた鳥(竹西寛子)
平野屋酒店--豊多摩郡井萩村(4)(井伏鱒二)
茫々半世紀(完)(草野心平)
<今月の短篇>手暗がり(野口富士男)
堀口さんを偲ぶ(河盛好蔵)
<人>川崎さんのにこやかなるこわさ(中野孝次)
<暦>埋み火<平野謙>(山室静)
<本>高橋たか子『怪しみ』(桶谷秀昭)/増田みず子『道化の季節』(秋山駿)
尾辻克彦『父が消えた』(奥野健男)
源氏紙風船(完)--紫式部という女2(田辺聖子)
"家"の変容--戦後史の空間3(磯田光一)
物語の生れる場所--冥界下りのヴィジョン(佐伯彰一)
漱石の師マードック先生(200枚)(平川祐弘)
<新潮>三好達治の「ヴェルレーヌ」(井上究一郎)/友達の装幀(大岡信)
鏡について(高橋揆一郎)/書斎の中(宮尾登美子)
<海外文学ジャーナル>注目されだしたアレンの短篇(宮本陽吉)
昭和56(1981)年5月1日発行(新潮社)

3390) 「新潮」 4月号 1981

鳥人伝説(200枚)(青野聰)
震災避難民--豊多摩郡井萩村(3)(井伏鱒二)
キントト(高橋三千綱)/伯耆大山(島村利正)/百(色川武大)
<今月の短篇>オーメン(後藤明生)
<本>吉村昭『炎のなかの休暇』(秋山駿)/小島信夫『私の作家遍歴』(磯田光一)
ジョン・ガードナー『大要の対話』(大江健三郎)
<人>夢屋一家の尾辻克彦さん(深沢七郎)
<暦>無口な人<原民喜>(武田百合子)
司馬江漢雑考(5)--山領主馬と江漢書簡4(中野好夫)
源氏紙風船(20)--紫式部という女(田辺聖子)
悪の果てへの旅--高橋たか子論(入江隆則)
鷗外にだけは気をつけよ(谷沢永一)
<新潮>地下の家族(日野啓三)/山の怒り(山本道子)
人形の首・人の首(三枝和子)/ボロ自動車の女(佐々木基一)
<海外文学ジャーナル>誰がソレルスを恐れるか(西永良成)

<連載小説>流離譚(完)(安岡章太郎)
昭和56(1981)年4月1日発行(新潮社)

3391) 「新潮」3月号1981

<芥川賞受賞第一作>自宅の蠢き(尾辻克彦)
関東大震災直後--豊多摩郡井萩村(2)(井伏鱒二)
柘榴[ざくろ]抄--小説秋草道人断章(結城信一)
イヌワシのように(150枚)(丸山健二)
<今月の短篇>ゴムの木(小沼丹)
<本>中村真一郎『秋』(平岡篤頼)/坂上弘『初めの愛』(岡松和夫)
深沢七郎『みちのくの人形たち』(桶谷秀昭)
<人>野上彌生子七十余年の歩み(瀬沼茂樹)
<暦>最後の教訓<坂口安吾>(真鍋呉夫)
源氏紙風船(19)--私の好きな文章2(田辺聖子)
地球浄土(上田三四二)
占領の二重構造--戦後史の空間2(磯田光一)
福原さんを偲ぶ(庄野潤三)
言葉、言葉、言葉(下)(福田恆存)
<新潮>土方定一のこと(草野心平)/花田彗星(中野孝次)
肩書きについて(栗津則雄)/一つの仕事を終えて(山本健吉)
<海外文学ジャーナル>二つの悲劇(菅野昭正)
昭和56(1981)年3月1日発行(新潮社)

3392) 「新潮」2月号1981

萩窪八丁通り--豊多摩郡井萩村(1)(井伏鱒二)
冬の夜(岡松和夫)/独身病(増田みず子)/茫々半世紀(2)(草野心平)
黒髪山(高橋昌男)/小さな貴婦人(吉行理恵)
<今月の短篇>しゅうと(三浦朱門)
<本>大庭みな子『オレゴン夢十夜』(小島信夫)
永井龍男『秋 その他』(田久保英夫)/阿部昭『言葉ありき』(大江健三郎)
<人>"遠雷の友"立松和平(福島泰樹)
<暦>精魂傾けた愛<織田作之助>(青山光二)
司馬江漢雑考(4)--山領主馬と江漢書簡3(中野好夫)
源氏紙風船(18)--私の好きな文章(田辺聖子)
型から無へ--唐木順三論(桶谷秀昭)
言葉、言葉、言葉(上)(福田恆存)
<新潮>下駄の話(平川祐弘)/寺崎浩氏のこと(宮内寒爾)
<海外文学ジャーナル>商業作家としてのメイラー(宮本陽吉)
昭和56(1981)年2月1日発行(新潮社)

3393) 「新潮」新年特別号1981

<新年短篇小説特集>
木刀・井戸・玉樟--老人の冒険(尾崎一雄)
夫婦の一日(遠藤周作)/重力の都(中上健次)/母一夜(水上勉)
野生(田久保英夫)/何故それはいつでも(宇野千代)/新富嶽百景(加賀乙彦)
青い雉(島村利正)/野猿(原田康子)/春倦(坂上弘)
平林たい子徒然草(円地文子)/野一面(津島佑子)
<新連載>ここ過ぎて(瀬戸内晴美)
<本>倉橋由美子『城の中の城』(奥野健男)
吉行淳之介・篠山紀信『ヴェニス 光と影』(川村二郎)
池田健太郎『わが読書雑記』(高橋英夫)
<人>大岡信の家(谷川俊太郎)
<暦>なつかしき一喝<横光利一>(八木義徳)

司馬江漢雜考(3)--山領主馬と江漢書簡 2(中野好夫)
源氏紙風船(17)--埋める作業 2(田辺聖子)
〈新連載〉戦後史の空間(1)--敗戦のイメージ(磯田光一)
『氏神と氏子』の原型--占領軍の検閲と柳田国男(江藤淳)
「復活」と「瀧の白糸」(大岡昇平)
宇宙のへりの鷲--ついに書かれなかった小説を批評する(大江健三郎)
白村と柳村(河盛好蔵)
〈新潮〉ミーラン遺址(井上靖)/天井二つ(丸谷才一)
東大寺落慶(芝木好子)/あるテストの結果(吉行淳之介)
〈海外文学ジャーナル〉キューバ亡命作家の告発(鼓直)
昭和 56(1981)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3394) 「新潮」12月号1980

親父の血痕(140枚)(小川国夫)
貧乏な叔母さんの話(村上春樹)/脱出(吉村昭)/誘い(高橋たか子)
〈今月の短篇〉海の幸(高井有一)
〈特集・三島由紀夫論〉
22年前の三島由紀夫(ドナルド・キーン/金関寿夫訳)
美の変質--「金閣寺」論序説(田中美代子)
私小説・オペラの--「豊饒の海」再訪(佐伯彰一)
〈本〉石川淳『狂風記』(杉本秀太郎)/野口富士男『なぎの葉考』(上田三四二)
大岡昇平『ハムレット日記』(磯田光一)
〈人〉深沢七郎さんのうまいもの(立松和平)
〈暦〉菩薩幻想<亀井勝一郎>(上原和)
造化と自然と--日本美の「いのち」と「かたち」(完)(山本健吉)
源氏紙風船(16)--埋める作業(田辺聖子)
〈追悼・河上徹太郎〉終焉の會(井伏鱒二)/「知ってるよ」(大岡昇平)
得難い人(中村光夫)/河上さんと郷土(安岡章太郎)
音楽と批評(遠山一行)/「さむらひ」と「侍」(遠藤周作)
デュエットの名手(篠田一士)/肉体の悲しみ(阿部昭)
守成の妙--1980年(篠田一士)
〈新潮〉パウル・クレー展(後藤明生)/影響と受容(村松剛)
丹波の闇(高城修三)/牧場の抜根線(畑山博)
昭和 55(1980)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3395) 「新潮」11月号1980

〈一挙掲載〉春の道標(400枚)(黒井千次)
〈短期掲載(最終回)〉青草の庭(高橋揆一郎)
〈今月の短篇〉風鈴(八木義徳)
司馬江漢雜考(2)--山領主馬と江漢書簡 1(中野好夫)
〈特集・三島由紀夫論〉
〈本〉古井由吉『椋鳥[むくどり]』(菅野昭正)/李恢成『流民伝』(三木卓)
トニー・タナー『言語の都市』(沼澤洽治)
〈人〉河野さんの魔力(古井由吉)
〈暦〉志賀さんのやさしさ<志賀直哉>(島村利正)
死・老・狂・修羅(下)--日本美の「いのち」と「かたち」(25)(山本健吉)
源氏紙風船(15)--紫の上という女 6(田辺聖子)
〈追悼・上林暁〉同じ町内に住んで(河盛好蔵)/左手の鉛筆文字(渋谷駿)
敗戦の年の秋のある日のこと(田宮虎彦)
時代像の崩壊--『歴史の亀裂』・完(山崎正和)
私的想像力の現在--オクタビオ・パスの場合(濫澤孝輔)
〈新潮〉「近代文学」の複刻(埴谷雄高)
動物と物語(金井美恵子)/山景と水景(伊藤桂一)

〈海外文学ジャーナル〉スタイナーの処女小説の再刊(出淵博)
昭和 55(1980)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3396) 「新潮」 10 月号 1980

明けの赤馬(古井由吉)/他人の領分(運上旦子)
〈短期掲載(第 2 回)〉青草の庭(高橋揆一郎)
信に至る愚(倉橋由美子)/炎のなごり(結城信一)
〈今月の短篇〉レオナルド・ダヴィンチの夜(小島信夫)
〈本〉尾崎一雄『蜂と老人』(庄野潤三)/田久保英夫『雨飾り』(日野啓三)
森禮子『天の獵犬・他人の血』(三枝和子)
〈人〉永遠の旅人・井上靖(近藤信行)
〈暦〉あずけられた行李<宇野浩二>(水上勉)
死・老・狂・修羅--日本美の「いのち」と「かたち」(24)(山本健吉)
源氏紙風船(14)--紫の上という女 5(田辺聖子)
〈追悼・立原正秋〉光のなかの生と死(高井有一)/風の行方(桶谷秀昭)
思い出断片(本多秋五)
老成と潔癖--現代小説を読む(西尾幹二)
反物語のアイロニー--安部公房の場合(佐伯彰一)
〈新潮〉トルストイとスターリン(田宮虎彦)/太宰治の啖呵(野原一夫)
足穂幻想(折目博子)/ムルソー殺人(白井浩司)
〈海外文学ジャーナル〉若い世代を担うビーティ(宮本陽吉)
昭和 55(1980)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3397) 「新潮」 9 月号 1980

〈短期掲載(全 3 回)〉青草の庭(高橋揆一郎)
霧のなかの声(島村利正)/燈明(水上勉)/狂ったカード(寺久保友哉)
〈今月の短篇〉犬の耳(富岡多恵子)
〈本〉五味康祐『人間の死にざま』(阿部昭)
大江健三郎『現代伝奇集』(李恢成)
安部公房『都市への回路』(ドナルド・キーン)
それは刃物が導いた--「色ざんげ」追記(宇野千代)
〈人〉夷齋先生のこと(丸谷オー)
〈暦〉「アラスカ」での昼食<吉田健一>(幾野宏)
世阿身の能における--日本美の「いのち」と「かたち」(23)(山本健吉)
源氏紙風船(13)--紫の上という女 4(田辺聖子)
普遍と特殊性のドラマ--『侍』『荒野』をめぐる(饗庭孝男)
〈新連載(隔月)〉司馬江漢雑考(中野好夫)
〈新潮〉福永さんとキリスト教(加賀乙彦)/はずみということ(川村二郎)
小説とモデル(津村節子)/私の中の詩人たち(伊藤信吉)
〈海外文学ジャーナル〉グラスの新作『頭脳の出産』の周辺(丸山匠)
昭和 55(1980)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3398) 「新潮」 8 月号 1980

オレゴン夢十夜(350 枚)(大庭みな子)
僕の猿 僕の猫(色川武大)
〈今月の短篇〉さくらの寺(阿川弘之)
〈本〉岡松和夫『魂ふる日』(立松和平)
水上勉『私版 京都図絵』(杉本秀太郎)/J・バース『キマイラ』(佐伯彰一)
〈人〉古井由吉の営み(後藤明生)
〈暦〉純情可憐の酒呑み<外村繁>(巖谷大四)
花の美学 茶の思想(下)--日本美の「いのち」と「かたち」(22)(山本健吉)
源氏紙風船(12)--紫の上という女 3(田辺聖子)
神話としての現代(高橋英夫)

石川淳と山東京傳(中村幸彦)
唐木順三氏の面目(岡松和夫)
〈新潮〉天国と地獄(読書)(生島遼一)/トンボと神様(森万紀子)/大和郡山(森敦)
〈海外文学ジャーナル〉ヘンリー・ミラーの死(宮本陽吉)
昭和 55(1980)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3399) 「新潮」 7 月号 1980

〈第 12 回新潮新人賞発表〉二十歳の朝に(木田拓雄)
ぼくの出発(運上旦子)
〈選評〉(大江健三郎・佐伯彰一・安岡章太郎・河野多恵子・三浦哲郎)
炎のほとり(結城信一)/伴侶(岩橋邦枝)
〈今月の短篇〉骨を噛む(高橋揆一郎)
〈人〉ひっそりと結城信一氏(伊藤信吉)
〈暦〉幻の古稀びと〈太宰治〉(伊馬春部)
〈本〉遠藤周作『侍』(磯田光一)/円地文子『砧[きぬた]』(森川達也)
高橋たか子『荒野』(森禮子)
〈第 12 回三大新潮賞発表〉
日本文学大賞 古井由吉『栖[すみか]』(平凡社刊)
結城信一『空の細道』(河出書房新社刊)
日本芸術大賞 楨文彦(代官山集合住宅〈デンマーク大使館を含む〉)
〈対談〉ジャン＝ポール・サルトル--その豊饒と枯渇(開高健・白井浩司)
花の美学 茶の思想(上)--日本美の「いのち」と「かたち」(21)(山本健吉)
源氏紙風船(11)--紫の上という女 2(田辺聖子)
証明のない情熱--「歴史の亀裂」5(山崎正和)
〈新潮〉旅の出会い(芝木好子)/彼岸と富草(大岡信)
寺領管理文書(柴田翔)/野呂邦暢氏のこと(丸山健二)
〈海外文学ジャーナル〉サルトルの死後に(菅野昭正)
昭和 55(1980)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3400) 「新潮」 6 月号 1980

〈第 7 回川端康成文学賞発表〉
〈受賞作〉『なぎの葉考』(野口富士男)(「文学界」昭和 54 年 9 月号所載)
〈審査員〉(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
川端賞辞退について(深沢七郎)
隙間の構図(増田みず子)/満潮(重兼芳子)/この世が花(230 枚)(富岡多恵子)
〈今月の短篇〉紺の角帯(三浦哲郎)
〈本〉小川国夫『アフリカの死』(饗庭孝男)
河野多恵子『一年の牧歌』(田久保英夫)
河上徹太郎『巖島閑談』『史伝と文芸批評』(高橋英夫)
「本居宣長」補記(完)(小林秀雄)
〈人〉地声の人 野口富士男(八木義徳)
〈暦〉門弟三千人〈佐藤春夫〉(林富士馬)
日常性とロマンスの間(佐伯彰一)
若き日の吉川幸次郎君(河盛好蔵)
五味康祐逝く(保田與重郎)
遙かなみちのく 遠い歌枕--日本美の「いのち」と「かたち」(20)(山本健吉)
源氏紙風船(10)--紫の上という女(田辺聖子)
〈新潮〉「彼自身に、遂に、永遠が.....」(中村真一郎)
吉川幸次郎先生の記憶(安西篤子)/与謝蕪村と私(寺久保友哉)
四度目の手術(遠藤周作)
〈海外文学ジャーナル〉ロラン・バルトの死(菅野昭正)
昭和 55(1980)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3401) 「新潮」 5月号 1980

木刀(高橋三千綱)/パーティー(小林信彦)/形見(中村光夫)
<今月の短篇>失せ物(庄野潤三)
<本>中上健次『鳳仙花』(中野孝次)/結城信一『空の細道』(島村利正)
加賀乙彦『死刑囚の記録』(秋山駿)
一異端児の霊の世界(200枚)
--来日以前と以後のラフカディオ・ハーン(平川祐弘)
<人>情感の人 島村利正(新庄嘉章)
<暦>自由人<川端康成>(石濱恒夫)
囁くような告げごと--日本美の「いのち」と「かたち」(19)(山本健吉)
源氏紙風船(9)--女はセレモニーを愛す2(田辺聖子)
「本居宣長」補記(3)(小林秀雄)
志賀直哉夫人の死(阿川弘之)
花月西行(上田三四二)
<新潮>近代化と郷愁(佐伯彰一)/北の芸術家たち(高橋揆一郎)
山紫水明処(竹西寛子)/情報国家(三浦朱門)
<海外文学ジャーナル>ドノソ「別荘」の寓意(鼓直)
昭和55(1980)年5月1日発行(新潮社)

3402) 「新潮」 4月号 1980

茫々半世紀(草野心平)/『芽むしり仔撃ち』裁判(完)(大江健三郎)
天の獵犬(森禮子)/帰郷祭(立松和平)
蒔絵グラスの女--「森」第12章(野上彌生子)/雪女(日野啓三)
<今月の短篇>海図(田久保英夫)
<本>宇野千代『残ってゐる話』(上田三四二)
丹羽文雄『蕩児帰郷』(八木義徳)
ガルシア＝マルケス『落葉』(篠田一士)
運命として 思想として--日本美の「いのち」と「かたち」(18)(山本健吉)
源氏紙風船(8)--女はセレモニーを愛す(田辺聖子)
<人>身の上ばなしをしない森禮子(なだいなだ)
<暦>戦った人<椎名麟三>(矢代静一)
家のない家父長--「歴史の亀裂」4(山崎正和)
薄明のなかの帰路--立原正秋論(入江隆則)
自然と人間のドラマ--新田次郎死を悼む(尾崎秀樹)
<新潮>吉田満さんのこと(古山高麗雄)/禅寺の記(増田みず子)
カイバル峠の今昔(村松剛)
<海外文学ジャーナル>サハラ流刑の状況下で(江川卓)
昭和55(1980)年4月1日発行(新潮社)

3403) 「新潮」 3月号 1980

回想 太宰治(300枚)(野原一夫)
怪しみ(高橋たか子)/こわれた橋(阿部光子)
『芽むしり仔撃ち』裁判(2)(大江健三郎)
<今月の短篇>石濤(井上靖)
<人>大江健三郎氏のクロール(原広司)
<暦>目白の舟橋先生<舟橋聖一>(芝木好子)
<本>高橋揆一郎『北の旗雲』(桶谷秀昭)/磯田光一『永井荷風』(高橋昌男)
『アイスランドサガ』(山本太郎)
其角(承前)--續夷齋華言(完)(石川淳)
歌枕の誕生--日本美の「いのち」と「かたち」(17)(山本健吉)
源氏紙風船(7)--女は布帛[ふはく]を愛す(田辺聖子)
「本居宣長」補記(2)(小林秀雄)
<新潮>新花柳小説への要望(野口富士男)/リルケへの機縁(澁澤孝輔)

ユダヤ人訪問者(青野聰)/隣人・池田健太郎(李恢成)
〈海外文学ジャーナル〉聖書と祈禱書をめぐる論争(出淵博)
昭和 55(1980)年 3 月 1 日発行(新潮社)

- 3404) 「新潮」 2月号 1980 <創刊 900 号記念特大号>
〈創作特集〉ユープケッチャ(安部公房)/眠そうな眼(柴田翔)
骨壺の風景(松本清張)/オフィーリアの埋葬(大岡昇平)
塵によって(曾野綾子)/日本の聖女(遠藤周作)/雲母の柵(吉村昭)
『芽むしり仔撃ち』裁判(大江健三郎)
『新潮』を巡って(河盛好蔵)/脱走者の兄(安岡章太郎)
オンコの木と再び逢う(幸田文)/「本居宣長」補記(小林秀雄)
〈展望・回顧〉 あれから 33 年(阿川弘之)/休息の必要(阿部昭)
80 年代型文学の条件(石原慎太郎)/文学の終焉(入江隆則)
「新潮」とのお付き合い(円地文子)/理想なき時代の理想(加賀乙彦)
退屈(河上徹太郎)/本物の処女作(北杜夫)/天気と雲気(草野心平)
長く短く(黒井千次)/分り易くはいうまい(小島信夫)
総点検と補強(後藤明生)/老練の味わい(佐伯彰一)/黄昏の砂漠(島尾敏雄)
大戦末期の「新潮」(島村利正)/原稿の字と小説の主題(庄野潤三)
「Z」と新潮(瀬戸内晴美)/戦後生れ(高城修三)/言葉の磁力(田久保英夫)
思索への旅 根源への旅(辻邦夫)/小説への興味(富岡多恵子)
アメリカにて(中上健次)/生涯の頂上に.....(中村真一郎)
思想の老若(中村光夫)/外部の変化(西尾幹二)
和語なるが故に尊からず(福田恆存)/編集者(三浦朱門)
血を書く(三浦哲郎)/「金閣炎上」その後(水上勉)
雑踏のなかの文藝雑誌(山崎正和)/内側にのみこむ(山本道子)
蔵の本(吉田知子)/同時代を分かち合いたい(李恢成)
死者との絆--占領軍の検閲と『戦艦大和ノ最期』(江藤淳)
短篇小説の問題(篠田一士)
〈座談会〉戦後短篇小説小史(吉行淳之介・河野多恵子・磯田光一)
〈「新潮」戦後短篇珠玉選〉
黒猫(島木健作)/霊三題(阿川弘之)/焼跡のイエス(石川淳)
親友交歓(太宰治)/蟲のいろいろ(尾崎一雄)/サラサーテの盤(内田百閒)
果実(三島由紀夫)/漆胡樽(井上靖)/庭の眺め(梅崎春生)/華燭(船橋聖一)
晩春の旅(井伏鱒二)/喪神(五味康祐)/小銃(小島信夫)
サアカスの馬(安岡章太郎)/弓浦市(川端康成)/人間の羊(大江健三郎)
贅沢貧乏(森茉莉)/おくま嘘歌(深沢七郎)/札の辻(遠藤周作)
秘密(平林たい子)/焚火(大岡昇平)/熊狩り(丹羽文雄)/花食い姥(円地文子)
電話(佐多稲子)/秋(永井龍男)/河明り(田久保英夫)
昭和 55(1980)年 2 月 1 日発行(新潮社)

- 3405) 「新潮」 新年特大号 1980
〈新年短篇小説特集〉
迅く来いクリスマス(尾崎一雄)/乱舞(三浦哲郎)/色紙と硯(八木義徳)
峠のわが家(富岡多恵子)/ハンの木のある風景(高橋揆一郎)
園林のほとり(結城信一)/秋末の一日(水上勉)/会津晩秋(島村利正)
弱者のやうに(宇野千代)/空蟬(立原正秋)/腫の腫れ(島尾敏雄)
浮雲(川崎長太郎)/山頂まで(高井有一)/再会(瀬戸内晴美)
造り酒屋(上林暁)/火(宮本輝)/犬と金魚(丹羽文雄)
〈人〉五月の藤枝さん(坂上弘)
〈暦〉沈黙の人<和辻哲郎>(串田孫一)
其角(承前)--續夷齋華言(11)(石川淳)
「いみじき心ばせ」--日本美の「いのち」と「かたち」(16)(山本健吉)
源氏紙風船(6)--源氏という男 4(田辺聖子)

<対談>多様化する現代文学--1980年代へ向けて(大江健三郎・中上健次)
<本>安岡章太郎『放屁抄』(日野啓三)/吉行淳之介『菓子祭』(奥野健男)
W・ギャス『アメリカの果ての果て』(黒井千次)
手放す(杉本秀太郎)
根源への遡行--大江健三郎『同時代ゲーム』を読む(加賀乙彦)
海之都(丸谷才一)
<新潮>虎列刺[コレラ]の話(吉行淳之介)/30年前だったから(谷沢永一)
水責め火責め針の山(森茉莉)/日本の水(野間宏)
<海外文学ジャーナル>
スモール・プレスとフィクション・コレクティヴ(宮本陽吉)
昭和55(1980)年1月1日発行(新潮社)

3406) 「新潮」12月号1979

海揚り(井伏鱒二)/思想と愛欲(中村真一郎)/月と花火(丸山健二)
紺衣のセイレーネス(宮原昭夫)/螢の宿(古山高麗雄)
双曲線(150枚)(三浦朱門)
<海外文学ジャーナル>パリで注目される元外交官作家の代表作(工藤幸雄)
<人>菩薩の歌・夜叉の歌--中里さんのこと(團伊久磨)
<暦>諧謔と憤激<伊藤整>(瀬沼茂樹)
栄枯盛衰--日本美の「いのち」と「かたち」(15)(山本健吉)
源氏紙風船(5)--源氏という男3(田辺聖子)
70年代の終りに(磯田光一)
「地の果て」へ(高橋たか子)
行動する淋しさ--「歴史の亀裂」3(山崎正和)
<新潮>六号雑記、その他(林富士馬)/縄について(黒井千次)
訪ソ旅行の思い出(宮内完爾)/物語の内なる「私」(小林信彦)
<読書>ある野球人の生涯--「白球」に栄光と夢をのせて(清岡卓行)
昭和54(1979)年12月1日発行(新潮社)

3407) 「新潮」11月号1979

魔の時間への旅(300枚)(山田智彦)
産屋(立松和平)/失踪(中野孝次)
<海外文学ジャーナル>シーモノフの死(江川卓)
ロマンスの復権(佐伯彰一)
<人>田中小実昌さんのこと(小川国夫)
<暦>悪い節を跨いで<武田泰淳>(辻井喬)
二つの後宮サロン--日本美の「いのち」と「かたち」(14)(山本健吉)
源氏紙風船(4)--源氏という男2(田辺聖子)
<追悼・中野重治>文学同期生(尾崎一雄)
その「戦後」のひとつ(大江健三郎)
遠く近く50年(伊藤信吉)/中野さんの思い出(水上勉)
中野さんのやさしさ(森山啓)/心やさしいひと(堀多恵子)
運動族・中野重治さん(佐々木基一)
おまえは歌え赤まんまの花を(草野心平)
<新潮>よしなしごと(大岡昇平)/新幹線にのって(田中小実昌)
『無産者グラフ』その他(久保田正文)
<読書>近くの遠さ--平野萬里「晶子鑑賞」(竹西寛子)
昭和54(1979)年11月1日発行(新潮社)

3408) 「新潮」10月号1979

<遺稿60枚>山のちから(未完)(福永武彦)
<追悼>福永の思い出(中村真一郎)/さらば、青春の友よ(堀田善衛)
死の連帯感(埴谷雄高)/無念の思い(結城昌治)

歌三首の傍えに(伊藤信吉)/野の草花を愛した福永さん(堀多恵子)
風琴(田久保英夫)/魔女の樹(山本道子)/羊のうた(直井潔)/八月(後藤明生)
<人>水上さんの物語群[サーガ](中上健次)
<暦>広津先生と麻雀<広津和郎>(田岡典夫)
<海外文学ジャーナル>杵を破った杵物語(河島英昭)
訪中詩事2(吉川幸次郎)
「諸向き心」と「直向き心」--日本美の「いのち」と「かたち」(13)(山本健吉)
源氏紙風船(3)--源氏という男(田辺聖子)
宮島閑談--半自叙伝風に(河上徹太郎)
神話象徴の転位(川村二郎)
<新潮>一軍人の死(阿川弘之)/大塚金之助歌集のこと(桶谷秀昭)
兼好とモンテニユ(B・吉田クラフト)/大仏の顔(森敦)
<読書>軍人たちの想像力--J・ハケットほか「第三次世界大戦」(石原慎太郎)
昭和54(1979)年10月1日発行(新潮社)

3409) 「新潮」 9月号 1979

<450枚一挙掲載>奈良飛鳥園--小説・小川晴暘(島村利正)
<人>上田三四二と桜(岡野弘彦)
<暦>若い日の出逢い<中山義秀>(吉村昭)
訪中詩事(吉川幸次郎)
<海外文学ジャーナル>ドリユの復活?(菅野昭正)
其角(承前)--續夷齋華言(9)(石川淳)
「いろごのみ」再考--日本美の「いのち」と「かたち」(12)(山本健吉)
「源氏」は面白い小説か?(2)--源氏紙風船2(田辺聖子)
凍りついた猥褻--『歴史の亀裂』・2(山崎正和)
<新潮>文学史御破算(谷沢永一)/主人公の造型(高橋昌男)
鷹野つぎのこと(吉田知子)/署名入り寄贈本(鮎川信夫)
<読書>一反百姓のすすめ--福岡正信「自然農法」(高城修三)
昭和54(1979)年9月1日発行(新潮社)

3410) 「新潮」 8月号 1979

<230枚>聖者の毒(高橋揆一郎)
モッキングバードのいる町(森禮子)
<遺稿>父の椿(長谷川修)
<人>山本健吉さんのダンディズム(杉森久英)
<暦>思い出<梅崎春生>(武田百合子)
<新連載>源氏紙風船--「源氏」は面白い小説か?(1)(田辺聖子)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(最終回)(森茉莉)
<海外文学ジャーナル>ミュアリエル・スパークの新作長篇(出淵博)
其角--續夷齋華言(8)(石川淳)
生きる力の根源--日本美の「いのち」と「かたち」(11)(山本健吉)
<追悼>よろめき葬送記(大岡昇平)/中島健蔵の思い出(平岡昇)
怒れる夢の人(回想・荒正人)(日野啓三)
直知する精神--小林秀雄著『感想』によせて(高橋英夫)
<新潮>書評から時評へ(篠田一士)/『空は青か』を書いて(佐江衆一)
日本人と時間(西尾幹二)/闘病記(宮本輝)
コウフク文書に調印す(原田康子)
<読書>玄関のこと--杉本秀太郎「続・洛中生息」(水上勉)
昭和54(1979)年8月1日発行(新潮社)

3411) 「新潮」 7月増大号 1979

牛男(古井由吉)/坂道の下町(古山高麗雄)/連笑(色川武大)
<第11回新潮新人賞発表>佳作三篇

<選評>(開高健・河野多恵子・佐伯彰一・三浦哲郎・安岡章太郎)
 雨(中岡典子)/毛鉤(田中知太郎)/坂の辛夷(別所真紀子)
 <人>私のよい先達<倉橋由美子>(宮尾登美子)
 <暦>戦後の小説<金子光晴>(清岡卓行)
 <第 11 回三大新潮賞発表>
 日本文学大賞 加賀乙彦『宣告』(上下、新潮社刊)
 山本健吉『詩の自覚の歴史』(筑摩書房刊)
 日本芸術大賞 前田常作(人間マンダラの鮮やかな思想的展開に対して)
 辞林遡洄--日本美の「いのち」と「かたち」(10)(山本健吉)
 明暗雑記の十(永井龍男)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(32)(森茉莉)
 横井也有(承前)--續夷齋華言(7)(石川淳)
 「思想」の悲劇--朝倉少年の遺書と『食卓のない家』(磯田光一)
 <新潮>残年の計(本多秋五)/摂理について(辻邦生)
 野球見物(三木卓)/長谷川修を悼む(阿部昭)
 <読書>知性と癩癩--浅野三平校注『雨月物語 癩癩談』他(後藤明生)
 昭和 54(1979)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3412) 「新潮」 6 月号 1979

遠い花火(150 枚)--「森」 第 11 章(野上彌生子)
 <短篇特集>版画(大岡昇平)/筆[むし]る(三浦哲郎)/彼方(津島佑子)
 哭(李恢成)/擦過傷(島尾敏雄)
 しがらみ(100 枚)(直井潔)
 <第 6 回川端康成文学賞発表>
 <受賞作>『玉、砕ける』(開高健)(「文芸春秋」昭和 53 年 3 月号所載)
 <審査員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
 <読書>寝そべりつつ、なにげなく--荒川洋治詩集(高橋三千綱)
 <第 11 回新潮新人賞経過発表>
 <人>阿川弘之氏の優雅(開高健)
 <暦>メフィストの古いパン種<高橋和巳>(柴田翔)
 横井也有(承前)--續夷齋華言(6)(石川淳)
 善悪美醜を超えるもの--日本美の「いのち」と「かたち」(9)(山本健吉)
 青山二郎のこと(河上徹太郎)
 不機嫌な陶酔(山崎正和)
 <新潮>独演會(中里恒子)/ジロドゥの死をめぐって(白井浩司)
 宙の感覚(竹西寛子)/女あそび(野口富士男)
 <海外文学ジャーナル>ついにアフリカを書いたアップダイク(宮本陽吉)
 昭和 54(1979)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3413) 「新潮」 5 月号 1979

<新連載>輝ける碧き空の下で(北杜夫)
 広い部屋(寺久保友哉)/赤い花を吐いた猫(吉行理恵)/招き(高橋たか子)
 優しく歩め(岡松和夫)/春の泥(八木義徳)
 空は青か(140 枚)(佐伯彰一)
 <読書>人間である故に--「大外科医の悲劇」(吉村昭)
 <人>大岡昇平讃(吉田秀和)
 <暦>「まれに木の葉の飛ぶさへや」<三好達治>(福永武彦)
 横井也有(承前)--續夷齋華言(5)(石川淳)
 魂の女教育者たち--日本美の「いのち」と「かたち」(8)(山本健吉)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(31)(森茉莉)
 明暗雑記の九(永井龍男)
 ある文学的系譜--芥川・堀・立原(中村真一郎)
 <新潮>歴史の断面(埴谷雄高)/猫(庄司薫)/車窓の眺め(伊藤桂一)

〈海外文学ジャーナル〉音楽・建築・革命(鼓直)
昭和 54(1979)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3414) 「新潮」 4 月号 1979

錨をあげて(高橋三千綱)/透けた耳朶(重兼芳子)/ふたつの春(増田みず子)
鴛鴦(津村節子)/櫛の縁(芝木好子)
〈暦〉思い出す言葉〈室生犀星〉(堀多恵子)
〈人〉ポーロ・遠藤周作(矢代静一)
〈海外文学ジャーナル〉デーブリーンの愛と苦悩の軌跡(丸山匠)
横井也有--續夷齋華言(4)(石川淳)
源氏物語「少女の巻」箋--日本美の「いのち」と「かたち」(7)(山本健吉)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(30)(森茉莉)
晩年のマルロオ--その知られざる生活(村松剛)
悪からの希望--加賀乙彦『宣告』を読む(中野孝次)
〈新潮〉父の肖像(佐伯彰一)/夢深い教育者たち(高井有一)
直木賞のあと(宮尾登美子)/自作『遺書』の解説(駒田信二)
〈読書〉二人の亀治--『日本農業発達史』(井上ひさし)
昭和 54(1979)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3415) 「新潮」 2 月号 1979

北の旗雲(250 枚)(高橋三千綱)/夜の明けるまで(竹西寛子)
或る生(北杜夫)/調理場芝居(金井美恵子)
〈新連載〉城の中の城(倉橋由美子)
HYOTAN(井伏鱒二)
〈暦〉日光浴のころ〈檀一雄〉(平林英子)
〈人〉開高健・1979 年(高橋睦郎)
山東京傳(承前)--續夷齋華言(2)(石川淳)
画竜点睛--日本美の「いのち」と「かたち」(5)(山本健吉)
茨の冠--ゆがんだ林檎(7)(丸谷才一)
勤王党の叛乱(下)--倉敷焼打事件と檜崎剛十郎(河上徹太郎)
闘いの肖像(完)--評伝新井白石(入江隆則)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(28)(森茉莉)
「本居宣長」補記(承前)(小林秀雄)
パリの秋 日本(辻邦生)
〈読書〉ダミーの時代の終り--《奇蹟のランニング》(丸山健二)
〈新潮〉生死不染、去住自由(立原正秋)/別れてきた人達(岩橋邦枝)
墓地のある風景(栗田勇)/朱色の袱紗[ふくさ](津村節子)
〈海外文学ジャーナル〉「無用物」と化した「余計者」たち(江川卓)
昭和 54(1979)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3416) 「新潮」 新年特別号 1979

〈新連載〉一年の牧歌(河野多恵子)
蜂と老人(尾崎一雄)/誘導振(島尾敏雄)/洗面器の唄(開高健)
還りなん(遠藤周作)/落ち葉(八木義徳)/花咲爺(円地文子)
黒い煎餅(阿川弘之)/焰髪(吉村昭)/櫻雨(田久保英夫)
人間の中の病気(倉橋由美子)/鳩よ(水上勉)/大阪の夢(瀧井孝作)
〈暦〉写真の鍵〈三島由紀夫〉(石原慎太郎)
〈人〉吉行さんの視線(色川武大)
〈読書〉反復脅迫と文学--田久保英夫『触媒』(加賀乙彦)
山東京傳(承前)--續夷齋華言(1)(石川淳)
後白河院をめぐる--日本美の「いのち」と「かたち」(4)(山本健吉)
鳥の歌--ゆがんだ林檎(6)(丸谷才一)
明暗雑記の七(永井龍男)

Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(27)(森茉莉)
「本居宣長」補記(小林秀雄)
勤王党の叛乱(上)--山口脱隊騒動と大楽源太郎(河上徹太郎)
思いやりの哲学(吉川幸次郎)
想像する柳田國男(大江健三郎)
〈新潮〉二重の誤解(大岡昇平)/わたくしの原風景(高橋義孝)
石の矢尻とナイフ(大岡信)
〈海外文学ジャーナル〉最後の語り手に贈られたノーベル賞(宮本陽吉)
昭和 54(1979)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3417) 「新潮」12月号1978

三千世界に梅の花(130枚)(富岡多恵子)
爪痕(寺久保友哉)/船の感傷(古山高麗雄)/屈辱(岡松和夫)
冥王星(150枚)(吉田知子)
〈読書〉探検記の愉しみ--『ニジェール探検行』(野呂邦暢)
「影」と「たましひ」と--日本美の「いのち」と「かたち」(3)(山本健吉)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(26)(森茉莉)
鳥の歌--ゆがんだ林檎(5)(丸谷オ一)
病める人間と時代--開高・加賀・田久保氏の近作をめぐって(高橋英夫)
〈新潮〉椎名其二と森有正(河盛好蔵)/道標(小沼丹)
弓張月(杉本秀太郎)/逝った人たち(大庭みな子)
〈海外文学ジャーナル〉イエイツの父の伝記(出淵博)
昭和 53(1978)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3418) 「新潮」11月号1978

平和の海と戦いの海--2・26事件から8月15日まで(250枚)(平川祐弘)
彼女の試み(高橋三千綱)/葎草[どくだみ](佐江衆一)
〈戯曲〉S・カルマ氏の犯罪(安部公房)
〈海外文学ジャーナル〉モラヴィアの新しい実験(河島英昭)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(25)(森茉莉)
二つの肖像画--日本美の「いのち」と「かたち」(2)(山本健吉)
鷗外の狂詩のことなど(承前)--ゆがんだ林檎(4)(丸谷オ一)
明暗雑記の六(永井龍男)
〈新潮〉高間筆子(草野心平)/亡びの地(高橋たか子)
その落穂・第二(伊藤信吉)/二年目の夏(武田百合子)
老いの英語学習(遠藤周作)
〈読書〉「女」の純粹培養(田久保英夫)
昭和 53(1978)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3419) 「新潮」10月号1978

玩具の蛇--長編『螢の宿』その1(150枚)(古山高麗雄)
兄の影(吉行理恵)/虹(直井潔)/火の声(太田道子)/庭(森内俊雄)
光琳の櫛(芝木好子)
〈読書〉「阿房列車」讃(吉田知子)
鷗外の狂詩のことなど(承前)--ゆがんだ林檎(3)(丸谷オ一)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(24)(森茉莉)
〈新連載〉那智滝私考--日本美の「いのち」と「かたち」(1)(山本健吉)
〈新潮〉阿部知二の五周忌(小島信夫)/空間と言葉(金井美恵子)
冷房とエレベーター(澁澤龍彦)/ある半日(結城信一)
マルロオをめぐる女たち(村松剛)
〈海外文学ジャーナル〉文学批評家の文明論(菅野昭正)
昭和 53(1978)年 10 月 1 日発行(新潮社)

- 3420) 「新潮」 9月号 1978
 置き文(170枚)(中里恒子)
 春の崖(太佐順)/足と煙草(中河与一)/お呪い(山本道子)/二人三脚庭(直井潔)
 <読書>心の地理(日野啓三)
 鷗外の狂詩のことなど--ゆがんだ林檎(2)(丸谷才一)
 明暗雑記の五(永井龍男)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(23)(森茉莉)
 無心への飛躍(西尾幹二)
 <新潮>「友達」の場合(河野多恵子)/梶井基次郎と『資本論』(柄谷行人)
 樺太文学史略(宮内完爾)/『宣告』を書きおえて(加賀乙彦)
 本多顕彰先生(荒正人)
 昭和53(1978)年9月1日発行(新潮社)
- 3421) 「新潮」 8月号 1978
 <新鋭特集>幻の光(宮本輝)/別ればなし(高橋揆一郎)/桜寮(増田みず子)
 牧歌(高橋昌男)/満願(高城修三)/片腕(岡松和夫)
 美的生活論存疑再説(谷沢永一)
 闘いの肖像(13)--評伝新井白石(入江隆則)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(22)(森茉莉)
 <新連載>ある裁判小説の読後に--ゆがんだ林檎(1)(丸谷才一)
 <新潮>平野さんとズボン(田中澄江)/喪章の付いた絵(清岡卓行)
 メモのこと(田辺聖子)/三人の作家(山田智彦)
 路地の文化(安田武)
 <読書>『セラフィータ』の神秘主義(高橋たか子)
 昭和53(1978)年8月1日発行(新潮社)
- 3422) 「新潮」 7月増大号 1978
 <一挙掲載400枚>遠い日の戦争(吉村昭)
 <第10回新潮新人賞発表>
 <佳作>チャズ(替田銅美)
 <佳作>紫陽花[あじさい]を踏め(野依圭子)
 <選評>(大江健三郎・開高健・河野多恵子・三浦哲郎・安岡章太郎)
 <読書>『日本人の死生観』(八木義徳)
 <第10回三大新潮賞発表>
 日本文学大賞 小林秀雄『本居宣長』(新潮社刊)
 島尾敏雄『死の棘』(新潮社刊)
 日本芸術大賞 豊福知徳(日本の木彫の伝統を新鮮な空間彫刻に展開
 しつづけた業績に対して)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(21)(森茉莉)
 五龍九天に昇る--「徹太郎行状記」補遺(河上徹太郎)
 明暗雑記の四(永井龍男)
 <新潮>高橋幸雄と『幼年』のこと(佐々木基一)
 次の一息(北畠八穂)/和田芳恵追悼(吉岡実)
 <追悼・網野菊>(滝井孝作・島村利正・尾崎一雄)
 <海外文学ジャーナル>
 第二次大戦文学の終りを告げるジョーンズの三部作(宮本陽吉)
 <連載小説>宣告(完)(加賀乙彦)
 昭和53(1978)年7月1日発行(新潮社)
- 3423) 「新潮」 6月号 1978
 <短篇小説特集>雨戸の所為(丹羽文雄)/兵隊(山口瞳)/冬の雁(三浦哲郎)
 病身(高橋たか子)/獵銃(野呂邦暢)/人ちがい(津島佑子)
 他人の貌(三田誠広)/愚者の時間(後藤明生)/山水図(立原正秋)

常緑樹(三浦朱門)
 <追悼・平野謙>(埴谷雄高・本多秋五・大岡昇平・藤枝静男・
 佐々木基一・開高健・大江健三郎)
 <海外文学ジャーナル>K・シュトルックの生と死をめぐる饒舌(丸山匠)
 <第10回『新潮新人賞』経過発表>
 徹太郎行状記(3)(河上徹太郎)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(20)(森茉莉)
 <第5回川端康成文学賞発表>
 <受賞作>『雪女』(和田芳恵)(「文学界」昭和52年2月号所載)
 <審査員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
 <新潮>文学伝習所に集う人々(井上光晴)
 オヴニ異聞(蓮實重彦)/方言と私(岩橋邦枝)
 <特集・現代作家論>愛の行方について<古井由吉論>(菅野昭正)
 医学と文学のあいだ<加賀乙彦論>(高橋英夫)
 不毛と幻想の構図<大庭みな子小論>(渡辺広士)
 感覚の聖化<田久保英夫論>(饗庭孝男)
 死と夢のあいだ<高井有一論>(上田三四二)
 <読書>ゲーテの『親和力』など(中村真一郎)
 昭和53(1978)年6月1日発行(新潮社)

3424) 「新潮」 5月号 1978

夕暮まで(吉行淳之介)/石(草野心平)/続兼行寺の池(井伏鱒二)
 海からの眺め(佐江衆一)/祭り(160枚)(丸山健二)
 徹太郎行状記(2)(河上徹太郎)
 明暗雑記の三(永井龍男)
 樗牛とニーチェ(中村光夫)
 <海外文学ジャーナル>トールキンの遺作『シルマリリオン』をめぐる(出淵博)
 イエスのふしぎさ、ふしぎなイエス
 --イエスがキリストになるまで(最終回)(遠藤周作)
 影媛あはれ--古歌新詩(最終回)(大岡信)
 長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(13)(石川淳)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(19)(森茉莉)
 <特集・現代作家論(上)>時間の変容<黒井千次論>(磯田光一)
 渴望と拒否<高橋たか子小論>(川村二郎)
 新しい時代の駄々っ児<中上健次論>(秋山駿)
 父性への渴望<阿部昭論>(桶谷秀昭)
 異形の少女<富岡多恵子論>(田中美代子)
 <新潮>雨女と雨男(中上健次)/法隆寺への思い(上原和)
 不思議な縁(萩原葉子)/実作者の批評のおもしろさ(大原富枝)
 歌集『空いろの花』の発見--萩原朔太郎の遺稿をめぐる(伊藤信吉)
 <読書>『変化』と『さむがりやのサンタ』(辻邦生)
 昭和53(1978)年5月1日発行(新潮社)

3425) 「新潮」 4月号 1978

鬘[かげ]の女(230枚)(寺久保友哉)
 黒髪(芝木好子)/兼行寺の池(井伏鱒二)
 馬車は誰かが曳かねばならない--『森』第10章(野上彌生子)
 あかつき胸の骨高し--古歌新詩(その15)(大岡信)
 闘いの肖像(14)--評伝新井白石(入江隆則)
 <読書>詩人の祈り(高井有一)
 沈黙の神、再臨せざる基督--イエスがキリストになるまで(12)(遠藤周作)
 長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(12)(石川淳)
 漱石と中国思想--『心』『道草』と荀子、老子(江藤淳)

<新潮>『メディア』と『死の棘』と(山本健吉)
捨て子モチーフの東西(佐伯彰一)/九割の思想(高城修三)
明恵とインド(瀬戸内晴美)
徹太郎行状記(1)(河上徹太郎)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(18)(森茉莉)
<海外文学ジャーナル>検閲と推敲(江川卓)
昭和 53(1978)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3426) 「新潮」 3月号 1978

暗い季節(170 枚)(津村節子)/死顔(中村真一郎)/先行者(岡松和夫)
遠足の秋(坂上弘)/猫の殺人(吉行理恵)/校歌と踊(井伏鱒二)
<読書>思いつくまま(藤枝静男)
ペトロの死、ポーロの死--イエスがキリストになるまで(11)(遠藤周作)
壺のうちなる秋の日--古歌新詩(その 14)(大岡信)
闘いの肖像(13)--評伝新井白石(入江隆則)
長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(11)(石川淳)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(17)(森茉莉)
明暗雑記の二(永井龍男)
<新潮>耳の老い(中村光夫)/著者と読者(ドナルド・キーン)
美的生活論存疑(谷沢永一)/ピンターとベケット(高橋康也)
やさしいボタン(富岡多恵子)
<海外文学ジャーナル>冷静な目で秘密を語ったロスの新作(宮本陽吉)
昭和 53(1978)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3427) 「新潮」 2月号 1978

<新鋭特集>天使を誘惑(高橋三千綱)/運河の街(三田誠広)/個室の鍵(増田みず子)
水族館(小沼燦)// 北の火(日野啓三)/ビートルズの優しい夜(小林信彦)
母屋の法事[ねんぶつ](井伏鱒二)
すべての路はローマに...--イエスがキリストになるまで(10)(遠藤周作)
をとめらが挿頭のために--古歌新詩(その 13)(大岡信)
闘いの肖像(12)--評伝新井白石(入江隆則)
長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(10)(石川淳)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(16)(森茉莉)
怒りと侮蔑と不安と--開封されたトーマス・マンの日記(森川俊夫)
<読書>『日本文学を読む』を読む(倉橋由美子)
<新潮>犬も食わぬ(近藤啓太郎)/閑谷法師と西行(目崎徳衛)
漱石研究上の二つの発見(真下五一)/井上雪氏の文章(森山啓)
<海外文学ジャーナル>テッド・ヒューズの新作長篇詩(出淵博)
昭和 53(1978)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3428) 「新潮」 新年特別号 1978

<新年小説特集>野生の鴨(井伏鱒二)/由縁の子(佐多稲子)/五平餅(上林暁)
冬夕焼(中里恒子)/テムズの水(阿川弘之)/飽満の種子(開高健)
ひばり(原田康子)/和やかな忌日(高井有一)/幻火(中上健次)
割算(庄野潤三)/友達(円地文子)/上高地行き(尾崎一雄)
<新連載>明暗雑記(永井龍男)
原始基督教の内部分裂--イエスがキリストになるまで(9)(遠藤周作)
闘いの肖像(11)--評伝新井白石(入江隆則)
長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(9)(石川淳)
塔は是れ無極の塔--古歌新詩(その 12)(大岡信)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(15)(森茉莉)
小林氏『本居宣長』感想(保田與重郎)
小林秀雄『本居宣長』を読む(大江健三郎)

<読書>『死の棘』を読む(金井美恵子)
<新潮>千の眼(吉行淳之介)/穏やかな死(網野菊)
ルソーと食事(平岡昇)/南の糸(島尾敏雄)
<海外文学ジャーナル>西欧主義者の文明論(菅野昭正)
昭和 53(1978)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3429) 「新潮」12月号1977

過ぎし楽しき年(300枚)(阿部昭)
<新潮新人賞受賞第一作>鏡の栖[す](高城修三)
<戯曲>水中都市(安部公房)
攘夷から和親へ、また皇國觀念の始末(唐木順三)
暁の最初の母音--古歌新詩(その11)(大岡信)
Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(14)(森茉莉)
あたらしき基督論の芽ばえ--イエスがキリストになるまで(8)(遠藤周作)
闘いの肖像(10)--評伝新井白石(入江隆則)
長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(8)(石川淳)
<対談>『本居宣長』をめぐる(小林秀雄・江藤淳)
<新潮>責任回避(古井由吉)/矢倉沢往還(畑山博)
入鹿池(石垣りん)/ある『かもめ』評釈(池田健太郎)
<追悼・和田芳恵>(松本清張・水上勉)
昭和 52(1977)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3430) 「新潮」11月号1977

ある再婚(200枚)(森泰三)
石の日めぐり(笠原淳)/北風を見た日(山本道子)
Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(13)(森茉莉)
象山と松陰(唐木順三)
第二の迫害--イエスがキリストになるまで(7)(遠藤周作)
逢ふとも宵のいんづま--古歌新詩(その10)(大岡信)
草ひばりの歌--ハーンにおける民俗学と文学(平川祐弘)
闘いの肖像(9)--評伝新井白石(入江隆則)
長嘯子雑記(承前)--夷齋華言(7)(石川淳)
<海外文学ジャーナル>あらゆる慣習を拒否する擦過ハテルンブッシュ(丸山匠)
昭和 52(1977)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3431) 「新潮」10月号1977

うつつ川(中里恒子)/旅する植物(草野心平)
漂泊のかたみ(300枚)--亡き檀一雄に(高岩とみ)
闘いの肖像(8)--評伝新井白石(入江隆則)
律法という厚い壁--イエスがキリストになるまで(6)(遠藤周作)
宮廷住まいのサンボリスト(下)--パリ、その愛と死(河上徹太郎)
品かはりたる恋--古歌新詩(その9)(大岡信)
長嘯子雑記--夷齋華言(6)(石川淳)
Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(12)(森茉莉)
<追悼・吉田健一>(河上徹太郎・中村光夫・福原麟太郎・大岡昇平・永井龍男)
<新潮>雨は両軍の上に等しく降る(曾野綾子)
家賃一万円の別荘(丸山健二)/時代への批評性(饗庭孝男)
シルクロード断想(山本太郎)/真船豊の足跡(尾崎宏次)
<海外文学ジャーナル>ナボコフの意味(出淵博)
昭和 52(1977)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3432) 「新潮」9月号1977

七里ヶ浜--或る運命(230枚)(宮内寒爾)/花影の斧(佐江衆一)

賑やかな部屋(岡田睦)/妹(三浦朱門)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(11)(森茉莉)
 野蛮と文明(唐木順三)
 闘いの肖像(7)--評伝新井白石(入江隆則)
 足駄はかせぬ雨のあけぼの--古歌新詩(その8)(大岡信)
 強きステファノ、弱きペテロ--イエスがキリストになるまで(5)(遠藤周作)
 宮廷住まいのサンボリスト(中)--アウグスタ皇后の手筐(河上徹太郎)
 <新潮>コラージュの効用(佐々木基一)/混血(野呂邦暢)
 退職、就職(高橋三千綱)/ある成仏(大庭みな子)
 <海外文学ジャーナル>刑務所で創作活動をして刑務所を書いた作家(宮本陽吉)
 昭和52(1977)年9月1日発行(新潮社)

3433) 「新潮」 8月特大号 1977

<一挙掲載>天の湖(350枚)(高橋たか子)
 <第9回新潮新人賞発表>
 <受賞作>榎[かや]の木祭り(高城修三)
 <選評>(大江健三郎・開高健・河野多恵子・三浦哲郎・安岡章太郎)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(10)(森茉莉)
 墨水遊覧--夷齋華言(5)(石川淳)
 弾圧事件とその波紋--イエスがキリストになるまで(4)(遠藤周作)
 <第9回三大新潮賞発表>
 日本文学大賞 和田芳恵『暗い流れ』(河出書房新社刊)
 荻谷朴・校注『枕草子』(新潮日本古典集成)
 日本芸術大賞 清水九兵衛(個性的な形態感を構成する空間彫刻に対して)
 雪の夕ぐれ(丸谷才一)
 闘いの肖像(6)--評伝新井白石(入江隆則)
 ゆきてかへらぬ--古歌新詩(その7)(大岡信)
 大岡信『悲歌と祝祷』--読む領分(4)(吉田健一)
 宮廷住まいのサンボリスト(上)--ハムレットとローエングリン(河上徹太郎)
 <新潮>ひとつの事件(和田芳恵)/カメラ今昔(新田次郎)
 新聞記事(色川武大)/歩きながら考える(後藤明生)
 國王と天皇(唐木順三)
 <海外文学ジャーナル>ドストエフスキーの「近況」(江川卓)
 昭和52(1977)年8月1日発行(新潮社)

3434) 「新潮」 7月号 1977

血(吉行淳之介)/闇の落ちた種子(黒井千次)/ヤナの鮎(三浦哲郎)
 脅迫者(山田智彦)/貝母[ばいも]の花(中里恒子)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(9)(森茉莉)
 家康・秀忠・家光と朝廷(唐木順三)
 ガリラヤからエルサレムへ--イエスがキリストになるまで(3)(遠藤周作)
 <第5回平林たい子文学賞発表>
 小説部門 一縷の川(直井潔)(私家版)
 夢かたり(後藤明生)(中央公論社刊)
 評論部門 該当作品なし
 (選考委員)(円地文子・今日出海・佐伯彰一・丹羽文雄・
 平野謙・山本健吉・和田芳恵)
 闘いの肖像(5)--評伝新井白石(入江隆則)
 あけびの実は汝の靈魂--古歌新詩(その6)(大岡信)
 山家清兵衛(承前)--夷齋華言(4)(石川淳)
 神の笑いについて(高橋英夫)
 <新潮>立野信之と徳永直の文学碑(佐多稲子)/出社のひととき(森敦)
 故郷の春(坪田譲治)/不思議な人(井出孫六)

〈海外文学ジャーナル〉一口にカナダ文学といっても(佐伯彰一)
昭和 52(1977)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3435) 「新潮」 6 月特大号 1977

〈第 9 回新潮新人賞候補作品〉
嘘の連続切片(帯木蓬生)/死後の関係(増田みず子)
移動動物園(佐藤泰志)/樞[かや]の木祭り(高城修三)
〈海外文学ジャーナル〉アントニー・バージェスの新作(出淵博)
文学・その方法の総体[ボディ](大江健三郎)
辛い、長い、夜--イエスがキリストになるまで(2)(遠藤周作)
中村光夫『雲をたがやす男』--読む領分(3)(吉田健一)
〈第 4 回川端康成文学賞発表〉
〈受賞作〉『寺泊』(水上勉)(「展望」昭和 51 年 5 月号所載)
『立切れ』(富岡多恵子)(「群像」昭和 51 年 11 月号所載)
〈審査員〉(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)
〈新潮〉心理的行きちがい(中村真一郎)/病院(山本道子)
異人さんの友だち(阿川弘之)/随時随感(4)(平野謙)
山家清兵衛--夷齋華言(3)(石川淳)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(8)(森茉莉)
昭和 52(1977)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3436) 「新潮」 5 月号 1977

笑う兎(池田満寿夫)/仮の宿(立原正秋)/脳天壊了[ふあいら](吉田知子)
或る土曜日の午後--「森」第九章(野上彌生子)
三月(中上健次)/老アド・マンの抵抗(上野洋三)/枇榔の里(太佐順)
谷戸からの通信(永井龍男)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(7)(森茉莉)
闘いの肖像(4)--評伝新井白石(入江隆則)
佐保神の別れかなしも--古歌新詩(その 5)(大岡信)
〈新連載〉イエスがキリストになるまで(遠藤周作)
〈新潮〉外国語で小説を(小島信夫)/傷の記憶(高井有一)
母親の年齢(津島佑子)/犬との散歩(李恢成)/随時随感(3)(平野謙)
百人選--夷齋華言(2)(石川淳)
くさ笛(幸田文)
信長・秀吉と朝廷(唐木順三)
〈海外文学ジャーナル〉『ルーツ』が全米の共感をよんだ二つの理由(宮本陽吉)
昭和 52(1977)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3437) 「新潮」 4 月号 1977

あまざる鄙[ひな]に五年[いつとせ](300 枚)(早川幾忠)
柳眉(中里恒子)/祭の暗がり(佐江衆一)/果実のある部屋(黒井千次)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(6)(森茉莉)
アイオワ日記(坂上弘)
〈海外文学ジャーナル〉神話としての「我らが大地」(鼓直)
闘いの肖像(3)--評伝新井白石(入江隆則)
石のころび声--古歌新詩(その 4)(大岡信)
〈新連載〉遊民--夷齋華言(1)(石川淳)
〈新潮〉狭山裁判とわが小説(野間宏)/幟で安堵(古山高麗雄)
額田王のことなど(丸谷才一)/そのとき(田中澄江)/随時随感(2)(平野謙)
織と文化(安田武)
河上徹太郎『歴史の発音』--読む領分(2)(吉田健一)
昭和 52(1977)年 4 月 1 日発行(新潮社)

- 3438) 「新潮」 3月号 1977
 愛縁の蛇(170枚)(長谷川修)/遠い近景(130枚)(齋藤せつ子)
 鳶の別れ(230枚)(田村孟)/雉子[きじ]撃ち(三浦哲郎)
 アウシュヴィツ収容所を見て(遠藤周作)
 <海外文学ジャーナル>ペーター・ハントケの十年(丸山匠)
 闘いの肖像(2)--評伝新井白石(入江隆則)
 丁丁丁丁丁--古歌新詩(その3)(大岡信)
 <新潮>随時随感(平野謙)/蠅とエメラルド(澁澤龍彦)
 職人と小説家(津村節子)/一月二日(三木卓)/小説家とは?(八木義徳)
 泉の乙女--ハーンの再話文学の秘密(平川祐弘)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(5)(森茉莉)
 昭和52(1977)年3月1日発行(新潮社)
- 3439) 「新潮」 2月号 1977
 <一挙掲載>引潮(400枚)(庄野潤三)
 私の見たマルロー(今日出海)
 <新連載>読む領分(1)--中村稔『羽虫の飛ぶ風景』(吉田健一)
 浪旧苔の鬚を洗ふ--古歌新詩(その2)(大岡信)
 <海外文学ジャーナル>20世紀を生きた文学者(菅野昭正)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(4)(森茉莉)
 <新連載>闘いの肖像--評伝新井白石(入江隆則)
 <新潮>悼、竹沢弥七さん(網野菊)/脳髓の乾燥について(立原正秋)
 小説ということば(村松剛)/男体・女体(吉村昭)
 古稀の日・前後(伊藤信吉)
 私の人間学(120枚)(竹山道雄)
 昭和52(1977)年2月1日発行(新潮社)
- 3440) 「新潮」 新年特別号 1977
 <新連載>金閣炎上(水上勉)
 誰でもさうなのか(尾崎一雄)/砧[きぬた](円地文子)
 夜の警官(吉行淳之介)/或る死(北杜夫)/雨霧(佐多稲子)/果実(田久保英夫)
 多摩川(富岡多恵子)/葦手書(中里恒子)/中華料理店(丹羽文雄)
 秩父愁色(150枚)(島村利正)
 史伝と文芸批評の間--ストレエチイの文学論(河上徹太郎)
 「軽み」と「重み」と--芭蕉、西行、朔太郎(山本健吉)
 言葉(吉田健一)
 <新潮>冬枯れの庭を見ながら(今日出海)/なぜ小説が書けないか(倉橋由美子)
 森先生の笑い(辻邦生)/劇と散文のあひだで(山崎正和)
 桜紅葉と銀杏(大原富枝)
 <新連載>われは聖代の狂生ぞ--古歌新詩(その1)(大岡信)
 Caprice de Maria(キャプリス・ドウ・マリア)(3)(森茉莉)
 <海外文学ジャーナル>ノーベル文学賞とベロー(宮本陽吉)
 <連載小説>流離譚(10)(安岡章太郎)/宣告(25)(加賀乙彦)
 昭和52(1977)年1月1日発行(新潮社)
- 3441) 「新潮」 12月号 1976
 暴流のごとく--三島由紀夫七回忌に(平岡倭文重[しづえ])
 水曜日(井上光晴)/年齢について(金井美恵子)
 ハウス・キーパー(高橋昌男)/少年の声(山本道子)
 <追悼・武田泰淳>(中野重治・草野心平・吉川幸次郎・丹羽文雄・
 円地文子・山本健吉・佐々木基一・小島信夫・開高健)
 <新声新風>おかしなこと(広川禎孝)
 本居宣長(64)(小林秀雄)

細川幽齋をめぐる諸問題(唐木順三)
Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)(2)(森茉莉)
弑[し]逆者の悲劇--明智光秀の文学的造形(野口武彦)
〈対談〉文学は現代をどうとらえるか(大岡昇平・大江健三郎)
最初の死について(高橋英夫)
〈新潮〉シルバーシートと想像力(柴田翔)/自転車(小沼丹)
 祇園せいとくと上村松園(秦恒平)/『宣長』を読み直して(池田健太郎)
〈詩〉部屋(吉岡実)
〈短歌〉山嵐[おろし](前登志夫)
〈俳句〉紫香楽宮阨(百合山羽公)
〈連載小説〉流離譚(9)(安岡章太郎)/宣告(24)(加賀乙彦)
昭和51(1976)年12月1日発行(新潮社)

3442) 「新潮」11月号1976

〈戯曲〉案内人(安部公房)
 オランダ帽子(三浦哲郎)/愛の巢(岡松和夫)
 籠火のとき(太田道子)/昔の仲間(伊藤桂一)
〈詩〉山(藤原定)
〈短歌〉石壁の傍(杜沢光一郎)
〈俳句〉山峡暮秋(福田甲子雄)
 「天下」と「世」--その歴史的考察(唐木順三)
〈新連載〉Caprice de Maria(キャプリス・ドゥ・マリア)
 [マリアの気紛れ書き](森茉莉)
〈新潮〉《明るい農村》の光と影(丸山健二)/命名考(宮原昭夫)
 サンティアゴ巡礼(永川玲二)/20年ぶりの第二作(宮本陽吉)
 谷崎老後のエッセーから(池田健太郎)
 本源からの問い--ニーチェとワーグナーの夢と行動(西尾幹二)
〈新声新風〉アテネでのこと(氏原工作)
昭和51(1976)年11月1日発行(新潮社)

3443) 「新潮」10月号1976

〈短期連載・全三回〉ピンチランナー調書--最終篇(230枚)(大江健三郎)
 仔山羊の行方(笠原淳)/姉とその死(大谷藤子)
 入院まで--『死の棘』終章(島尾敏雄)
 本居宣長(63)(小林秀雄)
 流れゆく日々(完)(石川達三)
 信長における「天下」の観念、ちなみに秀吉における「日本」(唐木順三)
 子供を捨てた父--ハーンの民話と漱石の『夢十夜』(平川祐弘)
〈新潮〉二本の指(開高健)/この夏(河野多恵子)
 ブラック・ホール(日野啓三)/老年の文学(池田健太郎)
〈詩〉ある目覚め(清水哲男)
〈短歌〉氷室より(石川一成)
〈俳句〉陸中旅吟(加藤楸邨)
〈新声新風〉妄想のミニ神様(太田道子)
昭和51(1976)年10月1日発行(新潮社)

3444) 「新潮」9月号1976

〈短期連載・全三回〉ピンチランナー調書--第二篇(270枚)(大江健三郎)
〈新鋭特集〉謝罪師(波多野文彦)/からからさ(木田紀雄)/海の巢(梅原稜子)
〈新声新風〉空に書く(笠原淳)
 瀬戸内の「海賊」たち(下)--歴史の発音(完)(河上徹太郎)
 流れゆく日々(67)(石川達三)
 足利歴代将軍のみやびのまねびと都人の反応(唐木順三)

<新潮>限りなく稀薄なもの(入江隆則)/或日の夕食(森茉莉)
二人のドン・キホーテ(埴谷雄高)/朝刊から(竹西寛子)
チェーホフの影(池田健太郎)

<詩>演歌(伊藤信吉)

<短歌>湖沼地帯(斎藤史)

<俳句>逢ふとき(河野多希女)

昭和 51(1976)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3445) 「新潮」 8月号 1976

<短期連載・全三回>ピンチランナー調書--第一篇(300枚)(大江健三郎)

階段の或る夢(清岡卓行)

雲隠れ--「森」第八章(野上彌生子)

<第8回新潮新人賞発表>

<受賞作>ウォークライ(笠原淳)

<選評>(江藤淳・遠藤周作・河野多恵子・三浦哲郎・安岡章太郎)

<第8回三大新潮賞発表>

日本文学大賞 檀一雄『火宅の人』

埴谷雄高『死霊』

日本芸術大賞 平山郁夫(「シルクロード展」に発表された近作に対して)

<新声新風>死者に習う(宮本徳蔵)

本居宣長(62)(小林秀雄)

瀬戸内の「海賊」たち(上)--歴史の跫音(11)(河上徹太郎)

流れゆく日々(66)(石川達三)

醒めて踊れ--近代化といふ事(福田恆存)

<新潮>音と音楽(富岡多恵子)/新資料(水上勉)

広津和郎の「初期短編」(池田健太郎)

新橋・まり千代--芸の空間(安田武)

定家の變貌、西行・長明等脱宮廷者の數奇(唐木順三)

<詩>知命(茨木のり子)

<短歌>朴散華(島田修二)

<俳句>身近かの花(瀧井孝作)

昭和 51(1976)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3446) 「新潮」 7月号 1976

蕁麻[いらくさ]の家(300枚)(萩原葉子)

鮎鷹連想(島村利正)/軍歌「戦友」(井伏鱒二)/翔ける壺(宮本徳蔵)

<第4回平林たい子文学賞発表>

小説部門 青い沼(島村利正)(新潮社刊)

評論部門 死の日本文学史(村松剛)(新潮社刊)

(選考委員)(円地文子・今日出海・佐伯彰一・丹羽文雄・
平野謙・山本健吉・和田芳恵)

<詩>盗みへの弁明(風山瑕生)

<短歌>黄の燈(武川忠一)

<俳句>海幸(上村占魚)

流れゆく日々(65)(石川達三)

定家の「賢慮」ちなみに文化人宇都宮頼綱(唐木順三)

<座談会>源氏物語と王朝の世界(円地文子・大岡信・清水好子)

<新潮>曲言する(中野好夫)/芥川龍之介全集元版のこと(福永武彦)

死者の受難(江川卓)/闇祭(黒井千次)/洗心亭の緑陰(池田健太郎)

<新声新風>掘る(吉行理恵)

<連載小説>軽井沢(完)(円地文子)

昭和 51(1976)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3447) 「新潮」 6月号 1976

<第8回新潮新人賞候補作品>

孵化(水野明英)/遊園地暮景(森禮子)/鳩(坂内正)/ツンドラの街(波佐間義之)
花くずし(山内美穂)/ウォークライ(笠原淳)/冬の六花[はな](大嶋岳夫)

<第3回川端康成文学賞発表>

<受賞作>『時に佇つ(11)』

--連作短篇より(佐多稲子)(「文芸」昭和50年1月号所載)

『立切れ』(富岡多恵子)(「群像」昭和51年11月号所載)

<審査委員>(井上靖・中村光夫・永井龍男・山本健吉・吉行淳之介)

<詩>日常の隅で(北村太郎)

<短歌>新樹の歌(岡井隆)

<俳句>花咲く伊豆(加倉井秋を)

本居宣長(61)(小林秀雄)

東沢瀉(下)--歴史の跫音(10)(河上徹太郎)

流れゆく日々(64)(石川達三)

<追悼・武者小路實篤>

滅多にないほどの仕合せ(里見弴)/扁額三つ(中川一政)

武者小路さんの絵と書など(瀧井孝作)/武者さんの思い出(河上徹太郎)

大きな坊ちゃん(武田泰淳)/四季三たび(武者小路辰子)

<新潮>田作の歯ぎしり(遠藤周作)/牧野信一文学碑(尾崎一雄)

北海道の憂鬱(原田康子)/荷風再読(池田健太郎)

乱世における「道理」と怨霊(唐木順三)

<新声新風>タイヤ工学(足立康)

<連載小説>流離譚(4)(安岡章太郎)/宣告(18)(加賀乙彦)

春の戴冠(53)(辻邦生)/軽井沢(18)(円地文子)

昭和51(1976)年6月1日発行(新潮社)

3448) 「新潮」 5月号 1976

メリケン屋敷(足立康)/楠(岡松和夫)/魔道(車谷長吉)/修羅(長谷川修)

続・小動物抄(草野心平)/公園幻想(山本道子)

<詩>夕焼け(宗左近)

<短歌>緑の嘴(安永露子)

<俳句>曉色(飯田龍太)

東沢瀉(上)--歴史の跫音(9)(河上徹太郎)

流れゆく日々(63)(石川達三)

小泉八雲の心の眼(平川祐弘)

<新潮>内向の世代(後藤明生)/中村光夫氏の小説(池田健太郎)

忘却という大海(石原八束)/美穂の死(森茉莉)/刑務所と文学(伊藤桂一)

都鄙問題あれこれ(唐木順三)

<新声新風>恋愛小説の一面(高橋昌男)

<連載小説>流離譚(3)(安岡章太郎)/宣告(17)(加賀乙彦)

春の戴冠(52)(辻邦生)/軽井沢(17)(円地文子)

昭和51(1976)年5月1日発行(新潮社)

3449) 「新潮」 4月号 1976

砂の檻[おり](河野多恵子)/赤い貝の舟(佐江衆一)/菊坂二丁目(上林曉)

結婚(森泰三)/虹の名残り(阿部光子)/燃える岸边(高橋昌男)/紺(安田武)

<新潮>歴史への畏れ(西尾幹二)/極月祇園行(宮尾登美子)

神西全集完結す(池田健太郎)/結束の歌(古山高麗雄)/海性と山性(八木義徳)

<詩>日に死す(長谷川龍生)

<短歌>灯にそよぐ空(成瀬有)

<俳句>如月弥生(中村苑子)

<新声新風>さまよい歩くだけ(岩阪恵子)

流れゆく日々(62)(石川達三)
小泉八雲の心の眼(平川祐弘)
〈連載小説〉流離譚(2)(安岡章太郎)/宣告(16)(加賀乙彦)
春の戴冠(51)(辻邦生)/軽井沢(16)(円地文子)
昭和 51(1976)年 4 月 1 日発行(新潮社)

3450) 「新潮」 3月号 1976

〈新連載〉流離譚(安岡章太郎)
春(竹西寛子)/足首の夢(金井美恵子)/名人(石塚友二)/夜の香り(古井由吉)
〈檀一雄 その生と文学〉一筋の光(水上勉)/"神仙"の孤独(入江隆則)
〈回想・檀一雄〉(尾崎一雄・河上徹太郎・石川淳・保田與重郎・草野心平・
田宮虎彦・中谷孝雄・小島信夫・庄野潤三・島尾敏雄・五味康祐・
森敦・小川国夫・後藤明生・中上健次)
〈作品再読〉花筐(林富士馬)/リツ子その愛・その死(立原正秋)
ペンギン記(武田泰淳)/夕陽と拳銃(栗田勇)
来る日去る日(阿部昭)/初期詩集他(真鍋呉夫)
終焉日記(檀ヨソ子)/ポルトガルの日々(志村孝夫)/旅の終りに(石川弘)
〈座談会〉追悼・舟橋聖一(円地文子・野口富士男・吉行淳之介)
〈新潮〉量でおどかす本(河盛好蔵)/黒森山再訪(池田健太郎)/老いのほど(幸田文)
道化と再生への想像力(大江健三郎)
〈新声新風〉実感を核として(梅原稜子)
〈詩〉はじめてからだを(大岡信)
〈短歌〉寧楽(上田三四二)
〈俳句〉平林寺新春(岸田雅魚)
流れゆく日々(61)(石川達三)
小泉八雲の心の眼(平川祐弘)
〈連載小説〉宣告(15)(加賀乙彦)/春の戴冠(50)(辻邦生)
軽井沢(15)(円地文子)
昭和 51(1976)年 3 月 1 日発行(新潮社)

3451) 「新潮」 2月号 1976

夢の碑(450枚)(高井有一)
〈新潮〉天皇訪米私感(阿川弘之)/赤道(宇佐見英治)
『火宅の人』を読む(池田健太郎)
〈新声新風〉怒りをうたえ(立松和平)
〈詩〉火へのオード(新川和江)
〈短歌〉ひのき(高野公彦)
〈俳句〉焚火(原子公平)
瑠璃光寺の塔--歴史の登音(8)(河上徹太郎)
流れゆく日々(60)(石川達三)
芭蕉の日本海体験(唐木順三)
不機嫌の時代(最終回)(山崎正和)
〈連載小説〉宣告(14)(加賀乙彦)/春の戴冠(49)(辻邦生)
軽井沢(14)(円地文子)
昭和 51(1976)年 2 月 1 日発行(新潮社)

3452) 「新潮」 新年特大号 1976

〈新年小説特集〉だんだんと鼻[けり]がつく(尾崎一雄)
粗朶の海(永井龍男)/お凜(三浦哲郎)/まぼろしの百日草(武田泰淳)
関の戸(中里恒子)/幻聴(山田智彦)/船長(北杜夫)/大阪の夢(瀧井孝作)
翠園酒家(阿川弘之)/羽搏き(田久保英夫)/山姥の微笑(大庭みな子)
滝(丸山健二)/多摩川幻想(島村利正)/人捨て(吉田知子)/小動物抄(草野心平)
〈短歌〉拾遺(前川佐美雄)

<俳句>藍微塵抄(石原八束)
本居宣長(60)(小林秀雄)
流れゆく日々(59)(石川達三)
大寧寺の煙(下)--歴史の跫音(7)(河上徹太郎)
<新潮>人と人との間(田宮虎彦)/「知人多逝」(中村光夫)
閉戸読書の記(1)(池田健太郎)/丸山蘭水楼余話(井上光晴)
友達から聞いた話(佐多稲子)
芭蕉にとっての江戸(唐木順三)
問合はせの手紙二通(井伏鱒二)
フランス詩古昔抄(堀口大學)
闇の中のハンカチ(竹山道雄)
諷刺、哄笑の想像力(大江健三郎)
<新声新風>欲望としての民主主義(波多野文彦)
昭和 51(1976)年 1 月 1 日発行(新潮社)

3453) 「新潮」 12 月号 1975

春の夢(森山啓)/帽子と譜面台(波多野文彦)/秋晴れの街へ(宮原昭夫)
奥超こびき唄(岳真也)/深く目覚めよ(岡松和夫)
<詩>みんなうちつれ太陽をめざして(菅原克巳)
<短歌>秋風裡(山田あき)
<俳句>丁抹抄(石原八束)
大寧寺の煙(上)--歴史の跫音(6)(河上徹太郎)
時間(完)(吉田健一)
流れゆく日々(58)(石川達三)
外国語五十年--Causeries. X.(河盛好蔵)
<対談>檀一雄の世界--「火宅の人」をめぐる(武田泰淳・立原正秋)
<新潮>手錠つきの脱獄者(開高健)/書いている場所(金井美恵子)
心残り(菊池重三郎)
<連載小説>宣告(12)(加賀乙彦)/春の戴冠(47)(辻邦生)
軽井沢(12)(円地文子)
昭和 50(1975)年 12 月 1 日発行(新潮社)

3454) 「新潮」 11 月号 1975

四人の敵(長谷川修)/決壊(小林信彦)/軍靴の音(北杜夫)
風の音(大谷藤子)/神聖家族(中村真一郎)
<詩>夏の魅惑(田中冬二)
<短歌>月明(大野誠夫)
<俳句>冬景色(星野石雀)
時間(11)(吉田健一)
流れゆく日々(57)(石川達三)
男性の条件--Cuseries. 9.(河盛好蔵)
隠れたる神(高橋英夫)
<新潮>ドストエフスキーの蔵書(小島信夫)/経を読む(古井由吉)
魂[ソウル]の地形(日野啓三)/闇への執念(梅原猛)/文学青年(三浦朱門)
プレイフェア先生(福原麟太郎)
不機嫌の時代(その 4)(山崎正和)
<連載小説>宣告(11)(加賀乙彦)/春の戴冠(46)(辻邦生)
軽井沢(11)(円地文子)
昭和 50(1975)年 11 月 1 日発行(新潮社)

3455) 「新潮」 10 月号 1975

楮[こうぞ]の花(180 枚)(田宮虎彦)/花匂い満ちてよ(立松和平)
<新潮新人賞受賞第一作> 鳥(宮本徳蔵)/動物霊園(勝木康介)

キリギリス--「火宅の人」最終章(檀一雄)
本居宣長(59)(小林秀雄)
下関遊記煙(下)--歴史の跫音(5)(河上徹太郎)
時間(10)(吉田健一)
流れゆく日々(56)(石川達三)
百年祭そのほか--Causeries. 8.(河盛好蔵)
昭和50年・夏(安田武)
〈新潮〉縁と年齢(大岡昇平)/犀(吉田知子)
 きだみのるとの五十有余年(井上勇)
 ロバート・ブラウニング(福原麟太郎)
〈連載小説〉宣告(10)(加賀乙彦)/春の戴冠(45)(辻邦生)
 軽井沢(10)(円地文子)
昭和50(1975)年10月1日発行(新潮社)

3456) 「新潮」9月号1975

〈新鋭特集〉砕かれた光(藤澤成光)/雨あがえいの舗道で(岩阪恵子)
 仏蘭西風邪(波多野文彦)
 鴉の子--「森」第7章(野上彌生子)/小半日(北畠八穂)
〈新潮〉金子光晴の死(草野心平)/妙な日本語(柄谷行人)
 黄昏の驚異(高橋たか子)/賀の日(中里恒子)
 中根香亭『香亭雅談』(富士川英郎)
時間(9)(吉田健一)
流れゆく日々(55)(石川達三)
下関遊記(上)--歴史の跫音(4)(河上徹太郎)
闇のなかの源泉(入江隆則)
日本に於けるトーマス・マン(松本道介)
〈詩〉下手人(犬塚堯)
〈短歌〉雨期(板宮清治)
〈俳句〉作品(田邊香代子)
〈連載小説〉宣告(9)(加賀乙彦)/軽井沢(9)(円地文子)
昭和50(1975)年9月1日発行(新潮社)

3457) 「新潮」8月号1975

けだものは...(北杜夫)/風のない夜(山本道子)
海辺の墓地(辻井喬)/丘の上(森内俊雄)/北山十八間戸(島村利正)
〈第7回新潮新人賞発表〉
 〈受賞作〉浮游(宮本徳蔵)(「新潮」昭和50年6月号所載)
 〈選評〉(江藤淳・大江健三郎・開高健・武田泰淳・安岡章太郎)
〈第7回三大新潮賞発表〉
 日本文学大賞 該当なし
 日本芸術大賞 近藤弘明(一つの神秘的空間を示す画業に対して)
〈詩〉沖の方へ(福井桂子)
〈短歌〉海の村(竹内邦雄)
〈俳句〉湖畔麦秋(朔多恭)
本居宣長(58)(小林秀雄)
時間(8)(吉田健一)
流れゆく日々(54)(石川達三)
インド像の衝突--ショーペンハウアーと明治の知性(西尾幹二)
〈新潮〉宮本徳蔵のプロフィール(篠田浩一郎)
 カルメンとスペインと(鈴木成高)/一休追跡(岡松和夫)
 新しい隣人(網野菊)/東夢亭『鋸雨亭随筆』(富士川英郎)
ギズモンド伯爵(福原麟太郎)
読人しらず(丸谷才一)

<連載小説>鬼怒川(完)(有吉佐和子)/宣告(8)(加賀乙彦)
春の戴冠(44)(辻邦生)/軽井沢(8)(円地文子)
昭和 50(1975)年 8 月 1 日発行(新潮社)

3458) 「新潮」 7 月号 1975

代弁人(遠藤周作)/藁のぬくもり(高橋昌男)
呼ぶ声がする(梅原稜子)/空壺[うつぼ]物語(長谷川修)
<新潮>渡辺一夫先生と玩物喪志(開高健)/田舎言葉(三浦哲郎)
古賀侗庵『侗庵筆記』(富士川英郎)
萩の挽歌・前原一誠(下)--歴史の跫音(3)(河上徹太郎)
時間(7)(吉田健一)
流れゆく日々(53)(石川達三)
フランス語の名人--Causeries.7.(河盛好蔵)
アメリカ小説の変貌(宮本陽吉)
不機嫌の時代(その 3)(山崎正和)
<詩>流刑(嶋岡農)
<短歌>季の移り(久方寿満子)
<俳句>牡丹(細見稜子)
<第 3 回平林たい子文学賞発表>
<小説>郁達夫傳(小田嶽夫)(中央公論社刊)
椋鳥日記(小沼丹)(河出書房新社刊)
<評論>長塚節素描(若杉慧)(「日歴」64・66・68 号及び「茫」6 号所載)
<選考委員>(円地文子・今日出海・佐伯彰一・丹羽文雄・平野謙
山本健吉・和田芳恵)
<連載小説>宣告(7)(加賀乙彦)/春の戴冠(43)(辻邦生)/軽井沢(7)(円地文子)
昭和 50(1975)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3459) 「新潮」 6 月号 1975

<第 7 回新潮新人賞候補作品>
河口(深堀一夫)/百日の肥育鶏(加藤宗哉)/浮游(宮本徳蔵)
鏡の中の戦争(山本伸介)/影たちが見る(北澤輝明)
<第 2 回川端康成文学賞発表>
<受賞作>『秋』(永井龍男)(「新潮」昭和 49 年新年号所載)
<審査委員>(井上靖・中村光夫・舟橋聖一・山本健吉・吉行淳之介)
<詩>或るはなやかな坂町から(高原秋一郎)
<短歌>断片的桜花抄(三枝昂之)
<俳句>ほとけみち(原裕)
本居宣長(57)(小林秀雄)
萩の挽歌・前原一誠(中)--歴史の跫音(2)(河上徹太郎)
時間(6)(吉田健一)
流れゆく日々(52)(石川達三)
藤村の勉強--Causeries.6.(河盛好蔵)
18 年目の中国(山本健吉)
インドにはまだ残っている(竹山道雄)
<新潮>小説と人称の構造(江藤淳)/わが<母なるひと>(山崎朋子)
長野豊山『松陰快談』(富士川英郎)
備前牛窓(井伏鱒二)
馬竝めて(福原麟太郎)
<連載小説>鬼怒川(18)(有吉佐和子)/宣告(6)(加賀乙彦)
春の戴冠(42)(辻邦生)/軽井沢(6)(円地文子)
昭和 50(1975)年 6 月 1 日発行(新潮社)

- 3460) 「新潮」 5月号 1975
 建覺寺山門前(立原正秋)/卒業期(上林曉)/犬と争う(三木卓)
 玄奘三蔵の骨(山本孝夫)/猫もいる風景(和田芳恵)
 もの言はぬ花(中里恒子)/贗風土記(車谷長吉)
 時間(5)(吉田健一)
 流れゆく日々(51)(石川達三)
 緑雨のアフォリズム--Causeries.5.(河盛好蔵)
 <新潮>村野四郎追悼(草野心平)/鷗外の史伝に感じたこと(池田健太郎)
 無垢の勝利(金井美恵子)/西島蘭溪『楨夏漫筆』(富士川英郎)
 <新連載>歴史の跫音--萩の挽歌・前原一誠(河上徹太郎)
 暫く休載の弁(福田恆存)
 <詩>東京の寺(天野忠)
 <俳句>海猫町(伊丹公子)
 <連載小説>鬼怒川(17)(有吉佐和子)/宣告(5)(加賀乙彦)
 春の戴冠(41)(辻邦生)/軽井沢(5)(円地文子)
 昭和 50(1975)年 5月 1日発行(新潮社)
- 3461) 「新潮」 4月号 1975
 月食(金鶴泳)/蓄音機(岡松和夫)/赤い靴(金井美恵子)
 真夜中のパズル(波多野文彦)/野の果て(日野啓三)
 <詩>カーテン(塔和子)
 <短歌>浅春の候(西村尚)
 <俳句>冬の櫛(和知喜八)
 本居宣長(56)(小林秀雄)
 時間(4)(吉田健一)
 流れゆく日々(50)(石川達三)
 知らぬが仏--Causeries.4.(河盛好蔵)
 家庭崩壊の日の萩原朔太郎
 --我れまさに年老いて家郷なく妻子離散して孤独なり(伊藤信吉)
 <新潮>モイラの後(森茉莉)/文学のおいしさ(安田武)
 ひとりごとと二人称(鈴木孝夫)/北条霞亭『霞亭渉筆』(富士川英郎)
 <連載小説>鬼怒川(16)(有吉佐和子)/宣告(4)(加賀乙彦)
 春の戴冠(40)(辻邦生)/軽井沢(4)(円地文子)
 昭和 50(1975)年 4月 1日発行(新潮社)
- 3462) 「新潮」 3月号 1975
 甘い蜜(300枚)(森茉莉)/河畔への旅(山田智彦)/花馬湾(阿川弘之)
 <詩>冬の白樺林(藤原定)
 <短歌>樹深(百々登美子)
 <俳句>水甕(穴井太)
 憑依(竹山道雄)
 独断的な、余りに独断的な(10)(福田恆存)
 時間(3)(吉田健一)
 流れゆく日々(49)(石川達三)
 私の戦争協力--Causeries.3.(河盛好蔵)
 <新潮>銃声と回心(開高健)/合財袋(北畠八穂)
 女が小説を書くとき(岩橋邦枝)/幸徳秋水の甥(上林曉)
 田能村竹田『随縁沙彌語録』(富士川英郎)
 井伏鱒二の逆説(佐伯彰一)
 <連載小説>鬼怒川(15)(有吉佐和子)/宣告(3)(加賀乙彦)
 春の戴冠(39)(辻邦生)/軽井沢(3)(円地文子)
 昭和 50(1975)年 3月 1日発行(新潮社)

3463) 「新潮」 2月号 1975

旅役者(小川国夫)/鮎の川(竹西寛子)/流れ雲(岡田陸)
〈詩〉漾[ただよう](磯村英樹)
〈短歌〉冬来(長澤一作)
〈俳句〉梅部落(米田一穂)
〈新潮〉絶筆(秦恒平)/孤独の結晶(高橋英夫)/桃源郷と元日本兵(芳賀徹)
菊池五山『五山堂詩話』(富士川英郎)
潤一郎、精二とその弟妹--或るブラジル移民の話(林伊勢)
本居宣長(55)(小林秀雄)
独断的な、余りに独断的な(9)(福田恆存)
時間(2)(吉田健一)
流れゆく日々(48)(石川達三)
さまざまの証言--Causeries.2.(河盛好蔵)
鳥の泪(丸谷才一)
若き日の手紙(平野謙)
〈連載小説〉鬼怒川(14)(有吉佐和子)/宣告(2)(加賀乙彦)
春の戴冠(38)(辻邦生)/木精[こだま](完)(北杜夫)
軽井沢(2)(円地文子)
昭和 50(1975)年 2月 1日発行(新潮社)

3464) 「新潮」 新年特別号 1975

〈新連載〉軽井沢(円地文子)/宣告(加賀乙彦)
扉(野上彌生子)/蜜蜂が降る(尾崎一雄)/問わずがたり(大岡昇平)
朝飯(中村光夫)/泣く話(小島信夫)/父の墓(吉田知子)/変容(後藤明生)
プラハの案内人(藤枝静男)/時間(佐多稲子)/人の音(丹羽文雄)
肇さんのこと(井伏鱒二)/駆ける女(130枚)(古井由吉)
〈詩〉ハバロフスク(井上靖)
〈短歌〉冬(前田透)
〈俳句〉年行き年改まる(富安風生)
〈新連載〉志賀さんの手紙--Causeries.1.(河盛好蔵)
時間(吉田健一)
白い障子(瀧井孝作)
松島の鯨[はぜ](永井龍男)
ロアール河から宮島へ(河上徹太郎)
未来の文学者(大江健三郎)
謹賀新年(福田恆存)
土偶小感(唐木順三)
〈新潮〉ネイヴィマン・オネスト(安岡章太郎)/猫(安部公房)
楽しむということ(谷川俊太郎)/尾藤二洲『静奇餘筆』(富士川英郎)
流れゆく日々(47)(石川達三)
さまざまの証言--Causeries.2.(河盛好蔵)
鳥の泪(丸谷才一)
若き日の手紙(平野謙)
〈連載小説〉鬼怒川(13)(有吉佐和子)/春の戴冠(37)(辻邦生)
木精[こだま](13)(北杜夫)
昭和 50(1975)年 1月 1日発行(新潮社)

3465) 「新潮」 12月号 1974

葦切り(庄野潤三)/蠅(長谷川修)/ひまわりの道(丸山健二)
昔の街(高橋たか子)/饗宴(石原慎太郎)
〈詩〉夢のなかにいるように(窪田般彌)
〈短歌〉水のうへ(森岡貞香)
〈俳句〉団地ぐらし(岡本眸)

本居宣長(54)(小林秀雄)
独断的な、余りに独断的な(8)(福田恆存)
流れゆく日々(46)(石川達三)
フェラーラの先の公爵夫人(福原麟太郎)
不機嫌の時代(その2)(山崎正和)
なか空よりの帰還--伊藤静雄論(上田三四二)
<新潮>思い出の講演旅行(臼井吉見)/山河嫌いの弁(五木寛之)
頼春水『在津紀事』(富士川英郎)
<連載小説>鬼怒川(12)(有吉佐和子)/春の戴冠(36)(辻邦生)
木精[こだま](12)(北杜夫)
昭和49(1974)年12月1日発行(新潮社)

3466) 「新潮」11月号1974

血と貝殻(320枚)(河野多恵子)/鎮魂(大谷藤子)
アカシアの騎士団(金井美恵子)/ハッピー・バースデー(富岡多恵子)
詩禮傳家(清岡卓行)/経堂の家(宇野千代)
<詩>示幻抄(三好豊一郎)
<短歌>射手座の章(辻下淑子)
<俳句>丹後半島(伊丹三樹彦)
独断的な、余りに独断的な(7)(福田恆存)
流れゆく日々(45)(石川達三)
<新潮>文学のかたち(田宮虎彦)/成島柳北の日記(前田愛)
西山拙斎『間牕瑣言』(富士川英郎)
近代と無常--永井荷風と時の流れ(松本道介)
<世界文学>宿命の交わる城(河島英昭)/牧歌世界への希求(出淵博)
アルピッサーの動機(丸山匠)/虚構と事実との対照(宮本陽吉)
<連載小説>鬼怒川(11)(有吉佐和子)/春の戴冠(35)(辻邦生)
木精[こだま](11)(北杜夫)
昭和49(1974)年11月1日発行(新潮社)

3467) 「新潮」10月号1974

紅旗(400枚)紅旗征戎[じゅう]吾が事に非ず--定家「明月記」(野口武彦)
少年時代(立原正秋)
<詩>北海詩抄(伊藤桂一)
<短歌>土の仏(山崎方代)
<俳句>夏日多彩(金尾梅の門)
流れゆく日々(44)(石川達三)
不機嫌の時代(山崎正和)
<新潮>われ敗れたり(開高健)/政治オンチ(宮原昭夫)/韓非子の説難(西尾幹二)
ゆくさきは(荒正人)/永富独嘯庵『葆光秘録』(富士川英郎)
<連載小説>鬼怒川(10)(有吉佐和子)/木精[こだま](10)(北杜夫)
春の戴冠(34)(辻邦生)/みじかい命(完)(竹山道雄)
昭和49(1974)年10月1日発行(新潮社)

3468) 「新潮」9月号1974

あの夕陽(日野啓三)/虫の出ない季節(中石孝)/夏の家(梅原稜子)
鳩(岡本達也)/順子と死体(波多野文彦)/笹飾り(岡松和夫)
<詩>消日(荒川洋治)
<短歌>みずうみ(香川進)
<俳句>走馬灯(渡辺麦詩)
<新潮>祇園南海『湘雲瓊語』(富士川英郎)
側(古山高麗雄)/森茉莉さん(大谷藤子)
本居宣長(53)(小林秀雄)

独断的な、余りに独断的な(6) (福田恆存)
流れゆく日々(43) (石川達三)
無名の画家(福原麟太郎)
どこへゆく(尾崎一雄)
ケンジントンの瓦礫--イギリス私記(入江隆則)
<世界文学>魂と鉄条網(江川卓)/軍事政権批判の狂騒曲(鼓直)
<第7回三大新潮賞審査規定>
<連載小説>鬼怒川(9) (有吉佐和子)/木精[こだま](9) (北杜夫)
春の戴冠(33) (辻邦生)/みじかい命(27) (竹山道雄)
昭和49(1974)年9月1日発行(新潮社)

3469) 「新潮」8月号1974

追放と自由(570枚) (李恢成)
<対談>現代と文学・現代とことば(G・スタイナー/江藤淳)
<新潮>林梅洞『史館茗話』(富士川英郎)
正気と狂気(津村節子)/順番が来るまで(和田芳恵)
独断的な、余りに独断的な(5) (福田恆存)
流れゆく日々(42) (石川達三)
<詩>桐の花には思い出がある(秋山清)
<短歌>風のたより(清水房雄)
<俳句>夏遍路(稲垣きくの)
老年の恋--百三と茂吉(平野謙)
<第6回三大新潮賞決定発表>
日本文学大賞 瀧井孝作『俳人仲間』(新潮社刊)
日本芸術大賞 流政之(彫刻による都市建築との新しい空間の創造)
新潮新人賞 該当なし
<連載小説>鬼怒川(8) (有吉佐和子)/木精[こだま](8) (北杜夫)
春の戴冠(32) (辻邦生)/みじかい命(26) (竹山道雄)
昭和49(1974)年8月1日発行(新潮社)

3470) 「新潮」7月号1974

花樹(山本道子)/金魚鉢の囚人(小林信彦)
ワニの泪(岡田陸)/エトラルカ岬(曾野綾子)
<詩>ある夏の終りの日(飯島耕一)
<短歌>夏至ゆふひ(河野裕子)
<俳句>罌粟の花(松村蒼石)
<新潮>マルロオとの再会(今日出海)/怪力乱神(長谷川修)
二つのプロパガンダ・フィルム(氏原工作)
日本語とは何だろう(駒田信二)
本居宣長(52) (小林秀雄)
流れゆく日々(41) (石川達三)
アプト・フォーグラマー(福原麟太郎)
役割としての神(高橋英夫)
開高健の"普遍性"--英訳『夏の闇』をめぐって(佐伯彰一)
<第2回平林たい子文学賞発表>
<小説部門>愛国者たち(藤枝静男)(講談社刊)
此岸の家(日野啓三)('文芸'8月号)
<評論部門>ユートピア紀行(伊藤信吉)(講談社刊)
<選考委員>(円地文子・今日出海・佐伯彰一・丹羽文雄・平野謙
山本健吉・和田芳恵)
<連載小説>『黄金伝説』改題・鬼怒川(7) (有吉佐和子)/木精[こだま](7) (北杜夫)/
春の戴冠(31) (辻邦生)
みじかい命(25) (竹山道雄)

昭和 49(1974)年 7 月 1 日発行(新潮社)

3471) 「新潮」 6 月号 1974

〈第 6 回新潮新人賞候補作品〉

奇妙な遺言(三枝穰)/帰宅(林淳子)/初めての詐欺師(波多野文彦)
青空(加藤典洋)/うつつみ(吉野元)/失いつつ去っていった日(三室源治)
或る休暇(南川周三)

〈新潮〉メーディア(高橋睦郎)/歌姫(宗左近)

〈詩〉霊異記(吉原幸子)

〈短歌〉満天に星(岡部桂一郎)

〈俳句〉櫻[けやき](酒井弘司)

流れゆく日々(40)(石川達三)

攘夷のハムレット--赤根武人(河上徹太郎)

〈連載小説〉黄金伝説(6)(有吉佐和子)/木精[こだま](6)(北杜夫)

春の戴冠(30)(辻邦生)/みじかい命(24)(竹山道雄)

〈世界文学〉新たに公表された魯迅の書簡(丸山昇)

ワイルダーの新作(井上謙治)

〈第 1 回川端康成文学賞発表〉

ブロンズ的首 上林暁(講談社刊「ばあやん」所載)

〈審査委員〉(永井龍男・中村光夫・舟橋聖一・山本健吉・吉行淳之介)

昭和 49(1974)年 6 月 1 日発行(新潮社)

3472) 「新潮」 5 月号 1974

花鋏を持つ子供(140 枚)(黒井千次)/漏斗(庄野潤三)/白い道(坂上弘)

城址のある町(島村利正)/街なかの田園(宮原昭夫)

場末のにぎわい(150 枚)(高橋昌男)

本居宣長(51)(小林秀雄)

流れゆく日々(39)(石川達三)

〈新潮〉只今取材中(田辺聖子)/死の王(小堀桂一郎)

『暗い波濤』通読(阿部昭)

〈詩〉塩の砦(芝山幹郎)

〈短歌〉外は青みの(中村純一)

〈俳句〉蝦夷穴[えぞあな](佐藤鬼房)

〈連載小説〉黄金伝説(5)(有吉佐和子)/木精[こだま](5)(北杜夫)

春の戴冠(29)(辻邦生)/みじかい命(23)(竹山道雄)

昭和 49(1974)年 5 月 1 日発行(新潮社)

3473) 「新潮」 4 月号 1974

森の踊り場(谷口茂)/光陰(森敦)/学校ぎらい(中石孝)/橋(吉村昭)

土筆野(中里恒子)/残照・近作詩七篇(井上靖)

〈短歌〉待つ日々(北沢郁子)/ 〈俳句〉春の島(友岡子郷)

独断的な、余りに独断的な(4)(福田恆存)

流れゆく日々(38)(石川達三)

〈ソルジェニーツィンを考える〉

追放といふこと(安岡章太郎)/何を恐れているのか(長谷川四郎)

追放について(大江健三郎)/弱い人間の一人として(西尾幹二)

「収容所群島」のこと(木村浩)

〈新潮〉猫(庄司薫)/雪の日(丸山健二)/書かれなかった小説(清岡卓行)

尾崎喜八千日谷会堂で(伊藤信吉)

素朴に就て(吉田健一)

〈連載小説〉黄金伝説(4)(有吉佐和子)/木精[こだま](4)(北杜夫)

春の戴冠(28)(辻邦生)/みじかい命(22)(竹山道雄)

昭和 49(1974)年 4 月 1 日発行(新潮社)

- 3474) 「新潮」 3月号 1974
 胸、くるしくて(三木卓)/舞踏会の手帖(長谷川修)/悔恨(大谷藤子)
 春の別れ--「森」第5章(野上彌生子)
 山本有三先生(坪田譲治)
 山本さんと新潮社(河盛好蔵)
 <詩>終の住家(伊藤信吉)
 <短歌>崖のほとり(田井安曇)
 <俳句>みちのく(木附沢麦青)
 本居宣長(50)(小林秀雄)
 独断的な、余りに独断的な(3)(福田恆存)
 流れゆく日々(37)(石川達三)
 歴史と--鷗外の歴史小説(柄谷行人)
 <新潮>山内義雄先生を偲ぶ(新床嘉章)/ソルジェニツィンのこと(江川卓)
 流浪者(金子兜太)/煙る忍耐(開高健)
 <連載小説>黄金伝説(3)(有吉佐和子)/木精[こだま](3)(北杜夫)
 巫術師たち(完)(三浦朱門)/春の戴冠(27)(辻邦生)
 みじかい命(21)(竹山道雄)
 昭和49(1974)年3月1日発行(新潮社)
- 3475) 「新潮」 9月増大号 1973
 裸像(240枚)(山本道子)/ケベックの雨(承前)(安岡章太郎)
 青く青き[きみ]が衿(大原富枝)/根尾の宿(宇野千代)
 アフリカの死(丸山健二)
 <詩>夔鳳文貞[きほうもんゆう](高橋新吉)
 <短歌>音なき世界(飯田莫哀)
 <俳句>泉(皆吉爽雨)
 漱石のあばたづら、鼻、白いシャツ(200枚)(平川祐弘)
 本居宣長(47)(小林秀雄)
 『太平記』の時代--日本人の「死」を求めて(7)(村松剛)
 流れゆく日々(31)(石川達三)
 <新潮>作家の生き方と死に方(田宮虎彦)/石清水と、毒と、字(開高健)
 生きるべき領域(佐藤朔)
 「雨月物語」明治翻刻本(井伏鱒二)
 <連載小説>巫術師たち(9)(三浦朱門)/春の戴冠(21)(辻邦生)
 みじかい命(15)(竹山道雄)
 <第6回三大新潮賞審査規定>
 昭和48(1973)年9月1日発行(新潮社)
- 3476) 「新潮」 8月号 1973
 ケベックの雨(安岡章太郎)/天体(石原慎太郎)
 秘(高橋たか子)/歌枕(中里恒子)
 <第5回新潮新人賞受賞作品>(再録)
 流蜜のとき(太田道子)(「新潮」昭和48年6月号所載)
 剥製博物館(泉秀樹)(「新潮」昭和48年6月号所載)
 審査委員(江藤淳・遠藤周作・大江健三郎・武田泰淳・安岡章太郎)
 <第5回三大新潮賞決定発表>
 日本文学大賞 武田泰淳『快樂』(新潮社刊)
 審査委員(円地文子・小島信夫・中村真一郎・中村光夫)
 日本芸術大賞 加山又造(屏風の制作に多様な展開を示した業績に対して)
 審査委員(井上靖・小林秀雄・土方定一・山田智三郎)
 <詩>アンリ・ルソーの絵(山本太郎)
 <短歌>白き蝶(石川不二子)

<俳句>晩節(林田紀音夫)
『とはずがたり』の世界--日本人の「死」を求めて(6)(村松剛)
流れゆく日々(30)(石川達三)
カフカの一生--文学のための燔祭(谷口茂)
<二十代の発言>見知らぬ家の夢(津島佑子)/花とフォルムと(中村哲郎)
ある戦いの記録(加藤典洋)/憤激の抒情として(福島泰樹)
餓えた者は海峡を見る(衛紀生)/昭和生まれの明治育ち(車谷長吉)
孤独について(北方謙三)
消すことによって書く--文学ノート第六・完結(大江健三郎)
なぜドイツ語で書くか(松原久子)
<連載小説>巫術師たち(8)(三浦朱門)/春の戴冠(20)(辻邦生)
みじかい命(14)(竹山道雄)
<第6回新潮新人賞応募規定>
昭和48(1973)年8月1日発行(新潮社)

3477) 「新潮」6月増大号1973

天井裏の隠匿物(井伏鱒二)
<第5回新潮新人賞候補作品>
帰省(太田迪夫)/闇の浄土(高島正英)/剥製博物館(泉秀樹)
六十六部(宮本徳蔵)/あしたから菊(佐藤正孝)
流蜜のとき(太田道子)/汽車に乗った時間(濱竜治)
<詩>シェークスピアのあとに(谷川俊太郎)
<短歌>桜花とや(下村光男)
<俳句>待つ男(原子公平)
<川端康成文学賞設定について>
<文学にみるユダヤ人の知恵>迫害される賢者(宮本陽吉)
ポグロム[погром]の中から(江川卓)
アンドレアよ(福原麟太郎)
片目草紙(今日出海)
<椎名麟三の死>
(武田泰淳・中村真一郎・遠藤周作・大江健三郎)
浅見夕煙追悼(上林曉)
流れゆく日々(28)(石川達三)
王朝の夕映え--日本人の「死」を求めて(4)(村松剛)
<連載小説>暗い波濤(完)(阿川弘之)巫術師たち(6)(三浦朱門)
春の戴冠(18)(辻邦生)
昭和48(1973)年6月1日発行(新潮社)

3478) 「新潮」新年特大号1973

初めての女(瀧井孝作)/わが松も(尾崎一雄)/刈田の畦(永井龍男)
秋の終りの雨(上林曉)/娘たちの家(大原富枝)/雨傘(庄野潤三)
渚にて(開高健)/イネ(北杜夫)/谷(古井由吉)/和布刈神事(長谷川修)
<新連載>巫術師たち(三浦朱門)
本居宣長(43)(小林秀雄)
流れゆく日々(23)(石川達三)
ヨオロッパの人間(9)(吉田健一)
われとともに老いよ(福原麟太郎)
マスコミの暴力(河上徹太郎)
<詩>一月(西脇順三郎)
<短歌>布野また赤名峠(土屋文明)
<俳句>初鏡(中村汀女)
和魂洋才について(山本健吉)
書かれる言葉の創世記(大江健三郎)

或る失われた世界(川端香男里)
金曜日の夜十時(小島信夫)
<新潮>私の病状(武田泰淳)/「あやかしい」といふこと(倉橋由美子)
小島信夫氏の恐しさ(山崎正和)
<連載小説>暗い波濤(61)(阿川弘之)/春の戴冠(13)(辻邦生)
みじかい命(8)(竹山道雄)
昭和48(1973)年1月1日発行(新潮社)

3479) 「新潮」4月号1972

再び甘い蜜の部屋へ(森茉莉)/私のハムレット(太田治子)
剣菱玄鳥の秘密(後藤亮)/引越し(島尾敏雄)
<詩>北極上空で(滝口雅子)
<短歌>逍遙遊(山中智恵子)
<句>桜餅(沢木欽一)/冬から春へ(杉本雷造)
<発言>詩的自画像の楽しさ(清岡卓行)/語に出会うこと(大岡信)
現代短歌のゆくえ(佐佐木幸綱)
北欧(中村光夫)
本居宣長(39)(小林秀雄)
文学の我鬼--文学巷談(4)(河盛好蔵)
流れゆく日々(14)(石川達三)
<柏原兵三を悼む>(大江健三郎・高井有一・西尾幹二・谷口茂)
<新潮>和魂洋才の世代(佐伯彰一)/井上ひさしのことば感覚(小田島雄志)
平林たい子氏と笑い(河野多恵子)
平林たい子小論(和田芳恵)
<連載小説>暗い波濤(52)(阿川弘之)/春の戴冠(4)(辻邦生)
みじかい命(4)(竹山道雄)
昭和47(1972)年4月1日発行(新潮社)

3480) 「新潮」9月号1971

独身(280枚)(柏原兵三)/文士(上林曉)/平和一世(平田敬)/そら(吉田知子)
現代小説の問題--笑いの可能性について(西尾幹二)
<新潮>醒めた小説酔った小説(平林たい子)/岬にて(伊藤桂一)
その前後(保高みさ子)/赤い土(広川禎孝)/詩のない時代の詩(菅野昭正)
画をかく喜び(武者小路実篤)
流れゆく日々(8)(石川達三)
日本の文学史--文明開化への超剋(保田與重郎)
暗い波濤(45)(阿川弘之)
昭和46(1971)年9月1日発行(新潮社)

3481) 「新潮」2月号1970

鬼の話(井上靖)/メリーゴーラウンド(長谷川修)/流れ木(三浦浩樹)
畜生塚(秦恒平)/夢の時間(金井美恵子)
文学の宿命(120枚)--現代日本文学にみる終末意識(西尾幹二)
本居宣長(28)(小林秀雄)
日本の文学史(6)--萬葉集の濫觴[らんしょう](保田與重郎)
鳳鳥不至(8)(吉川幸次郎)
文学作品の誤解と正解(高橋義孝)
<連載小説>暁の寺(18)(三島由紀夫)/暗い波濤(26)(阿川弘之)
一人の男(武者小路実篤)
昭和45(1970)年2月1日発行(新潮社)

3482) 「新潮」10月号1969

あだし野(200枚)(立原正秋)/ざぼん(耕治人)/もう一つの世界(阿部光子)

遙かなるカリブの海(志村孝夫)/烏賊の旗(曾野綾子)/学生(遠藤周作)
〈文壇〉反"大勢"的遁世者の辨(宇能鴻一郎)
丸やぎ左衛門のこと(丸谷才一)/中山義秀先生(安西篤子)
象徴派と人生--有愁日記(10)(河上徹太郎)
日本の文學史(3)--神詠(保田與重郎)
鳳鳥不至--論語雜記(7)(吉川幸次郎)
中山義秀を偲ぶ(永井龍男)
〈連載小説〉暗い波濤(22)(阿川弘之)/一人の男(34)(武者小路実篤)
暁の寺(14)(三島由紀夫)
昭和 44(1969)年 10 月 1 日発行(新潮社)

3483) 「新潮」 9 月号 1969

〈新人賞受賞作家特集〉
孫むすめ(阿部昭)〈文學界新人賞〉/變幻(岡松和夫)〈文學界新人賞〉
青い水晶の村(北原亞以子)〈新潮新人賞〉
孝行息子(佐江衆一)〈新潮同人雜誌賞〉
コスモスの咲く町(坂上弘)〈中央公論新人賞〉
蝶の皿(秦恒平)〈太宰治賞〉/指(宮原昭夫)〈文學界新人賞〉
秋の終りの旅(渡邊淳一)〈新潮同人雜誌賞〉
象徴派と人生--有愁日記(9)(河上徹太郎)
本居宣長(26)(小林秀雄)
日本の文學史(2)--神話(保田與重郎)
鳳鳥不至--論語雜記(6)(吉川幸次郎)
「文學は藝術だ」という俗見(高橋義孝)
〈文壇〉田久保英夫氏の脱出(立原正秋)
「日本小説」と自己批判(A・ムシュク)/文学の地理學(中村眞一郎)
翻譯といふもの(青柳瑞穂)
〈世界文学クォーターリー〉構造主義の偉大と悲慘(菅野昭正)
〈連載小説〉暁の寺(13)(三島由紀夫)/一人の男(33)(武者小路実篤)
暗い波濤(21)(阿川弘之)
昭和 44(1969)年 9 月 1 日発行(新潮社)

3484) 「鏡花短篇集」(川村二郎編)岩波文庫
昭和 62(1987)年 9 月 16 日第 1 刷発行(岩波書店)

3485) 「中国の知恵」(吉川幸次郎著)新潮文庫
昭和 33(1958)年 6 月 20 日発行
昭和 37(1962)年 9 月 5 日 5 刷(新潮社)

3486) 「アメリカ大陸の明暗」(今津晃著)世界の歴史 17
平成 2(1990)年 2 月 2 日初版発行(河出書房新社)

3487) 「日本妖怪巡礼団」(荒俣宏著)集英社文庫
平成 3(1991)年 12 月 20 日第 1 刷(集英社)

3488) 「凶像探偵」眼で解く推理博覧会(荒俣宏著)光文社文庫
平成 4(1992)年 1 月 20 日初版 1 刷発行
平成 4(1992)年 10 月 5 日 5 刷発行(光文社)

3489) 「これで古典がよくわかる」(橋本治著)ちくま文庫
平成 13(2001)年 12 月 10 日第 1 刷発行
平成 14(2002)年 3 月 5 日第 3 刷発行(筑摩書房)

- 3490) 「滝田樗陰」『中央公論』名編集者の生涯(杉森久英著) 中公文庫
平成 29(2017)年 4 月 25 日初版発行(中央公論新社)
- 3491) 「ラブホテル裏物語」(大月京子著) 文春文庫
女性従業員が見た「密室の中の愛」
平成 22(2010)年 12 月 10 日第 1 刷(文藝春秋)
- 3492) 「もんもんシティー」(内田春菊著) 文春文庫
平成 3(1991)年 8 月 10 日第 1 刷
平成 4(1992)年 12 月 20 日第 5 刷(文藝春秋)
- 3493) 「昭和の美女」(秋山庄太郎著)
平成 1(1989)年 6 月 20 日第 1 刷発行(朝日新聞社)
- 3494) 「竹取物語」(星新一訳) 角川文庫
昭和 62(1987)年 8 月 10 日初版発行(角川書店)
- 3495) 「楠木正成」(杜山悠著) 大陸文庫
平成 1(1989)年 3 月 25 日初版発行(大陸書房)
- 3496) 「復興亜細亜の諸問題」(大川周明著) 中公文庫
平成 5(1993)年 4 月 10 日発行(中央公論社)
- 3497) 「わたしは鍵師」(杉山章象著) 中公文庫
昭和 63(1988)年 6 月 10 日発行(中央公論社)
- 3498) 「精神科の診察室」(平井富雄著) 中公文庫
平成 1(1989)年 3 月 10 日発行(中央公論社)
- 3499) 「法廷博物学」(和久俊三著) 中公文庫
平成 3(1991)年 9 月 10 日発行(中央公論社)
- 3500) 「夢分析」(新宮一成著) 岩波新書 653
平成 12(2000)年 1 月 20 日第 1 刷発行
平成 12(2000)年 2 月 15 日第 2 刷発行(岩波書店)